

子ども第三の居場所事業のアンケート調査分析報告書

2022年04月



目次

1	調査の全体像	1
1-1	調査目的	1
1-2	調査方針	1
1-3	調査の概観	1
1-4	アンケート調査と提言書の関係に関する仮説	2
1-5	調査手順・調査期間	3
1-6	調査票作成に当たって参照した文献	3
2	主な結果	4
2-1	リサーチクエスションごとの効果	4
2-2	子ども、保護者、支援の関係性について	6
3	子ども調査の概要・結果	7
3-1	子ども調査の概要	7
3-2	保護者 Q7 お子様の現在の学年	8
3-3	保護者 Q8 お子様の性別	8
3-4	子どもの生活習慣(Q1A~G)	9
3-5	Q1A 朝ごはんを食べる	10
3-6	Q1B 野菜を食べる	10
3-7	Q1C 果物を食べる	11
3-8	Q1D お風呂に入っている	12
3-9	Q1E 歯みがきをする	12
3-10	Q1F 早寝早起きをする	13
3-11	Q1G 運動など、30分以上からだを動かしている	13
3-12	子どもの学習習慣(Q1H~K)	14
3-13	Q1H 学校の宿題をする	15
3-14	Q1I 学校の宿題以外の勉強をする	15
3-15	Q1J 勉強で分からないところを友だちや大人に聞く	16
3-16	Q1K 本を読む	16
3-17	子どものつながり(Q1L~N)	17
3-18	Q1L 友だちと遊ぶ	18
3-19	Q1M 困っていることや楽しいことを友達に話す	18
3-20	Q1N 困っていることや楽しいことを大人に話す	19
3-21	Q1ALL 子どもの生活習慣・学習習慣・つながり	20
3-22	子どもの心理的な状態(Q2)	21
3-23	子 Q1ALL(統合)子どもの生活習慣・学習習慣・つながり(層分類)(統合)別に見た子 Q2ALL(統合)子どもの安心感・援助希求ほか(層分類)(統合)	22
3-24	子 Q1L-N,Q3C(統合)子どものつながり(層分類)(統合)別に見た子 Q2ALL(統合)子どもの安心感・援助希求ほか(層分類)(統合)	23
3-25	子 Q1H-K(統合)子どもの学習習慣(層分類)(統合)別に見た子 Q2ALL(統合)子どもの安心感・援助希求ほか(層分類)(統合)	24
3-26	子 Q1A-G(統合)子どもの生活習慣(層分類)(統合)別に見た子 Q2ALL(統合)子どもの安心感・援助希求ほか(層分類)(統合)	25
3-27	Q2A 家は安全でほんと安心してできるところだ	26
3-28	Q2B 学校は安全でほんと安心してできるところだ	26
3-29	Q2C 大変な時に家族は自分のみかたでいてくれる	27
3-30	Q2D 困りごとがあったらだれかに相談したい	27

3-31	Q2E 将来のゆめや、やりたいことが思い浮かぶ.....	28
3-32	Q2F がんばれば、結果につながると思う.....	28
3-33	Q2G 自分のことが好きだ.....	29
3-34	子ども第三の居場所に対する評価(Q3).....	30
3-35	Q3A 子ども第三の居場所は安全でほっと安心できるところだ.....	30
3-36	Q3B 子ども第三の居場所では、やってみたいこと、チャレンジしてみたいことができるところだ.....	31
3-37	Q3C 子ども第三の居場所には、いっしょにたのしい時間をすごせる、友だちがいる.....	31
3-38	Q3D 子ども第三の居場所に通う友だちに、困りごとがあったら、助けになりたい.....	32
3-39	Q3E 大変な時に子ども第三の居場所の大人は自分のみかたでいてくれる.....	32
3-40	Q4 今通っている子ども第三の居場所について良い・もっとうれしいと思うこと.....	33
4	保護者調査の概要・結果.....	50
4-1	保護者調査の概要.....	50
4-2	フェイス情報のまとめ(該当部分:4-3~4-5).....	51
4-3	Q1 年齢.....	51
4-4	Q2 お子様との関係.....	51
4-5	Q3 現在の就労状況.....	52
4-6	保護者の生活習慣(Q4A~D).....	53
4-7	Q4A 朝ごはんを食べる.....	54
4-8	Q4B 野菜や果物の摂れるごはんを食べる.....	54
4-9	Q4C 規則正しい時間に寝起きしている.....	55
4-10	Q4D19 時までには帰宅できる.....	55
4-11	保護者の余力(Q4E~G).....	56
4-12	Q4E 安心して外出できる.....	57
4-13	Q4F 落ち着いて用事が済ませられる.....	57
4-14	Q4G 精神的なりフレッシュができる.....	58
4-15	保護者のつながり(Q4H~K).....	59
4-16	Q4H 落ち着いて友人と話ができる.....	60
4-17	Q4I 出席できていなかった行事に参加できる.....	60
4-18	Q4J 子どもや子育てに関して周囲の大人と会話をする.....	61
4-19	Q4K 困っていることや楽しいことについて人に話したいと思う.....	61
4-20	問4 すべて(保護者の生活習慣・余力・つながり).....	62
4-21	Q3 現在の就労状況別に見た Q4H-K(統合)保護者のつながり(層分類)(統合).....	63
4-22	保護者の子どもとの関わり(問5).....	64
4-23	Q4E-G(統合)保護者の余力(層分類)(統合)別に見た Q5A-K(統合)保護者と子どもとのかかわり(層分類)(統合).....	65
4-24	Q4H-K(統合)保護者のつながり(層分類)(統合)別に見た Q5A-K(統合)保護者と子どもとのかかわり(層分類)(統合).....	66
4-25	Q4ALL(統合)保護者の生活習慣・余力・つながり(層分類)(統合)別に見た Q5A-K(統合)保護者と子どもとのかかわり(層分類)(統合).....	67
4-26	Q5A お子様の勉強をみる.....	68
4-27	Q5B お子様とからだを動かして遊ぶ.....	68
4-28	Q5C お子様とコンピューターゲームやテーブルゲームで遊ぶ.....	69
4-29	Q5D お子様と学校での出来事や友だちのことについて話をする.....	70
4-30	Q5E お子様と子ども第三の居場所での出来事や友だちのことについて話をする.....	70
4-31	Q5F お子様と勉強や成績のことについて話をする.....	71
4-32	Q5G お子様と将来や今後やりたいことの話をする.....	71
4-33	Q5H お子様と地域や社会の出来事やニュースの話をする.....	72
4-34	Q5I お子様と一緒に食事をする.....	72
4-35	Q5J お子様と一緒に料理をする.....	73
4-36	Q5K お子様と一緒に外出をする.....	73

4-37	Q6 子ども第三の居場所事業によるサポートを受ける時に感じる気持ち	74
4-38	Q4ALL(統合)保護者の生活習慣・余力・つながり(層分類)(統合)別に見た Q6(統合)子ども第三の居場所サービスへの意識(層分類)(統合)	75
4-39	Q7 お子様の現在の学年(再掲)	76
4-40	Q8 お子様の性別(再掲)	76
4-41	Q9 お子様と一緒に住む親	77
4-42	Q10-1 子ども第三の居場所と繋がる前から活用している支援・サポート	78
4-42-1	Q10-2 いずれの支援も受けていない理由	79
4-43	Q11 良い・好きだと 思うこと	80
4-44	Q11 もっと 改善してほしいと思うこと	92
5	拠点マネージャー子ども別調査の概要・結果	95
5-1	拠点マネージャー子ども別調査の概要	95
5-2	子ども・保護者 ID	96
5-3	Q2 支援開始からの月数(支援開始時期)	96
5-4	Q3 お子様・保護者への支援の開始を行う際に、つながりの開始のきっかけ	97
5-4-1	Q3 お子様・保護者への支援の開始を行う際に、つながりの開始のきっかけ(その他)	97
5-5	Q4 お子様とのつながりを円滑に開始するために、支援開始の直前・初回交流時に行った取組	98
5-5-1	Q4 お子様とのつながりを円滑に開始するために、支援開始の直前・初回交流時に行った取組(その他)	99
5-6	Q5 お子様に対して、利用開始後に行った支援	100
5-6-1	Q5 お子様に対して、利用開始後に行った支援 その他	102
5-7	Q6 支援を行うことになった計画日数のうち、直近の1か月の利用状況	103
5-7-1	Q6 利用状況 その他	103
5-8	Q7 お子様への支援期間中に行った、保護者様に対する支援	104
5-8-1	Q7 保護者様に対する支援 その他	105
6	拠点マネージャーによる拠点共通調査の概要・結果	106
6-1	拠点マネージャーによる拠点共通調査の概要	106
6-2	スタッフの構成人数と役割	107
6-2-1	総括	107
6-2-2	Q1-1 常勤職員	108
6-2-3	Q1-1-7 常勤職員:主な役割	109
6-2-4	Q1-2-1 契約社員	110
6-2-5	Q1-2-7 契約社員:主な役割	110
6-2-6	Q1-3-7 派遣スタッフ	112
6-2-7	Q1-3-7 派遣スタッフ:主な役割	112
6-2-8	Q1-4-1 パート・アルバイト	113
6-2-9	Q1-4-7 パート・アルバイト:主な役割	114
6-2-10	Q1-5-1 学生ボランティアスタッフ	115
6-2-11	Q1-5-7 学生ボランティアスタッフ:主な役割	116
6-2-12	Q1-6-1 地域ボランティアスタッフ	116
6-2-13	Q1-6-7 地域ボランティアスタッフ:主な役割	117
6-3	Q2 支援持続に必要な条件	118
6-3-1	Q2 支援持続に必要な条件:その他(J)	118
6-4	Q3 効果的な支援を継続していくために今後も必要と考えられる連携先の機関	119
6-4-1	Q3 効果的な支援を継続していくために今後も必要と考えられる連携先の機関 その他	119
6-4-2	Q3 効果的な支援を継続していくために今後も必要と考えられる連携先の機関(行政移管別)	120
6-5	Q4 効果的な支援を継続していくために、今後も必要と考えられる連携先との協力内容	121
6-6	Q5 所属する子ども第三の居場所拠点は、現在行政移管されているか	122
6-7	Q6 今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる期待	123

6-7-1	Q6 将来的に行政移管される場合に感じる期待:その他	123
6-7-2	Q6 今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる期待(1位～3位別)	124
6-7-3	今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる期待:1位(行政移管別)	125
6-8	Q7 今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる懸念	127
6-8-1	Q7 懸念 その他	127
6-8-2	Q7 今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる懸念(行政移管別)	128
6-9	Q8 支援を開始しようとした際にできなかった理由	129
6-9-1	Q8 支援を開始しようとした際にできなかった理由 その他	130
6-10	Q9 行政機関・日本財団に対する要望	131
6-10-1	Q9-1 行政機関に対する要望	131
6-10-2	Q9-2 日本財団に対する要望	134
7	総合分析の概要と結果	136
7-1	総合分析の概要	136
7-2	子どもの生活習慣等の活動と、保護者の生活習慣等の活動との関係性	139
7-3	子どもの生活習慣と、保護者の生活習慣等の活動の関係性	140
7-4	子どものつながりと、保護者の生活習慣等の活動の関係性	140
7-5	子どもの学習習慣と、保護者の余力の関係性	141
7-6	子どもの生活習慣等の活動と、保護者のつながりの関係性	141
7-7	子どもの安心感等の心理的な状態と、保護者の生活習慣等の活動の関係性	142
7-8	子どもの自己肯定感等と、保護者の生活習慣等の活動の関係性	142
7-9	拠点の利用状況と子どもの生活習慣・学習習慣・つながりの関係性	143
7-10	拠点の利用状況と子どもの心理的な状態(子ども第三の居場所含む)の関係性	143
7-11	拠点の利用状況と子ども第三の居場所への評価の関係性	145
7-12	子どもの支援種類と子どもの心理的な状態(子ども第三の居場所含む)の関係性	146
7-13	子どもの支援種類と子ども第三の居場所への評価の関係性	146
7-14	保護者の支援種類と子どもの学習習慣・生活習慣・つながりの関係性	147
7-15	保護者の支援種類と子どもの心理的な状態(子ども第三の居場所含む)の関係性	147
7-16	保護者の支援種類と子ども第三の居場所への評価の関係性	148
7-17	拠点の利用月数と子どもの生活習慣・学習習慣・つながりの関係性	148
7-18	拠点の利用月数と子どもの心理的な状態(子ども第三の居場所含む)の関係性	149
7-19	拠点の利用月数と子ども第三の居場所への評価の関係性	149
7-20	拠点の利用月数と保護者の生活習慣等の活動の関係性	150
7-21	拠点の利用月数と保護者の子どもとの関わり等の活動の関係性	150
7-22	拠点の利用状況と保護者の生活習慣等の活動の関係性	152
7-23	拠点の利用状況と保護者の子どもとの関わり等の活動の関係性	152
7-24	子どもの支援種類と保護者の生活習慣等の活動の関係性	154
7-25	子どもの支援種類と保護者の子どもとの関わり等の活動の関係性	154
7-26	保護者の支援種類と保護者の生活習慣等の活動の関係性	155
7-27	保護者の支援種類と保護者の子どもとの関わり等の活動の関係性	155
8	参考資料(調査票)	157
8-1	子ども調査 調査票	157
8-2	保護者調査票	161
8-3	拠点マネージャー子ども別調査票	167
8-4	拠点マネージャーによる拠点共通調査票	169

1 調査の全体像

本調査では、1章の調査の全体像として調査設計に関する主な内容を記載し、2章では3章以降に詳述するアンケート調査結果を要約した内容を記載している。

3章以降は、各調査の概要として主な設問や有効回答数を記載したうえで、各調査結果を記載している。各章の調査結果は単純集計、得点化後の集計結果、当該調査項目間でのクロス集計(検定結果含む)を掲載しており、複数調査をまたぐクロス集計(例えば、子ども調査と保護者調査との間のクロス集計)については最終章の総合分析において掲載している。

1-1 調査目的

本調査では、まず子ども別、保護者別に、支援期間や支援内容と子ども第三の居場所効果を把握することを目指す。さらに、支援者である拠点マネージャーが実感する効果的な事業継続の条件や、課題、行政移管の懸念等を把握することを目指す。これらを把握することで、日本財団が別途発表する政策提言の充実を図り、困難を抱える子どもと保護者を支える居場所が全国に普及する機運醸成を目指す。(なお、以下文中では子ども第三の居場所を「居場所」と表記する。なお、質問票では用いた居場所拠点に関する表現は一律に「居場所」と表記する。)

1-2 調査方針

既存のアンケート調査等で把握できている内容(学力、全般的な生活習慣・学習習慣情報、SDQ)では捕捉できていない、各拠点で子どもに実際にどういった支援が行われているか、その効果を支援を受ける側がどう感じているかを、同一時点で、子ども・保護者・拠点マネージャーに対して調査し、支援内容とその効果を把握する。また、拠点マネージャー調査により、次年度以降全国展開される厚労省事業が有効に機能するための条件や課題を明らかにする。

但し、回答者の時間・心理的な負担を勘案し、既存指標との整合性を重視するのではなく、調査目的に沿った項目に厳選・圧縮する。

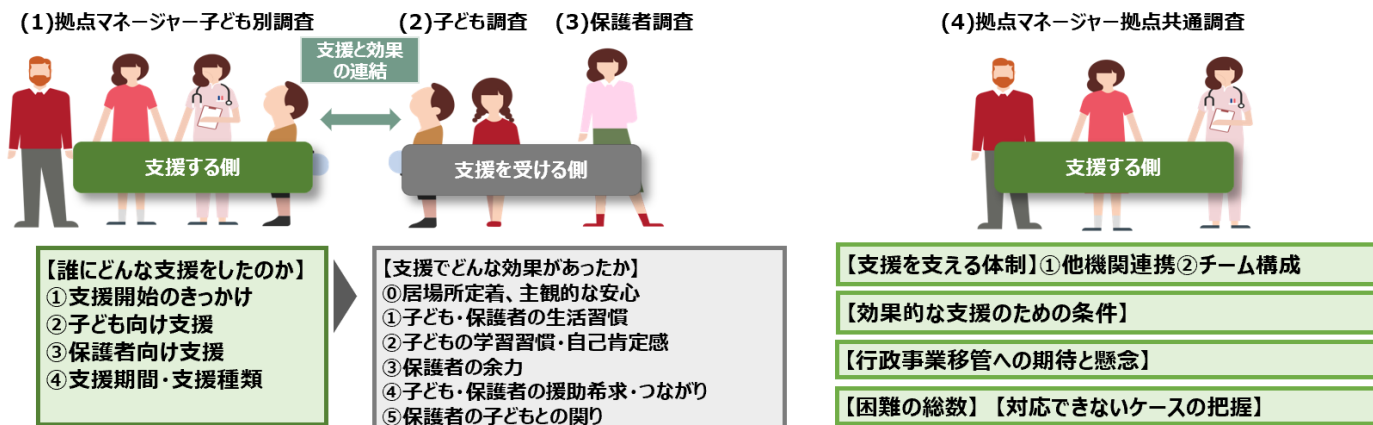
1-3 調査の概観

下図表のとおり、子ども調査、保護者調査、拠点マネージャー子ども別調査、拠点共通調査の4種類の調査を行った。

図表 1-1 調査対象・調査期間等

調査対象	子ども調査：上記拠点のうち、半年以上居場所に通っている子ども 保護者調査：上記拠点のうち、半年以上子どもを通わせている保護者 (きょうだい児がいる場合も子ども別に回答) 拠点マネージャー共通・子ども別調査：開所1年以上経過している拠点マネージャー (代表して1名が回答)
調査期間	2021年12月10日(金)発送～2022年2月7日(月)到着分までを集計
配布拠点数・有効回答数	配布拠点数：34拠点 / 回収拠点数 32拠点 1. 子ども調査：有効回答数：344件 (拠点数：32拠点) 2. 保護者調査：有効回答数：305件 (拠点数：32拠点) 3. 拠点マネージャー子ども別調査：有効回答数：388件 (拠点数：32拠点) 4. 拠点共通調査：有効回答数：32件

図表 1-2 調査の全体像



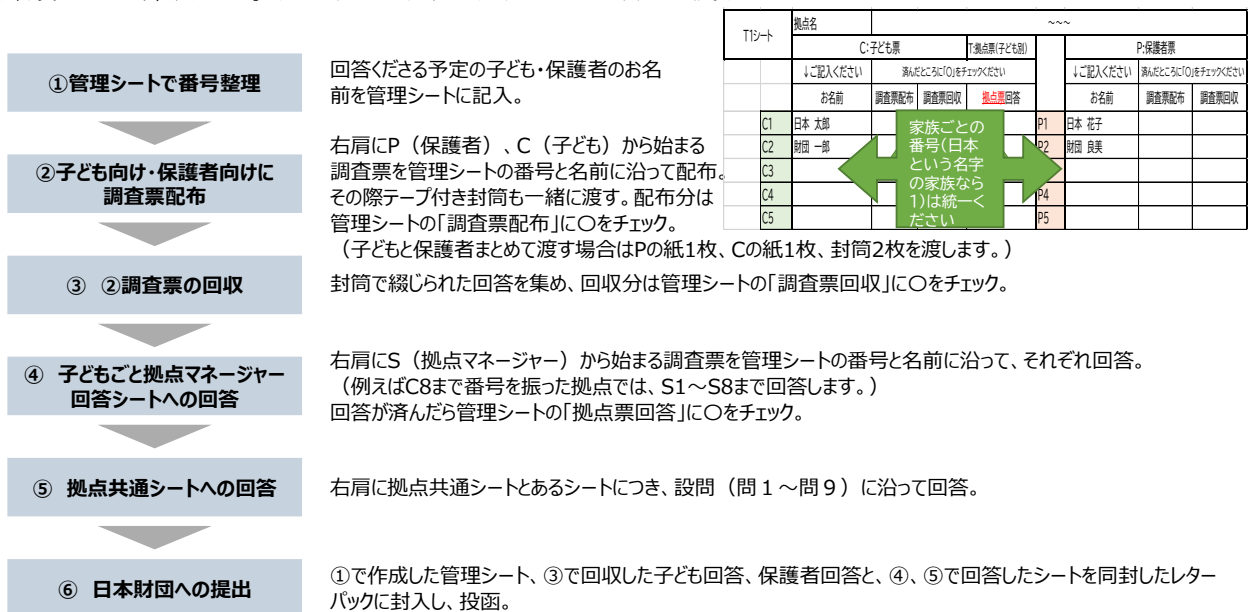
1-4 アンケート調査と提言書に関する仮説

調査目的と関連する形で10のリサーチクエスチョンを設定した。またそれらのリサーチクエスチョンが提言書のどの部分に反映されるかを図示した。



1-5 調査手順・調査期間

下記の手順で調査を依頼した。調査期間は2021年12月10日(金)発送し、2022年2月7日(月)到着分までを集計した。(※各調査の有効回答数は各章冒頭に記載。)



1-6 調査票作成に当たって参照した文献

調査票の作成に際し、以下の文献を参照した。

- ・ 首都大学東京 子ども・若者貧困研究センター(2018)東京都受託事業「子供の生活実態調査」詳細分析報告書
- ・ 小塩真司・中谷素之・金子一史・長峰伸治(2002)ネガティブな出来事からの立ち直りを導く心理的特性—精神的回復力尺度の作成—『カウンセリング研究』(35, 57—65)
- ・ 柴田玲子、松崎くみ子、根本芳子(2014)「子どもの健康関連 QOL の測定 —KINDL(R) QOL 尺度の実用化に向けて—」『聖心女子大学論叢』(122 27-52)
- ・ 国立大学法人お茶の水女子大学(2018)「平成 29 年度「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」保護者に対する調査の結果と学力等との関係の専門的な分析に関する調査研究」
- ・ 加瀬進(2014)「平成 25 年度厚生労働省社会福祉推進事業 子ども・若者の貧困防止に関する事業の実施・運営に関する調査・研究事業」報告書
- ・ 永井智(2008)「中学生における児童用抑うつ自己評価尺度(DSRC)の因子モデルおよび標準データの検討」『感情心理学研究』(第 16 巻 第 2 号 133-140)
- ・ SDQ-JV 2019 ウェブサイト(<https://ddclinic.jp/SDQ/aboutsdq.html>) (2022 年 4 月 19 日最終確認)

2 主な結果

2-1 リサーチクエスチョンごとの効果

今回のアンケートで把握したいリサーチクエスチョン一覧	調査種類	今回のアンケートで得られた主な効果
Q1:これまで行政支援を十分受けられていないのではないか。	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 子どもの学習、生活習慣への支援を受けている割合は約5～6%に限られ、いずれの支援も受けていない割合は3割近い。
Q2:子どものアウトカム（生活習慣・学習習慣、心理的な状態、つながりの状況）は改善しているか。	子ども	<ul style="list-style-type: none"> ■ つながりの状況は8割以上が好転、学習習慣は7割以上、生活習慣は66%以上が好転している。 ■ また心理的な状態は、7割が好転している。自身の未来や努力に対して前向きに捉えることが出来るようになったのが6割を超える。
Q3:保護者の生活習慣、心理的な状態（余力）、つながりの状況は改善しているか。	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 余力は78%以上が好転、3項目すべてが改善しているとする回答者は5割を超えた。加えてつながりの状況も約7割が好転している。 ■ また拠点スタッフを信頼し、気軽に相談できるとし子育て等について良好な関係を構築できている点がかがえる。
Q4:子どもと保護者の関りが改善しているか。	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 74%が好転しており、特に子どもとのコミュニケーションが増加し、学校での出来事などについての会話は6割程度が改善した。
Q5:支援する側にとって、子ども／家庭に対する支援は、複数項目を組み合わせた包括的な支援ではないか。	拠点マネージャー 子ども別	<ul style="list-style-type: none"> ■ 拠点が子どもに対して行っている支援の数は、調査で聞き取った項目11のうち、8つの項目について半数以上が実施しており、支援の内容が多岐にわたっている。（学習・生活とも9割を超える項目もあり） ■ また84%以上が子どもの保護者への支援を行っており、保護者自身の困難に関する面談も4割を超える。
Q6:効果的な支援を行うためには、どのような条件が整っている必要があるか。	拠点	<ul style="list-style-type: none"> ■ ほぼ全ての拠点が、長期の関係性構築に向け常勤職員や、行政の安定財源を強く求め、行政機関の調整能力、学校や教育委員会・地域住民・保護者との協力関係が不可欠と考えている。 <p>※なお、保護者からの回答を見ると、子どもへの支援に満足している様子や、担当者を不安軽減など安心感を得られる存在や、信頼できる存在だと認識している様子がかがえる。Q8の支援開始が出来ない要因の最大が保護者の理解であり、スタッフと保護者との間の早期の信頼関係構築が重要な項目であると考えられる。（また保護者の生活習慣等の活動が改善しているほど、拠点への評価が高い）</p>

<p>Q7：「第三の居場所」を行政事業に移管することによって、どのような成果が期待されるか、行政事業移管によってむしろ引き起こされる懸念が何か。</p>	<p>拠点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 行政事業移管により、安定的な財源が確保できることや、困難のある子どもの実態把握、地域との連携促進が期待される一方で、単年度予算や費目の制約、費用総額の制限が懸念されている。
<p>Q8：拠点に長期間、定着していると、アウトカムの改善度合いが高いのではないか</p>	<p>総合分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 拠点の利用月数や来所頻度と、子どものアウトカム（生活習慣・学習習慣、心理的な状態、つながりの状況）には、統計的に有意な関連性は見られなかった。他方で子どもの来所頻度が高いほど保護者の生活習慣等の活動は改善している。
<p>Q9：支援の種類が多様であるほど、アウトカムの改善度合いが高いのではないか。（子ども支援の数の多さ、保護者支援の有無）</p>	<p>総合分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 支援活動種類の多さと子どものアウトカム（生活習慣・学習習慣、心理的な状態、つながりの状況）には、統計的に有意な関連性は見られなかった。 ■ 一方で、子供への支援種類が多いほど、保護者の生活習慣等の日常の活動や、保護者の子どもとの関わりが増加する傾向が見られた。（保護者への支援種類の多さも同様の結果）

2-2 子ども、保護者、支援の関係性について

本調査の結果、「第三の居場所」拠点に来所して半年以上の子どもに注目すると、拠点と繋がる前と比べて、全体的に子どもの生活習慣・学習習慣・つながりや安心感・援助希求などの心理的状态の好転が確認でき、拠点に来所することの意義は確認できた。

また、拠点が関与している保護者に注目すると、統計分析の結果、拠点の子どもへの利用頻度の多さや、子どもへの支援種類の多さ、保護者の支援種類の多さと、保護者の生活習慣・余力・つながりとの間に関係が見られた。また、子どもの支援種類の多さと保護者と子どもとの関り(会話など)の頻度との間にも関係が見られた。

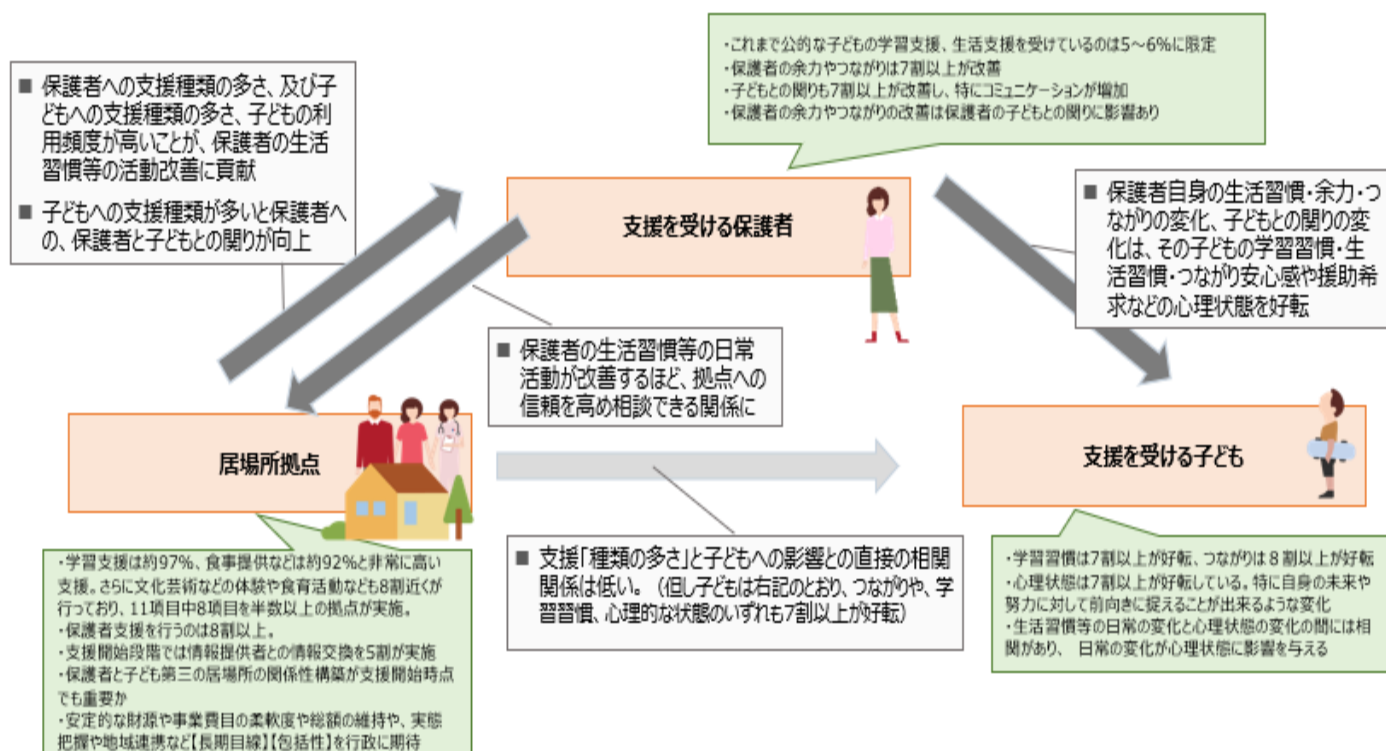
さらに保護者自身の余力やつながり等が改善していることや、保護者と子どもとの関りが改善していることは、子どもの学習習慣やつながり、心理的状态にも影響を与えていた。

これらから、拠点が子どもに多様な支援を行うことや、保護者に多様な支援を行うことの両方とも、保護者への直接的な影響をもたらし、さらにそれが子どもの状況の改善に繋がっていると言える。

ただし、今回のアンケートの統計分析からすると、拠点の支援種類の多さや支援頻度・支援開始時期が支援対象の子どもに直接与える効果は、限定的である。これについては、1)活動頻度の比較、支援活動の質や詳細な内容、対象の子どもを抱える状況など検証できない情報があること、2)支援を行っていない子ども(非介入群)を設定していないため比較ができないこと、3)関与している子どもの半数以上が2年未満のかかわりであり、非認知的な能力の上昇とその影響を測るには時期尚早である点が影響している可能性がある。

下図では、主体ごとの効果は緑色の吹き出しで表記し、各主体間の関係性については灰色の矢印、吹き出しで表記している。

図表 2-1 調査結果サマリー



3 子ども調査の概要・結果

3-1 子ども調査の概要

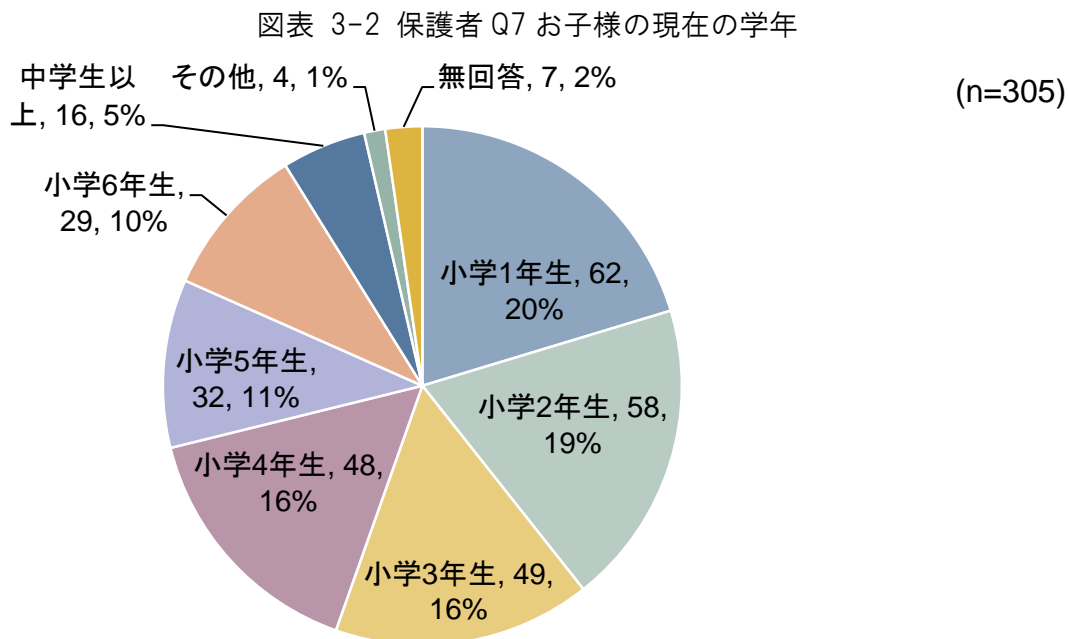
図表 3-1 子ども調査概要

調査対象	開所1年以上経過している拠点で半年以上通う子ども	
調査期間	2021年12月10日(金)発送～2022年2月7日(月)到着分までを集計	
調査項目	<p>大問としては全4問の質問を設定し、子どもの日常の活動に関する変化、心理的な変化、居場所に対する自由記述形式での意見を得た。</p> <p>なお、得点化については、「よくなった・おおくなった」等の肯定的な変化を1点、「わるくなった・すくなくなった」等の否定的な変化を-1点、「かわらない」を0点として合計している。</p>	
	設問番号	調査項目
	子ども問1 A～G	子どもの生活習慣
	子ども問1 H～K	子どもの学習習慣
	子ども問1 L～N、問3 C	子どものつながり
	子ども問2 A～B、問3 A	子どもの安心感
	子ども問2 C～D 問3 E	子どもの他者への信頼感、援助希求
	子ども問2 E～G 問3 D	子どもの自己肯定感、未来志向、共感
	子ども問3	居場所に対する心理的な面からの評価（A 安心感、B チャレンジ、C、D つながり）
子ども問4	自由記述	
有効回答数	有効回答数:344件（拠点数:32拠点）	

(※)保護者問7、8については子どもの属性に関する情報のため、子ども調査結果にも掲載

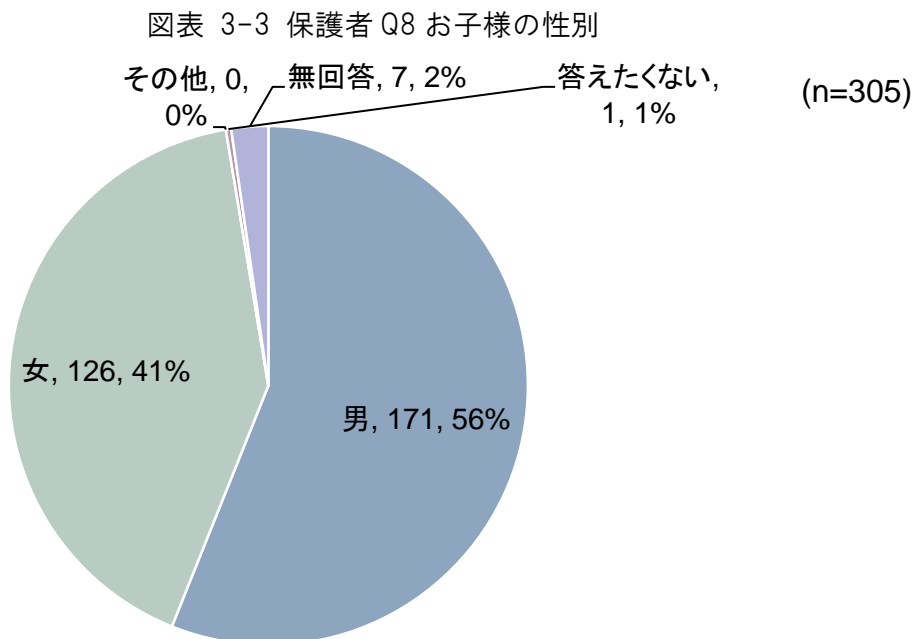
3-2 保護者 Q7 お子様の現在の学年

「小学1年生」の割合が最も高く20.3%となっている。次いで、「小学2年生(19.0%)」、「小学3年生(16.1%)」となっている。小学3年生以下までで5割を超える。



3-3 保護者 Q8 お子様の性別

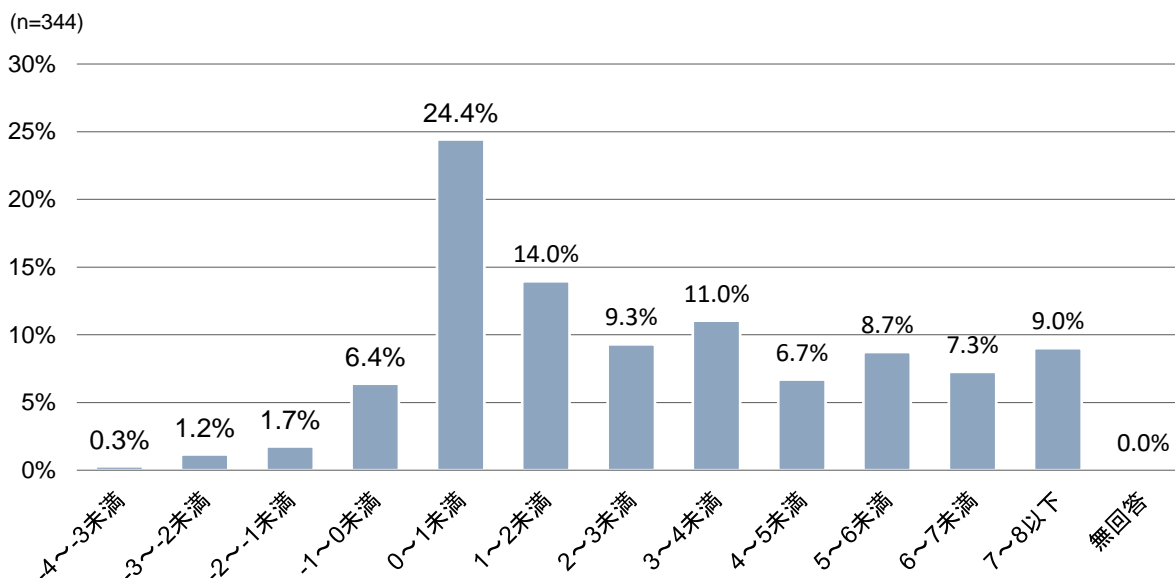
「男」の割合が最も高く56.1%となっている。次いで、「女(41.3%)」、「答えたくない(0.3%)」となっている。



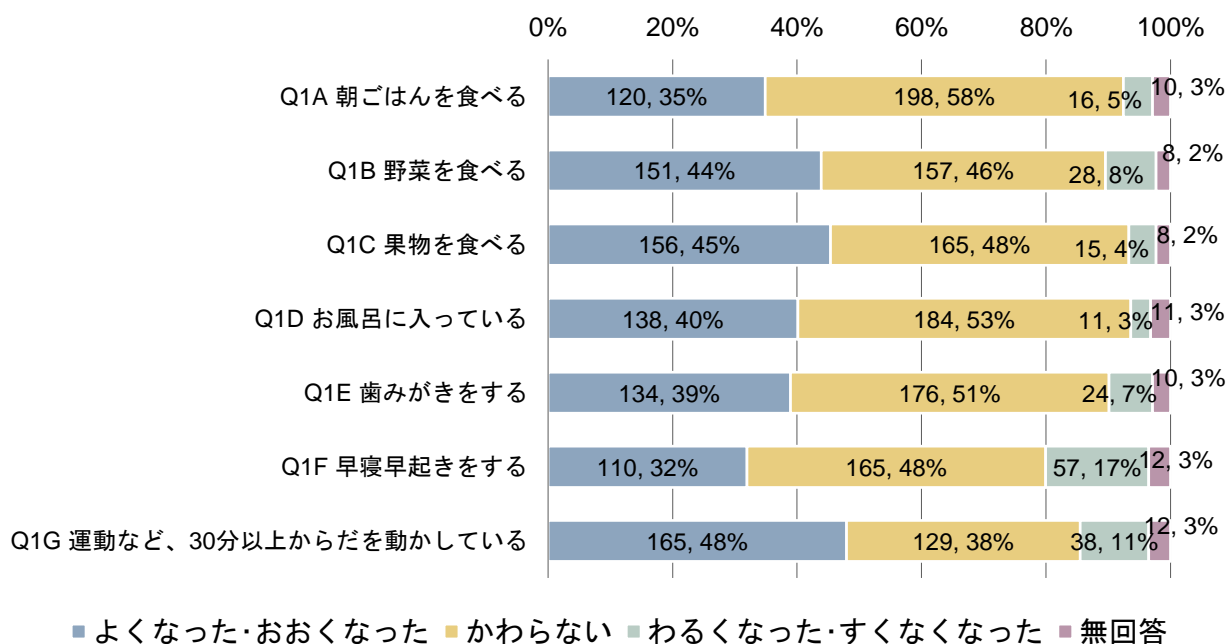
3-4 子どもの生活習慣（Q1A～G）

Q1のA～Gまでの生活習慣について、「Q1B 野菜を食べる」、「Q1C 果物を食べる」、「Q1D お風呂に入っている」、「Q1E 歯みがきをする」、「Q1G 運動など、30分以上からだを動かしている」は「よくなった・おおくなった」については4割を超えている。A～Gについて、「よくなった・おおくなった」を1点、「わるくなった・すくなくなった」を-1点、「かわらない」を0点とした場合、平均値2.3となり、最も多く分布するのは0点で、1点以上が66%となっている。このことから生活習慣全体は好転傾向にあると言える。但し、3-12の子どもの学習習慣と比べると好転傾向はやや弱く、朝ごはんや早寝早起きなど好転しない項目があったことが影響していると言える。

図表 3-4 Q1A-G 子どもの生活習慣



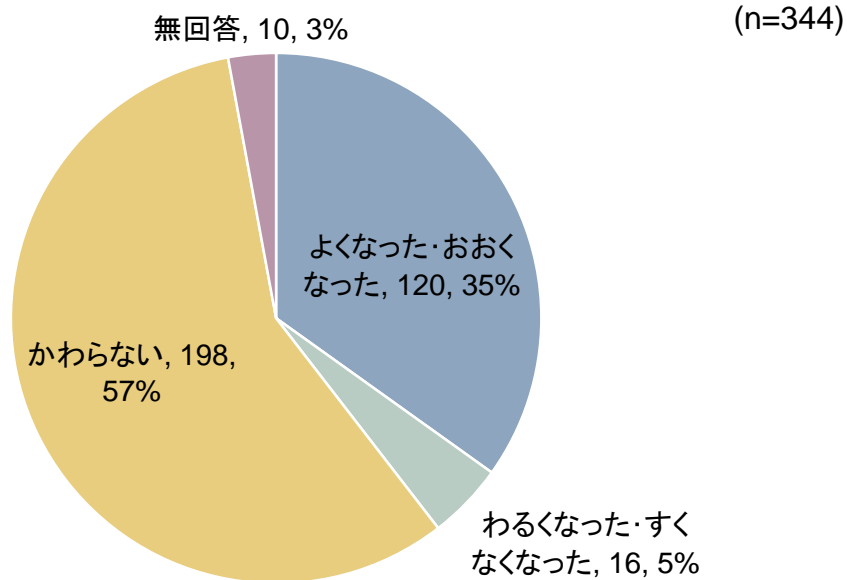
図表 3-5 Q1A-G 子どもの生活習慣まとめ



3-5 Q1A 朝ごはんを食べる

「かわらない」の割合が最も高く 57.6%となっている。次いで、「よくなった・おおくなった(34.9%)」、「わるくなった・すくなくなった(4.7%)」となっている。Q1F 早寝早起きをする項目でも「よくなった・おおくなった」とする割合は 35.2%で、朝の生活習慣については他の項目と比べると、効果が少ないと考えられる。

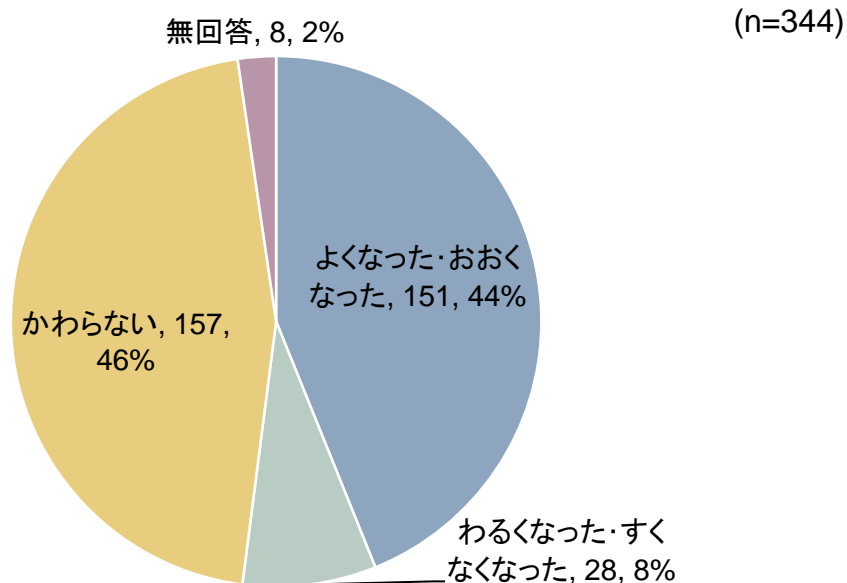
図表 3-6 Q1A 朝ごはんを食べる



3-6 Q1B 野菜を食べる

「かわらない」の割合が最も高く 45.6%となっている。次いで、「よくなった・おおくなった(43.9%)」、「わるくなった・すくなくなった(8.1%)」となっている。

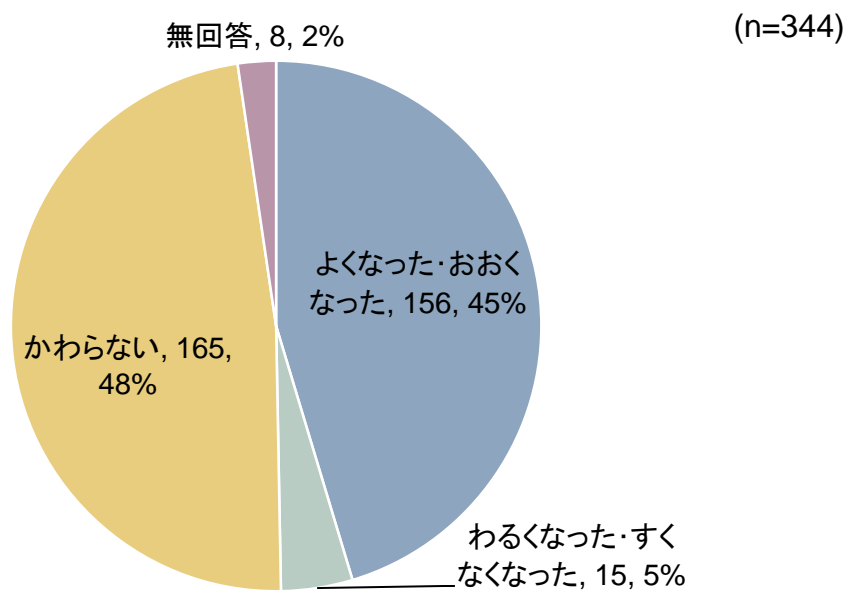
図表 3-7 Q1B 野菜を食べる



3-7 Q1C 果物を食べる

「かわらない」の割合が最も高く 48.0%となっている。次いで、「よくなった・おおくなった(45.4%)」、「わるくなった・すくなくなった(4.4%)」となっている。

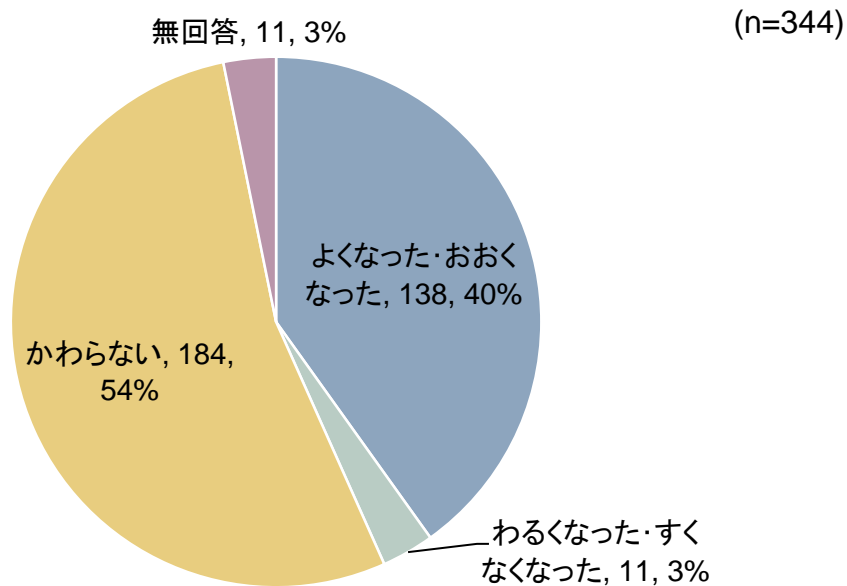
図表 3-8 Q1C 果物を食べる



3-8 Q1D お風呂に入っている

「かわらない」の割合が最も高く 53.5%となっている。次いで、「よくなった・おおくなった(40.1%)」、「わるくなった・すくなくなった(3.2%)」となっている。

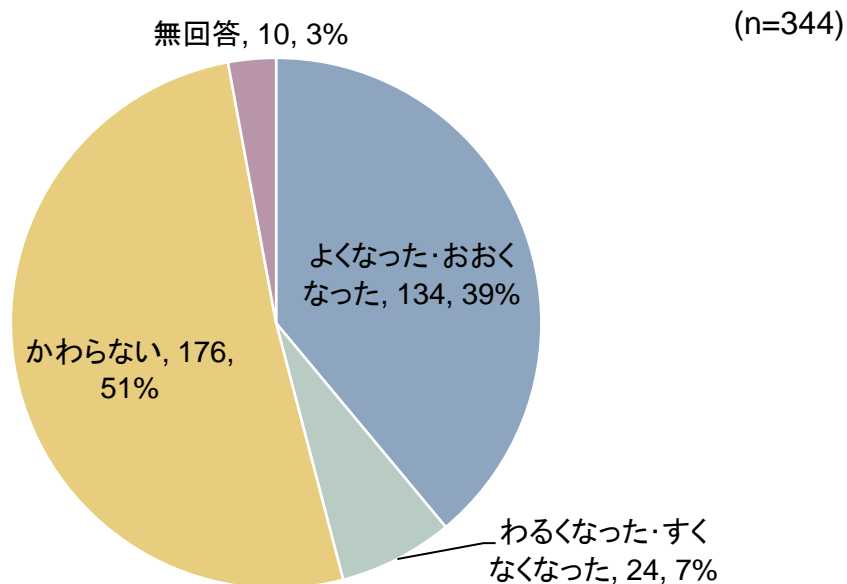
図表 3-9 Q1D お風呂に入っている



3-9 Q1E 歯みがきをする

「かわらない」の割合が最も高く 51.2%となっている。次いで、「よくなった・おおくなった(39.0%)」、「わるくなった・すくなくなった(7.0%)」となっている。

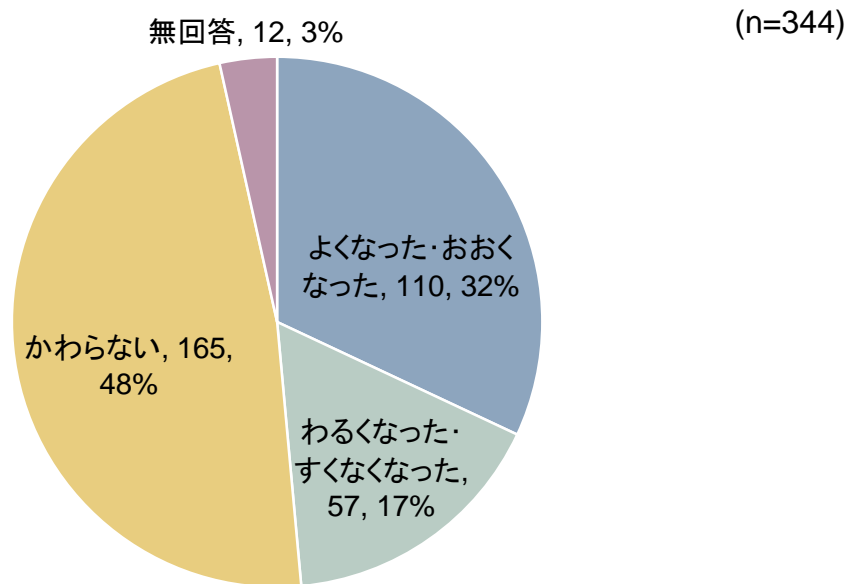
図表 3-10 Q1E 歯みがきをする



3-10 Q1F 早寝早起きをする

「かわらない」の割合が最も高く 48.0%となっている。次いで、「よくなった・おおくなった(32.0%)」、「わるくなった・すくなくなった(16.6%)」となっている。

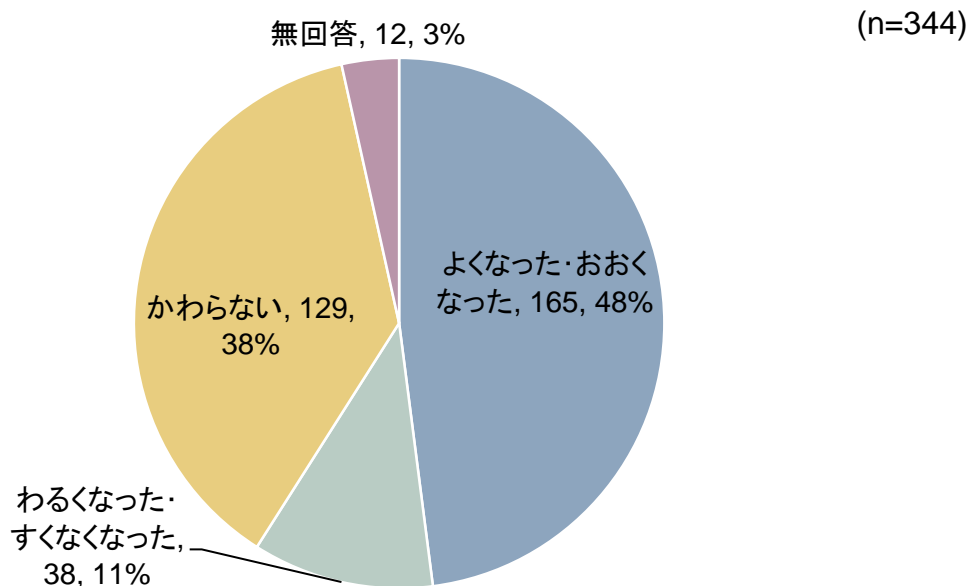
図表 3-11 Q1F 早寝早起きをする



3-11 Q1G 運動など、30分以上からだを動かしている

「よくなった・おおくなった」の割合が最も高く 48.0%となっている。次いで、「かわらない(37.5%)」、「わるくなった・すくなくなった(11.1%)」となっている。

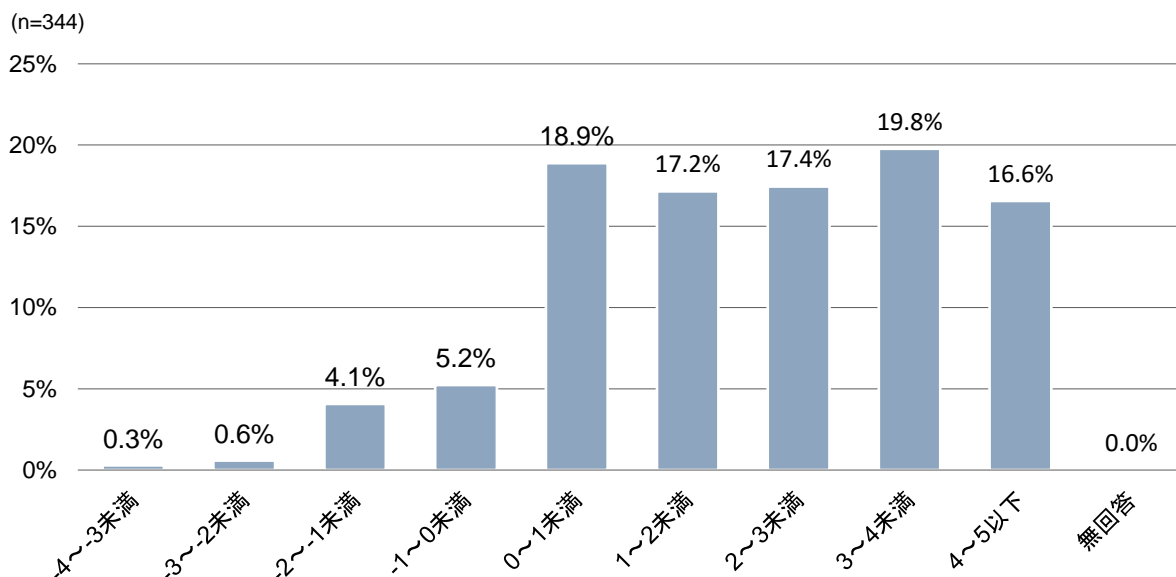
図表 3-12 Q1G 運動など、30分以上からだを動かしている



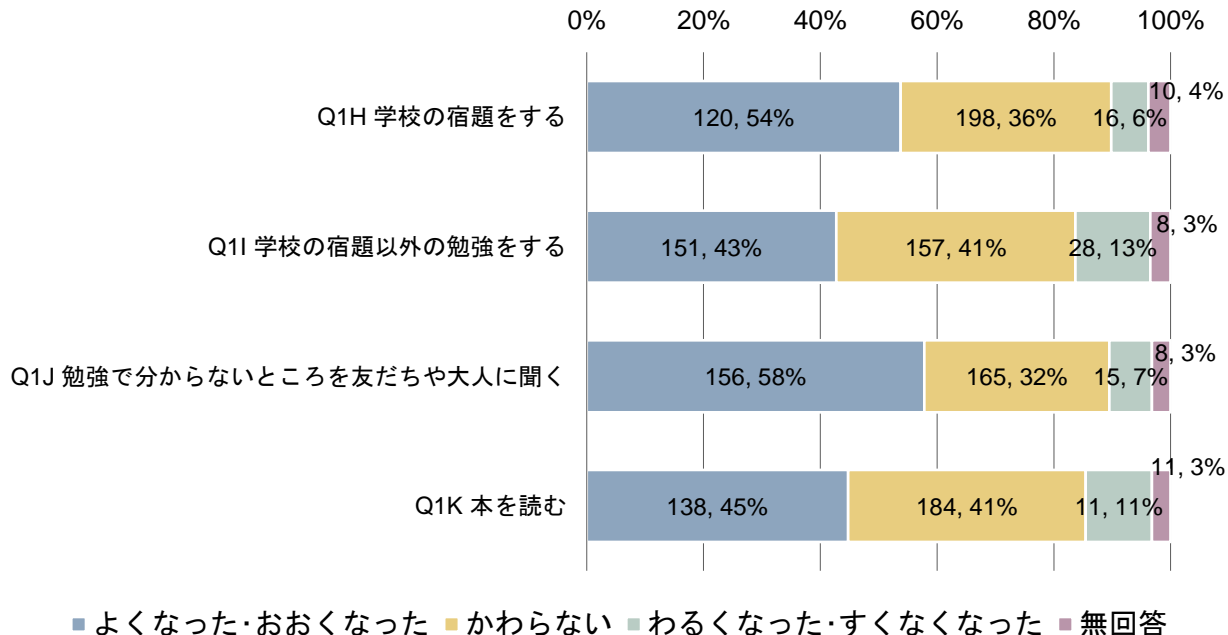
3-12 子どもの学習習慣（Q1H～K）

子どもの学習習慣のうち、「Q1H 学校の宿題をする」、「Q1J 勉強で分からないところを友だちや大人に聞く」については「よくなった・おおくなった」が5割を超えている。H～Kについて、「よくなった・おおくなった」を1点、「わるくなった・すくなくなった」を-1点、「かわらない」を0点とした場合、平均値1.6で最も多いのは3点で、1点以上が71%で好転傾向にあると言える。

図表 3-13 Q1H-K 子どもの学習習慣



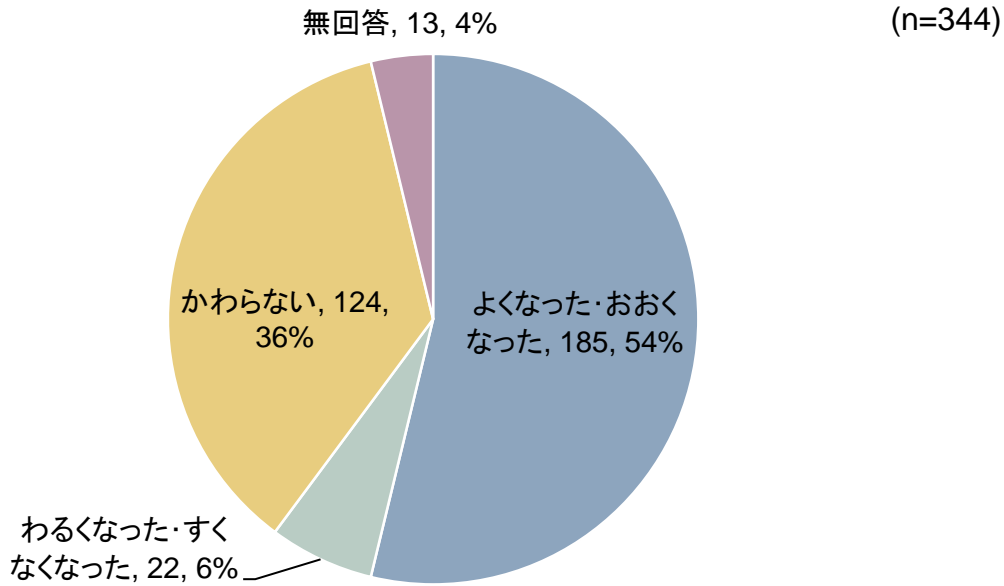
図表 3-14 Q1H-K 子どもの学習習慣まとめ



3-13 Q1H 学校の宿題をする

「よくなった・おおくなった」の割合が最も高く 53.8%となっている。次いで、「かわらない(36.1%)」、「わるくなった・すくなくなった(6.4%)」となっている。

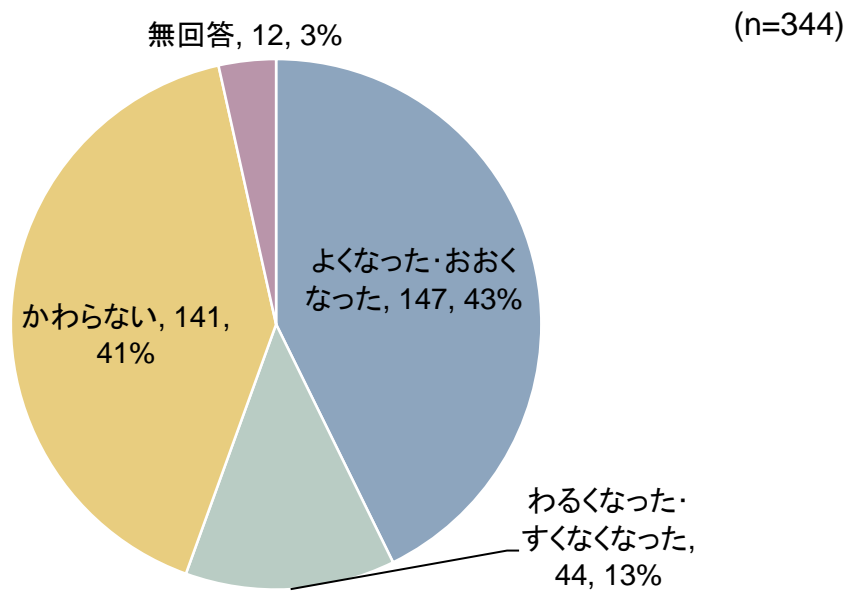
図表 3-15 Q1H 学校の宿題をする



3-14 Q1I 学校の宿題以外の勉強をする

「よくなった・おおくなった」の割合が最も高く 42.7%となっている。次いで、「かわらない(41.0%)」、「わるくなった・すくなくなった(12.8%)」となっている。

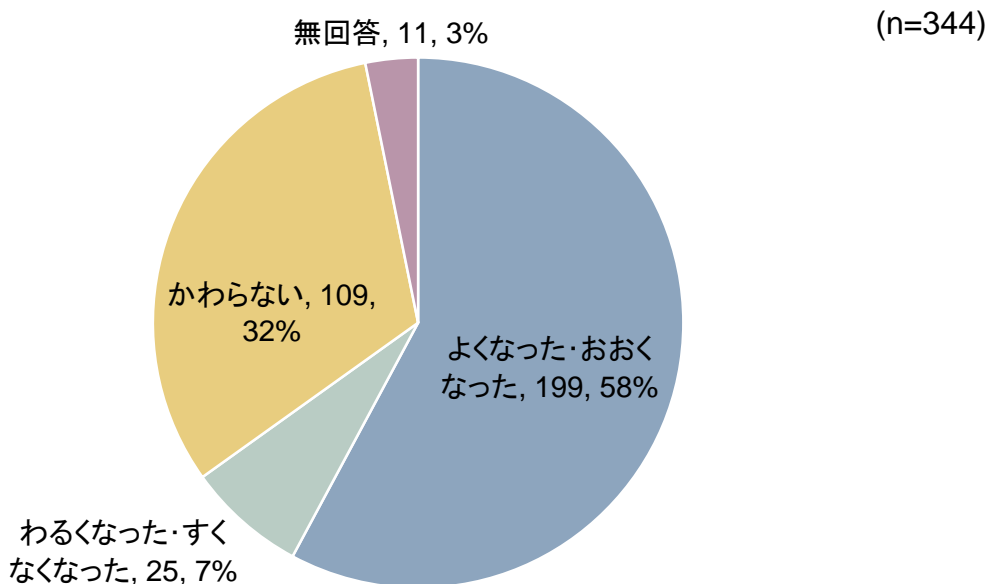
図表 3-16 Q1I 学校の宿題以外の勉強をする



3-15 Q1J 勉強で分からないところを友だちや大人に聞く

「よくなった・おおくなった」の割合が最も高く 57.9%となっている。次いで、「かわらない(31.7%)」、「わるくなった・すくなくなった(7.3%)」となっている。

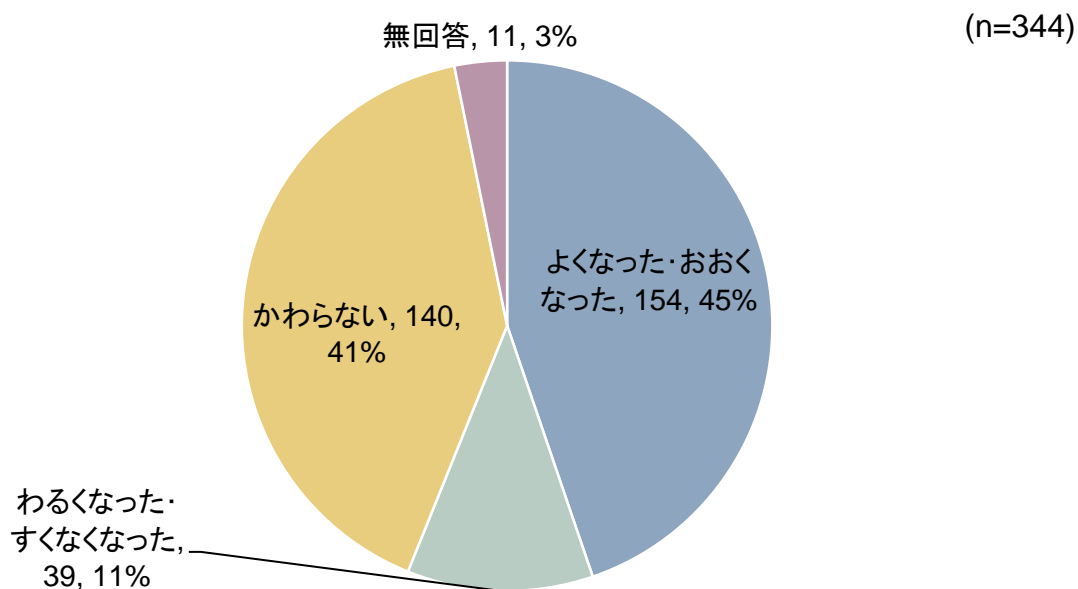
図表 3-17 Q1J 勉強で分からないところを友だちや大人に聞く



3-16 Q1K 本を読む

「よくなった・おおくなった」の割合が最も高く 44.8%となっている。次いで、「かわらない(40.7%)」、「わるくなった・すくなくなった(11.3%)」となっている。

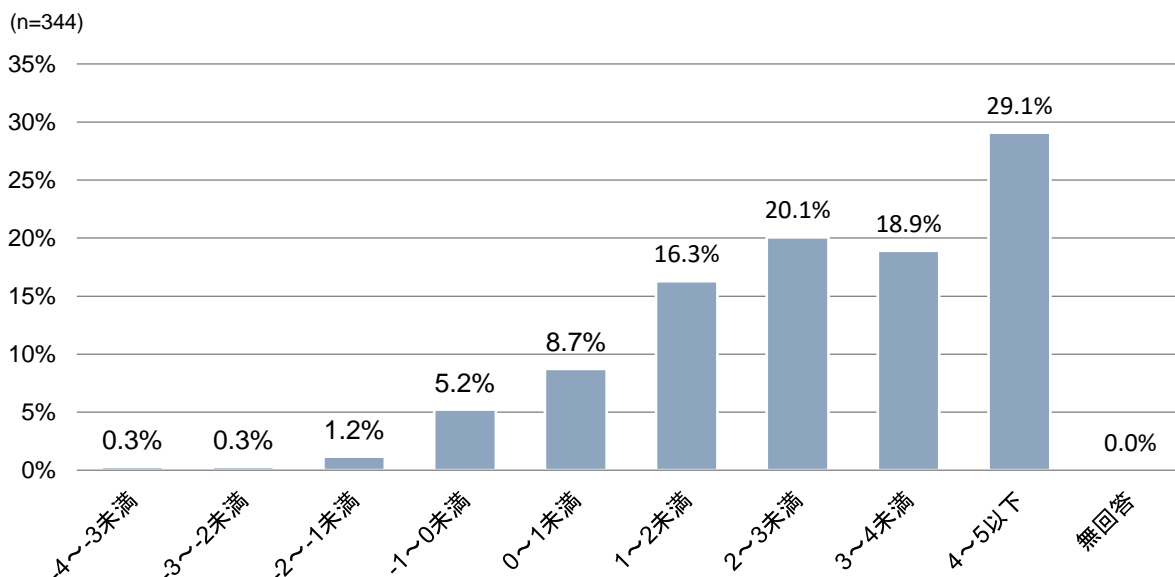
図表 3-18 Q1K 本を読む



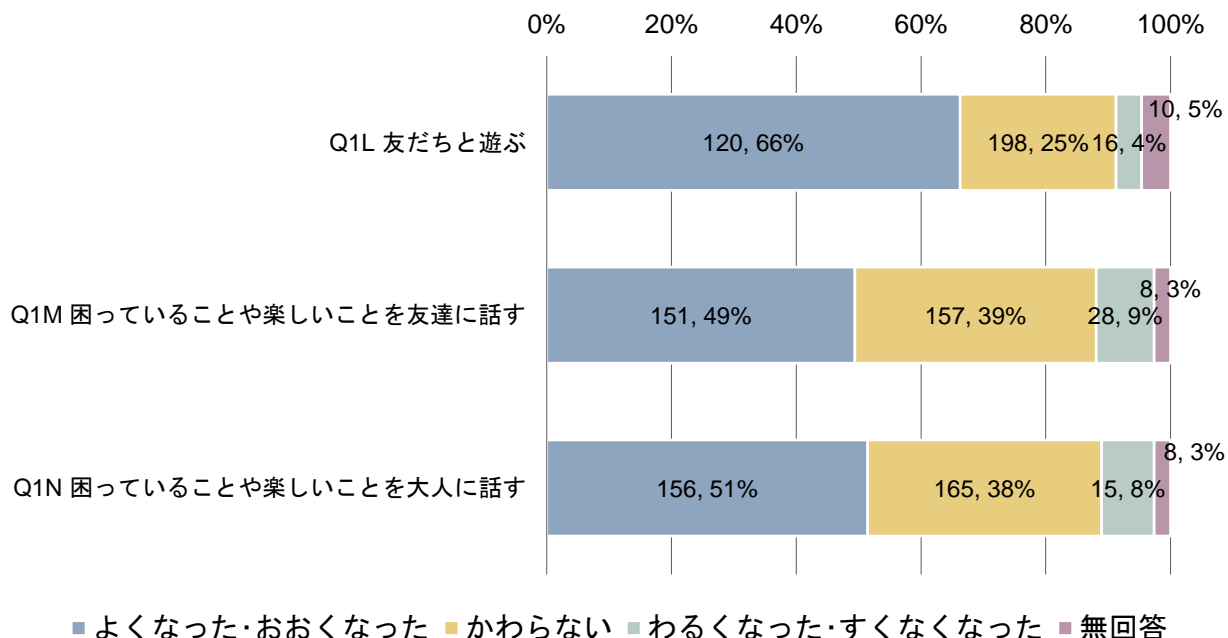
3-17 子どものつながり (Q1L~N)

子どものつながりについて、「Q1L 友だちと遊ぶ」、「Q1M 困っていることや楽しいことを友達に話す」、「Q1N 困っていることや楽しいことを大人に話す」のいずれの項目も「よくなった・おおくなった」が5割を超えている。L~Nに加えて「Q3C 子ども第三の居場所には、いっしょにたのしい時間をすごせる、友だちがいる」について、「よくなった・おおくなった」を1点、「わるくなった・すくなくなった」を-1点、「かわらない」を0点とした場合、平均値2.2点で最も多いのは4点で、1点以上が84%で強い好転傾向にあると言える。

図表 3-19 Q1L-N,Q3C 子どものつながり



図表 3-20 Q1L-N,Q3C 子どものつながりまとめ

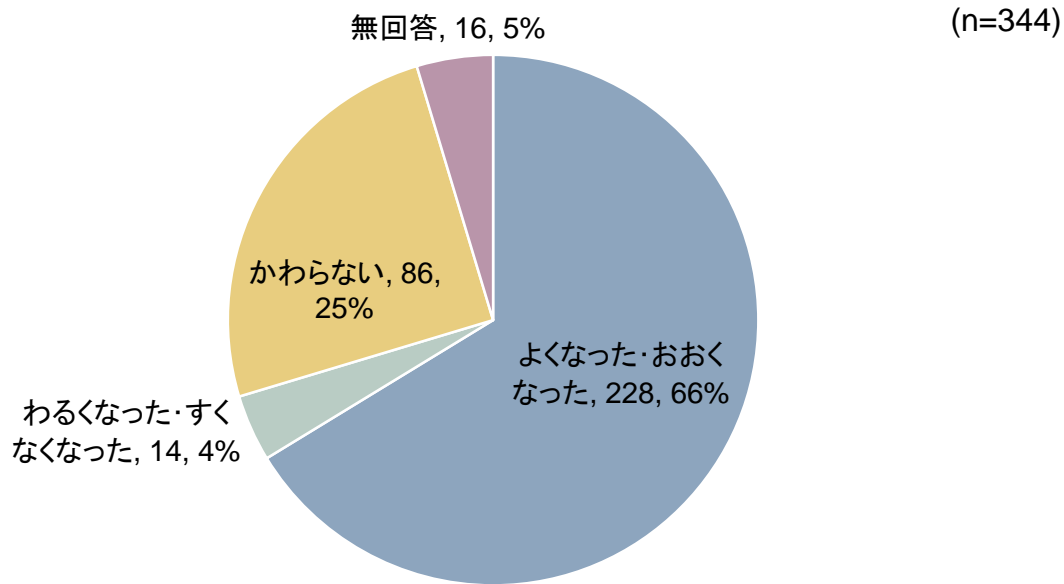


■ よくなった・おおくなった ■ かわらない ■ わるくなった・すくなくなった ■ 無回答

3-18 Q1L 友だちと遊ぶ

「よくなった・おおくなった」の割合が最も高く 66.3%となっている。次いで、「かわらない(25.0%)」、「わるくなった・すくなくなった(4.1%)」となっている。本項目が Q1 の設問の中で「よくなった・おおくなった」の割合が最も高いものとなった。

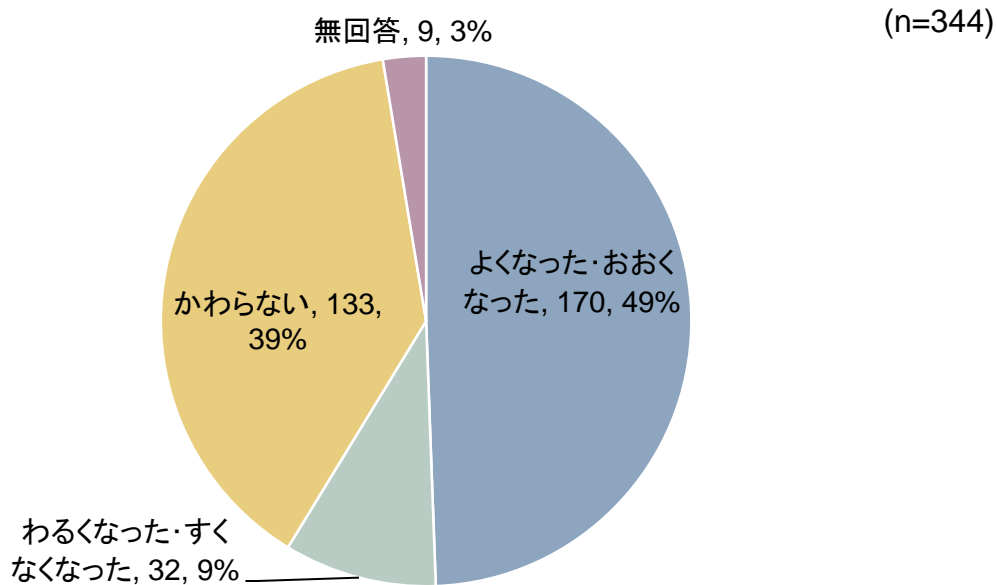
図表 3-21 Q1L 友だちと遊ぶ



3-19 Q1M 困っていることや楽しいことを友達に話す

「よくなった・おおくなった」の割合が最も高く 49.4%となっている。次いで、「かわらない(38.7%)」、「わるくなった・すくなくなった(9.3%)」となっている。

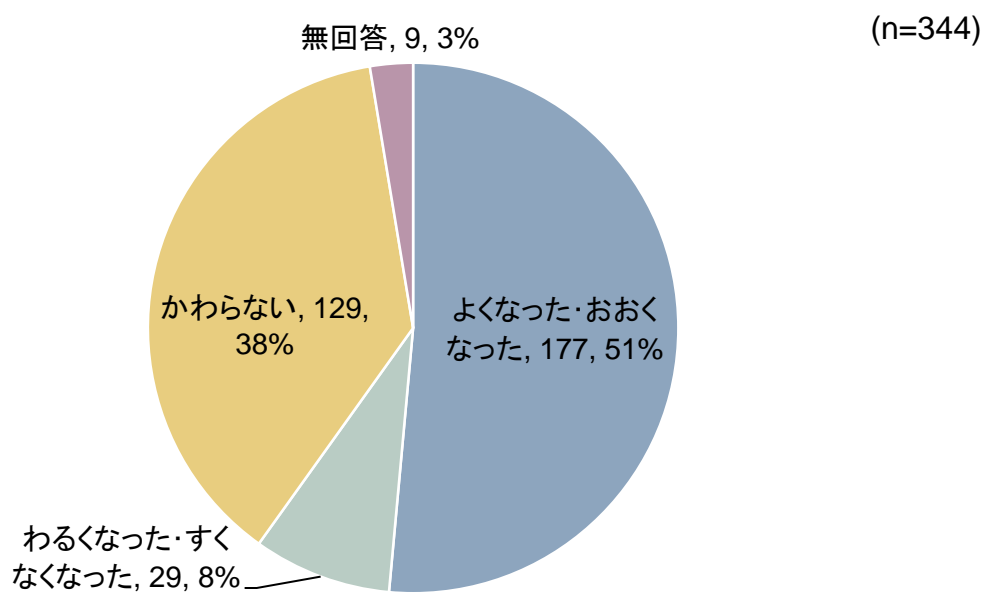
図表 3-22 Q1M 困っていることや楽しいことを友達に話す



3-20 Q1N 困っていることや楽しいことを大人に話す

「よくなった・おおくなった」の割合が最も高く51.5%となっている。次いで、「かわらない(37.5%)」、「わるくなった・すくなくなった(8.4%)」となっている。

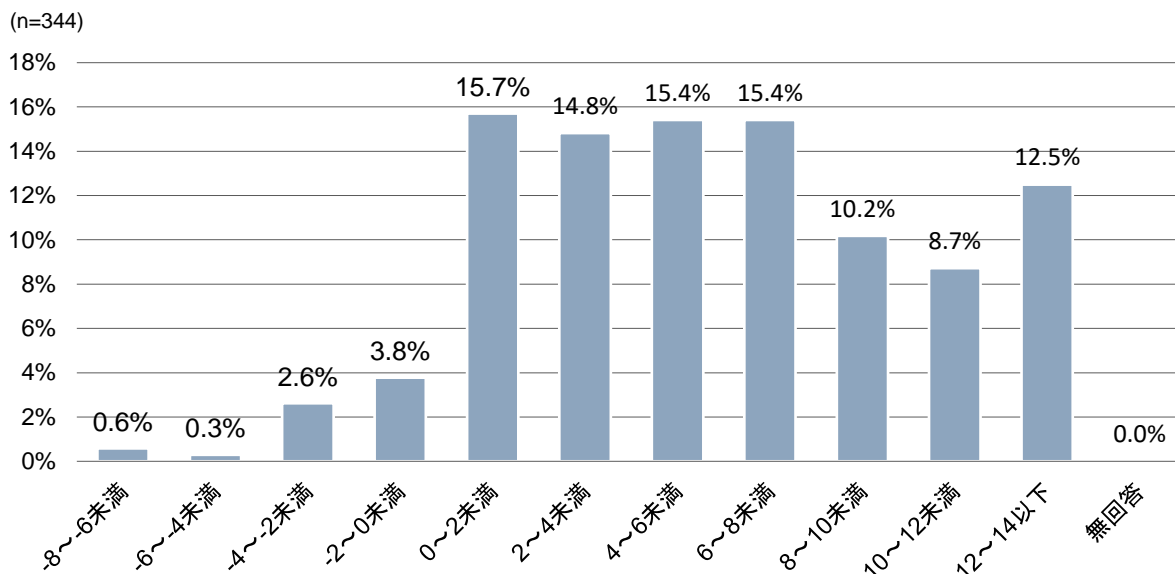
図表 3-23 Q1N 困っていることや楽しいことを大人に話す



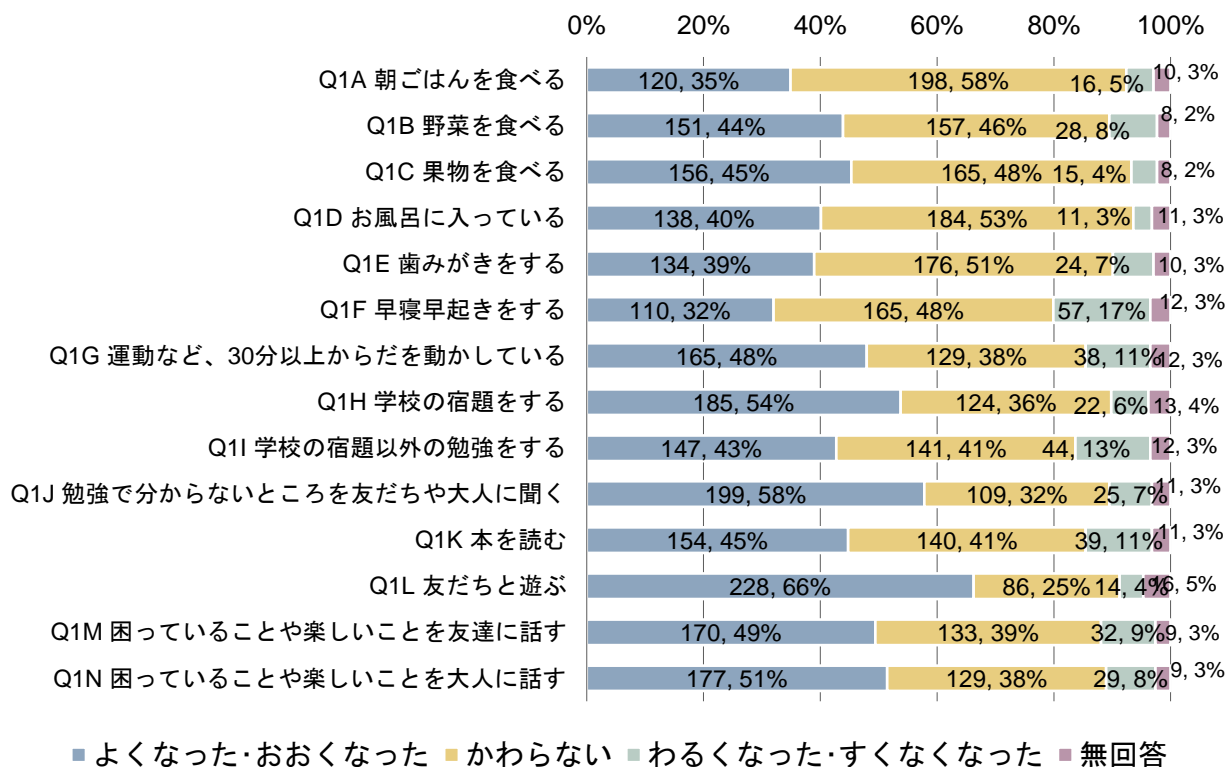
3-21 Q1ALL 子どもの生活習慣・学習習慣・つながり

Q1 全体の得点化結果については、平均値 5.3 となっており、好転傾向にある。

図表 3-24 Q1ALL 子どもの生活習慣・学習習慣・つながり



図表 3-25 子どもの生活習慣・学習習慣・つながりまとめ

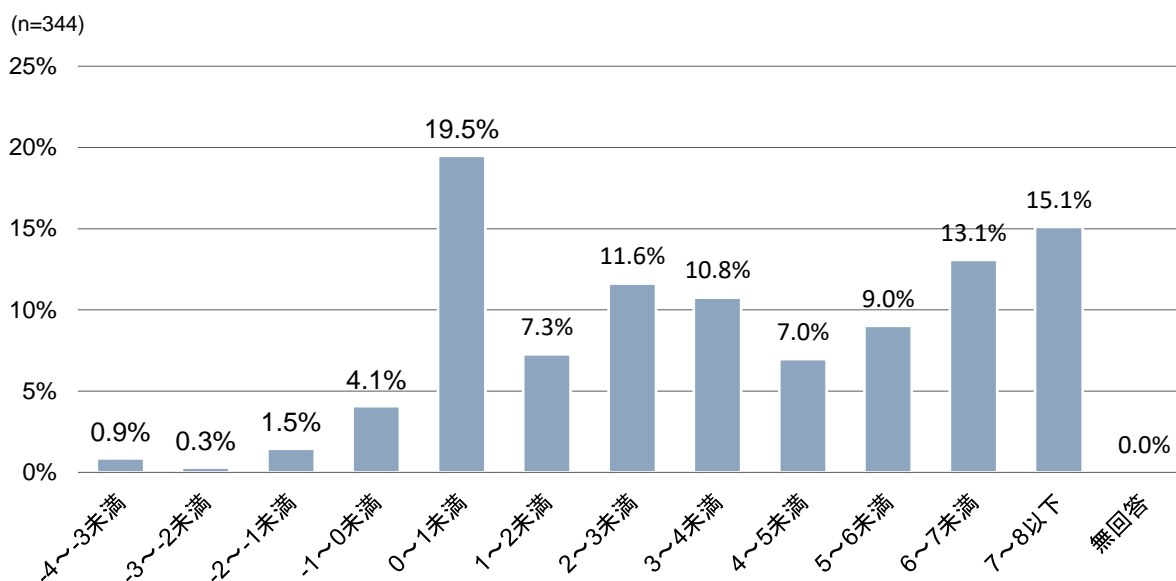


3-22 子どもの心理的な状態 (Q2)

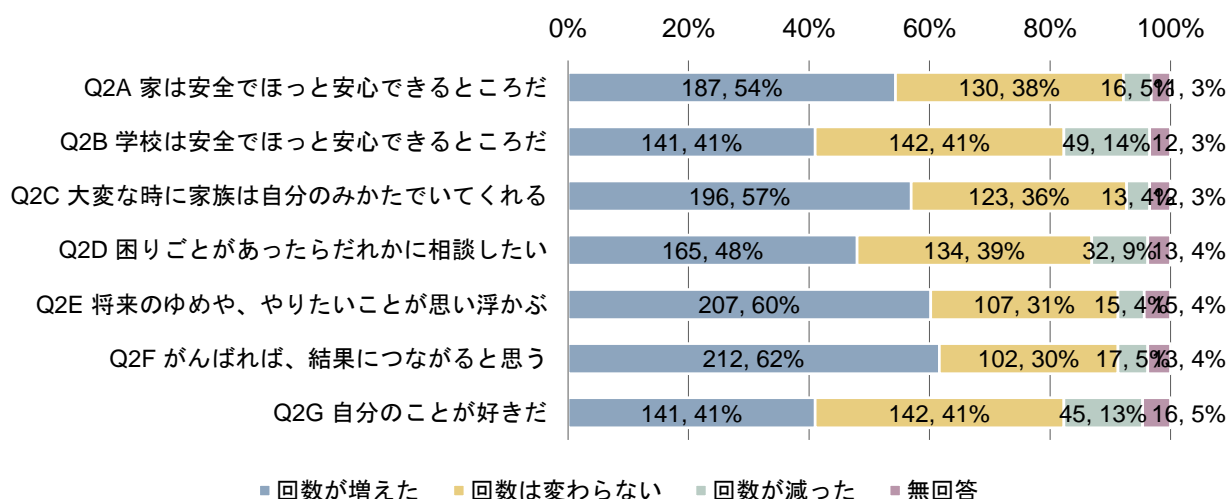
子どもの安心感、援助希求、未来志向、自己肯定感について7項目を設定した設問について、「回数が増えた」を1点、「回数が減った」を-1点、「回数は変わらない」を0点とした場合では、平均値3.1となっており、1点以上が73%を超え、子どもの安心感や、未来志向、自己肯定感などが高まっていると言える。

特に「家は安全でほっと安心できるところだ」や「大変な時に家族は自分のみかたでいてくれる」について「回数が増えた」とする割合は5割を超えており、**家族に対する信頼感や家への安心感が増している**といえる。また、「将来のゆめや、やりたいことが思い浮かぶ」や「がんばれば、結果につながると思う」について「回数が増えた」とする割合は6割を超えており、**自身の未来や努力に対して前向きに捉えることが出来るような変化が見られる**。

図表 3-26 Q2ALL 子どもの安心感・援助希求ほか



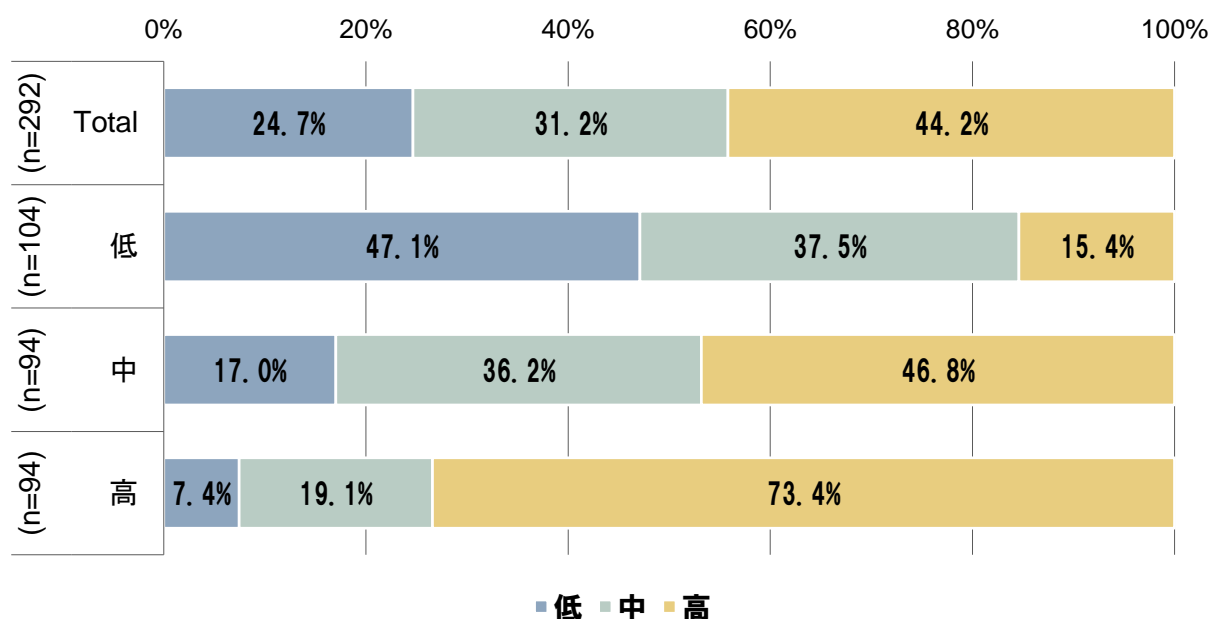
図表 3-27 Q2ALL 子どもの安心感・援助希求ほかまとめ



3-23 子 Q1ALL (統合) 子どもの生活習慣・学習習慣・つながり (層分類) (統合) 別に見た子 Q2ALL (統合) 子どもの安心感・援助希求ほか (層分類) (統合)

さらに、得点化した子どもの心理的な状態について<0点以下を低><1~3点を中><4~7点を高>と分類し、子どもの日常の活動(生活習慣、学習習慣、つながり)について<3点以下を低><4~7点を中><8点~13点を高>と分類し、クロス集計を行った。その結果、0.1%水準で統計的に有意であり、日常の活動が好転しているほど、子どもの安心感や援助希求などの心理的な変化が好転していると言える。(検定については、カイ二乗値とp値を算出することにより、項目間の統計的な関連性を検証する独立性の検定を行った。カイ二乗値とp値の算出には Microsoft Excel を用いた。)

図表 3-28 子 Q2ALL (統合) 子どもの安心感・援助希求ほか (層分類) (統合) (子 Q1ALL (統合) 子どもの生活習慣・学習習慣・つながり (層分類) (統合) 別)

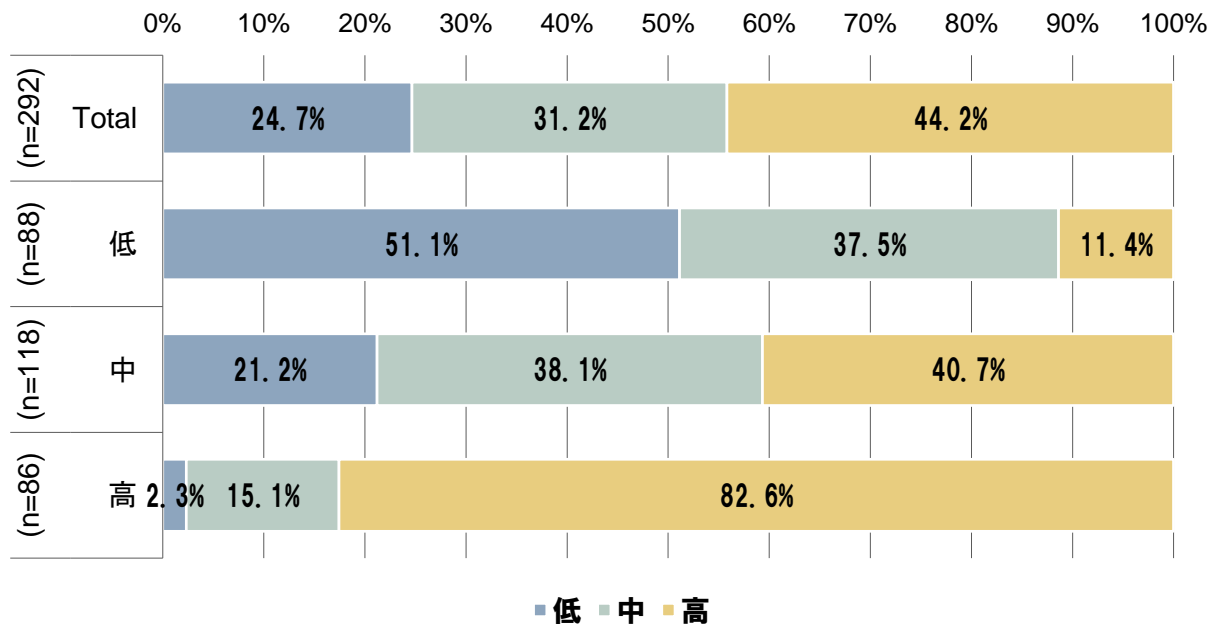


カイ二乗値 79.077 有意水準 p<.001

3-24 子 Q1L-N,Q3C (統合) 子どものつながり (層分類) (統合) 別に見た子 Q2ALL (統合) 子どもの安心感・援助希求ほか (層分類) (統合)

また、子どものつながりの変化に関する設問(Q1L~N,Q3C)について、<1点以下を低><2~3点を中><4点以上を高>と分類して、子どもの心理的な状態の3層とクロス集計をした結果、0.1%水準で統計的に有意であり、つながりの高得点層では、心理的な状態の高得点層が8割を超えており、つながりが心理的な状態に影響を与える可能性がうかがえる。

図表 3-29 子 Q2ALL (統合) 子どもの安心感・援助希求ほか (層分類) (統合) (子 Q1L-N,Q3C (統合) 子どものつながり (層分類) (統合) 別)

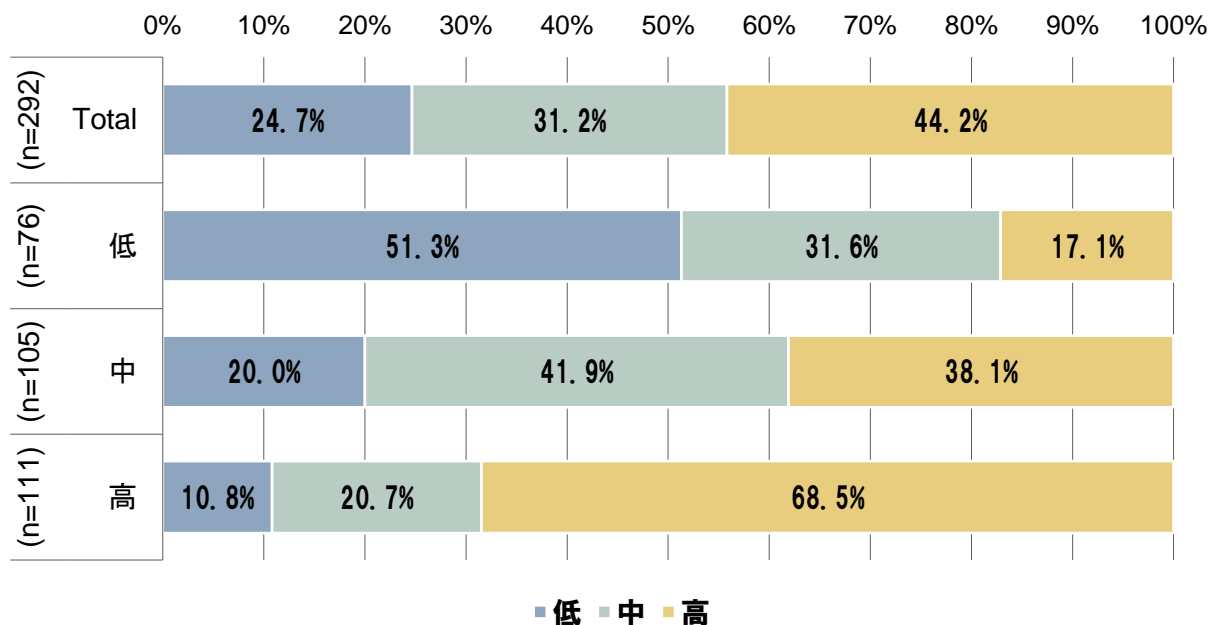


カイ二乗値 103.525 有意水準 p<.001

3-25 子 Q1H-K (統合) 子どもの学習習慣 (層分類) (統合) 別に見た子 Q2ALL (統合) 子どもの安心感・援助希求ほか (層分類) (統合)

同様に、学習習慣(Q1 H~K)について<0点以下を低><1~2点を中><3~4点を高>と分類してクロス集計をした結果、0.1%水準で統計的に有意であり、**学習習慣が好転しているほど、心理的な状態がある傾向が見られた。**

図表 3-30 子 Q2ALL (統合) 子どもの安心感・援助希求ほか (層分類) (統合) (子 Q1H-K (統合) 子どもの学習習慣 (層分類) (統合) 別)

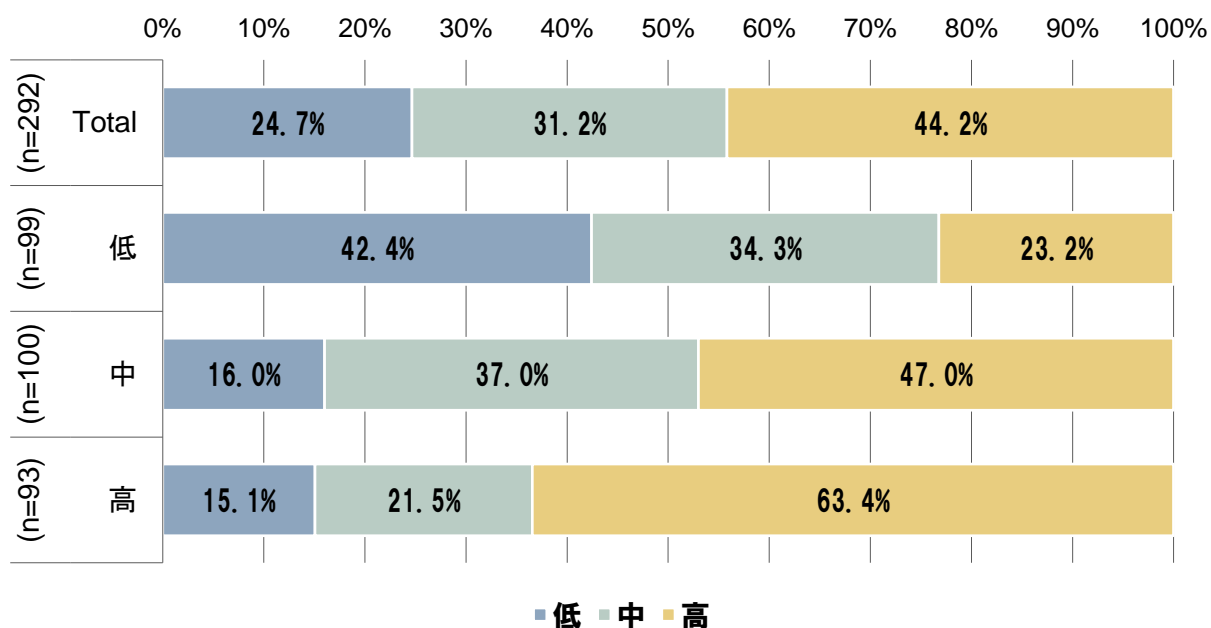


カイ二乗値 67.548 有意水準 p<.001

3-26 子 Q1A-G (統合) 子どもの生活習慣 (層分類) (統合) 別に見た子 Q2ALL (統合) 子どもの安心感・援助希求ほか (層分類) (統合)

また、同様に生活習慣(Q1A~G)について<0点以下を低><1~3点を中><4~7点を高>と分類してクロス集計した結果、0.1%水準で統計的に有意であり、生活習慣が好転しているほど、心理的な状態がある傾向が見られた。

図表 3-31 子 Q2ALL (統合) 子どもの安心感・援助希求ほか (層分類) (統合) (子 Q1A-G (統合) 子どもの生活習慣 (層分類) (統合) 別)

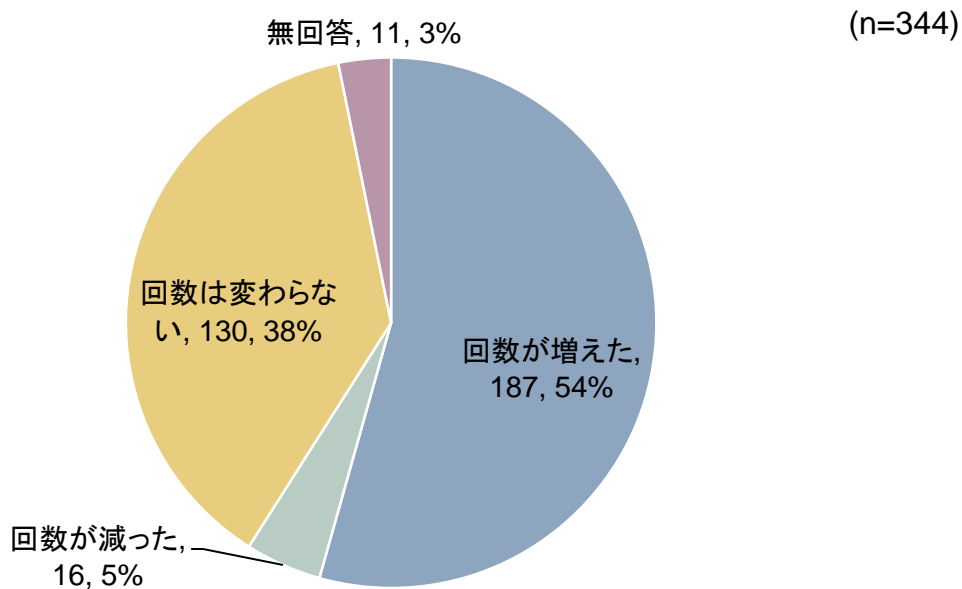


カイ二乗値 41.213 有意水準 p<.001

3-27 Q2A 家は安全でほんと安心してできるところだ

「回数が増えた」の割合が最も高く 54.4%となっている。次いで、「回数は変わらない(37.8%)」、「回数
が減った(4.7%)」となっている。

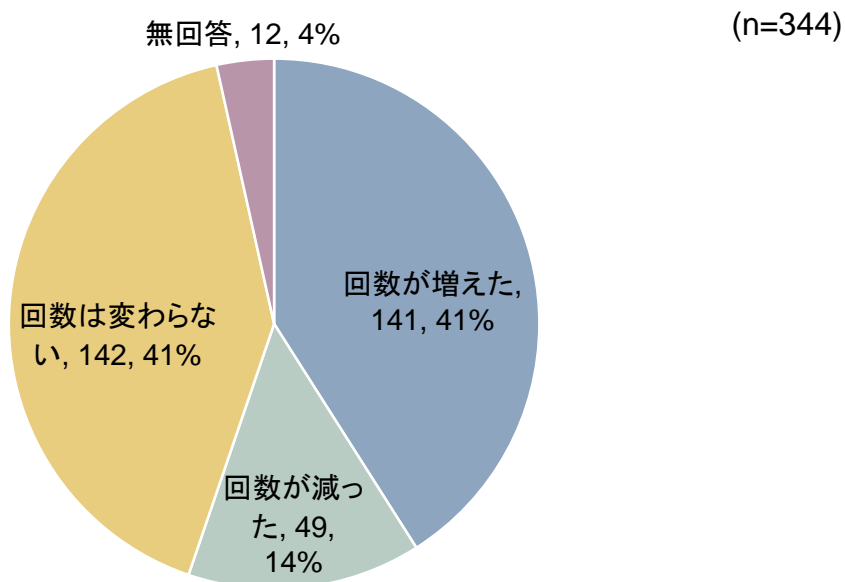
図表 3-32 Q2A 家は安全でほんと安心してできるところだ



3-28 Q2B 学校は安全でほんと安心してできるところだ

「回数が増えた」の割合が最も高く 41.0%となっている。次いで、「回数は変わらない(41.3%)」、「回数
が減った(14.2%)」となっている。

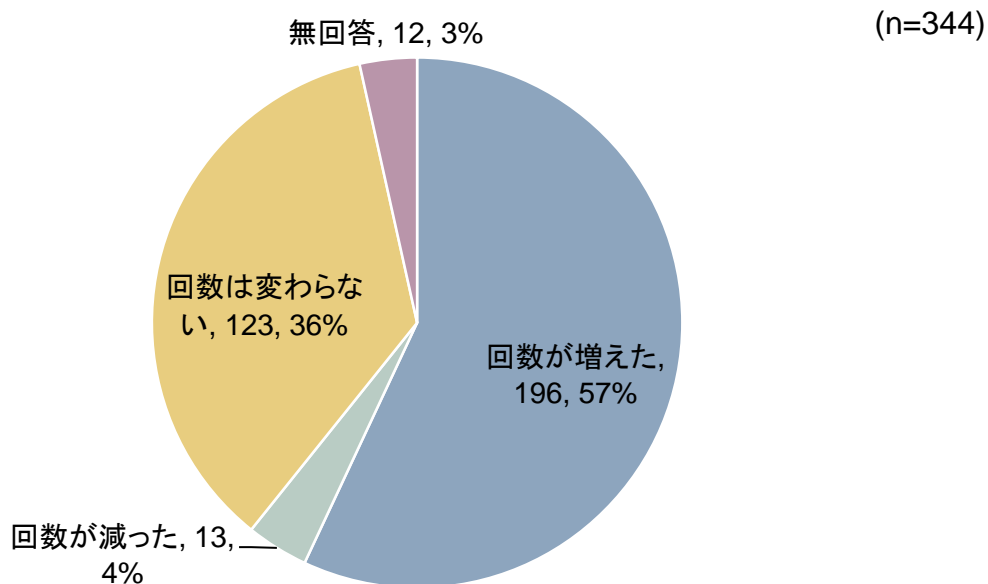
図表 3-33 Q2B 学校は安全でほんと安心してできるところだ



3-29 Q2C 大変な時に家族は自分のみかたでいてくれる

「回数が増えた」の割合が最も高く 57.0%となっている。次いで、「回数は変わらない(35.8%)」、「回数
が減った(3.8%)」となっている。

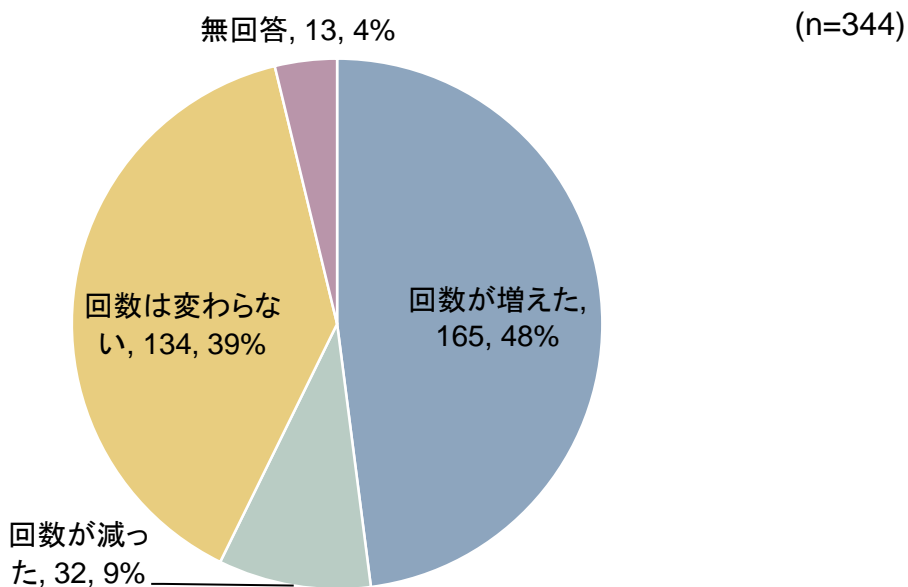
図表 3-34 Q2C 大変な時に家族は自分のみかたでいてくれる



3-30 Q2D 困りごとがあったらだれかに相談したい

「回数が増えた」の割合が最も高く 48.0%となっている。次いで、「回数は変わらない(39.0%)」、「回数
が減った(9.3%)」となっている。

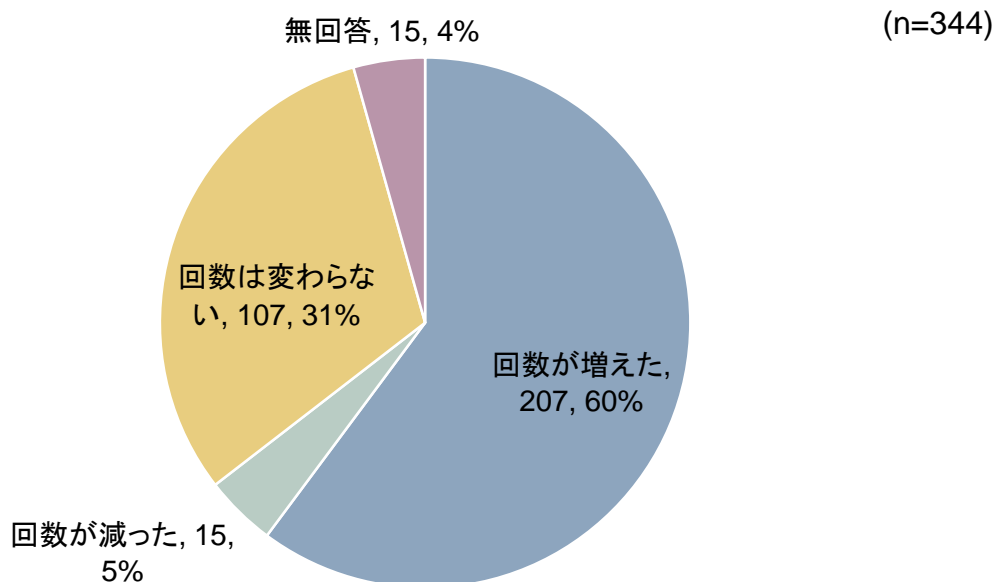
図表 3-35 Q2D 困りごとがあったらだれかに相談したい



3-31 Q2E 将来のゆめや、やりたいことが思い浮かぶ

「回数が増えた」の割合が最も高く60.2%となっている。次いで、「回数は変わらない(31.1%)」、「回数が減った(4.4%)」となっている。

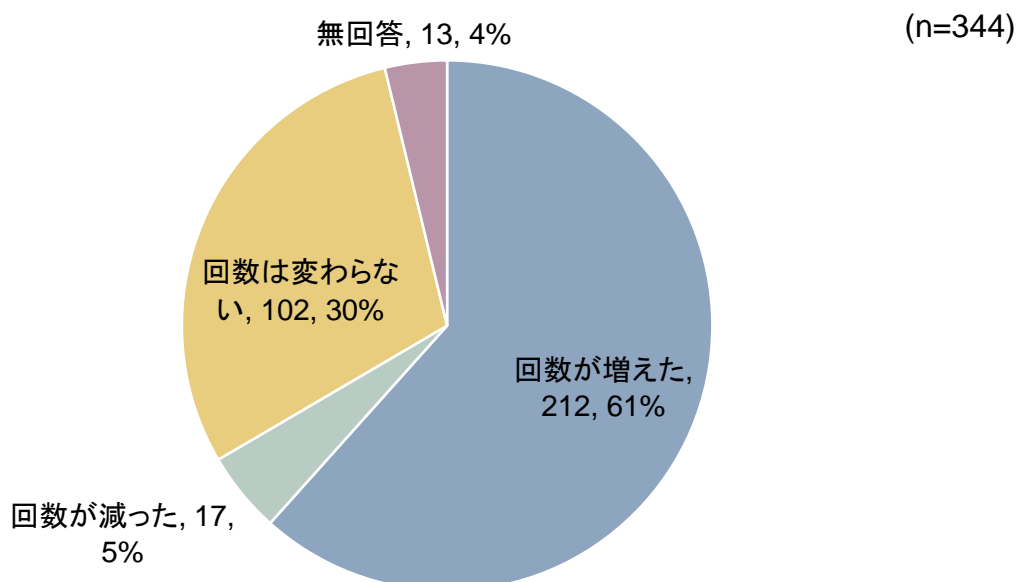
図表 3-36 Q2E 将来のゆめや、やりたいことが思い浮かぶ



3-32 Q2F がんばれば、結果につながると思う

「回数が増えた」の割合が最も高く61.6%となっている。次いで、「回数は変わらない(29.7%)」、「回数が減った(4.9%)」となっている。

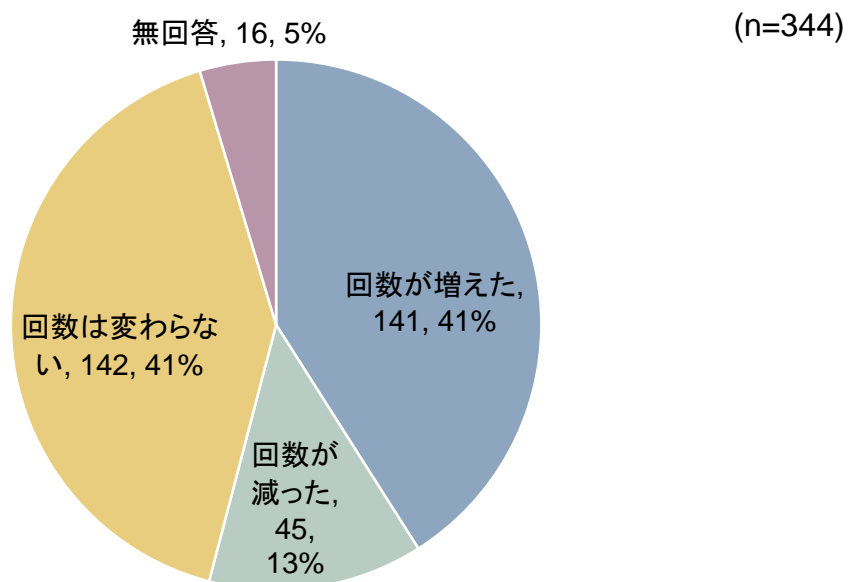
図表 3-37 Q2F がんばれば、結果につながると思う



3-33 Q2G 自分のことが好きだ

「回数は変わらない」の割合が最も高く41.3%となっている。次いで、「回数が増えた(41.0%)」、「回数が減った(13.1%)」となっている。

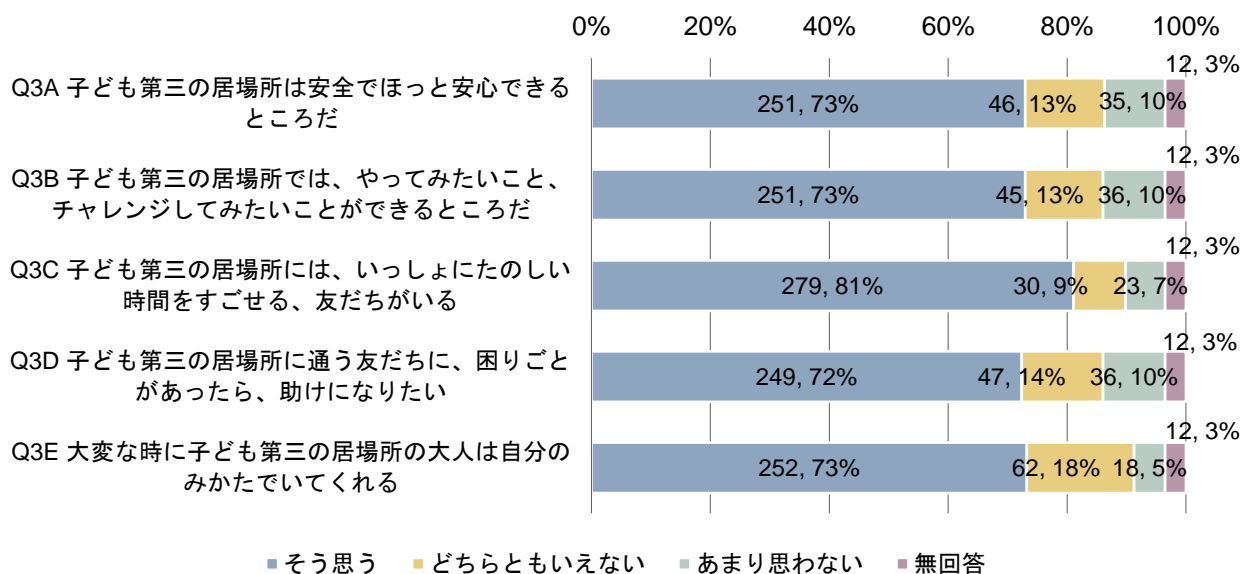
図表 3-38 Q2G 自分のことが好きだ



3-34 子ども第三の居場所に対する評価（Q3）

子ども第三の居場所への評価として5項目を質問に設定したが、いずれも肯定的に回答する割合が7割を超え、半年以上通う子どもについては子ども自身が子ども第三の居場所の安心できる機能と、挑戦できる機能のいずれも高く評価している。特に「いっしょに楽しい時間を過ごせる友達がいる」点は8割を超えており、子ども第三の居場所に通う友だちに親密さを感じており、7割は助けになりたいとも感じている。

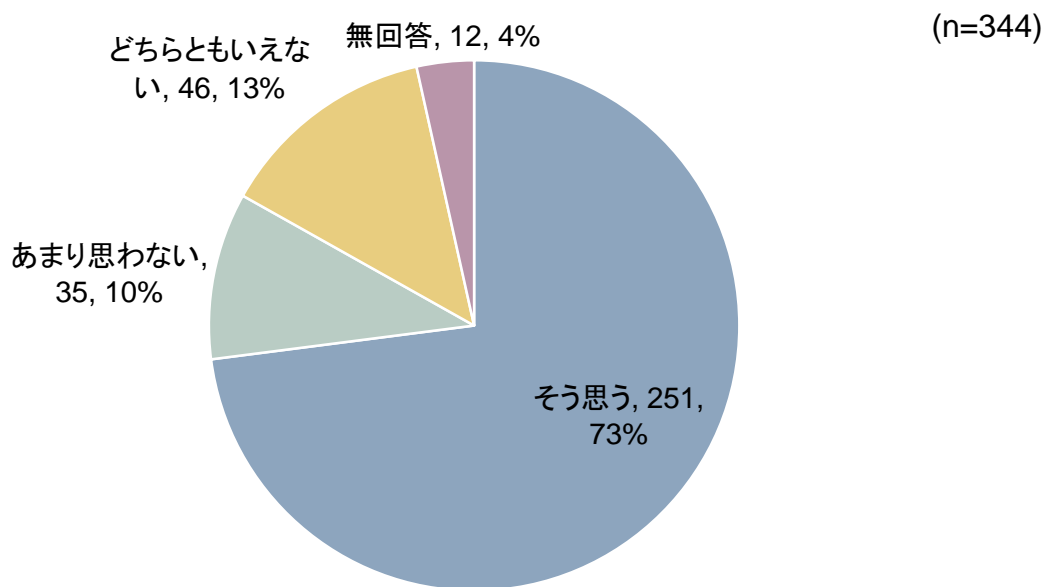
図表 3-39 子ども第三の居場所に対する評価（Q3）まとめ



3-35 Q3A 子ども第三の居場所は安全でほんと安心できるところだ

「そう思う」の割合が最も高く73.0%となっている。次いで、「どちらともいえない(13.4%)」、「あまり思わない(10.2%)」となっている。

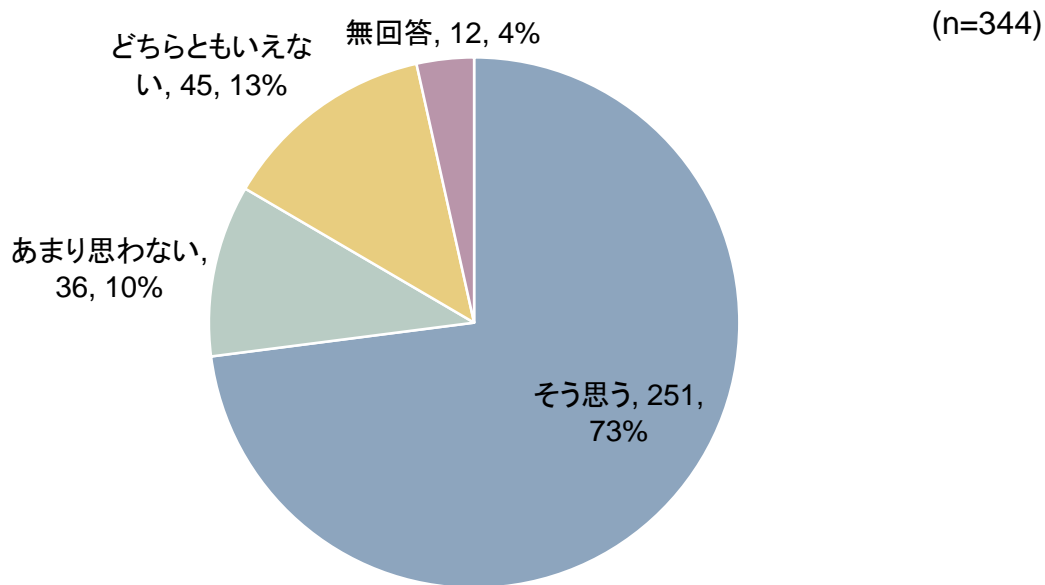
図表 3-40 Q3A 子ども第三の居場所は安全でほんと安心できるところだ



3-36 Q3B 子ども第三の居場所では、やってみたいこと、チャレンジしてみたいことができる
ところだ

「そう思う」の割合が最も高く73.0%となっている。次いで、「どちらともいえない(13.1%)」、「あまり思わない(10.5%)」となっている。

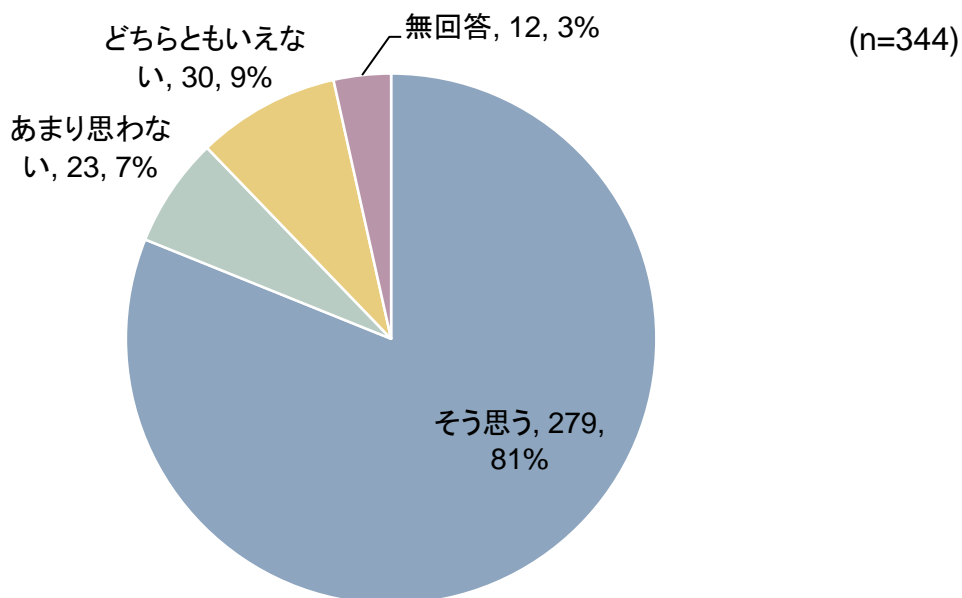
図表 3-41 Q3B 子ども第三の居場所では、やってみたいこと、チャレンジしてみたいことができるところだ



3-37 Q3C 子ども第三の居場所には、いっしょにたのしい時間をすごせる、友だちがいる

「そう思う」の割合が最も高く81.1%となっている。次いで、「どちらともいえない(8.7%)」、「あまり思わない(6.7%)」となっている。

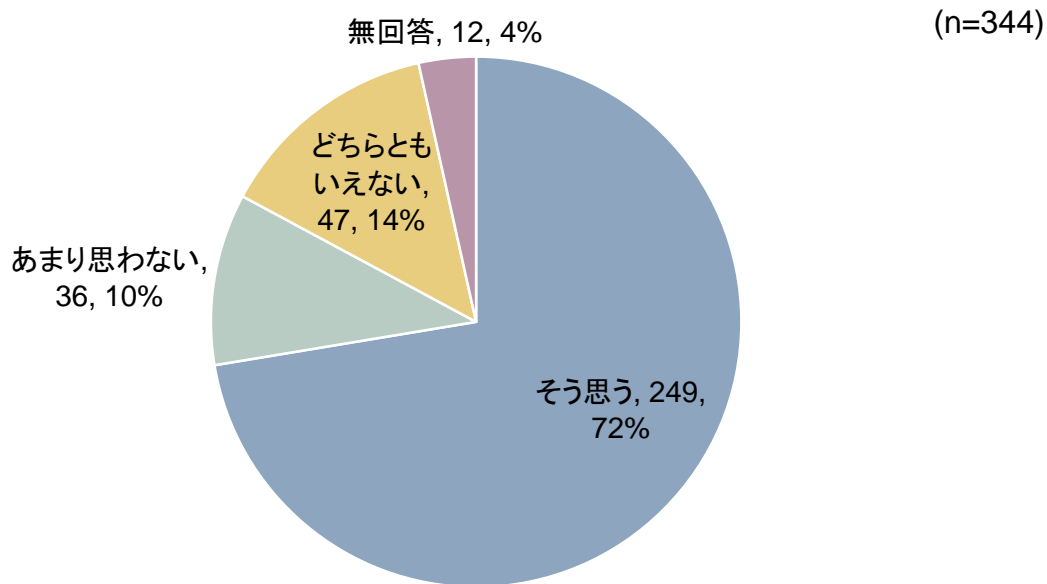
図表 3-42 Q3C 子ども第三の居場所には、いっしょにたのしい時間をすごせる、友だちがいる



3-38 Q3D 子ども第三の居場所に通う友だちに、困りごとがあったら、助けになりたい

「そう思う」の割合が最も高く72.4%となっている。次いで、「どちらともいえない(13.7%)」、「あまり思わない(10.5%)」となっている。

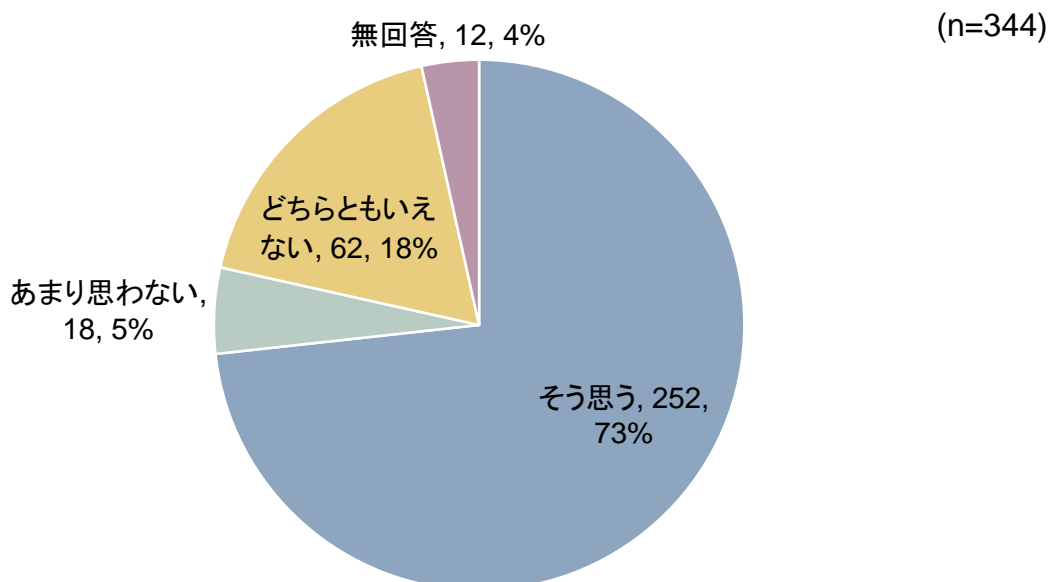
図表 3-43 Q3D 子ども第三の居場所に通う友だちに、困りごとがあったら、助けになりたい



3-39 Q3E 大変な時に子ども第三の居場所の大人は自分のみかたでいてくれる

「そう思う」の割合が最も高く73.3%となっている。次いで、「どちらともいえない(18.0%)」、「あまり思わない(5.2%)」となっている。




図表 3-44 Q3E 大変な時に子ども第三の居場所の大人は自分のみかたでいてくれる



3-40 Q4 今通っている子ども第三の居場所について良い・もっとしたいと思うこと

251 件の有効回答があり、絵と文字を交えたものや、絵で表現するもの、やりたい遊びを枠のぎりぎりまで記載する回答があった。

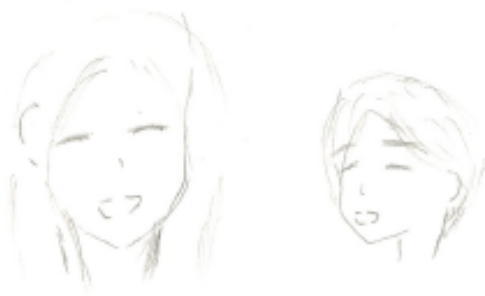
図表 3-45 Q4 今通っている子ども第三の居場所について良い・もっとしたいと思うこと

自由回答（※有効回答 251 件）	
<ul style="list-style-type: none">● みんなでなかよくしてえがおですごしたい。	
<ul style="list-style-type: none">● くりぱのおにんぎょぼし● たのしいことをいっぱいしたい。● みんながいっしょにいてくれてあんしんする。	
<ul style="list-style-type: none">● みんなで絵をかいて、あそんで、まなんでしてそれがたのしいです!またみんなでやりたいと思っています。	
<ul style="list-style-type: none">● いやたところ(ここで日記をかくところが大きいです。)(次はべんきょうを見せるのがきれいです) いいところ(タブレットができるし、スタッフがやさしいしべんきょうもおしえてくれることです。● 子ども第三の居場所で、運動力や勉強力をつけたいと思っている。チャレンジタイムがたくさんできてたのしい。勉強を教えてくれるところ。● サッカーがしたい●	
	

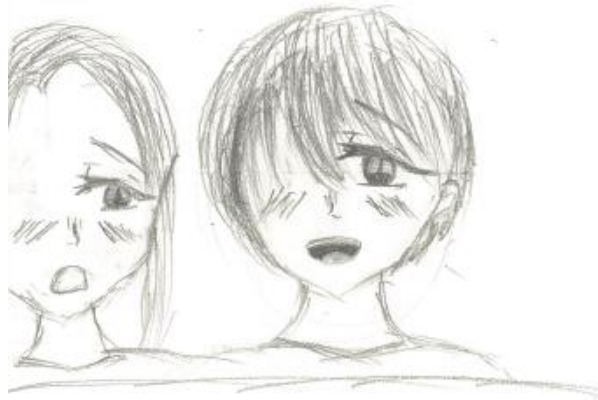
- ボルダリングがあつてうれしい。
- ボルダリングが楽しい。ボルダリングがあつて良い。つりが楽しい。おとまりが楽しい。みんなで TTKTOK をして楽しい。プログラミングのマイクラフトが楽しい。タブレットのゲームが楽しい。体そうをするのが楽しい。みんなでボルダリングや TTKTOK、おにごっこをするのが楽しい。長なわをするのが楽しい。公園で遊ぶのが楽しい。
- 勉強の時間がある チャレンジタイムがある。ごはんがある。ぼう力できはんこうの子がいる
- 本がたくさんある ・仲良くしてくれる友達がいる。宿題が早くおわる



- 友だちと話したり絵をかくのがたのしい



- 子ども第三の居場所で、チャレンジ(習い事)がいろいろあつてやったことないことができて楽しい。 ・バランスを考えてご飯を作ってくれている。 ・プログラミングがある。 ・タブレットがある。 ・公園に行ける。 ・ユーチューブがみえる。
- ・友だちといろいろ話をしたりするのがたのしい。 ・友だちとの仲がすごくふかまるのがいい!



- わたあめ／ぎょうざ／ラーメン／おこのみやき／クロワッサン／肉まん／ガトーショコラ／たこやき／ハンバーグ／そば／カレー／ピザ／アイスクリーム／かき氷／うどん／やきそば／ポテト／ポップコーン／セグエ／ホッピング／いちりん東／かくれんぼ／おにごっこ／ドッチボール／タブレット／たこあげ／タケ馬／キャスタボード／スライム／アイロンビーズ／食品サンプル／リカちゃん／しるばにや／バランスボール／バトミントン／ドンチャラ／ペットボトルロケット／とうげい／わかさぎつり／カプラ／ハーバリウム／ワミー／サップ／バルンボール／スキー／プール／スピスタジアム／キャンプ／りんごがり／そばうちたいけん／ひこうじょう／ラフティング／さんぽ
- スキー／りんごがり／わかさぎつり／そばうち／ラフティング／川遊び／じょうば／とうげい教室／木工教室／たこあげ大会／キャンプ／やきそば／ピザ／おもちつき／パン／おこのみやき／たこやき／セグエ／キャスターボード／竹馬／レゴ／かくれんぼ／ボール／サップ／ぼぶる／ボール／ドッチボール／ドミノ／おにごっこ／アイロンビーズ／ハーバリウム／キャンドル／クリスマス／ツリー
- バンドコール／レゴ／とうふ／じょう馬／わたあめ／ケーキ／かくれんぼ／わだこ／ドッチボール／おにこい／セグウェイ／そばうち／くろわっさん／かみすき／たこあげ／キャスターボード／ペットボトルロケット／工作／ぎょうざ／青い池／ラフティング／カプラ／アイロンビーズ／ラキュー／スキー／ポテチ／絵本のやかた／かきごおり／ワミー／らーめん／うどん／もちつき／竹馬／プール／かくれんぼ／たこやき／ゆきあそび／サップ／キャンプ／サイクリング／ピザ／カレー／わかさぎつり／スライム／タブレット／りんごがり／ドミノ／にくまん／はるまき
- ラキュー／ドッチボール／やきそば／わだこ／アイス／ラーメン／セグウェイ／たきさつぷ／え本のやかた／ラフティング／レゴ／りんごがり／キャスターボード／ハンバーガー／タブレット／たけうま／雪あそび／ギョウザ／とうげい／ホッピング／おにごっこ／カプラ／さいくりんぐ／カレー／カキゴーリ／にくまん／わかさぎつり／わみー／乗馬／かくれんぼ／うどん／パン／たこやき／ドンチャラ／キャンプ／スライム／そばうち／はるまき／スキー／ポテチ／もちつき／ハンバーグ／ケーキ／ぼるんぽ／カキゴーリ／マグ／ピザ／スター／アイロンビーズ
- 良いな:いろいろなたいけんができてたくさんあそべて良いと思う 好きだな:みんなであそぶ きけんでなければ、いろいろできる
- カヌー、いしのせいさくをやったのがたのしかったです。いろいろなことができるところがうれしいです。
- レゴ／リカちゃん／ねんど／キャスターボード／パズル／スキー／ハーバリウム／タブレット／ゆきあそび／ラフティング／じょうば／しるばにや／どうぶうえん／ピアノ／おりがみ／かみすき／ずこう／DVD／プール／バルンボール／スケート／しよくひんサンプル／バランスボール／ワミー／バンドコール／いちりんしゃ／バトミントン／トッチホール／そば／ピザ／ハンバーグ／カレー／アイス／かきごおり／ポテト／やきそば／からあげ／りんごがり／おにごっこ／

たけうま

- ・そば打ち／・調理／・サイクリング／・プール／・セグウェイ／・リップスティック／・レゴ／・読書／・アイロンビーズ／・みずでっぼう／・わたあめ／・ホッピング／・おり紙／・ボール遊び／・バードコールづくり／・キャンプ／・温せん／・ラフティング／・スイカわり／・アイパット／・リカちゃん／・シルバニア／・ワミー／・ラキュー／・流しそうめん／・バーベキュー／・コロケ作り／・肉まん／・ピザ／・ハンバーグ／・かくれんぼ／・おにごっこ／・ドッジボール／・カレー／・からあげ／・パン／・ガトーショコラ／・アイス／・かきごおり／・やきいも／・ゼリー／・フルーチェ／・やきそば／・フライドポテト／・おこのみやき／・やきおにぎり／・たこやき／・朝ごはん／・バドミントン／・ペットボトルロケット／・わかさぎつり／・スキー／・バルーンボール／・サップ
- ・調理／・読書／・グラスデコレーション／・出かけ／・キャンプ／・キャスターボード／・セグエ
／・アイロンビーズ／・川くだり／・音楽かんしょうかい／・スキップジャンプ



- きらいなものも食べれるようになったからうれしい
- あそぶのが楽しい



- みんなであそぶのがすき
- 自分ができていなかったことが、先生たちのおかげでできるようになってうれしかった。自信をもてるようになった。子ども第三の居場所の先生の笑顔が大好き。色々なことにチョウセン

できた。物づくりが自分だけで作れるようになった。自分の目ひょうに向かってがんばれるようになった。

- リズムジャンプやバーベキューが楽しいし好きです。
- もっとしたいこと



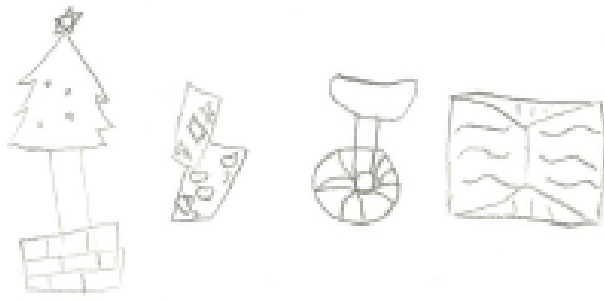
- 料理ができる みんなとあそべる 勉強ができる教えてもらえる 話ができる みんなやさしいのしい
- ・子ども第三の居場所に来る前は、料理がにがてだったけど子ども第三の居場所に来てから料理や、みんなの前で、じしんをもって話せることができるようになった。 ・みんな自分の事は、自分でするようになった。



- 色んなぎょうじがあるしあそび方が多いからやりたいことがない時に見つけれないのでいいと思います。
- 子ども第三の居場所でプログラミングしたい。
- みんなとかくれんぼができる
- 子ども第三の居場所にいていそんなことができているので楽しいです。



- らいねんわプールのがたのしみです。なんにちにやるんです。か?ことしはどんなことをします。か?
- みんなでボールあそびができること こう作ができること
- みんなであそぶのがたのしい
- みんなであそべる
- あそぶこと
- あやとりとこままわしをチャレンジしたい。もっと本をよむこと。
- おともだちといっぱいあそべるところ。
- こうさくをするのがたのしいです。
- べんきょうをするときにせんせいがてつだってくれる。
- 学校帰りに気軽にいれるところ。
- しゅくだいが早くできる。友だちと遊ぶ時間がふえた
- 色々なイベントがある。友だちとたくさん話せる。宿題を一緒にしてもらえる。
- ①すらいむしたいな。
- ①ほてるにいきたい。②ホールでおおなわを100かいとびたい。
- みんなでたのしくカレーをつくりたい。
- ・もっとうんどうがしたい。・もっといろいろな事にチャレンジしたい ・わからない勉強のやりかたを、おしえてくれる。
- ②りょかんにとまりたい ③バンジージャンプがしたい ④「てんせいしたらスライムだったけん」という本がよみたい ⑤かいすいよくしたい ⑦ガラスざいくしたい ⑧サイクリングしたい ⑨キャンプしたい ⑩3日ねとまりでゴミ拾い
- あやとりがたのしい
- スーイーツがたべたい
- ざいだんの遊びでクイズがしたいです
- あるきおにが楽しい
- おもちゃおふやしてほしい
- 大縄をしたい サッカー
- 他の所とうつしてなんか楽しいことをすること。
- ゲームができる
- ・友達がふえて自分から話をかけてくるのが好きです。・子ども第三の居場所のスタッフさんが勉強を教えてくれたり、友達みたいに遊んでくれるのがうれしいです。・いろいろなカードゲームやクリスマス会をしてとても楽しいです。・ピアノや一輪車があつてうれしいです。・みんなで仲良く遊べて、ときどきけんかもするけど、そういう子ども第三の居場所が好きです。



- ・イベントがある。 ・好きなことができる。 ・道具等がある。(つくれる)
- ・プールでみんなであそんだこと ・いちりん車がじょうずになれたこと ・これからもいろいろなことにちょうせんしていろいろできるようにする
- ヒマなときに友達が遊んでくれる。
- やりたい事が多くなった。好きな事ができた 友達が増えた。
- ・本などがたくさんあるところかよいと思う。 ・みんなと楽しくふれあえる。 ・6年生のお兄さんたちとカードでなかよくあそべる。 ・みんなとなかようあそべる。
- みんなの声が元気になりいつでも元気が出せてあかるくいられる。
- しゅくだいがおわったらあそべる。
- ドッチビーとかみんなと遊べてたのしい。

●



- いっしょに遊んでくれるからです。



- ほぼみんなとカラオケに行きたい ディップスティックとピアノと友だちと遊ぶのが楽しい アニマルカフェに行きたい



- 男女関係なくなかよく、けんかなくしたいです。あとみんなで泊とまり会をして、カラオケにいて、遊びたいです。
- しょっぴんぐにいきたいです。



- いっしょに遊んでくれてありがとう。
- リップスティックがたのしいです。ボルタリングがたのしいです
- あいろんぴずがもっとやりたいです。
- しゅくだいをもっとしたい なわとびをもっとじょうずにとべるようになりたいです。



- 本をよむことがたのしい
- スツプラマイクラがすきです。
- あけましておめでとうございます

- さんぽにもっといきたい。
- ・何でも作らせてくれる(先生が手伝ってくれる) ・サンタさんがくる ・屋上が楽しい ・パーティーが楽しい(クッキングなど) ・ぬいぐるみを1日で作り終えるようにしたい
- ・屋上／・公園／・YouTube／・パソコン／・トランポリン}楽しいこと／・ぬいぐるみ作りをもっとやりたい
- さいぼう／マット(運動)球ぎ／絵(ぬり絵)／外遊び(鬼ごっこなど)／料理(クッキング)
- やくわりぶんたんとかをきめる(多く)
- サッカーができてうれしいから、これからも楽しくやりたい。先生がわからないしゆくだいをおしえてくれたからべんきょうをがんばれた。いつもありがとうございます
- 本ものの、ブランコが学どうでのりたいたいです。なぜかという、とおいばしよに行かなくてもすぐそこで出来るからです。



- イベント
- ピアノをひくのがすき しよくじがおいしい デザート、くだものがすき
- ちゃんとあそぶことです。
- ひさしぶりに行てもみんながやさしくしてくれる。
- もっとおでかけがしたい!
- べんきょうをおしえてくれるところ
- いろいろな行事が楽しかった。
- タブレットができるのがたのしい。
- ピアのが楽しい。りょうりがもっとやってみたい。
- いろいろなあそびができる。
- あそぶのがたのしい
- スライムがたのしみです。
- みんなといっしょにあそぶのがたのしい
- 旅行などの行事があつたのしい。
- ・やりたいことをおしえん、協力してくれる。 ・色々なイベントをやってくれる。
- ボードゲームがあるからいつでもあそべる。
- 自由にいることができることが良い(好き)ボードゲーム楽しい 拠点の友達とあえてうれしい
-



- 友達が紹介してくれて、最初はどういう人がいるのか分からず、きん張していたけどたくさんの人と交流できる場所に参加してみると楽しくて、行きやすい場所だと思いました。子ども第三の居場所では、同学年の子も多く、話しかけやすい大人もたくさんいるところが好きです。
- いっぱい勉強できる場所が良いと思う。大人がやさしくしてくれるところ。みんながやさしいところ。プレーパークとかが楽しいし好き。カードゲームなど遊べるところが楽しい。

●



- やさしくおしえてくれる。
- 子ども第三の居場所にいたらじゆうに絵をたくさんかいたり、れごのさくひんをつくてしゃしんをとってもらうから ほうるで大きいふりすびいをなげたりします ときにはケーキでオイワイをしますくきをてつ作りしたりします あとオデカケをします。ほうるでどちほうるをしました。そとでマトを育てました あとそとでさっかやどちをしました うんどうやーりんしゃはむずかしくてばらんすがとりにくいです なわとびで二十とびをしました あと大なわもしました みんなうまくとべました。チキンであそんでいました なげたりけたりふり回したりしたりしてあそんでいました おもしろかたです
- 好きだなとおもたあそびわおみくじです。好きなごはんいつもおいしいしでぎとがたまについてくるからいいとおもいました。楽しいなとおもたのわある人とはなすことです。りゆわじよじよのはなしやげーむのはなしなどしてくれるのでたのしいです。
- みんなであそべるからいいな。おにごが楽しい。みんなでごはんたべるのがおいしい。
- そとでドッチやサッカーやがけのぼりもすきです。
- とらんぼりんがたのしい。ごはんがおいしい。ほーるがたのしい。
- 子ども第三の居場所がすきです。
- ともだちとホールでドッチボールやなわとびやいちりんしゃがたのしい、しゅくだいがちがって

たらある人がたすけてくれるの

- ・遊ぶ物がたくさんある。・本がたくさんある。・宿題の分からない所を教えてくれる。・色々なことにちようせんでできる。・ご飯が食べれる。・キャンプや社会見学がある。・たん生日会やいごがある。・まんががある。
- のぼりぼう
- みんなが仲良くできるようにどうしたらみんなで楽しくあそべるように工夫してくれている
- ・べんきょう。・おやつ時間。・あそぶ物がいっぱいある。・キャンプとかのぎょうじがある。・あそぶ時間をふやしてほしい。・おもしろい本がいっぱいある。・こたつがある。
- おにごっこをずうとしたいです。
- しゃかいけんがくを増してほしい
- ドッチボール／バスケットボール
- もっときやんぷしたい。
- てつぼうをもっとしたい／みんなといっしょにあそべてうれしい／ドッチボールが楽しい／にぎやかなのが好きだな
- もっと本を読みたい
- なわとびができたり、ピアノがひけたり、おにごっこができていてとてもたのしいです。でも、中学校にいったらこれないから、とてもたのいくおわれたらいいなと思いました。
- 遊ぶ時間がふえて楽しい。
- ゆきがふってもそとにいてあそべて2かいもあって自分のへやみたいところがほしい。もっとももっとももっと大きいがくどうのばしょがほしい



- ラキューがすきだな。もっとやりたり



- もっと広くしてほしい
- せまいから、もっとひろいところに行きたい。

- 家のような安心かんがある。・いろいろなところにつれていってくれる。・初めてのけいけんもさせてくれる。
- ほっとできるところ。げんきになれる。せんせいがすき。
- 勉強をおしえてくれる。
- 花火をしたい。うみにいきたい。

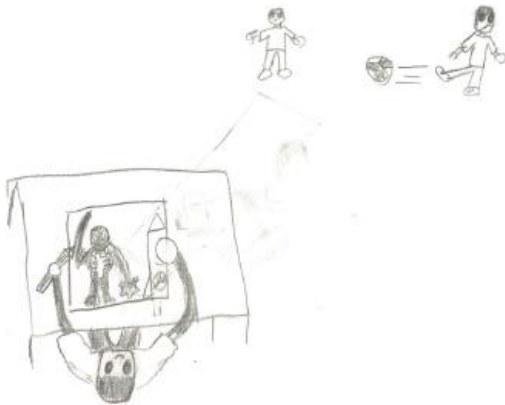


- キャンプやどこかにいくことや自由に、外に遊びにいけることがうれしいなと思う。あとクリスマス会や冬休み、夏休みとかあるのが楽しいです。家にがくどうが近いから、帰るのも速くかえられるから、良いと思います。
- ・木を切ったりしたりできる。・宿題がしやすい ・おやつうまい、おいしい
- 楽しい
- マンガよめること
- お楽しみ会またやりたいな
- 困っていることがあるとすぐにいっしょに考えてくれるところが良いと思いました。
- ・わからないところがあつたらすぐに教えてくれる。・しゃべりやすくてグッド! ・分かりやすく教えてくれる ・宿題以外の勉強もあつてすごい
- ご飯がおいしい／みんなやさしい／勉強が分かりやすい／先生が大好き
- ・ニガテな科目も得意になった! ・テストの点数が良くなった。・先生たちとも話しやすいので、気軽に話せる。
- 勉強ができるところ。
- 家の犬です。

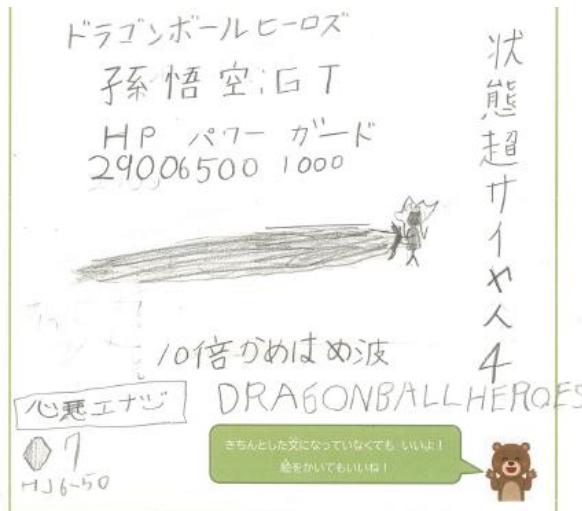


- いやだからかかない
- もっとしたいと思うことは、周年祭やイベントを、もっとしたいです。うれしいと思うことは、前よりも友だちがふえていることです。子ども第三の居場所で、たのしいと思うところは、友だちや、先生などと、いっしょにあそぶことです。
- わたしは、ひさしぶりにげんぺをみんなとやって、さいごにのこったらちだからみんなとやりたいです。またじどうかんいくときにやりたいです
- 子ども第三の居場所では、いろんなぎょうじがあつて楽しいし、一りん車がたくさんあつて、うれしいです。
- すとらくあうとがたのしかつたです。
- はたしは、さいしょ、子ども第三の居場所になかつたとき、一りん車がのりたいていって、そのとき、子ども第三の居場所におばあちゃんがいて、はたしも、はいるっていったから、みにいて、一りんしゃがあつたから、うれしかつたです。
- 友だちがたくさんできたからうれしいと思う。

●



- おともだちといっしょにおにごっこするのがたのしい。
- ・子ども第三の居場所は、一りん車やたけうまがあつてとても楽しい。 ・じどうかんや、おさんぽにいたりするかからたのしい。
- ・ちゃんとはなしをきいてくれること。 ・ちがうこうえんにいきたい。(時間がある時は) ・やさしい(友だち、先生)
- ドラゴンボールヒーローズ 孫悟空:GT



- あと第三の居場所には、おともだちがたくさんいて、いいところとおもいました。ずーといたいな一とおもいました。よかったな一とおもいました。
- タブレットの使用
- みんなやさしいとこ。
- ねりけしづくりをしてほしい。
- なつときプールにいきたいです。こうえんにいくのが好きです。
- 自分が泣いた時、回りの友達が声をかけてくれるけど「だいじょうぶ?だいじょうぶ?」だけで悲しくなる。何かわからないけど、その後もう手助けをしてほしいと思うけど、自分でもどうしてほしいのかわからない。(と言っています)
- こうえんにいきたいです、やすみのときだけいけるときにいきたいです。
- ふゆやすみのしゅくだいをみてくれた。おもちゃをたくさんかってくれた。
- ともだちとあそぶ
- たいくかんやそとがたのしいです。
- てんつなぎのプリントをまったやりたいです。
- もっとべんきょうしたい
- いつもできないバスケがやってよかったです。今は副リーグたからがんばりたいです よびたいかいでがんばりたいです。



- 布のながなわ遊びをしたこと 布でわらじを作ったこと おやつでチーズケーキ食べたこと クリスマス会でプレゼントをもらったこと いろいろなもの(食物)が食べれるようになった オーガニック石けんを作ったこと 「らっかせいほり」をパパ・ママと3人で行けたこと センターに来てからママが元気になったこと センターに来てからパパがプレゼントをくれるようになったこと

- ・もっと干ばづるおりがしたいです。 クラーケンがつくりたい



- もっとあそびにいきたいな つりおしにいきたいです。
- 子ども第三の居場所でテストがあって楽しい。
- ・べんきょうを早く終わらせたい。 ・海でいっぱいあそびたいです。
- べん強の時間が少ないのもっとふやしてほしいと思っている。
- ・子ども第三の居場所にかよいだして、ピーマンとモロヘイヤが食べれるようになって、うれしいし ・にがてなことが、できるようになってうれしい 子ども第三の居場所は、たすかるし、どこにもつれていってくれるから大好きです。
- つりにいきたい
- なわとび
- 本をもっと読みたい!!
- 公園に行きたい
- もっとチャレンジをしたい
- とびばこ
- おりがみをいっぱいやりたい



- ・うんどうをたくさんしたい。 ・アートセンターにいきたい。
- 楽しいなあ



- バドミントがやりたい みんなでやりたい
- お弁当がおいしい
- ・ビンゴを続けてほしい！ ・最近子ども第三の居場所に来る人が少ないけど、楽しく遊べている！ ・子ども弁当が、いっぱい入っていておなかいっぱいになってうれしい！ ・休日にワークショップやマルシェをやっている、休みの日が楽しかった！
- ごはんがおいしい！
- いつもにっこりに友だちがきてくれてうれしい。いろいろなことができてたのしい。
- 子ども第三の居場所は、大好きで毎日行きたいところ。友達とあそんだり、山や川、虫を取りに行ったり、たのしいところ。
- 中学生になってもあそびたい
- えいがをみたい



- りょこうにいきたいこと。
- トランポリンが楽しいな
- ・同じ小学校の友達だから一緒にかえられる 拠点に入ったから、べんきょうがわかるようになった ・子ども第三の居場所に入ってから、うどうしんけんがよくなった ・みんなが、外あそび好きだから、外へに行ったらとってもたのしくなる ・みんながとってもやさしいから、子ども第三の居場所がとっても大好き ・遊び場にいけなくても、みんながいるからいけなくてもいい
- りょこうにいきたい！
- ・小学校の友達だから一緒にかえれてかわいもはずんでたのしい ・毎回色んな計画を考えて

くれる ・色々な体験をさせてくれる ・です。ます。を使わなくていいから気軽にしゃべれる ・拠点の皆のために精一杯考えてくれる ・優しく注意してくれる ・教え方がめちゃくちゃ分かりやすい ・お願い 中学生になるけど「来年も拠点に来たい」理由 毎日、たのしくて、相だんにものってくれてきまつテストもスタッフに教えてもらいたいから。

- これからもよろしくおねがいします。
 - 友だちと仲良くしていること。
 - 全部
 - りょこうにいきたいりょこうにいきたい
 - もっとしたいなと思うこと:スラムダンクをよみたい
 - おやつがマクドがいい
-
- 子ども第三の居場所はいっぱいスポーツができるから学校の体いくのれんしゅうになるからいい。



- 良いところ ・友人とあそべる ・いろいろなことができる ・そう談できる やってみたいこと ・おかし作り ・工作 ・あそび
 - しっかりとクラスの話を書いてくれてうれしいに好きです。いつもやさしくていいです。
 - 子供たちが安心して楽しく住ごせるよう特化されていると思う。ただ、大人数がキラいだったり小さい子が苦手な人には少し苦しくなる場面があるかも…。でもとても落ち着いて住ごせる所だと思います。
 - 『良いな、好きだなと思うこと』・友達と楽しく遊んだり、おしゃべりしたり相談などができる。 ・色々な事が体験できたり、まなべたりできる。 ・体を動かすことができる。 ・なんでも積極的になる 『もっとしたいなと思うこと』・工作など物を作ってみたい ・友達と楽しめる事がしたい
-
- 「特になし」 回答数 12 件

(※)個人名、拠点名が特定できる情報は削除・一般化した。絵については紙面の都合上、一部抜粋とした。

4 保護者調査の概要・結果

4-1 保護者調査の概要

図表 4-1 保護者調査概要

調査対象	開所1年以上経過している拠点で子どもを半年以上通わせている保護者																																													
調査期間	2021年12月10日(金)発送～2022年2月7日(月)到着分までを集計																																													
調査項目	<p>保護者には全11問の質問を設定し、保護者の生活習慣や余力の変化や、保護者のかつての行政サービス等について調査した。11問のうち2問は子どもに関する客観的な情報を確認する設問のため、正確に把握する観点から保護者を回答者とした。</p> <p>なお、得点化については、「増えた」等の肯定的な変化を1点、「減った」等の否定的な変化を-1点、「かわらない」を0点として合計している。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">設問番号</th> <th colspan="2">調査項目</th> </tr> <tr> <th>保護者に関する内容</th> <th>子どもに関する内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者問1</td> <td>年齢</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保護者問2</td> <td>性別・親子関係</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保護者問3</td> <td>勤務状況</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保護者問4 A～D</td> <td>保護者の生活習慣</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保護者問4 E～G</td> <td>保護者の余力</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保護者問4 H～K</td> <td>保護者のつながり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保護者問5</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">保護者と子どもとのかわり (子どもとの体験 A,B,C,I,J,K 子どもとの対話 D～H)</td> </tr> <tr> <td>保護者問6</td> <td>子ども第三の居場所サービスへの意識</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保護者問7</td> <td></td> <td>年齢</td> </tr> <tr> <td>保護者問8</td> <td></td> <td>性別</td> </tr> <tr> <td>保護者問9</td> <td>子どもの同居関係</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保護者問10</td> <td>過去の行政サービス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保護者問11</td> <td>自由記述</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		設問番号	調査項目		保護者に関する内容	子どもに関する内容	保護者問1	年齢		保護者問2	性別・親子関係		保護者問3	勤務状況		保護者問4 A～D	保護者の生活習慣		保護者問4 E～G	保護者の余力		保護者問4 H～K	保護者のつながり		保護者問5	保護者と子どもとのかわり (子どもとの体験 A,B,C,I,J,K 子どもとの対話 D～H)		保護者問6	子ども第三の居場所サービスへの意識		保護者問7		年齢	保護者問8		性別	保護者問9	子どもの同居関係		保護者問10	過去の行政サービス		保護者問11	自由記述	
設問番号	調査項目																																													
	保護者に関する内容	子どもに関する内容																																												
保護者問1	年齢																																													
保護者問2	性別・親子関係																																													
保護者問3	勤務状況																																													
保護者問4 A～D	保護者の生活習慣																																													
保護者問4 E～G	保護者の余力																																													
保護者問4 H～K	保護者のつながり																																													
保護者問5	保護者と子どもとのかわり (子どもとの体験 A,B,C,I,J,K 子どもとの対話 D～H)																																													
保護者問6	子ども第三の居場所サービスへの意識																																													
保護者問7		年齢																																												
保護者問8		性別																																												
保護者問9	子どもの同居関係																																													
保護者問10	過去の行政サービス																																													
保護者問11	自由記述																																													
有効回答数	有効回答数:305件 (拠点数:32拠点)																																													

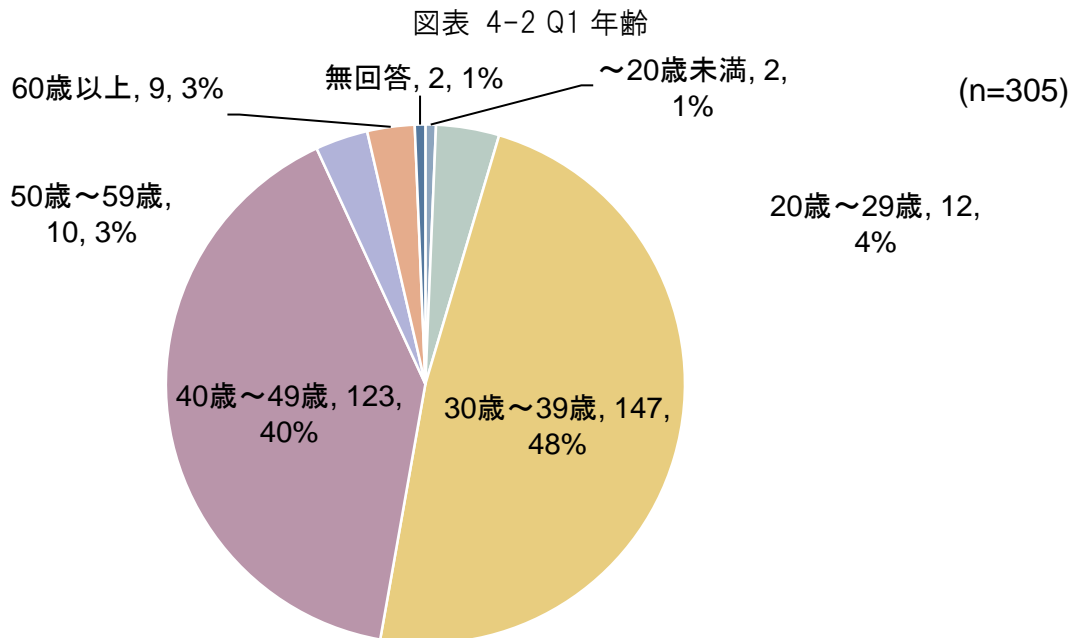
(※)保護者問7,8については子どもの属性に関する情報のため、子ども調査結果にも掲載

4-2 フェイス情報のまとめ（該当部分：4-3～4-5）

今回の調査対象となった保護者の9割は30代・40代で、8割は母親だった。さらに約半数がフルタイム労働に従事していた。

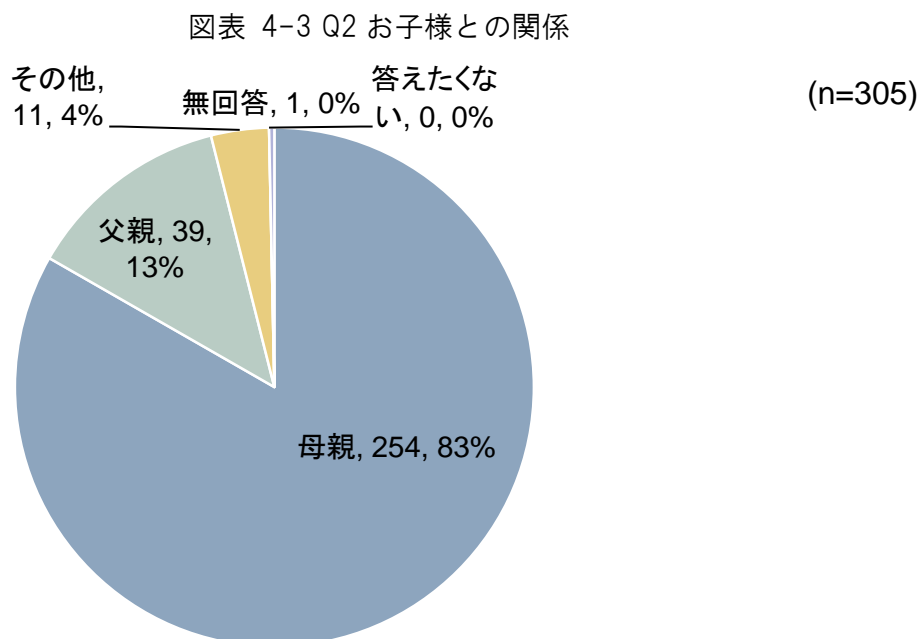
4-3 Q1 年齢

「30歳～39歳」の割合が最も高く48.2%となっている。次いで、「40歳～49歳(40.3%)」、「20歳～29歳(3.9%)」となっている。



4-4 Q2 お子様との関係

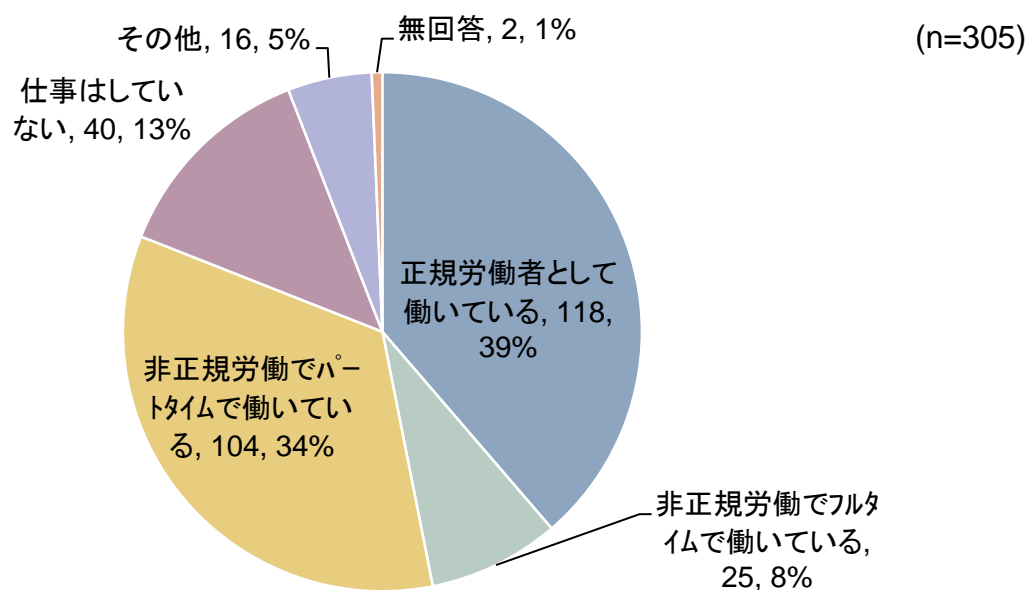
「母親」の割合が最も高く83.3%となっている。次いで、「父親(12.8%)」、「その他(3.6%)」となっている。



4-5 Q3 現在の就労状況

「正規労働者として働いている」の割合が最も高く 38.7%となっている。次いで、「非正規労働でパートタイムで働いている(34.1%)」、「仕事はしていない(13.1%)」となっている。

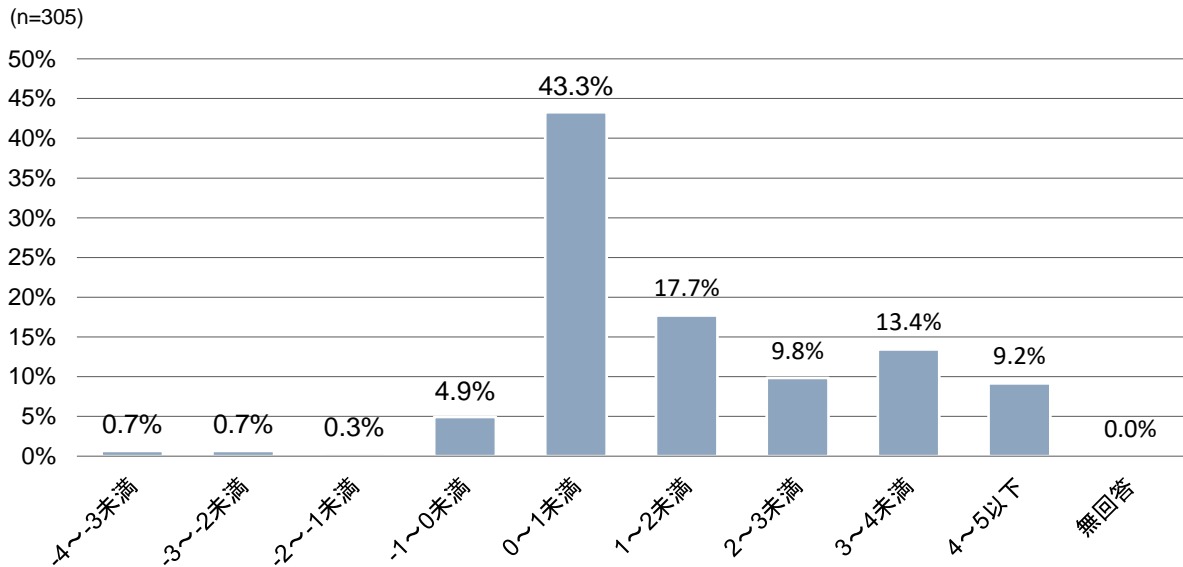
図表 4-4 Q3 現在の就労状況



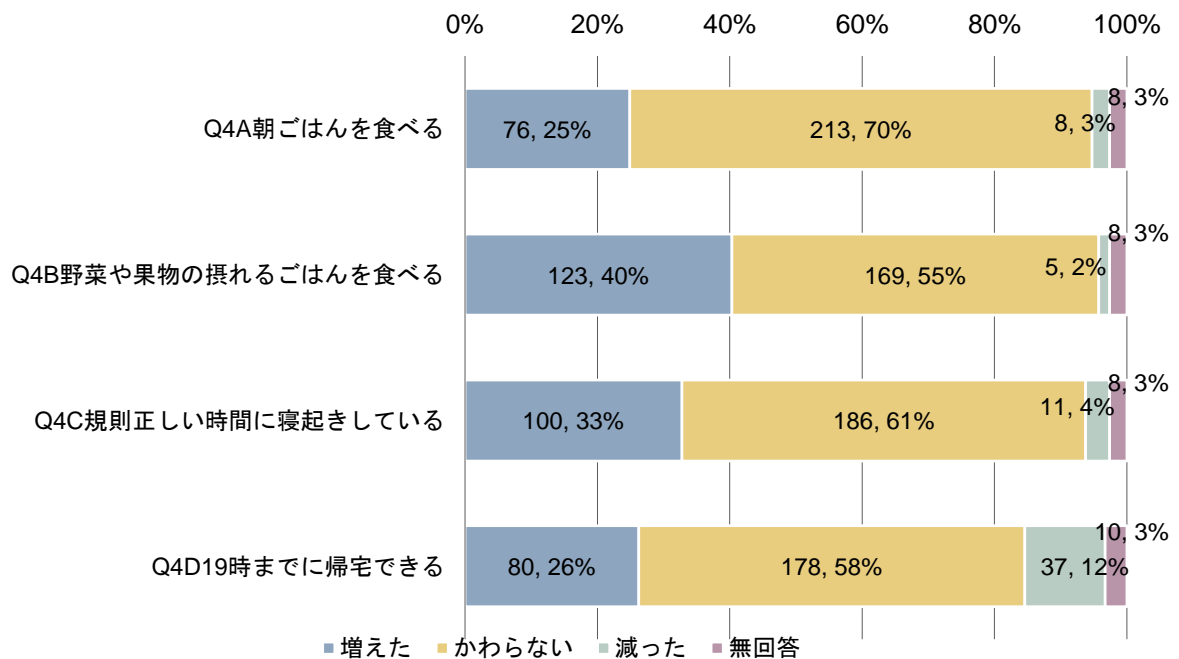
4-6 保護者の生活習慣 (Q4A~D)

保護者の生活習慣は「野菜や果物の摂れるごはんを食べる」について「増えた」とする割合は4割だが、それ以外の項目は「増えた」とする項目は25%~33%となった。1点以上を選択する割合は50.1%で横ばいもしくはやや増加傾向にあると言える。「増えた」を1点、「減った」を-1点、「かわらない」を0点とした場合、平均値1.0となっている。

図表 4-5 Q4A-D 保護者の生活習慣



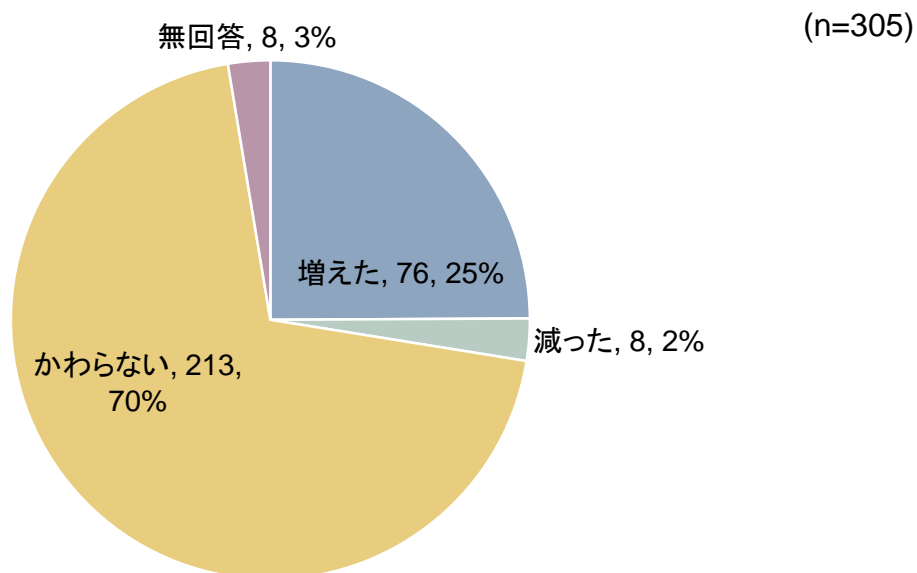
図表 4-6 Q4A-D 保護者の生活習慣まとめ



4-7 Q4A 朝ごはんを食べる

「かわらない」の割合が最も高く69.8%となっている。次いで、「増えた(24.9%)」、「減った(2.6%)」となっている。

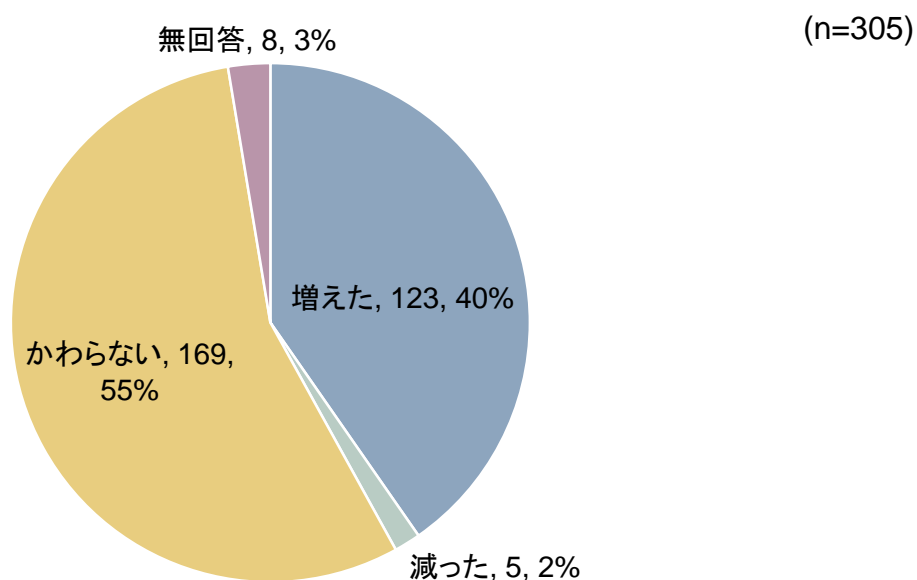
図表 4-7 Q4A 朝ごはんを食べる



4-8 Q4B 野菜や果物の摂れるごはんを食べる

「かわらない」の割合が最も高く55.4%となっている。次いで、「増えた(40.3%)」、「減った(1.6%)」となっている。

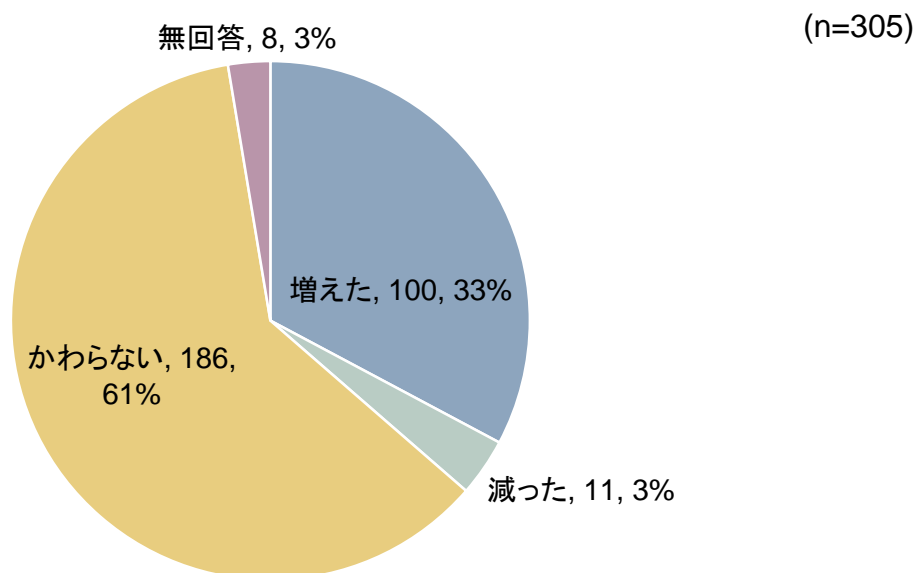
図表 4-8 Q4B 野菜や果物の摂れるごはんを食べる



4-9 Q4C 規則正しい時間に寝起きしている

「かわらない」の割合が最も高く61.0%となっている。次いで、「増えた(32.8%)」、「減った(3.6%)」となっている。

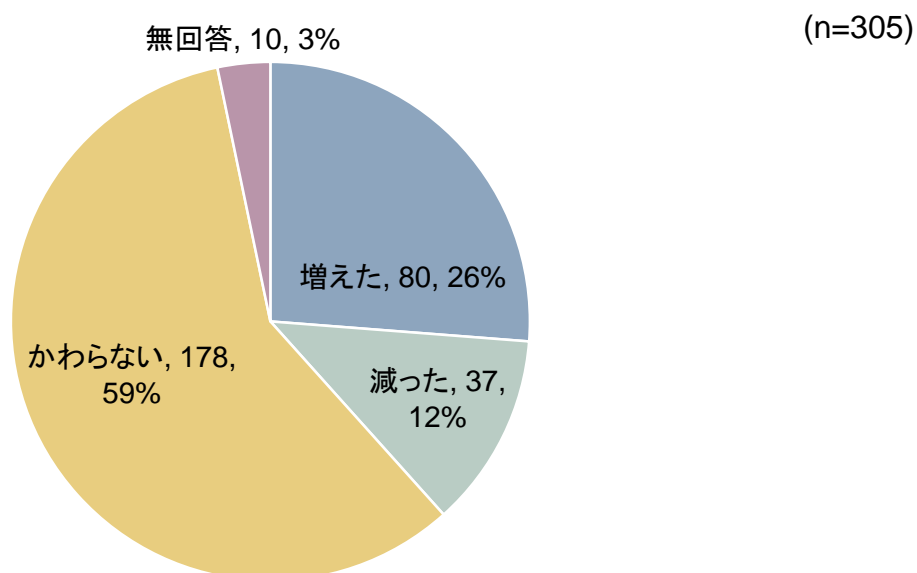
図表 4-9 Q4C 規則正しい時間に寝起きしている



4-10 Q4D19 時までに帰宅できる

「かわらない」の割合が最も高く58.4%となっている。次いで、「増えた(26.2%)」、「減った(12.1%)」となっている。

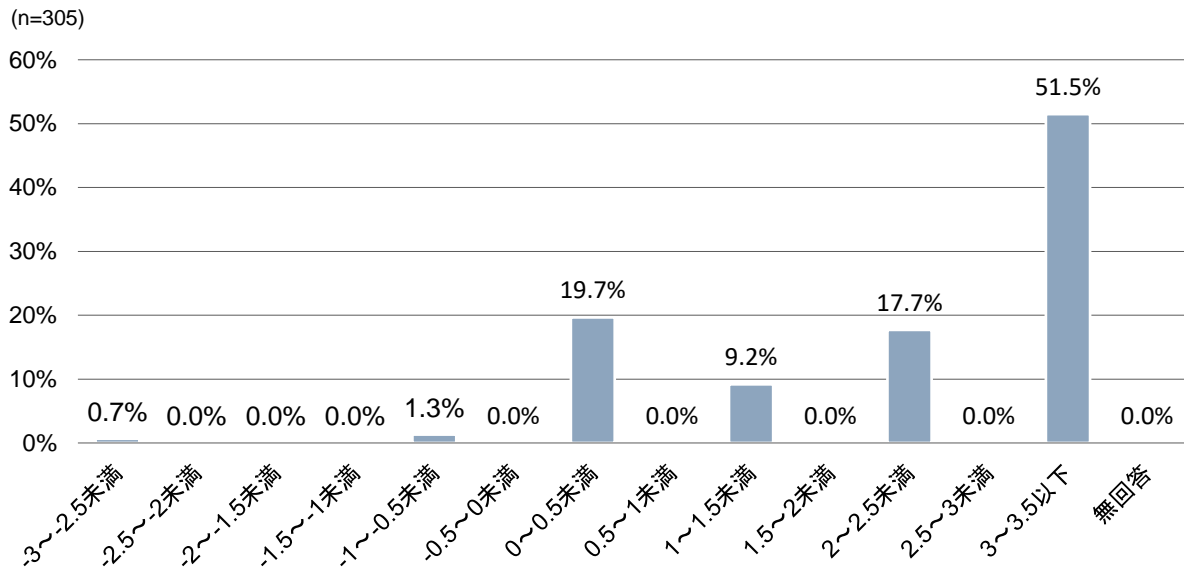
図表 4-10 Q4D19 時までに帰宅できる



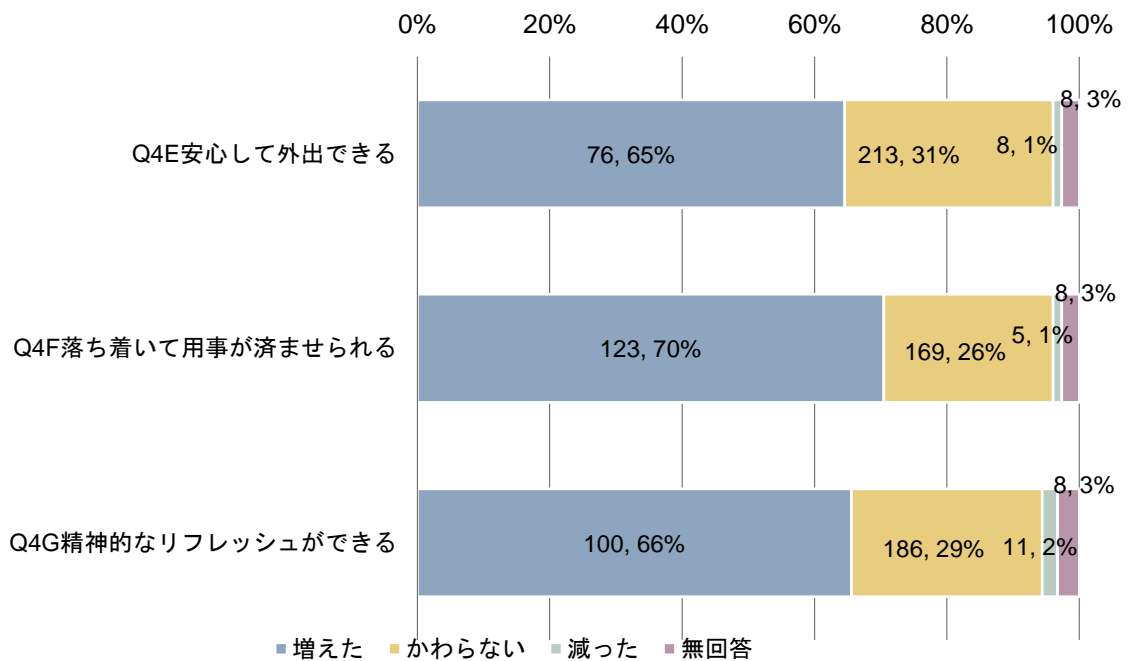
4-11 保護者の余力 (Q4E~G)

保護者の余力については同様に得点化すると平均値 2.0 で、1 点以上が 78%を超えている好転傾向にある。最も高い 5 割以上になったのは 3 点で 3 項目いずれも余力が増したとするのがボリュームゾーンである。保護者の生活習慣は横ばいもしくは若干の増加傾向であったのに対し、**保護者の余力は大いに改善している**と言える。特に「落ち着いて用事が済ませられる」については「増えた」とする割合が 7 割となっている。

図表 4-11 Q4E-G 保護者の余力



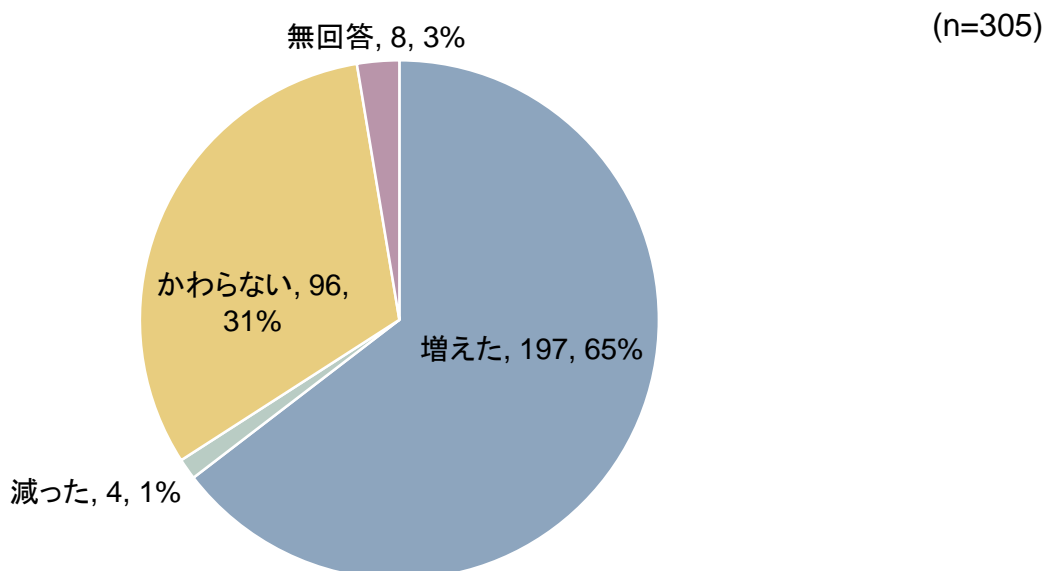
図表 4-12 Q4E-G 保護者の余力まとめ



4-12 Q4E 安心して外出できる

「増えた」の割合が最も高く64.6%となっている。次いで、「かわらない(31.5%)」、「減った(1.3%)」となっている。

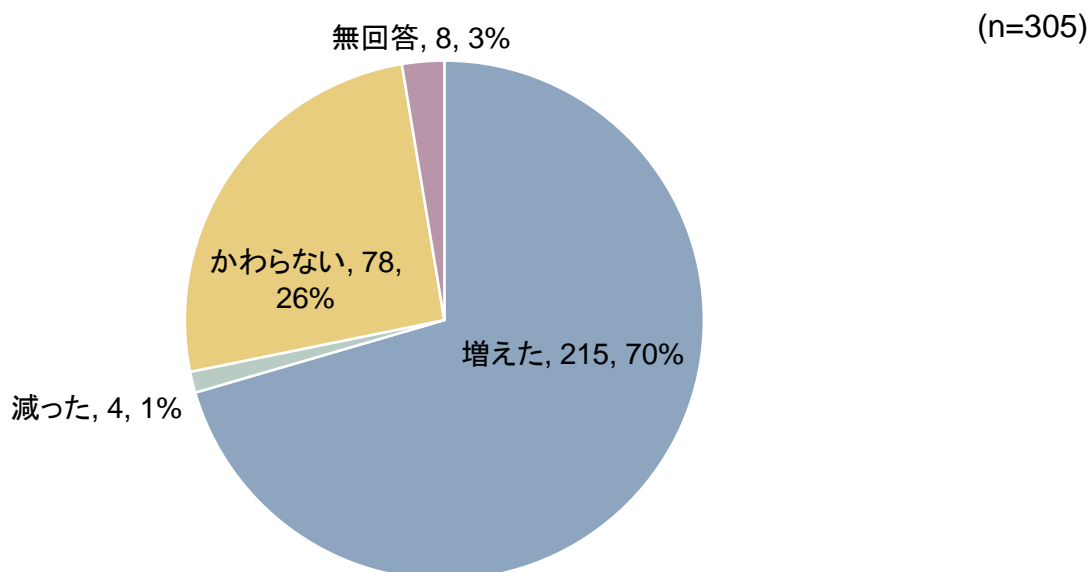
図表 4-13 Q4E 安心して外出できる



4-13 Q4F 落ち着いて用事が済ませられる

「増えた」の割合が最も高く70.5%となっている。次いで、「かわらない(25.6%)」、「減った(1.3%)」となっている。

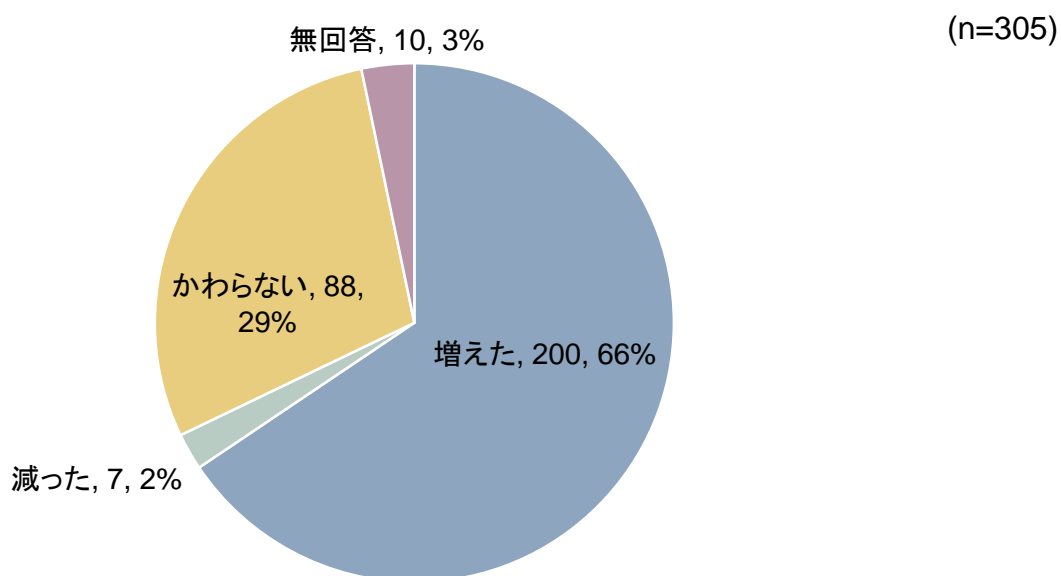
図表 4-14 Q4F 落ち着いて用事が済ませられる



4-14 Q4G 精神的なリフレッシュができる

「増えた」の割合が最も高く65.6%となっている。次いで、「かわらない(28.9%)」、「減った(2.3%)」となっている。

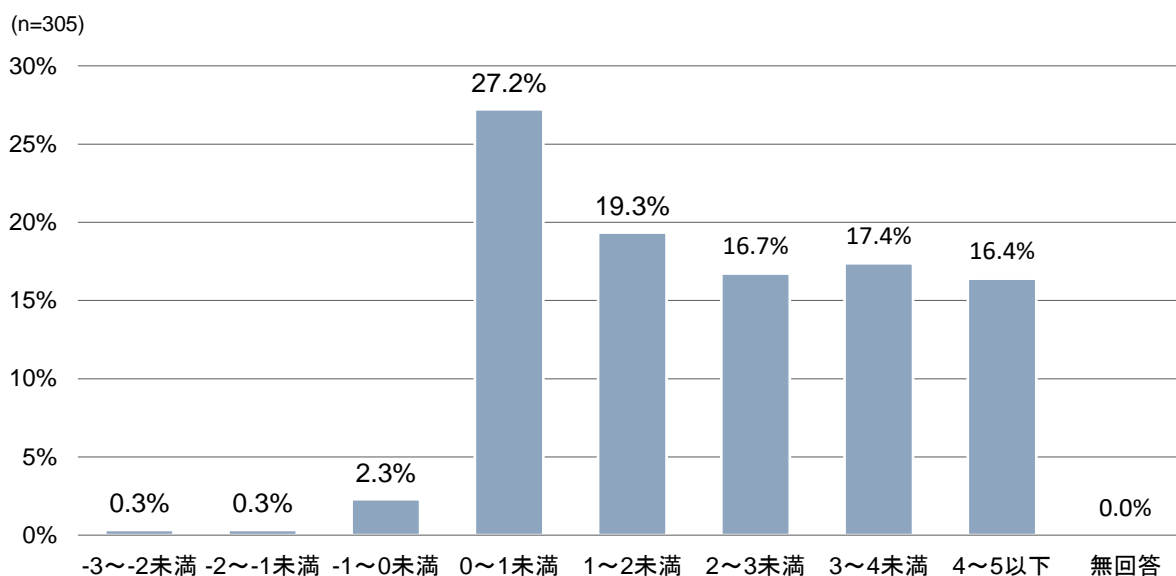
図表 4-15 Q4G 精神的なリフレッシュができる



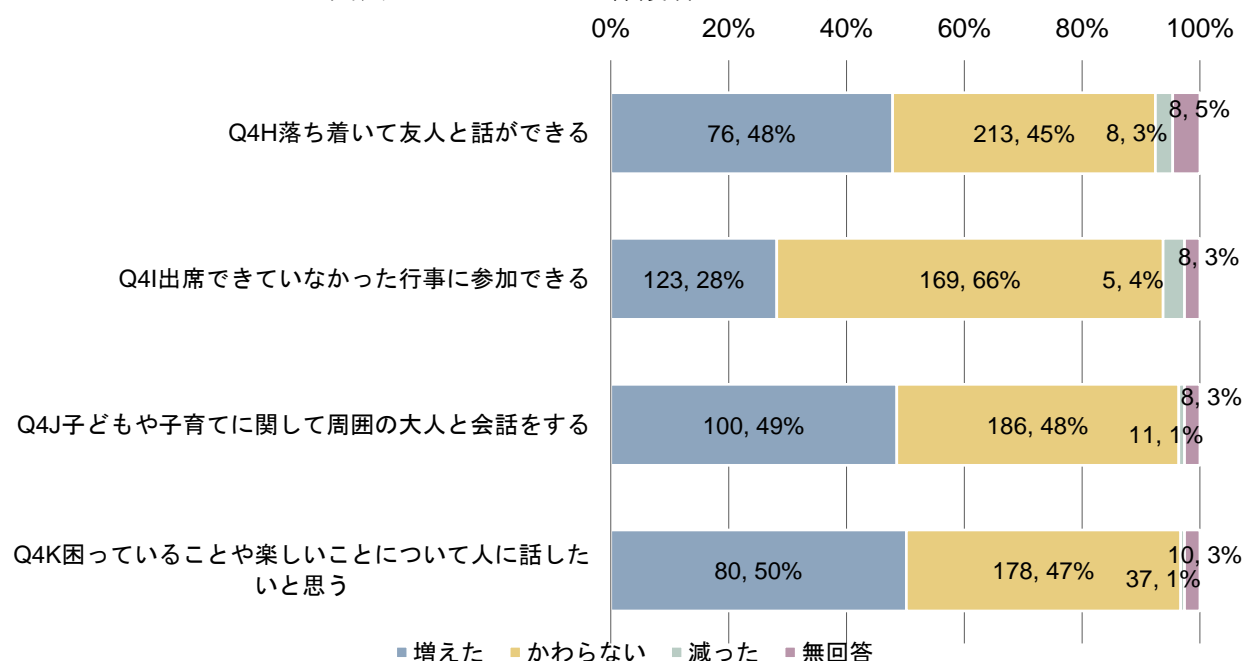
4-15 保護者のつながり (Q4H~K)

保護者のつながりについて、同様に得点化すると平均値 1.7 で最も高い割合を占めるのは 0 点の層である。1 点以上の割合は約 7 割で生活習慣よりも好転しているが、余力ほどの好転はしていないと言える。行事参加が増える傾向は他項目に比べると低く、コミュニケーションの機会に関する 3 項目はいずれも「増えた」の割合が約 5 割となっている。

図表 4-16 Q4H-K 保護者のつながり



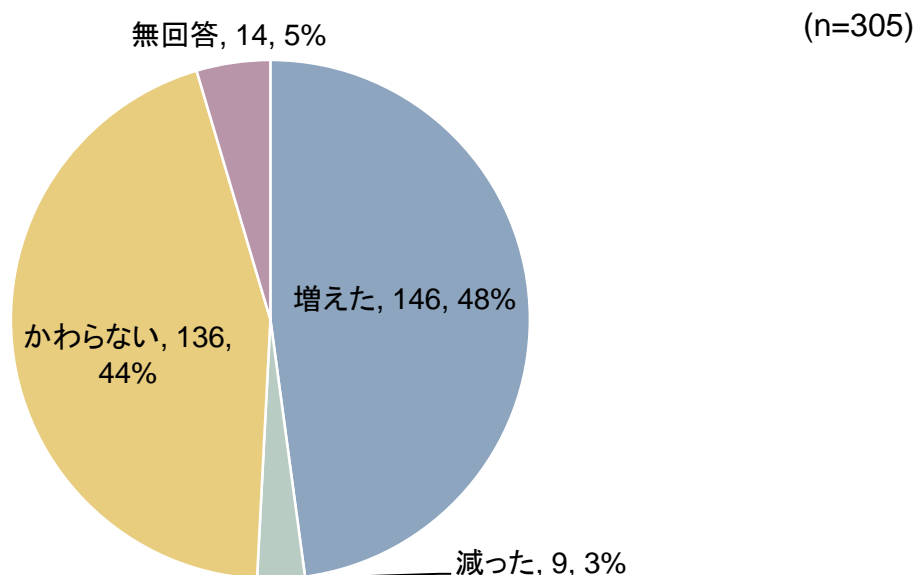
図表 4-17 Q4H-K 保護者のつながりまとめ



4-16 Q4H 落ち着いて友人と話ができる

「増えた」の割合が最も高く47.9%となっている。次いで、「かわらない(44.6%)」、「減った(3.0%)」となっている。

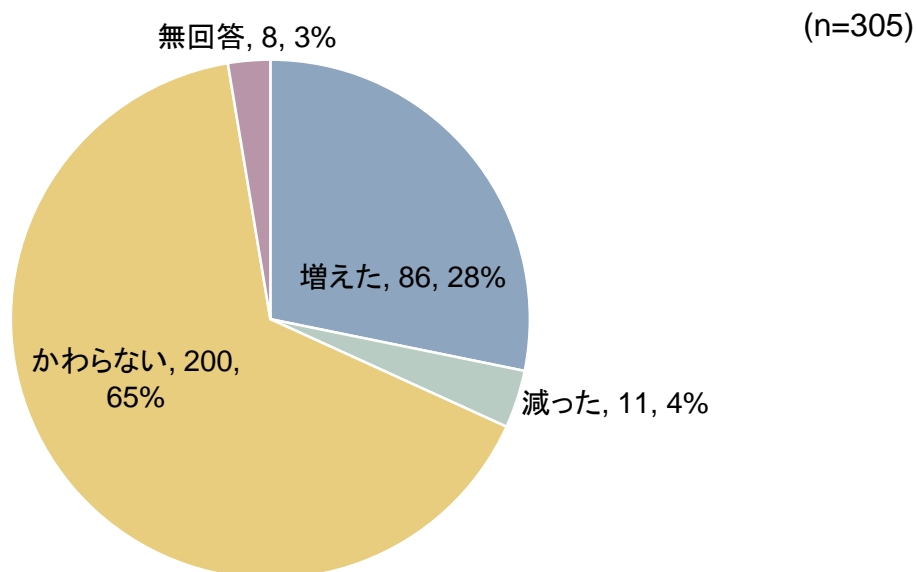
図表 4-18 Q4H 落ち着いて友人と話ができる



4-17 Q4I 出席できていなかった行事に参加できる

「かわらない」の割合が最も高く65.6%となっている。次いで、「増えた(28.2%)」、「減った(3.6%)」となっている。

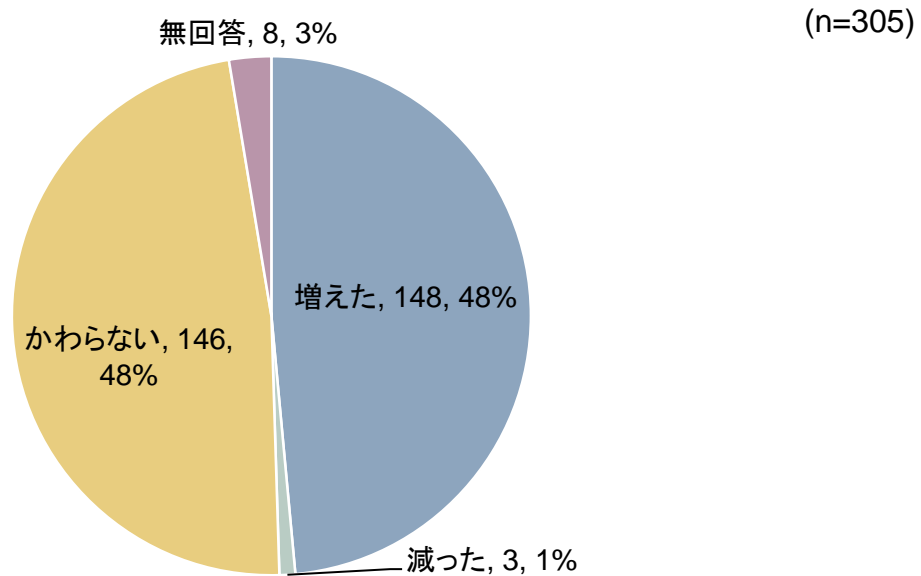
図表 4-19 Q4I 出席できていなかった行事に参加できる



4-18 Q4J 子どもや子育てに関して周囲の大人と会話をする

「増えた」の割合が最も高く48.5%となっている。次いで、「かわらない(47.9%)」、「減った(1.0%)」となっており、子育てに関する直接的な影響を与えられとされる。

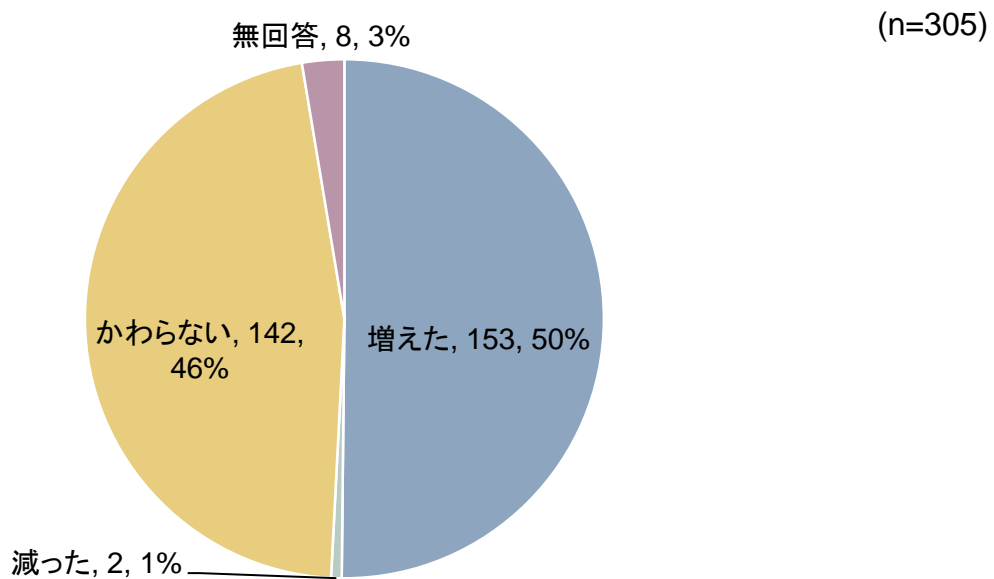
図表 4-20 Q4J 子どもや子育てに関して周囲の大人と会話をする



4-19 Q4K 困っていることや楽しいことについて人に話したいと思う

「増えた」の割合が最も高く50.2%となっている。次いで、「かわらない(46.6%)」、「減った(0.7%)」となっている。

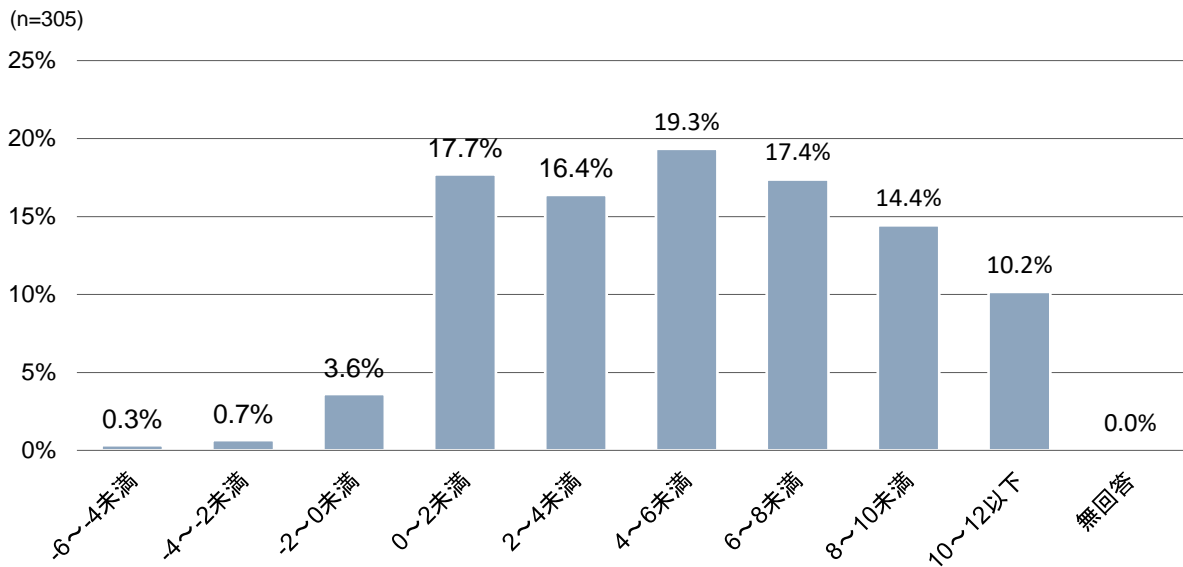
図表 4-21 Q4K 困っていることや楽しいことについて人に話したいと思う



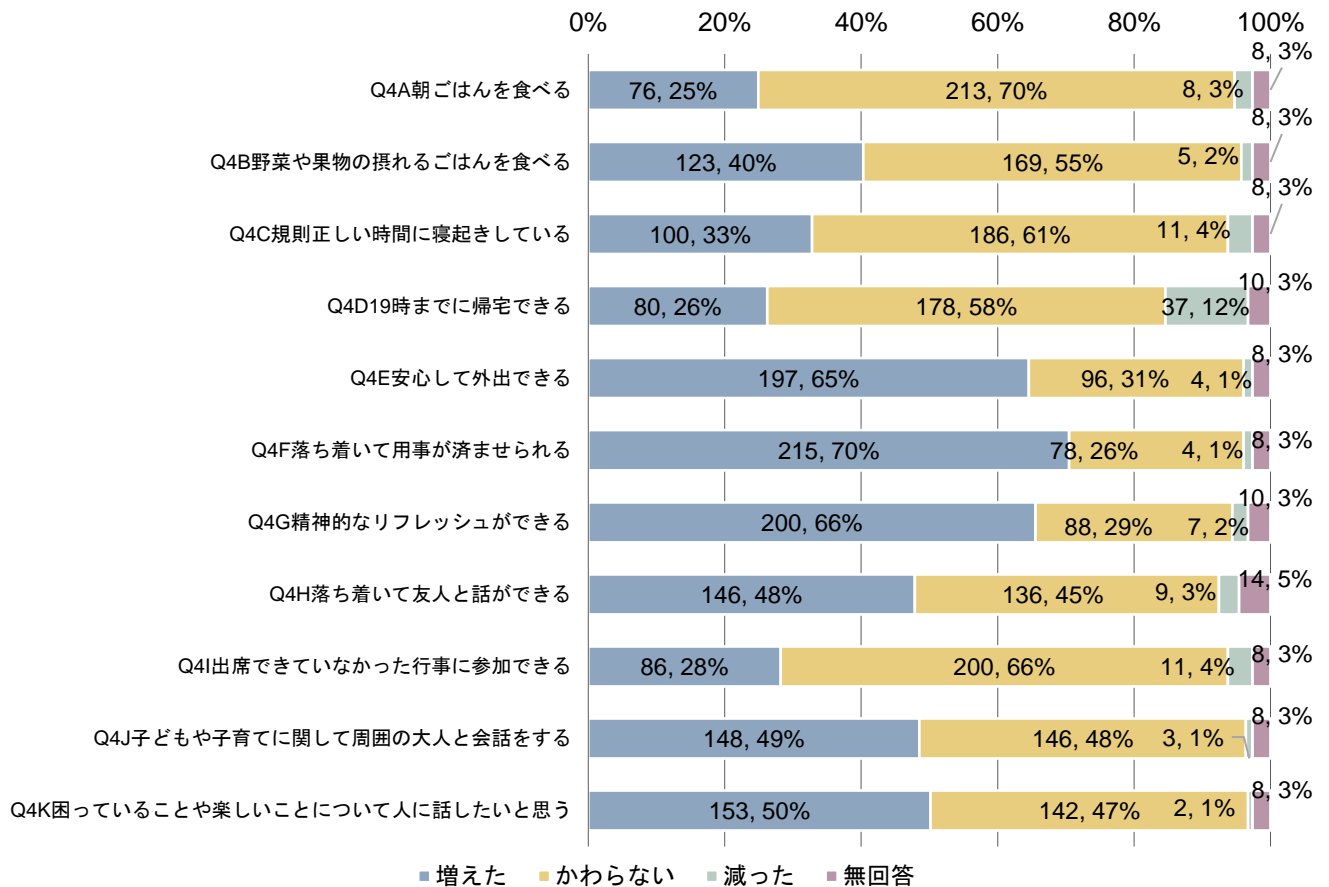
4-20 問4すべて（保護者の生活習慣・余力・つながり）

保護者の活動(保護者の生活習慣・余力・つながり)について、同様に得点化すると平均値 4.7 となり、全体を通じると増加傾向にあると言える。

図表 4-22 Q4ALL 保護者の生活習慣・余力・つながり



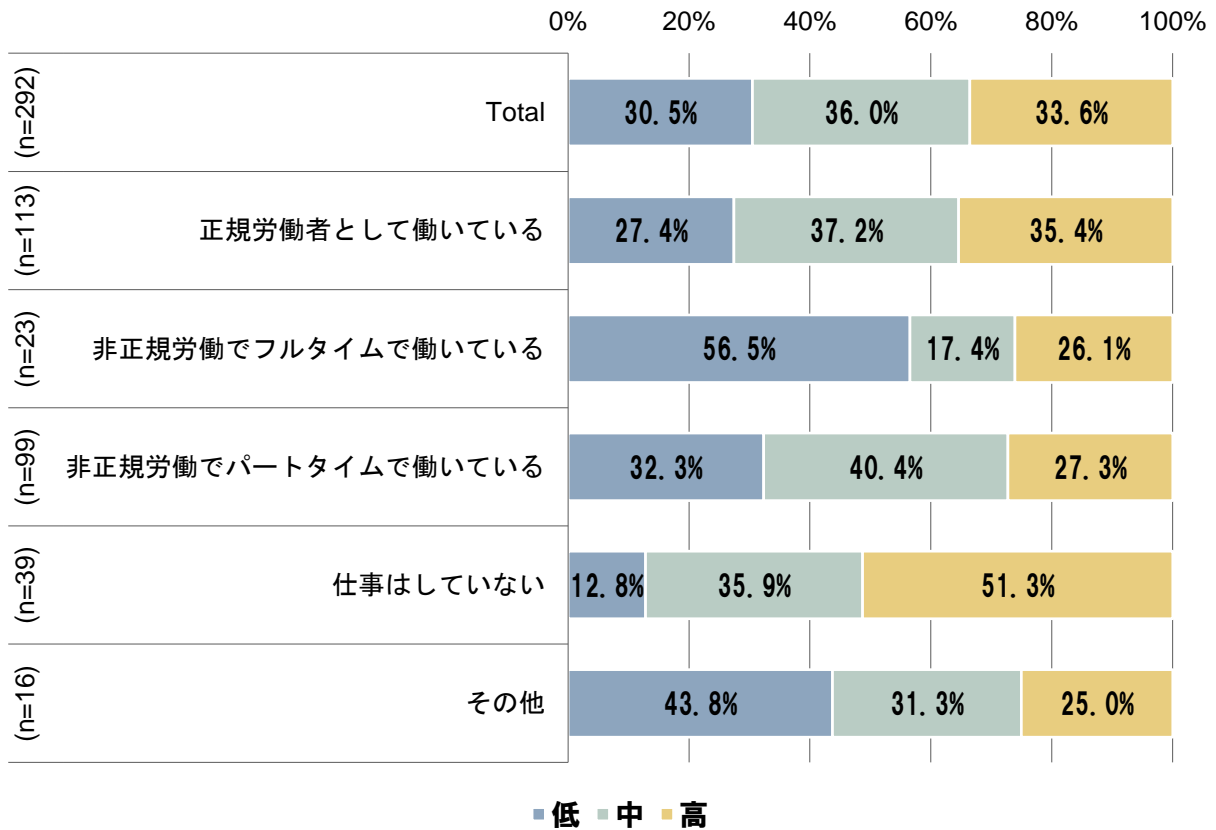
図表 4-23 Q4ALL 保護者の生活習慣・余力・つながり まとめ



4-21 Q3 現在の就労状況別に見た Q4H-K（統合）保護者のつながり（層分類）（統合）

さらに、保護者の活動(保護者の生活習慣・余力・つながり)について、<0 点以下を低><1~5 点を中><6~11 点を高>として分類をしたうえで、Q3 の保護者の現在の就労状況とクロスをした。その結果、仕事をしていない保護者への効果は平均に比べ高く、特に高得点層が 5 割を超えているが、非正規労働でフルタイムで働いている保護者への効果は平均に比べ低くなっている。検定をかけると $p<0.05$ で有意となった。

図表 4-24 Q4H-K（統合）保護者のつながり（層分類）（統合）（Q3 現在の就労状況別）

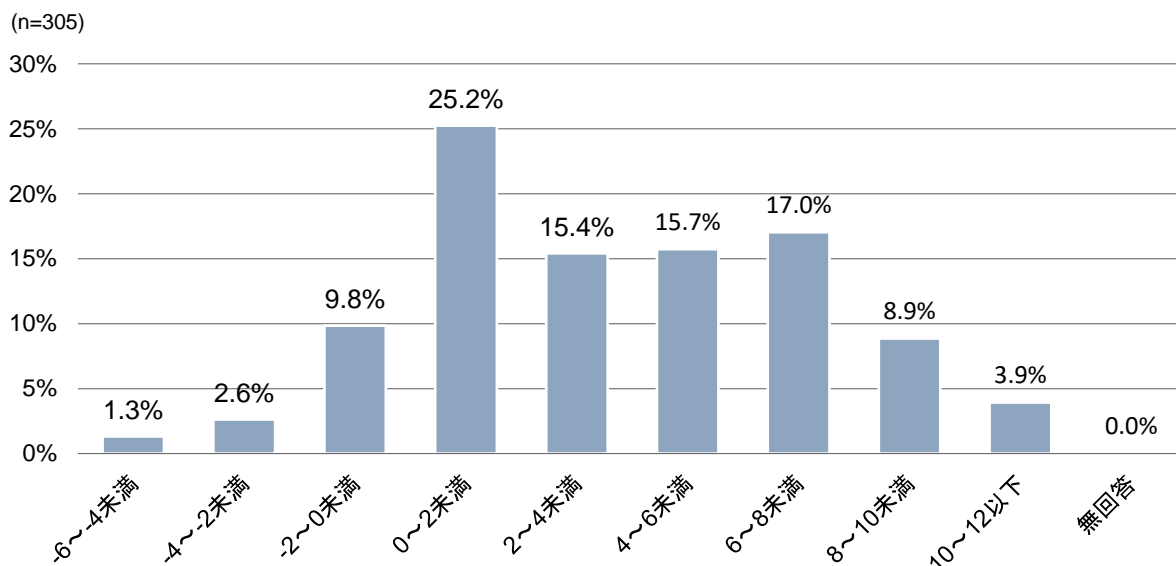


4-22 保護者の子どもとの関り（問5）

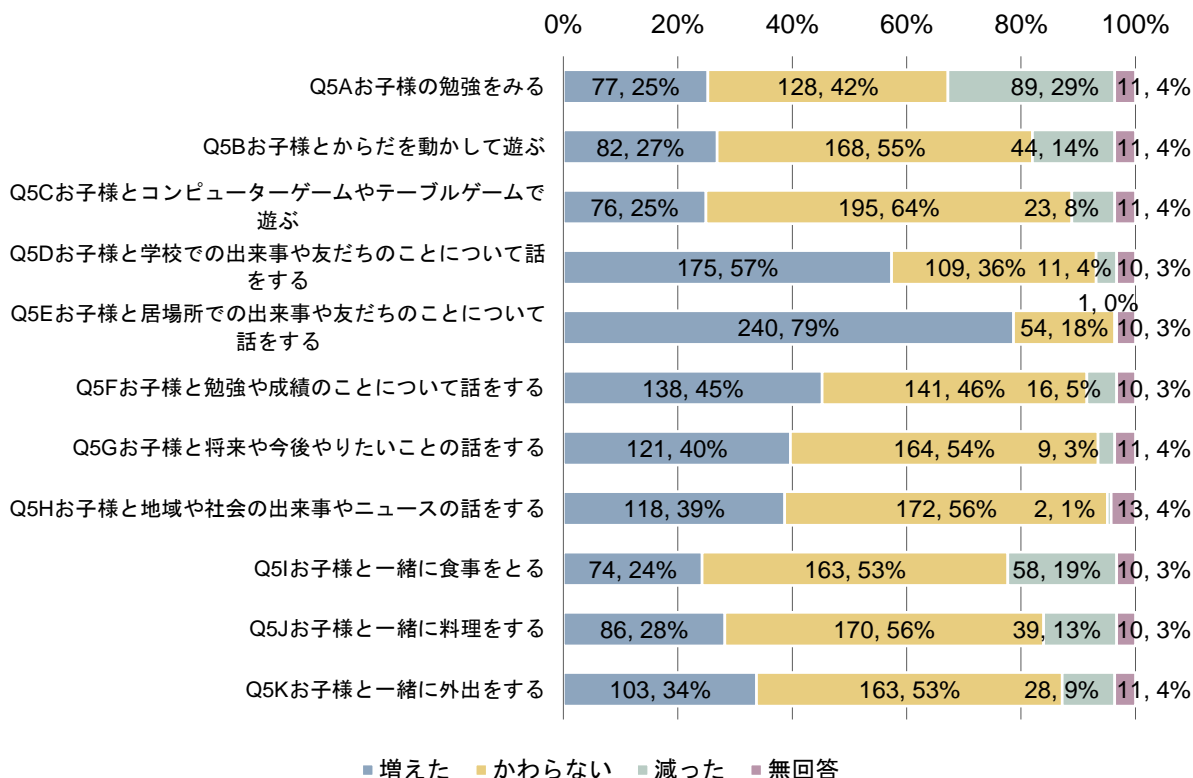
保護者と子どもとの関りについて、同様に得点化すると平均値 3.2 で、1 点以上となったのは 74.1% で関りが増加傾向にあると言える。11 項目の中で最も高く「増えた」と回答する項目は「お子様と子ども第三の居場所での出来事や友だちのことについて話をする」で約 8 割に上る。

また、子どもとのコミュニケーションに関する項目については「増えた」と回答する割合が高く、「お子様と学校での出来事や友だちのことについて話をする」は 57% で、成績や、将来のこと、ニュースなどについても 4 割程度となっている。

図表 4-25 Q5A-K 保護者と子どものかかわり



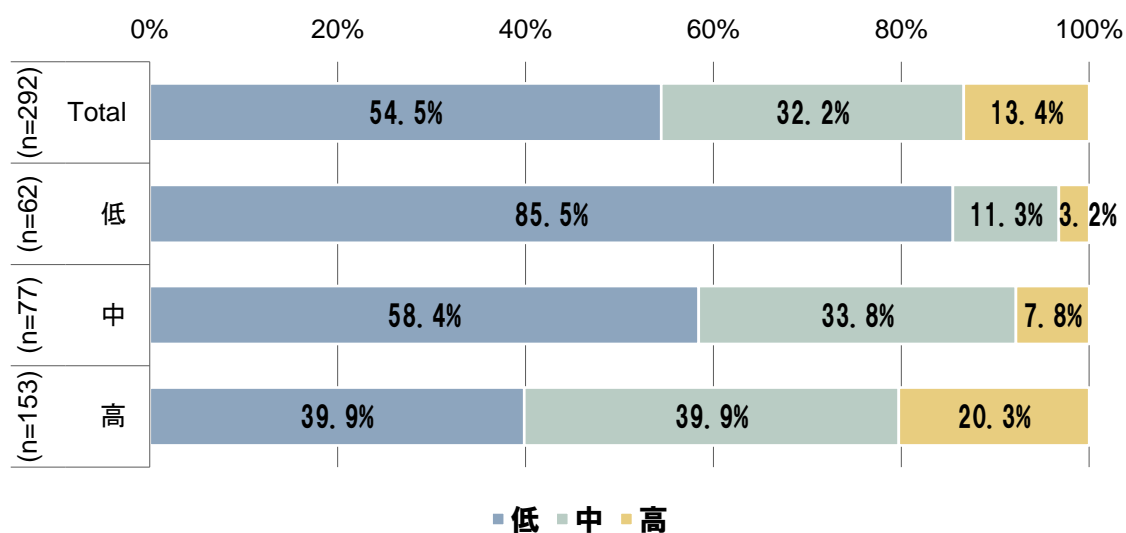
図表 4-26 Q5A-K 保護者と子どものかかわり まとめ



4-23 Q4E-G（統合）保護者の余力（層分類）（統合）別に見た Q5A-K（統合）保護者と子どもとのかかわり（層分類）（統合）

さらに保護者と子どもとの関りを<3点以下を低><4~7点を中><8~11点を高>として分類し、保護者の余力に関する設問(Q4のE~G)を<0点以下を低><1~2点を中><3点を高>として分類して、クロス集計を行った。その結果、保護者の余力が改善している層ほど、保護者の子どもとのかかわりが増している傾向がうかがえた。検定をかけると $p<0.01$ で有意だった。

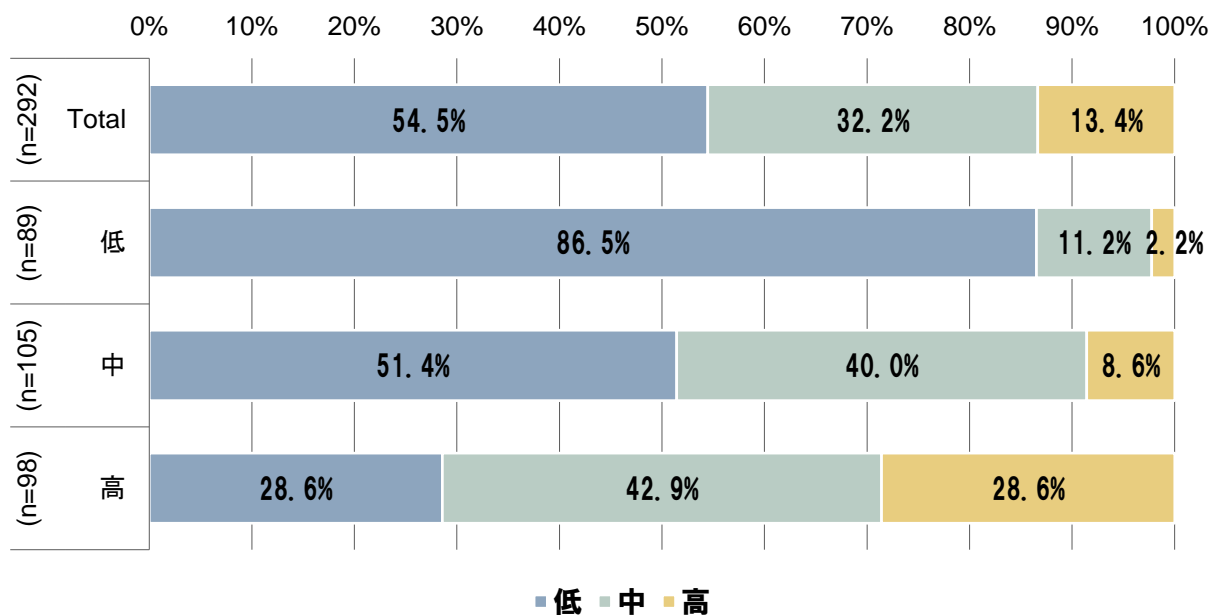
図表 4-27 Q5A-K（統合）保護者と子どもとのかかわり（層分類）（統合）（Q4E-G（統合）保護者の余力（層分類）（統合）別）



4-24 Q4H-K（統合）保護者のつながり（層分類）（統合）別に見た Q5A-K（統合）保護者と子どもとのかかわり（層分類）（統合）

同様に保護者のつながりについても、つながりが改善している保護者ほど、子どもとの関りが増すといえる。保護者とのつながりに関する設問(Q4のH～K)を<0点以下を低><1～2点を中><3～4点を高>として分類して、クロス集計を行った。その結果、保護者のつながりが改善している層ほど、保護者の子どもとのかかわりが増している傾向がうかがえた。検定をかけるとp<0.01で有意だった。

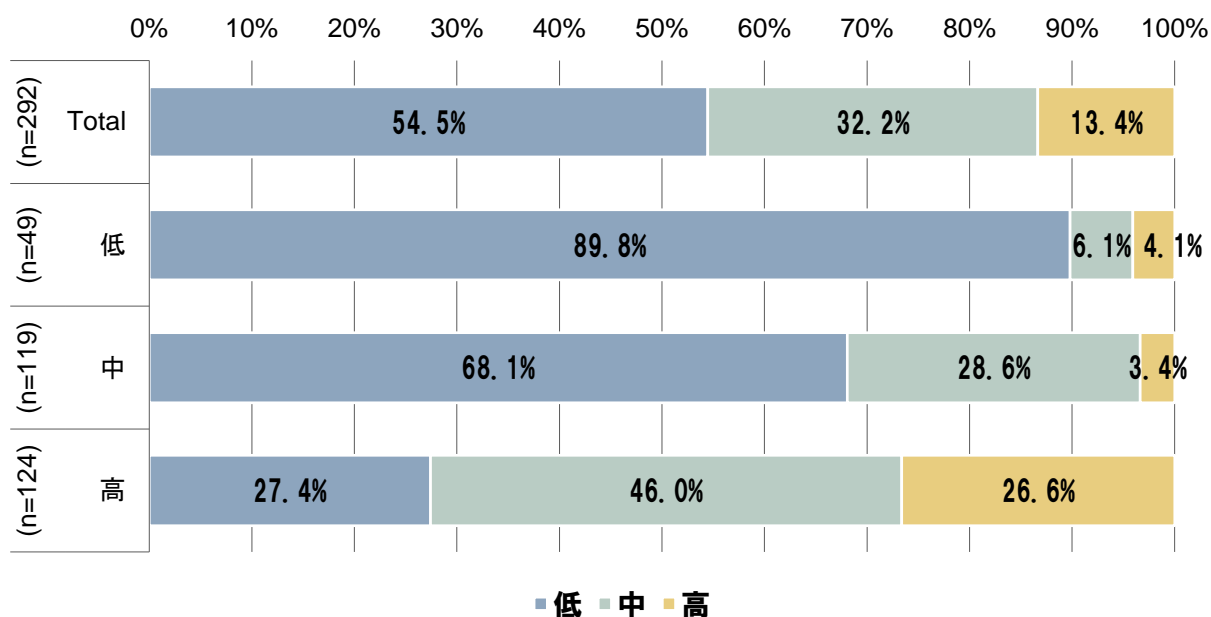
図表 4-28 Q5A-K（統合）保護者と子どもとのかかわり（層分類）（統合）（Q4H-K（統合）保護者のつながり（層分類）（統合）別）



4-25 Q4ALL（統合）保護者の生活習慣・余力・つながり（層分類）（統合）別に見た Q5A-K（統合）保護者と子どもとのかかわり（層分類）（統合）

さらに保護者の活動(生活習慣・余力・つながり)に関する設問(Q4)について、<0点以下を低><1~5点を中><6~11点を高>として分類すると、特に子どもとの関りの低得点層、中得点層では**保護者の活動が改善すると、子どもとの関りが増す傾向にあることが言える**。高得点層については、必ずしもその傾向にあるとは言えないが、検定をかけると $p<0.01$ で有意だった。

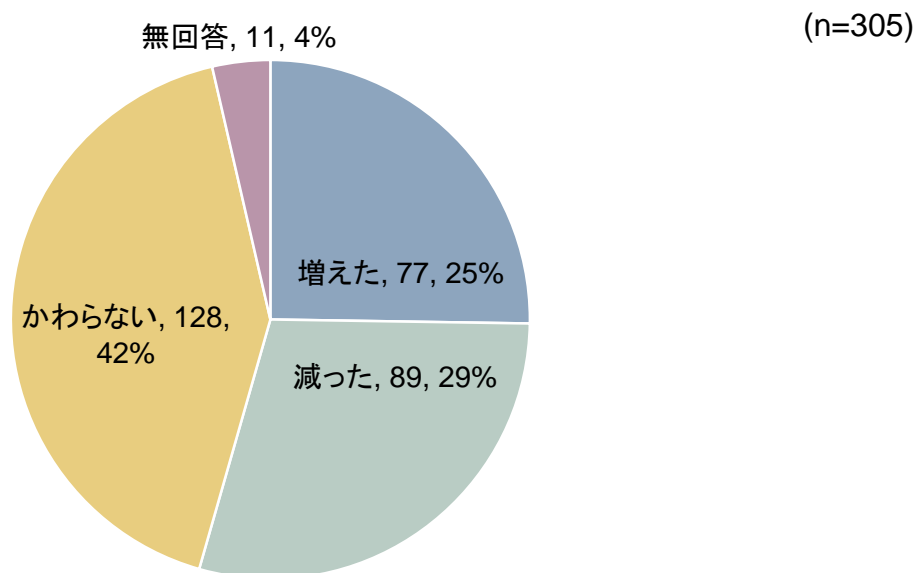
図表 4-29 Q5A-K（統合）保護者と子どもとのかかわり（層分類）（統合）（Q4ALL（統合）保護者の生活習慣・余力・つながり（層分類）（統合）別）



4-26 Q5A お子様の勉強をみる

「かわらない」の割合が最も高く42.0%となっている。次いで、「減った(29.2%)」、「増えた(25.3%)」となっている。

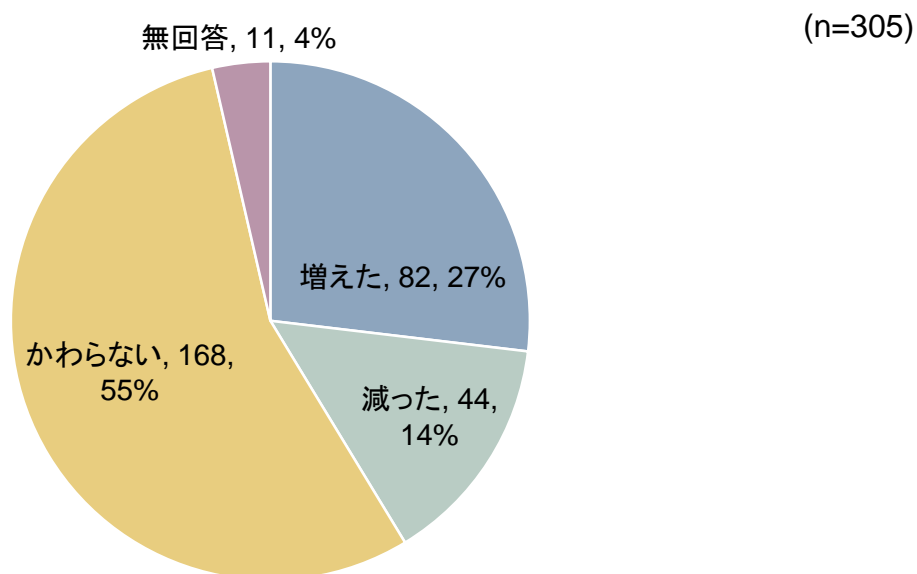
図表 4-30 Q5A お子様の勉強をみる



4-27 Q5B お子様とからだを動かして遊ぶ

「かわらない」の割合が最も高く55.1%となっている。次いで、「増えた(26.9%)」、「減った(14.4%)」となっている。

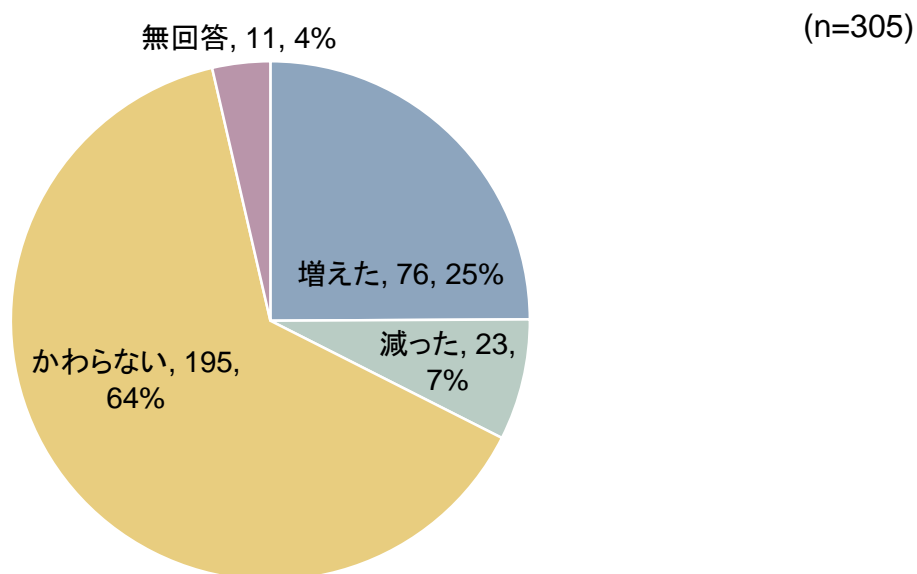
図表 4-31 Q5B お子様とからだを動かして遊ぶ



4-28 Q5C お子様とコンピューターゲームやテーブルゲームで遊ぶ

「かわらない」の割合が最も高く63.9%となっている。次いで、「増えた(24.9%)」、「減った(7.5%)」となっている。

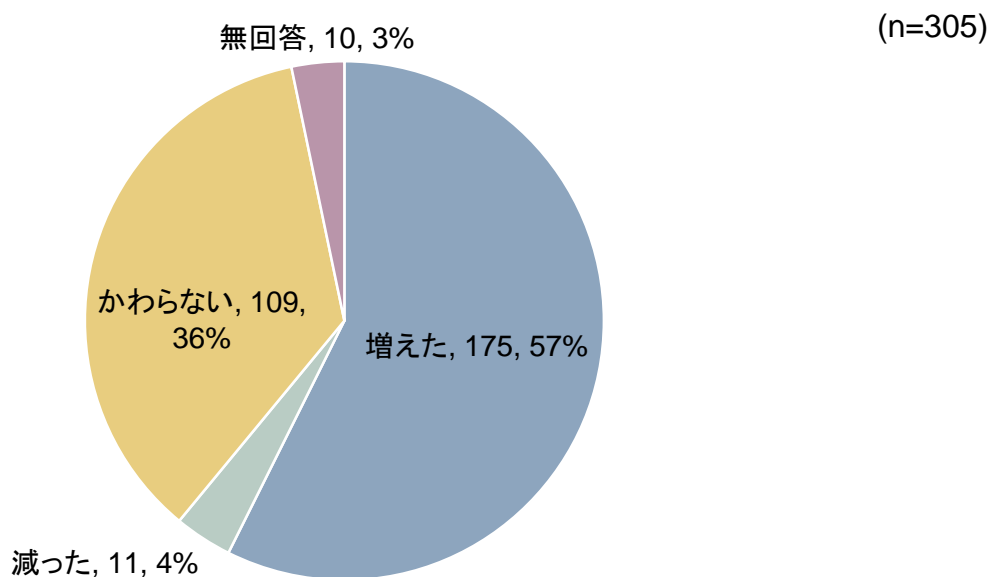
図表 4-32 Q5C お子様とコンピューターゲームやテーブルゲームで遊ぶ



4-29 Q5D お子様と学校での出来事や友だちのことについて話をする

「増えた」の割合が最も高く57.4%となっている。次いで、「かわらない(35.7%)」、「減った(3.6%)」となっている。

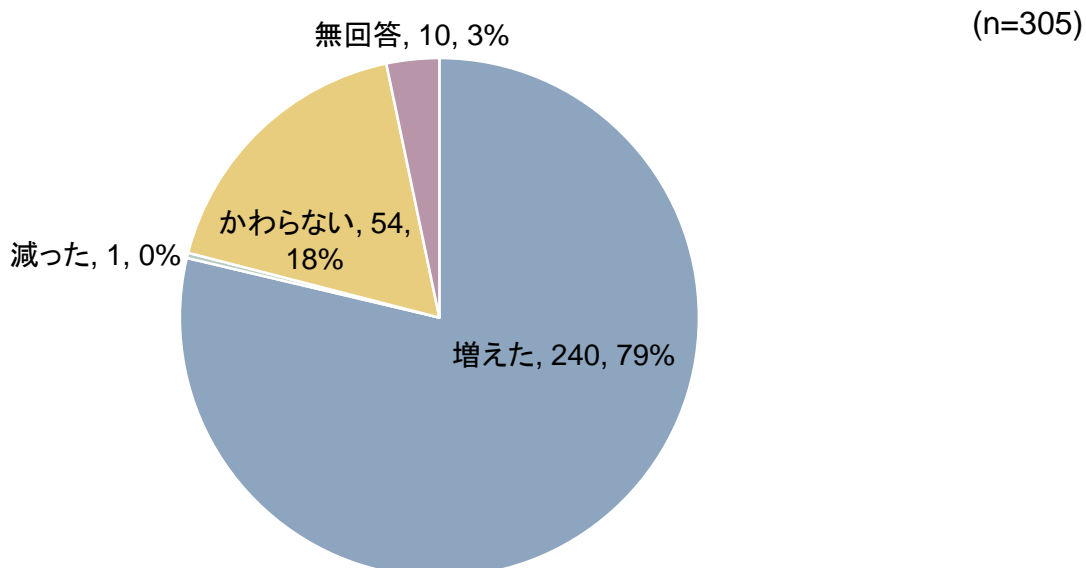
図表 4-33 Q5D お子様と学校での出来事や友だちのことについて話をする



4-30 Q5E お子様と子ども第三の居場所での出来事や友だちのことについて話をする

「増えた」の割合が最も高く78.7%となっている。次いで、「かわらない(17.7%)」、「減った(0.3%)」となっている。

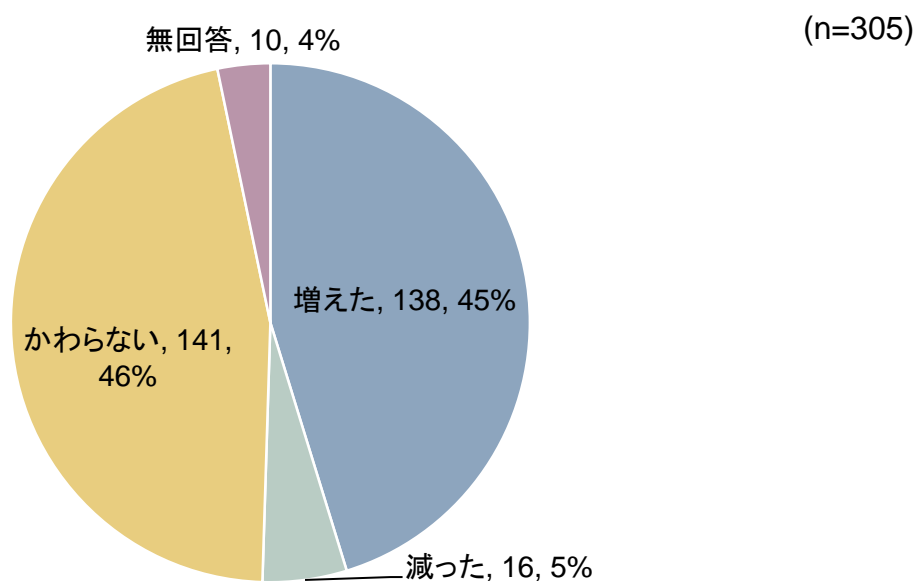
図表 4-34 Q5E お子様と子ども第三の居場所での出来事や友だちのことについて話をする



4-31 Q5F お子様と勉強や成績のことについて話をする

「かわらない」の割合が最も高く46.2%となっている。次いで、「増えた(45.3%)」、「減った(5.3%)」となっている。

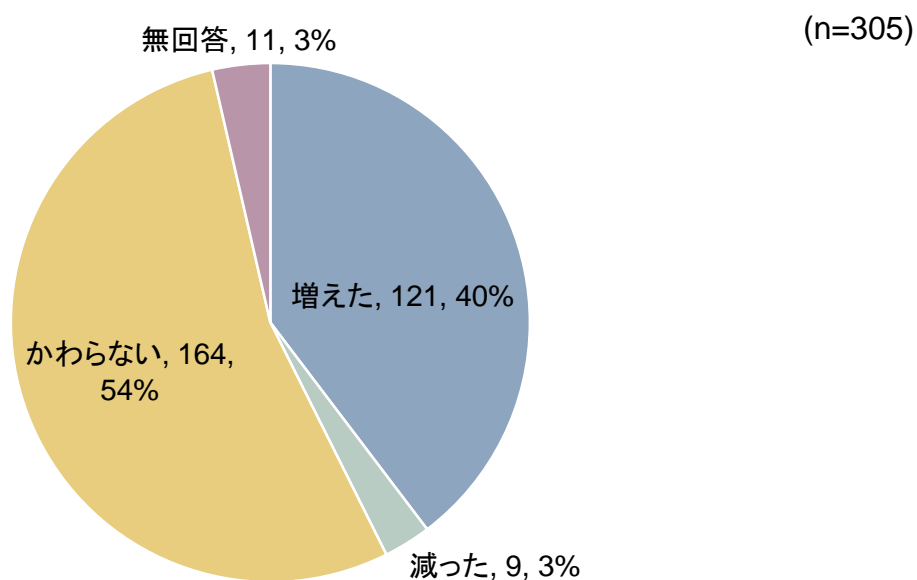
図表 4-35 Q5F お子様と勉強や成績のことについて話をする



4-32 Q5G お子様と将来や今後やりたいことの話をする

「かわらない」の割合が最も高く53.8%となっている。次いで、「増えた(39.7%)」、「減った(3.0%)」となっている。

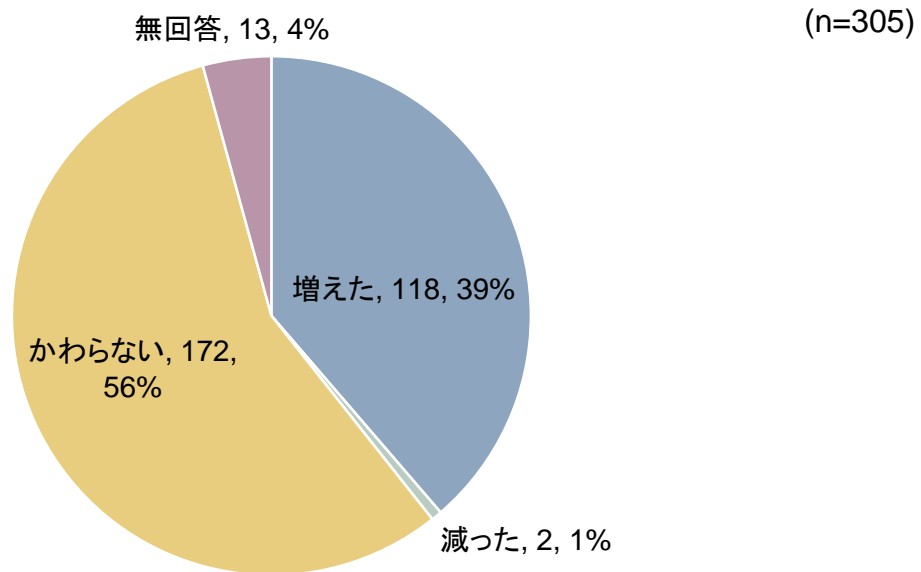
図表 4-36 Q5G お子様と将来や今後やりたいことの話をする



4-33 Q5H お子様と地域や社会の出来事やニュースの話をする

「かわらない」の割合が最も高く 56.4%となっている。次いで、「増えた(38.7%)」、「減った(0.7%)」となっている。

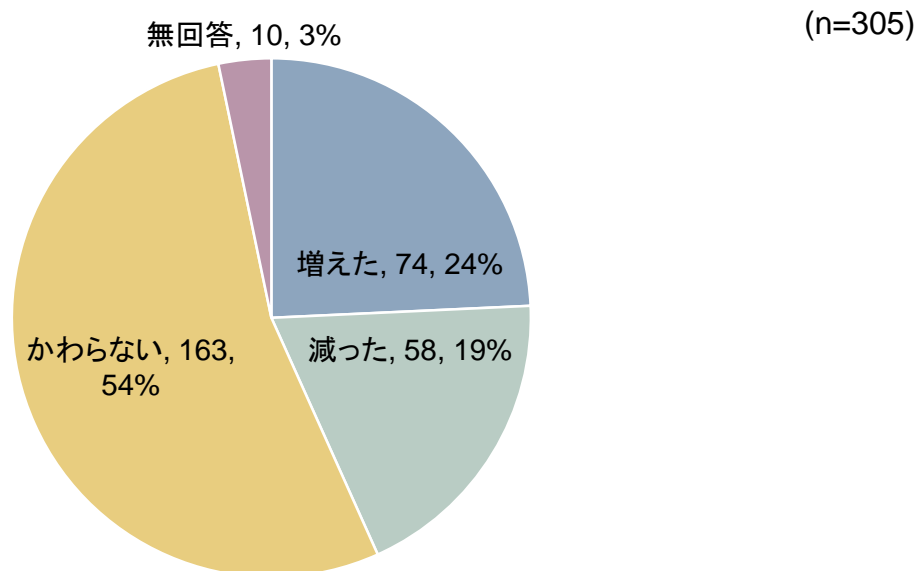
図表 4-37 Q5H お子様と地域や社会の出来事やニュースの話をする



4-34 Q5I お子様と一緒に食事をする

「かわらない」の割合が最も高く 53.4%となっている。次いで、「増えた(24.3%)」、「減った(19.0%)」となっている。

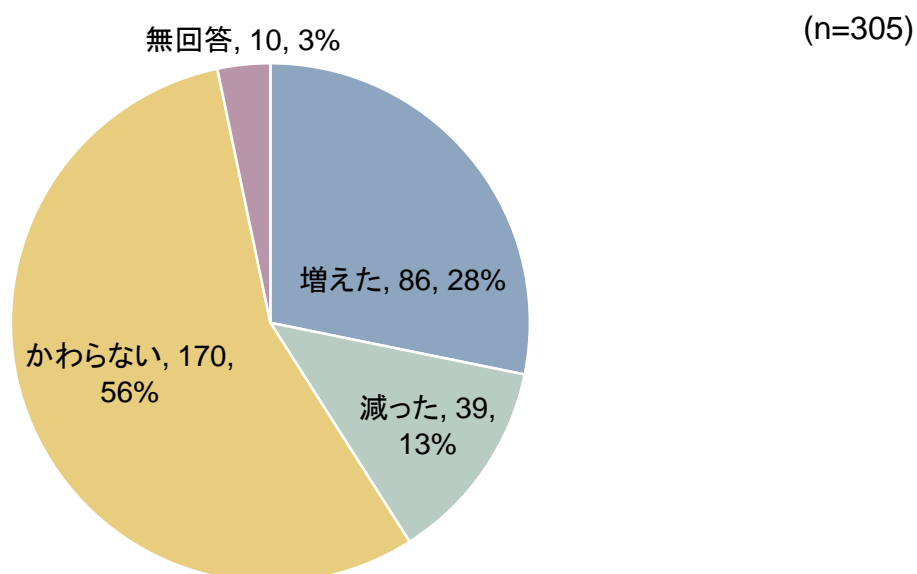
図表 4-38 Q5I お子様と一緒に食事をする



4-35 Q5J お子様と一緒に料理をする

「かわらない」の割合が最も高く 55.7%となっている。次いで、「増えた(28.2%)」、「減った(12.8%)」となっている。

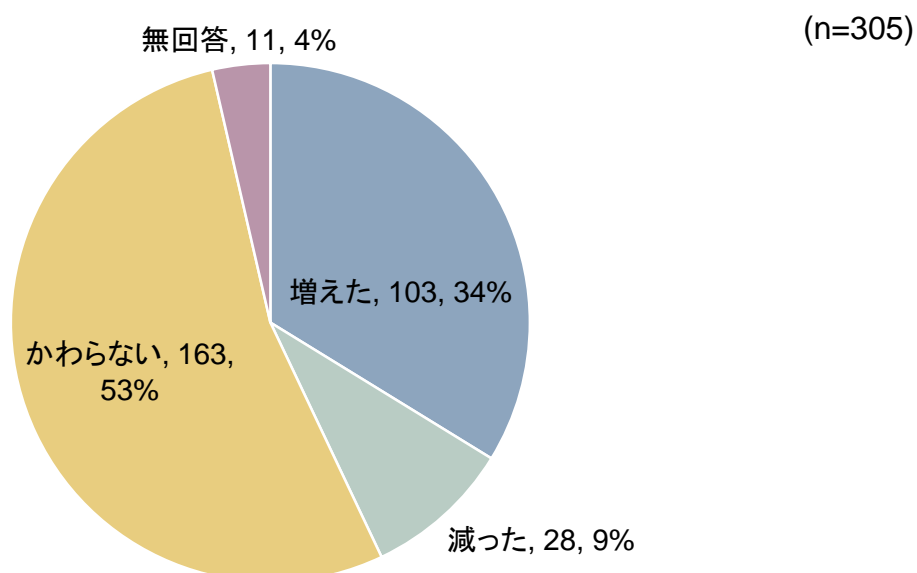
図表 4-39 Q5J お子様と一緒に料理をする



4-36 Q5K お子様と一緒に外出をする

「かわらない」の割合が最も高く 53.4%となっている。次いで、「増えた(33.8%)」、「減った(9.2%)」となっている。

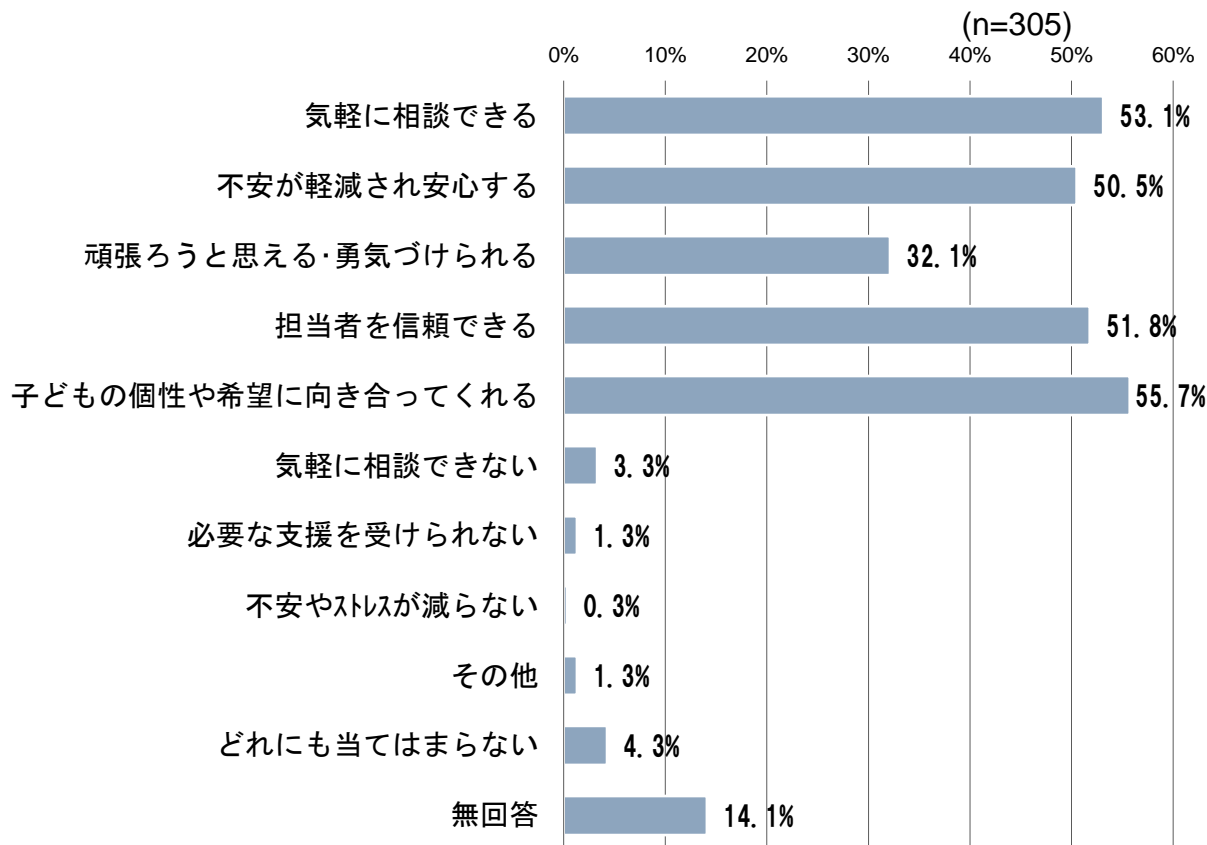
図表 4-40 Q5K お子様と一緒に外出をする



4-37 Q6 子ども第三の居場所事業によるサポートを受ける時に感じる気持ち

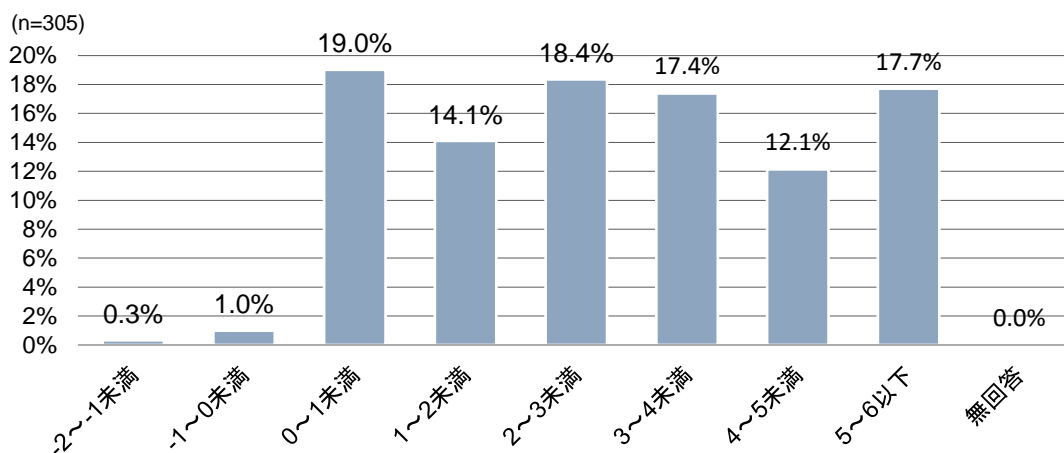
「子どもの個性や希望に向き合ってくれる」の割合が最も高く 55.7%となっている。次いで、「気軽に相談できる(53.1%)」、「担当者を信頼できる(51.8%)」となっている。子ども第三の居場所事業のスタッフと良い関係性を構築できていると言える。

図表 4-41 Q6 子ども第三の居場所事業によるサポートを受ける時に感じる気持ち



さらに、「気軽に相談できる」から「子どもの個性や希望に向き合ってくれる」までの項目については、子ども第三の居場所を肯定的に評価している項目のため、各項目+1点とし、「気軽に相談できない」から「不安やストレスが減らない」までの項目については、子ども第三の居場所を否定的に評価している項目のため、各項目-1点とした。その結果平均値 2.4 となり、1点以上の割合は 88.7%となり、肯定的に捉える割合が著しく高い結果となった。

図表 4-42 Q6 子ども第三の居場所サービスへの意識

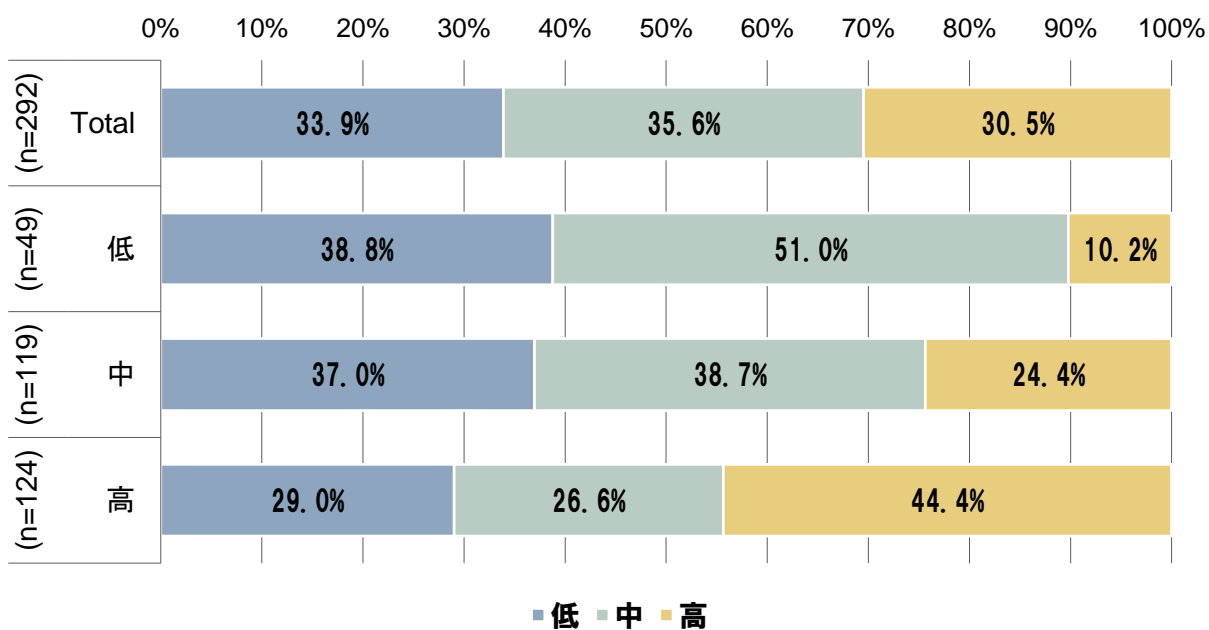


4-38 Q4ALL（統合）保護者の生活習慣・余力・つながり（層分類）（統合）別に見た Q6（統合）子ども第三の居場所サービスへの意識（層分類）（統合）

さらに、子ども第三の居場所サービスへの意識について得点化したものを<1点以下を低><2~3点の中><4~5点を高>とし、保護者の活動(生活習慣・余力・つながり)に関する設問(Q4)について、<0点以下を低><1~5点を中><6~11点を高>として分類したものとクロス集計を行った。

その結果、0.1%水準で統計的に有意であり、保護者の活動が好転しているほど、子ども第三の居場所サービスへの意識も向上している傾向にあり、保護者自身が自らの日常に変化を感じられることと、子ども第三の居場所スタッフとの関係性には影響がある可能性がうかがえる。

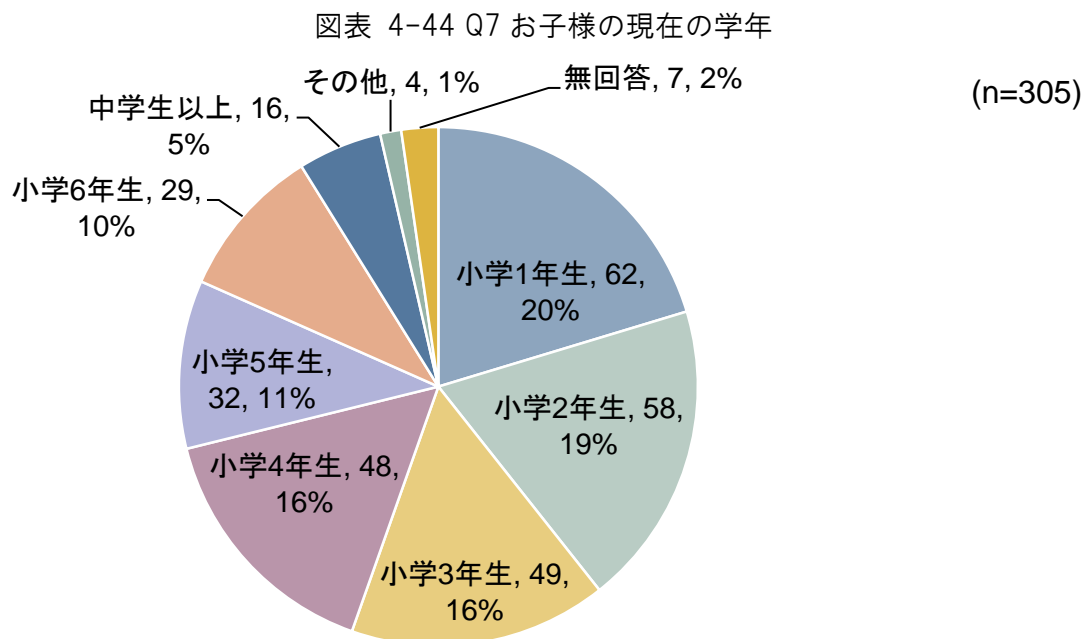
図表 4-43 Q6（統合）子ども第三の居場所サービスへの意識（層分類）（統合）（Q4ALL（統合）保護者の生活習慣・余力・つながり（層分類）（統合）別）



カイ二乗値 28.836 有意水準 p<.001

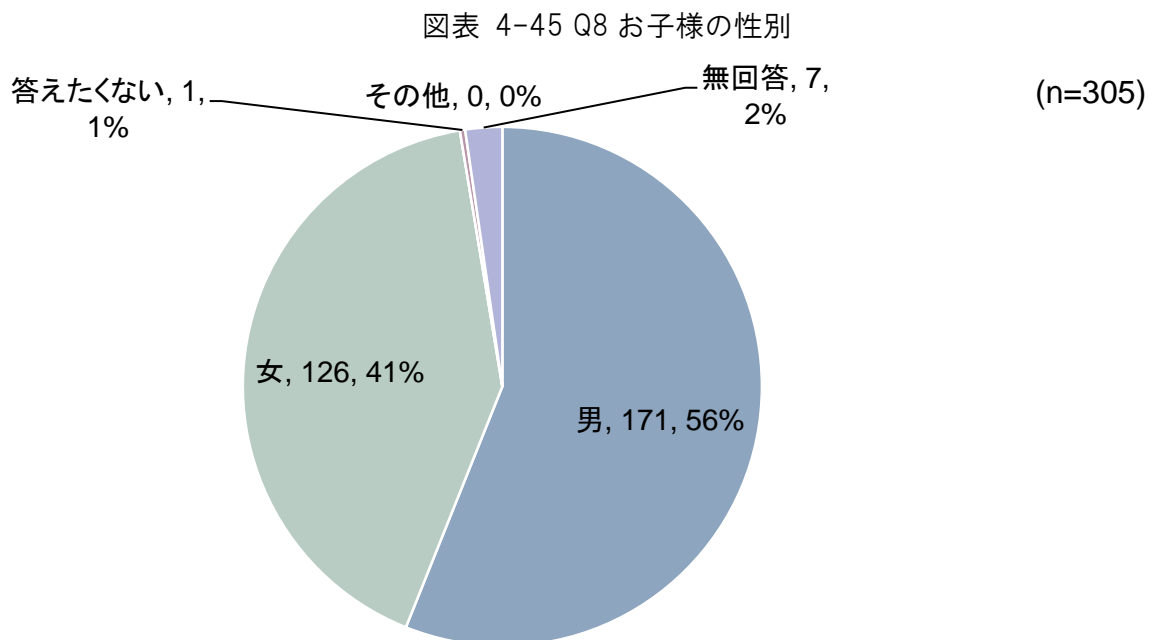
4-39 Q7 お子様の現在の学年（再掲）

「小学1年生」の割合が最も高く20.3%となっている。次いで、「小学2年生(19.0%)」、「小学3年生(16.1%)」となっている。



4-40 Q8 お子様の性別（再掲）

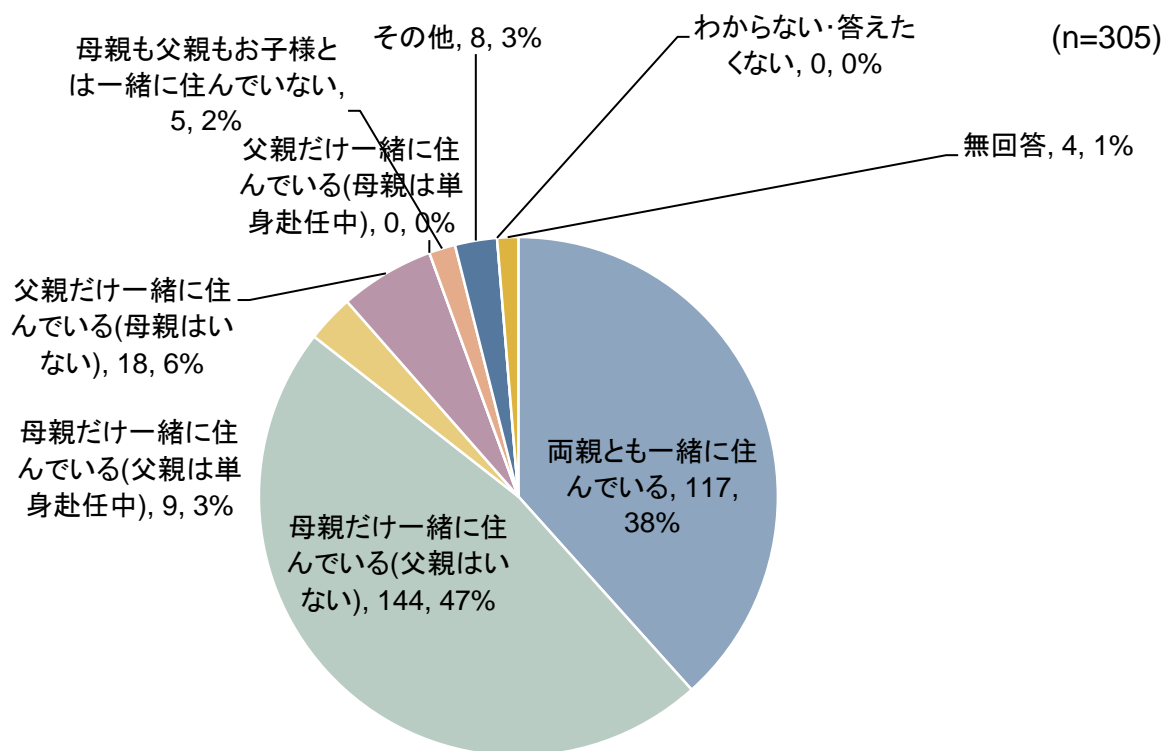
「男」の割合が最も高く56.1%となっている。次いで、「女(41.3%)」、「答えたくない(0.3%)」となっている。



4-41 Q9 お子様と一緒に住む親

「母親だけ一緒に住んでいる(父親はいない)」の割合が最も高く47.2%となっている。次いで、「両親とも一緒に住んでいる(38.4%)」、「父親だけ一緒に住んでいる(母親は単身赴任中)(5.9%)」となっている。

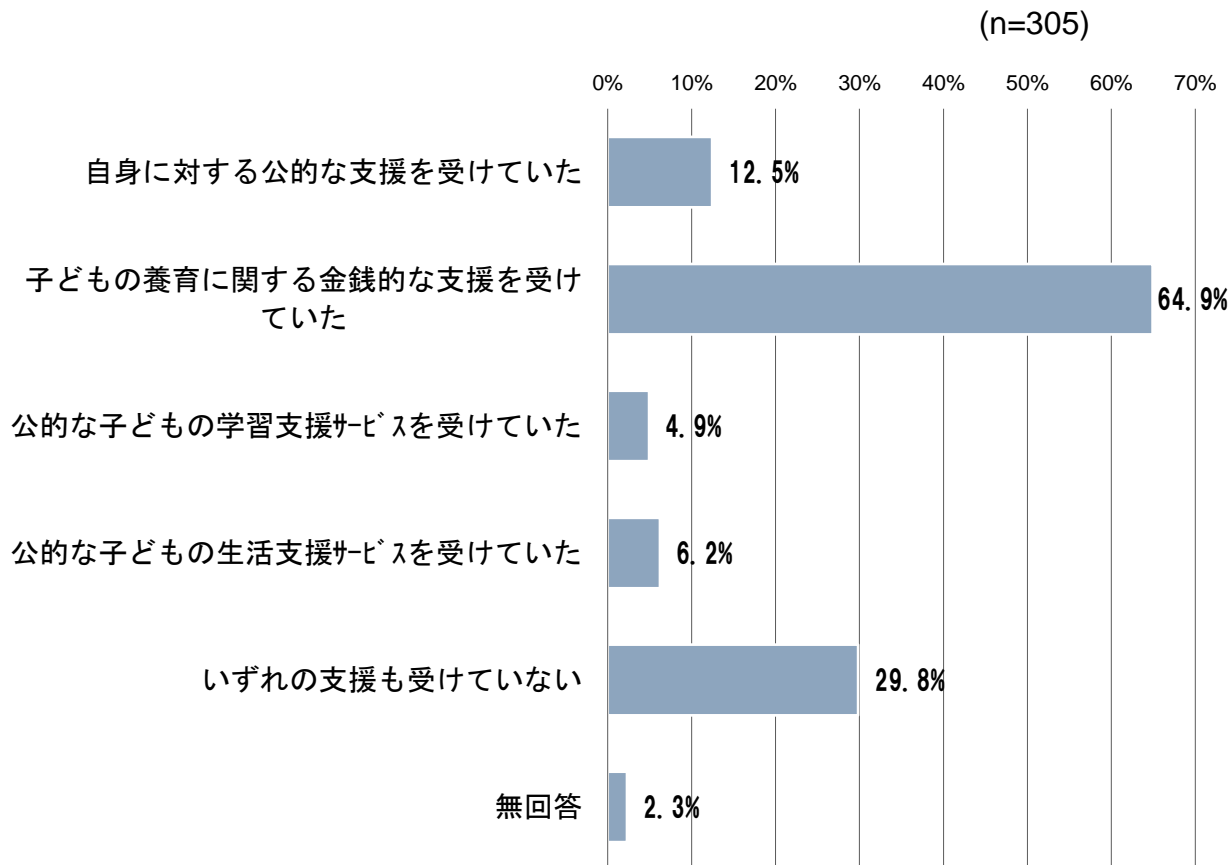
図表 4-46 Q9 お子様と一緒に住む親



4-42 Q10-1 子ども第三の居場所と繋がる前から活用している支援・サポート

「子どもの養育に関する金銭的な支援を受けていた」の割合が最も高く64.9%となっている。次いで、「いずれの支援も受けていない(29.8%)」、「自身に対する公的な支援を受けていた(12.5%)」となっている。公的な子どもの学習支援、子どもの生活支援を受けていた割合は合計して11.1%で、保護者の視点から見ると子どもの学習・生活支援が届いていなかった可能性が高い。

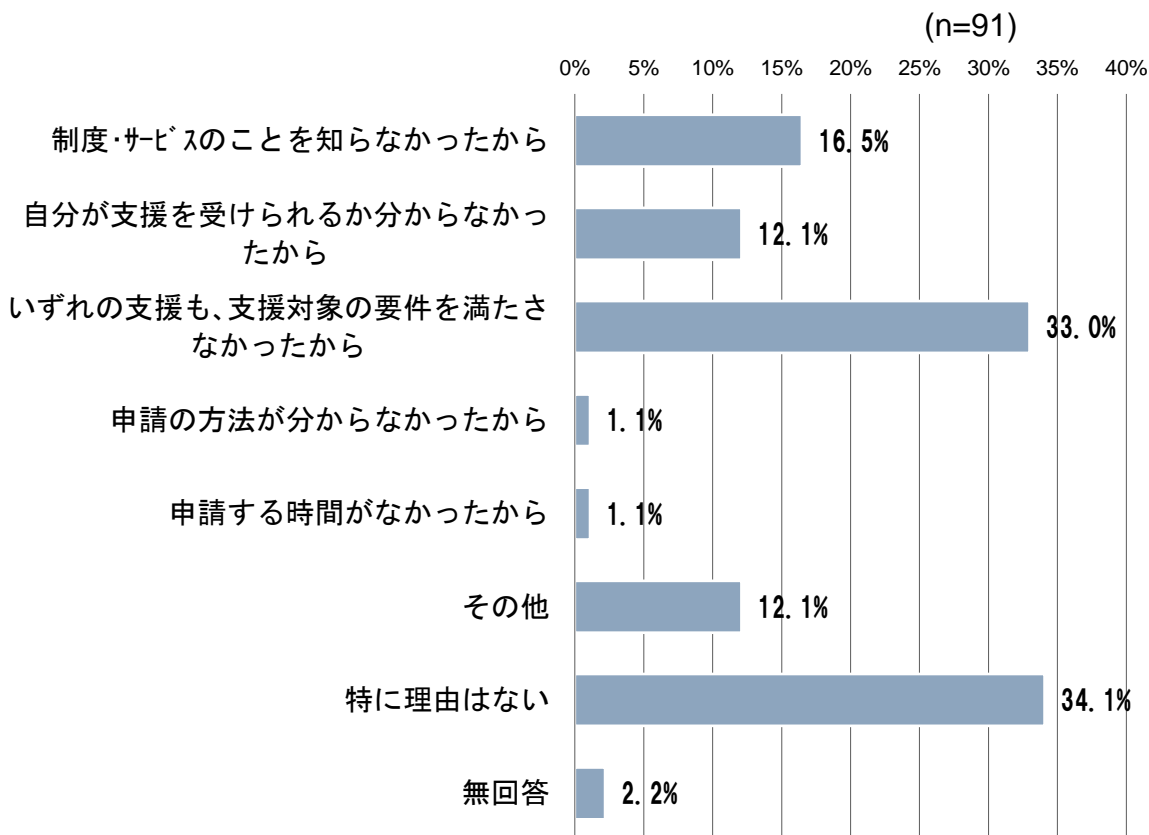
図表 4-47 Q10-1 子ども第三の居場所と繋がる前から活用している支援・サポート



4-42-1 Q10-2 いずれの支援も受けていない理由

「特に理由はない」の割合が最も高く 34.1%となっている。次いで、「いずれの支援も、支援対象の要件を満たさなかったから(33.0%)」、「制度・サービスのことを知らなかったから(16.5%)」となっている。

図表 4-48 Q10-2 いずれの支援も受けていない理由



その他の自由回答を見ると、下記のとおり、個別の事情を除くと、地域にそのようなサービスがあるか知らない、必要がないという回答となった。

図表 4-49 Q10-2 いずれの支援も受けていない理由 その他

自由回答
<ul style="list-style-type: none"> ・ 母親がパートで家でみれていたため ・ 子ども食堂は何回か利用したことがあるが、子どもの対人恐怖が強くなり、行かなくなった ・ 対人恐怖が強くなり、行きたがらなくなった ・ 現在利用している場所を知るまでは、地域にこのようなサービスや場所があるかどうかを知らなかった。 ・ このような場が、今まで地域にあったかどうか知らなかった。 ・ 診断が6年生、診断されるまでわからなかった診断されても相談窓口がわからず、市へ相談し利用となった。 ・ 必要がない ・ 必要なし ・ 支援の必要性がない ・ サービスがないので受けられない

4-43 Q11 良い・好きだと 思うこと

自由記述には 194 件の回答があり、主に「体験の機会提供」「生活習慣の定着」「学習習慣の定着」「個別支援」「保護者支援」「職員の質」「子どもの様子」についての意見があった。

図表 4-50 Q11 良い・好きだと 思うこと

自由回答(有効回答 194 件)
<ul style="list-style-type: none"> ● 【職員の質】スタッフのみなさんが、とても気さくで子どもたちと同じ目線で遊んでくれたりしてくれるのはとてもうれしいです。【体験の機会提供】イベントごとや行事がたくさんあるので、楽しみが増えて子どもとのコミュニケーションもふえてうれしいです。 ● 【体験の機会提供】書道、英会話、運動と家では中々、体験させてあげられない事をしてくれる。【生活習慣の定着】・生活リズムが身についた。学校から帰ってきて、手洗い→宿題→遊び、ルーティーンのように子供が嫌がることなく取り組めている。【職員の質】・色々な年齢層のスタッフがいる。年配のベテランのかたから、学生さんまでいて色々な人の意見を聞くことが出来た。【個別支援】・1人1人に向きあってくれる。ダメな所はしっかりとおこり、良い面はしっかりとほめてくれる。 ● ・【子どもの様子】子供が毎日楽しく行っている。【生活習慣の定着】・晩ごはんまで食べさせてくれる。【体験の機会提供】・子供のために色んなイベントを考えてくれる ・習い事(英語など)色々してくれる 【職員の質】・一人一人の子をちゃんと見てくれている ● 【生活習慣の定着】晩ごはんを好き嫌いなくよく食べていると聞いているのでうれしいです。【職員の質】スタッフの方も子供をかわいがってくれるので安心して預けられます。 ● 【体験の機会提供】いろいろな体験をさせてくれるところ、先生らもプロフェッショナルな人が多い。 ● 【学習習慣の定着】・勉強を教えてもらえる 【子どもの様子】・先生と友達と仲良くできる ● 【体験の機会提供】色々なイベントをして下さり、子どももすごく楽しんでます。【職員の質】みなさんフレンドリーに関わって下さり、親身に対応して下さるので、安心して通わすことができます。 ● 【職員の質】スタッフがみんな優しく、子供をほめてくれるのでうれしいです。【体験の機会提供】イベント事をよく開いてくれるので子供も楽しみにしています。 ● 【学習習慣の定着】勉強を教えてくれる。【子どもの様子】先生、友達と仲良くできる。【保護者支援】仕事で遅くなっても安心できる。 ● 【保護者支援】いつもありがとうございます。 ● 【保護者支援】夕食を食べさせて頂いて金銭的にも助かっています。【学習習慣の定着】勉強も、おしえて貰うのですごくありがたいです。 ● 【職員の質】お迎え時など、その日の表情などをみて、先生がお声掛けしてくれます。その先生にはいつも悩み事などを聞いて頂き本当に感謝しています。【保護者支援】しんどい事があっても、頑張ろうと思えています。子供の立場に立って、私の立場(母)に立っても話を聞いて下さるので、とても助けられます。【体験の機会提供】色々な行事があるのも、素敵だなあと感じます。子ども第三の居場所が息子の1つの居場所?になっています。 ● 【体験の機会提供】イベントが多く、いろいろと子供達が喜ぶ様な催しをしてくれる。【保護者支援】フードバンクからの食材等、分けてもらえるので助かっている。 ● 【職員の質】・若いスタッフが多く、いつも迎えに行くと笑顔が見られる。 ・悪いことは、しっかり言ってくれている。【保護者支援】・夕食は、本当にありがたく感謝しています。 ● 【子どもの様子】伸び伸びと生活が出来ると思うので通わせて良かったと思っています。 ● 【子どもの様子】伸び伸びと生活が出来ていて、自分のやりたいことをやってもらっていたりする

ので良いと思います。

- 【体験の機会提供】・いろいろな体験ができる。【学習習慣の定着】・勉強に集中しておこなえる、習慣作りをしてきている。
- 【体験の機会提供】色々なことを経験させてくれる。なかなか家庭で体験させたくても体験できないことに取り組んでいただいととても良いと思う。(工作をしたり、調理をしたり、屋外活動等)【学習習慣の定着】勉強も丁寧に教えていただき、助かっています。また、本なども多数用意してくれているので、興味のあることについて自分で選んで見れる点はとても良いと思います。【生活習慣の定着】少人数ではありますが、決まりを作って行動する習慣を作ってください安心して預かっていただけるので助かります。
- 【保護者支援】子どもについて、見守り、必要な支援をして頂ける。【子どもの様子】子どもにとって安心できる場所ができたこと。【職員の質】親子共に信頼できる先生が近くにいると下さるところ。【体験の機会提供】色々な経験ができること。【生活習慣の定着】集団生活におけるルールがくり返し学べること。【職員の質】本人を丸ごと受け入れて下さる、子どもにとって味方になって下さる先生が預かって下さる安心感。【保護者支援】何でも相談にのって下さり、親にとって救われるところ。
- 【保護者支援】親子で不調の時に、親子それぞれに精神的なサポート、居場所の提供をして頂ける場所。【職員の質】不登校について、発達について、様々な情報を教えて下さるところ。子どもの状態に応じて、適切に対応下さるところ。子どもにとって信頼できる先生がいて下さるところ。【体験の機会提供】色々な製作、体験ができ、楽しみや自信につながっているところ。【職員の質】できないところ、できることをしっかり見てフォロー下さり、親にも教えて下さるところ。【生活習慣の定着】本、遊びの充実。めりはりのある時間が過ごせる場所。
- 【体験の機会提供】子供自身にとって初めて経験する事ばかり良い経験をたくさんできてとても感謝しています。【子どもの様子】勉強以外で学べる場が多いところ。
- 【体験の機会提供】・体験活動をすごく大事にしてくれていて、家庭ではなかなか普段できないような自然体験や造形活動、調理などをたくさん取り入れてくれるところ。・子ども達がやってみたいということを活動の中で形にしてくれる。【保護者支援】・親の仕事や用事に関係なく、子どもの育ちを一番に考え利用を可にしてくれる。【職員の質】・学校とはまた違った家庭的な雰囲気の中で、関わってくれている先生方が、いつも子ども達に寄り添い、一緒に楽しみながら学びを与えてくれるところ。
- 【体験の機会提供】子供の為にいろいろな行事、イベントを考えてくれる。【職員の質】・子どもをきちんとしかってくれる。て、誉めてくれる。・保護者にも、アドバイスをしてくれるし、子供との接し方がまちがっていたら、しかってくれる。【学習習慣の定着】・勉強面にしても、子供の苦手な所を保護者にも伝えてくれて、出来るようにしてくれる。
- 【学習習慣の定着】自分の事は自分でする、分からない事があれば聞くという考え方が子供の事を手を出しすぎると私自身、いいなあと思ってます。悪い事でもきちんと子供に考えさせ子供で解決させるところも考えさせられています。【子どもの様子】今まで出来なかった事も少しずつ子供が変わってきてる所も、すごい感謝しています。言葉、伝えにくいですが子ども第三の居場所では子供が自分で自分の事する、子供同士のトラブルも子供同士で話し合い、自分の事をきちんと身につける事ができる。
- 【生活習慣の定着】学習だけでなく生活の事もしっかり考えてくれている【体験の機会提供】食べ物やさいばい等して家だけでは中々できないけんをさせてもらっている
- 【体験の機会提供】色々な経験や体験が出来ました。【職員の質】先生が話を親身に聞いてくれて安心でき力にもなりとても良かったと思います。
- 【職員の質】・子供 1人 1人の良い面、悪い(苦手)面を理解した上で子供に接してくれているので、子供の成長になっている。【子どもの様子】・自分から進んで物事をするようになった。

- 【職員の質】子ども達をひとくりにせず 1人1人個人のせいかくにしっかりむきあってくれる
- 【体験の機会提供】色々な経験や体験ができて良かったです。
- 【体験の機会提供】・家だけでは体験させてやれない事を経験させてやる事が出来る機会が増えた。【保護者支援】・遅くまで見てもらえるので仕事がしやすくなった。
- 【体験の機会提供】・いろいろな経験ができる。【保護者支援】・長期休暇、土曜日利用時に送迎があり無料で昼食も出してもらえる。(時間、金銭的負担がかなり軽減されて助かっている。)
【体験の機会提供】・水泳や器具を使った活動ができる。・時々あるイベント(釣り、ピザがまでピザ作り、陶芸、公園に遠足など)が子供の楽しみになっている。【子どもの様子】・近所に友達がいないので放課後に友達と遊べる場所となる。・他の学校の子とも仲良くなれる。【保護者支援】・子供たちの様子をアルバムにしてくれている。・全てが無料な所が大変助かる。・とても気軽に相談でき、改善にも力を入れてくれる。【子どもの様子】・子供が「もっと遊びたかった」と言うくらい楽しい場所であってくれていること。
- 【学習習慣の定着】・毎日の宿題をきちんとやらせてくれる。【体験の機会提供】・様々な活動(レクリエーション、工芸体験、野外活動等)をさせてもらえる。【職員の質】・支援スタッフが充実している。
- 【体験の機会提供】体を動かしていっしょに子どもと遊んでくれる
- 【子どもの様子】子供と先生の距離が近いこと、アダ名で呼んでるところもイイ
- 【体験の機会提供】子供の経験をいろいろな行事としてやってくれているからよいと思います
- 【体験の機会提供】様々な遊びをとおして楽しく貴重な経験をさせていただいています。ありがとうございます。
- 【学習習慣の定着】児童クラブと違い、宿題をしっかりと見てもらえる。【保護者支援】昼食を一緒にとって(子供が)もらえるので仕事の間安心です。【体験の機会提供】色々なイベントや子供達が楽しめる事をして下さります。
- 【保護者支援】とっても、ありがたく子ども第三の居場所をつかわせてもらってます
- 【個別支援】1人1人に深く関わってもらえるところ。【学習習慣の定着】宿題もていねいに見てもらえる。【体験の機会提供】いろんなイベントを開いてくれ、子ども第三の居場所に行くことで体験できることが増えて楽しく通える。【子どもの様子】少人数のため、子ども第三の居場所内でみんなが仲良く団結力があるように思う。【職員の質】外遊びも全力で相手をしてくれる。【生活習慣の定着】子供にも身のまわりのことを教えてくれるため、家から自らそうじをしてくれたりする。【保護者支援】イベント、学校の宿題(長期休みも)は、親の準備を減らし負担がないようにしてくれる。生活面でのフォローもしてくれるため、共働きだが、とても助かり自宅で子供と過ごす時間の確保が増えている。年に数回かは、先生と子供の様子を話す機会があるため、いろいろと相談しやすい。小学校の学童より遅い時間まで預かってもらえるため安心できる。
- 【体験の機会提供】・イベントが多い 【学習習慣の定着】・ちゃんと宿題をやらせてくれる 【職員の質】・支援が終わった兄、姉の事も覚えてくれている。
- 【学習習慣の定着】・宿題をみてもらえる 【保護者支援】・ごはん、おやつを食べさせてもらえる ・洗たくをしてもらえる 【子どもの様子】・遊び相手になってもらえる
- 【職員の質】スタッフの方々を信頼できるので安心して頼む事ができる
- 【子どもの様子】放課後に友だちと過ごす時間がとれること。
- 【子どもの様子】友達同士で宿題を教え合ったり、協力してゲームや遊びをするようになった。【職員の質】スタッフさんのことを信頼していて、私に話せないこともスタッフさんには話せたりしているようで、貯めずに吐き出せる環境を作ってくださっていることに感謝しております。
- 【子どもの様子】放課後に異年齢のお友達と遊べる時がないのでとてもよい時間を過ごすことができていると思います。
- 【体験の機会提供】おやつづくりや工作など、子どもの自主性を大切にしながら色々な経験をさ

せてもらっているところが良いと思います。

- 【子どもの様子】子どもたちが楽しそうにあそんでいる。けんかも含め、色んな人とかかわり合っている。
- 【子どもの様子】たくさんの友達と安全に遊べる 【保護者支援】安心のおやつを出してもらえる 【体験の機会提供】色んな遊び(学び)を提案してくれる
- 【子どもの様子】平日の楽しみが増える。親以外の大人との関りが持てる。子ども同士ケンカも含め色んなけいけんができる。
- 【職員の質】・子どもの成長や発達を理解してくれていて、とても心強いです。【保護者支援】・子どもと親、両方の目線で一緒により良い方法を考えてくれるので、本当に日々助かっています。【子どもの様子】・子どもが自分全開で過ごせるかけがえのない居場所になっている事に、心から感謝しております。【体験の機会提供】・学童=お留守番している場所との認識でしたが、子ども第三の居場所に通わせて頂いて、色々な経験とチャレンジしたくなる気持ちを培ってくれる貴重な場所でした。何よりも子ども本人が、大好きな場所でかけがえのない時間を過ごさせて頂いており、私達親子にとってこれからもお世話になりたい場所と先生方です。いつも見守り支えて下さり、どうもありがとうございます。
- 【体験の機会提供】・家では体験できないことを体験できて、とてもありがたい。【子どもの様子】・料理など家でやってみせてくれるようになった。
- 【体験の機会提供】・月1回以上イベントがあるので、子どもが楽しみにしている。・本人が楽しかった事を聞くのが、親として楽しみ。
- 【職員の質】・子供の個性を重視してくれるところ。【体験の機会提供】・色々な体験をさせてくれるので、子供が嬉しそうだし、親からしても有難い。【子どもの様子】・家以外でも自分を出せる場所になっているところ。
- 【体験の機会提供】外出イベントやオンラインイベントがあって楽しめている。【子どもの様子】小規模で子どもが自分のペースですごせている。おやつが色々あっていい。
- 【職員の質】・清潔感がある。・先生達のやさしさを感じる。
- 【子どもの様子】楽しく遊べて喜んでいきます。【学習習慣の定着】宿題も教えてもらえるので助かっています。【体験の機会提供】いろいろなイベント・行事活動をしてもらっています。
- 【職員の質】子どもとスタッフの人が一緒にゲームをしてくれたり話したりして(子どものやりたいスマホゲーム)好きなおやつを買ってくれたり、1人部屋を設けてくれたり、なるべく寄り添ってくれていると思う。
- 【体験の機会提供】行事事をしてくれるので日本の伝統行事を学べた事。【学習習慣の定着】自分から進んで勉強をするようになった。【生活習慣の定着】お手伝いも進んでしてくれるようになった。【職員の質】スタッフさんには沢山悩みを聞いてもらってアドバイスをもらったりしながら親も成長できたような気がする。【保護者支援】一人親世帯にはありがたい場所だったのでこれからもそのような人達が気軽に活用できればいいと思う。
- 【保護者支援】急に仕事の時間変更などがあった時も対応していただけるので助かっています。【子どもの様子】子どもと子ども第三の居場所での出来事をよく話す機会がありますが、いつも楽しそうに話す姿をみて、本当に感謝しかありません。【職員の質】子育てをしていると人としてへこむ事、親としてへこむ事などありますが、スタッフの方の経験談や気持ちによりそって声をかけてくださる事、色々な場面で困った時に誰かが側にいると思える事、本当に心強いです。
- 【職員の質】・親身になって相談にのってくれる。・親も含めいいところはほめ、悪いところもしっかり指導してくれる。【体験の機会提供】・活動的で郊外にも出向き、いろんな遊び、経験をさせてくれ子供たちも喜んでいる。【保護者支援】・隠し事がなく安心して預けられる。・食事もバランスを考え、提供してくれる。

- 【職員の質】個性を大事にしてくれる。【体験の機会提供】いろんな体験をさせてくれる。宿題をやってきてくれるので助かる。
- 【体験の機会提供】いろんな体験ができて良いと思う。
- 【子どもの様子】6年生のお兄さんたちとカードであそべること。工作でほめてくれるから。【職員の質】・そのつど、子供の様子をスタッフの方が話をして下さり、うれしいです。・子供の事で相談しやすい所があるかと思う。
- 【職員の質】色々と子そだてについて分からない事等、相談しやすく、1人で考えていたりしんどくなってもいつでも話せる、聞いてもらえるってすごく大事だと子ども第三の居場所に通っていると思いました。【保護者支援】「毎日あたり前にかんばらない」と「親なんだから」気持ちによゆうがなくなったり…そんな時に話せる場所がある。子供を安心して見てもらえる。今、子供関係で1番助かってる、そう思えるのは子ども第三の居場所です。
- 【学習習慣の定着】上の子の方にも書いたので別の事を…。私自身べんきょうを教えられないので、宿題をみてもらえるのってすごく助かります。宿題忘れがめっちゃくちゃへりました！今では子ども第三の居場所が休みの日でも自分からやってくれてうれしいです。
- 【子どもの様子】子供の事をよく見てくれていて、息子も楽しくかよっています。たまに「家に帰りたくない、もっといたい」と言うくらいです。【職員の質】発達障害があっても、ちゃんとわかってくれているので、安心してかよわせています。いつもありがとうございます。
- 【子どもの様子】家では好き嫌いが大きくごはんのメニューを考えるのがゆううつでしたが、子ども第三の居場所でごはんを食べるようになってからわりと食べてくれるようになったのでよかったです。
- 【子どもの様子】いつも子どもが楽しそうにしているのでとても感謝しています。これからもよろしくお願いします。
- 【体験の機会提供】いろいろな体験をさせて頂き、子供も喜んでいたので感謝でいっぱいです。【保護者支援】お迎えの時間が過ぎてしまって迷惑かけてしまったのにも関わらず、嫌な顔ひとつせず…また、子供の希望で当日に夕食食べたいと言ったら快く食べさせてくれたりと本当に感謝です。ここまでやってもらっていいのかなと思うほどです。いつも本当にありがとうございます！
- 【体験の機会提供】外遊び(ちょっとした散歩)だったり、行事ごと(ハロウィン、クリスマスなど)がとても盛んで、子ども自身もすごく楽しんでいるので、いつも感謝しています。
- 【保護者支援】おむかえ時玄関には子どもたちや先生方が笑顔できてくれることです。(長い時間預けていると申し訳ないと思いつつもおむかえに行くので)感謝しています!!
- 【保護者支援】・親の仕事の都合、本人の気持ちに合わせて利用させて頂きとても助かっています。【職員の質】・通い始め、活発な子についていけず、通うのを嫌がりました。先生に相談させて頂くと、すぐにうちとける様子ができて、今では楽しみに通っています。【子どもの様子】・先生方の事を呼びすてで名前を呼ぶ事に子ども達との信頼感、親近感があって良い所だなと感じています。一方、大人の事を呼びすてにしている事はどうしてだろう?と思う所もあります。
- 【職員の質】・子一人ひとりの長所・短所をしっかり見て把握して対応して下さるところがとても安心できます。【学習習慣の定着】・家で宿題を見てあげられない部分をしっかりと子ども第三の居場所でサポートしてくれる所が本当に助かってます。
- 【職員の質】先生1人ひとりが、丁寧に子ども達をみている。寄り添ってくれているのが伝わってくる。親の心配もしてくれたり、一緒に悩んでもくれる。いつも味方でいて下さり、感謝しています
- 【職員の質】・小さい事でも相談にのってくれる事 ・子供と真剣に向き合ってくれる事 ・小まめに連絡をいただける事 ・明るく接していただける事 【保護者支援】・子供だけではなく親の方にも気にかけていただける事 ・土曜日やPM7:00まででも対応していただける事

- 【学習習慣の定着】子ども第三の居場所に息子が通うようになってから先生方が子供に向き合ってくれて、苦手だった勉強も沢山工夫してくれたり、子供に勇気をくれて、勉強をがんばる事が出来ました。【職員の質】私自身、子供の事で悩んでいる時、沢山話を聞いてくれて、アドバイスしてくれたり、一緒に悩んでくれて不安だった事を軽減できる事が本当にうれしかったです。【保護者支援】子ども第三の居場所に通える事が出来て、本当に親子共々感謝しています。いつまでも通いたいと思える場所、そして先生達です。これからもこの制度を利用したいと思える場所です。本当にありがとうございます。そしてこれからも頑張ってください。お願いします。
- 【保護者支援】いろんなことを相談できるところ。つらいとき、親身になって聞いてくれるところです。今の私には満足そのものです。
- 【子どもの様子】たくさん友達が増えて、本人も行くことを楽しみにしている様子です。【体験の機会提供】イベントもたくさん企画してくれて、みんなで考えるのも楽しいみたいです。
- 【子どもの様子】ここで初めて子どもがピアノをひく様子を見ることができました。とても上手で驚きました。本人もみんなにほめてもらえて、自信につながったみたいです。【保護者支援】野菜をたくさん使ったご飯を食べさせてもらえて助かってます。
- 【子どもの様子】・友達と遊べる。・色んな子供達と交流が出来る。
- 【子どもの様子】・友達と外で遊べる。・色んな子供達と交流が出来る。
- 【体験の機会提供】・季節を感じられる取り組み ・様々なあそびができること(タブレット・電子ピアノ・お絵描き・外遊び) ・お泊り旅行など家庭ではできない体験 ・ご飯がおいしい ・校区をこえた友達ができる。【保護者支援】・コロナ禍で子ども食堂が休みになるなか、休まずに続けてくれたこと。・子どもの希望メニューが出るころ
- 【子どもの様子】先生と子供がとても気がねなく付き合っている所。年のちがう子供とのかかわりを持って、小さな子への心遣いや社会勉強になれてよかったと思います。
- 【子どもの様子】子ども第三の居場所に行きだして本当に良く食べるようになって、びっくりしています。
- 【子どもの様子】子供らが色んな物を食べれるようになってうれしいです。
- 【子どもの様子】家では食べないものでも、帰ってきらいやけど食べれたと言っていました。
- 【子どもの様子】自分から、お手伝いしてくれるようになった。1日あったことを話すことがふえた。
- 【職員の質】・スタッフの方がみなさん優しく、いつも本当に安心します。・子どもが自発的にやりたいと思って計画したことが、形になるように、しっかりサポートして下さったこと。【体験の機会提供】・楽しいイベントが定期的であり、参加できること。【保護者支援】・学校の長期休業の時に、家で子どもだけでお留守番させるのが心配な時、スタッフさんがいる場所で過ごさせていただけるのが、母にも子にもとても安心できます。・スタッフさんが「身長がすごく伸びたね!」など、子どもの成長に気づいて声かけして下さいた時に、自分や夫以外と一緒に成長を見守っていてくれる人がいる安心感を感じました。【体験の機会提供】・子ども食堂で、子どもがお手伝いさせてもらって、スタッフさんにほめていただいたりした経験がうれしかったようで、家でも台所での手伝いに興味をもって近づいてきてくれるようになりました。
- 【子どもの様子】・子ども自身が好きで、自分から行きたいと思える場所であること。【職員の質】・スタッフのみなさんがとてもやさしい。いつも笑顔でむかえてくれて、ものすごく安心します。【体験の機会提供】・色々なイベントがあって、楽しい。【保護者支援】・学校の長期休業中に、子どもだけで日中おるす番をしないといけないうちなどに、スタッフさんがいる環境で過ごさせていただけ、安心します。【子どもの様子】・母や父だけではなく、色々な大人の人も関わられる場所なので、子どもの経験が広がっていると思います。
- 【学習習慣の定着】忙しいとついイライラして、子どもにも強い言葉で言ってしまうことがあるけれど、「早く宿題やって!」など)子ども第三の居場所に行きたい子どもが、だんだんさっさ

と宿題を終わらせて、子ども第三の居場所にボードゲームをやりに行くので、とても助かっている。

- 【子どもの様子】・異年齢の人との交流が出来て良いと思う。【学習習慣の定着】・長期休みに休みの宿題をみてもらえる日があって助かる。
- 【学習習慣の定着】・学習のわからない所を教えてくれる。【子どもの様子】・大人、年齢の違う子とかかわることで、お手伝いをしたり面倒を見たり、相手の気持ちを考えられるようになっていと思う。・やりたいことをやらせてもらえる。
- 【子どもの様子】・色々な年代の人と関わりをもてること。【体験の機会提供】・子供が楽しめるイベントを企画して下さって、安心して送り出せる。【子どもの様子】・様々な立場の人が自由に過ごせる、自然に交流が持てる場所というのは、他にあまりないと思います。・子供(小5・小2)が、家族以外の大人との関わりを持てる、貴重な場所です。ありがたいです。
- 【子どもの様子】毎週楽しみに通わせていただいています。ありがとうございます。子どもは、行くのがとても楽しいとのこと。マイペースでご迷惑おかけしています…。
- 【子どもの様子】沢山の大人と関われる
- 【学習習慣の定着】子どもの勉強を教えてくれるところが良いと思います。【子どもの様子】あと、子どもが子ども第三の居場所の食事がいつもおいしいとよろこんでいます。
- 【子どもの様子】・子供が喜んで通っている。・年上のお兄さんお姉さんと一緒に遊びながら色々な体験をさせてもらっている。【学習習慣の定着】・遊ぶ事だけでは無く学習も見て頂き、宿題に取りかかる姿勢が身に付いた。
- 【子どもの様子】家に居ると一人の時間ばかりで言葉の発達も遅く、人との関わりも苦手で休みの日も家から出ない生活でしたが、色んな年齢層の方と関わる事ができ、自信をつけて外へ出るようになりました。【保護者支援】親としても仕事や急な用事などで一人で留守番をさせる不安からも解放され、子供との関係も優しくなったと思っています。
- 【学習習慣の定着】宿題などをみてもらえるのは助かる。
- 【職員の質】スタッフの方が相談にのってくれる。【保護者支援】料理が美味しい(子供の感想)バランスを考えたメニューは親にとったらうれしい。21時まで預かってくれるのは助かる。【体験の機会提供】誕生日・クリスマスなどの行事は、思い出に残ると思う。
- 【保護者支援】この施設ができて、私も家族も助かっている。
- 【職員の質】・子供一人一人にスタッフの方がよりそった接し方をして下さり、子供の個性を大切にしてくれている。【子どもの様子】・食事ができる。野菜や好き嫌いが減った。・自分でできることが支援により増えてきた。【体験の機会提供】・野外での活動・経験をさせて頂けること。
- 【体験の機会提供】遠足みたいな事があるのが、親はありがたい。
- 【体験の機会提供】行事が多くて、子供がいろいろな体験ができていいと思います。【職員の質】スタッフの方もやさしいので、よいと思います。
- 【体験の機会提供】親では体験させてやれない事を色々させていただき、本当に入って良かったと思います。【職員の質】先生方も良く相談させてくれ、【学習習慣の定着】宿題も見てもらえ本当に助かってます。
- 【学習習慣の定着】いつも宿題を見てもらい、学力も少しづつ上がっているのかな?と思います。【子どもの様子】甘えるのが好きな子なので、たくさん大人に遊んでもらえるのはありがたいです。
- 【体験の機会提供】キャンプ、社会見学、もちつきなど私ではさせてやれない体験を色々させていただき、本当に感謝してます。
- 【子どもの様子】・こどもの様子を教えてくれる。・こどものことを褒めてくれる。・こどもが先生に勉強を見てもらえたことや、一緒に遊んだことを嬉しそうに話してくれる。

- 【職員の質】送り迎えに行くと先生方が笑顔で玄関先で出迎えてくれるので、とても雰囲気がいいです。
- 【子どもの様子】・リラックスできていきいきと過ごせるところ。・あたたかい家みたいな雰囲気のところ。【職員の質】・スタッフのあたたかさ。
- 【職員の質】・子ども達の成長をあたたかく見守ってくれるところ。・安心して過ごせるところ。・スタッフの方々、あたたかいところ。
- 【子どもの様子】できる事がたくさん。自由で素敵！
- 【子どもの様子】・子どもたちがのびのびすごして子どもが主体となっている様子に感心させられます。【保護者支援】・おやつが手作りだったり、畑で野菜を育てたり食育の面で親がなかなかできなかったことをして下さってありがとうございます。【職員の質】・子どもの声をスタッフの方々がちやんと聞いて下さって、様子を見て下さって、環境を整えて下さって本当に感謝しています。
- 【体験の機会提供】・子供達へ色々チャレンジさせて下さる。・色々な体験をさせてもらえる。【職員の質】・子供へ詳しく説明してくれる。
- 【職員の質】・食事の提供や、食事の大事さを伝えて下さる所。・おやつが手作り。【体験の機会提供】・体を動かす遊びや体験ができる。
- 【学習習慣の定着】・少人数で勉強を見てもらえるので分からない事を教えてもらえる。・勉強だけでなく、終わったあとのお楽しみもあるので、子どもにとってそれも励みになるのではと思う。【職員の質】・スタッフの方々がみなさん、子どもに寄り添ってくれていると感じる。
- 【学習習慣の定着】・学校の授業でわからない所をしっかりと教えて下さるので、助かっています。【子どもの様子】・他の学校の子とも交流ができ、とても良いと思います。・他の学年の子とも仲よくできるので、良いと思います。
- 【職員の質】・何でも相談ができて良い ・元氣になれる
-
- 【職員の質】子供の性格を理解してくれていて、自分に自信をつけてくれる。【学習習慣の定着】楽しく勉強を教えて下さっている。
- 【学習習慣の定着】宿題サポートで通っています。私が教えるには限界がありましたので、本当に感謝しています。【職員の質】本人の特性を理解していただいているので、その時々でいろいろ考えて対応して下さっている事が本当にありがとうございます。教えて下さる先生の子供さんも同じ場所にて、勉強後の時間に係わる事ができ、小さい子供さんと同じ時間をすごしたりする事も良いなと感じています。3者面談で、子供親両方の気持ちを受け入れて下さってる所はとてもうれしいです。
- 【子どもの様子】幅広い年齢の方々に教えて頂いたり、遊んで頂ける場所。【保護者支援】毎週水曜日、子供達に無償でお弁当を提供している事。時節のものが入っていて、食事から学ぶ事もできる。すばらしいです。
- 【子どもの様子】子ども第三の居場所で仲間が出来た事により、色々な事がうまくすすんでいく。
- 【子どもの様子】娘の個性を理解し、対応してくれているので、子供は安心して通えている。【保護者支援】親も、学校とはほぼ関わりがないので、学習面、進学についての情報が、子ども第三の居場所で相談できるのは安心だ。【職員の質】気軽に相談できるし、子供からも話しやすいのと情報が入りやすいのは嬉しいです。
- 【子どもの様子】子供の意思を尊重してくれる所や、自立するために学校では教えてもらえない大切な事を教えてくれ、実践させてくれる所。とても居心地がいい様です。
- 【子どもの様子】子供にとって、自分を認めてくれる人や場所であり、大切な居場所であると思う。

- 【職員の質】子どもの気持ちを考えて、当日のスケジュール変更(ちこくする、欠席する)など、柔軟に対応してもらえる。学校では集団で動くよう強制されるが、スタッフと1対1の信頼関係が作れたり、子どものペースでできる部分が多い。
- 【保護者支援】体を動かす遊びをしてくれるところ。家庭でなかなかできず悩んでいたのが助かる。食事の提供、入浴までできること。お迎えの時間にも、帰った後にもゆとりを持てる。歯みがき教室、職業体験のイベント。専門家の話や体験を通して身に付くし、考えるきっかけになる。
- 体を動かす遊びをしてくれるところ。家庭でなかなかできず悩んでいたのが助かる。食事の提供、入浴までできること。お迎えの時間にも、帰った後にもゆとりを持てる。【体験の機会提供】歯みがき教室、職業体験のイベント。専門家の話や体験を通して身に付くし、考えるきっかけになる。
- 【保護者支援】気軽に相談できてとても協力的なところ。登校支援や、夕食、送迎等とても協力頂いてます。【体験の機会提供】たくさん行事を組み込んでいて、ふれあいの時間がふえ、とてもありがたい。体験がたくさんできます。
- 【保護者支援】子供の事にかんしても私的事情にかんしても、とても協力的に相談にのっていただき安心できる。登校支援や夕食、送迎などとても協力的でありがたいです。
- 【職員の質】納得がいくまで、子供と向き合ってくれること、親のサポート(子供の事でどうしたらいいかわからない時)とか色々相談できること。【保護者支援】親子行事も親が行きやすい場所。【子どもの様子】子供が「行きたい！」と自ら言ってくれるくらい満足しています。
- 【保護者支援】コロナで仕事の休みが増え、急に明日から休校になったという時でも、子ども第三の居場所の先生方は何かありましたら、いつでも何でも言って下さい！と言ってくれます。食料を提供していただいたり、助けられてばかりで感謝しています。ありがとうございます。
- 【子どもの様子】こどもがすすんで子ども第三の居場所にいきたいといってくれて、行事にさんかしてその日のかんそうをきかせてくれると、とてもうれしい。とてもせいちょうをかんじさせてくれ良い。
- 【職員の質】子ども第三の居場所の先生方が皆いい人なので安心して子供を預けられる
- 【保護者支援】子ども第三の居場所に入ったおかげで土曜日とかの仕事も安心してでき、大変助かっていて、子供も成長して良いと思う。
- 【体験の機会提供】色々なイベントを企画してくれて、子供達がいろいろ経験できる環境がすごく良いと思います。
- 【職員の質】イヤな顔をせず子供と向き合って下さるので、感謝しております。
- 【子どもの様子】もつとのびのびして欲しい。家庭での過剰適応から学校での暴力になったと医師から説明を受けた。家庭では6年生、下に6歳0歳児がいるのでどうしても6年生としてあてにしてしまう。家庭で過剰適応は今後も続くと思う。今までの彼ならば年下に呼び捨てされれば殴っていた。今は過剰適応でガマンしているようにも見える。暴力の面はガマンが普通だが、何というかもつとのびのび楽しんで欲しい。
- 【体験の機会提供】いろんな所に連れて行ってもらえるところ。いろんな体験をさせてもらえるところ。
- 【体験の機会提供】母子家庭で運転が苦手なため、あまり色々な場所に連れて行ってあげられないため、子ども第三の居場所で行う行事はとてもありがたいです。【職員の質】子ども第三の居場所の先生方も子供に寄り添い大切に下さるため、とても安心して預ける事ができます。
- 【体験の機会提供】・定食が出る所 ・イベントが多い所 ・【保護者支援】急にお願ひしても預かってもらえる所 ・【職員の質】先生たちが子供のイイ所も悪い所も見つけている所
- 【体験の機会提供】いろいろな所に連れて行ってくれたり、習い事や体験をさせてくれるので、自分たちだけではできない経験をたくさんできて感謝しています。お友達や学年のちがう子との

関わりなどでも学ぶことがたくさんあっていると思います。通わせていただいて本当によかったです。

- 【体験の機会提供】畑作業や様々な経験をさせてもらえる
- 【子どもの様子】一つ一つ報告をくださり(登所等)情報を SNS を通じ知れるので子と会話のはばが広がる 【体験の機会提供】・なかなかできない農作業等、体験をさせて頂ける ・友達(他校、学年)のはばもひろがる、交流
- 【保護者支援】すごく良くしていただいて嬉しいです。
- 【体験の機会提供】色んな行事をさせていただいて子どもも楽しく過ごせているのでありがたいです。下の子が小さいので満足させてあげられない所があるので、同年代の友達とあそべる所もたすかっています。
- 【保護者支援】ごはんを用意していただけるのがとても助かります。習い事へ連れて行っていただけるのもありがたい。
- 【体験の機会提供】・色々な事を経験出来る。 ・色々な事を体験出る。 【子どもの様子】・写真など毎日何をしたかなどを送ってくれてありがたい。・楽しいと言って行ってくれるので良いんだろうなあと思います!
- 【体験の機会提供】・色々な事を行って下さる 【保護者支援】・学校や習い事への送迎をして下さる ・給食を準備して下さる ・子供が初めてのことを挑戦させて下さる すごく助かってます。いつもありがとうございます。
- 【学習習慣の定着】・子供に合った学習方法を一緒に考えてくれるのでとても助かっています。 【体験の機会提供】・イベントも良い経験になり、安心して預けられます。
- 【職員の質】子の個性や良さをよく見てくれていると思う。また子の知識欲や創作意欲にも柔軟に対応していただいていると感じ、ありがたく思ってます。あまり得意としないことに、無理をさせず、子に合わせた声かけや気遣い、その点についてのお話もしていただけてることも、ありがたく思ってます。
- 【学習習慣の定着】・宿題の手伝いをしてくれたことが大変助かりました。 【体験の機会提供】・体験事業も実施していたので時間があるとき参加しました。
- 【子どもの様子】子どもが一番理解していると思います。自らが行きたいと思える居場所です。 【保護者支援】そして親の居場所でもあります。
- 【保護者支援】親が子育てに関して不安に思っていることに対して親身になって聞いてくれ、学校と連携して子供のことを考えてくれたことは本当にありがたいなと思いました。
- 【体験の機会提供】・色々な経験をさせてくれる 【保護者支援】・安心して預けれる 【職員の質】・集団行動が学べる ・子どもと向き合ってくれる 【保護者支援】・バランスの良い食事を提供してくれる
- 【職員の質】子どものやる気を引き出す方法を取り入れている ・コグトレ等、子どもの苦手部分を補う学習を取り入れている ・子どもの得意と苦手をよく見てくれている ・プログラミング等、子どもの興味がありそうだが家庭では取り入れにくい事をしてくれる ・スタッフさんが困り事の相談に乗ってくれる ・子どもに集団生活のルールを教えてくれる
- 【子どもの様子】・今までは親頼りだった事も自分で判断し行動できるようになった ・食べ物の好き嫌いが減り色々チャレンジするようになった
- 【体験の機会提供】子供たちが楽しんでできるイベントや想像力を豊かにしてくれる作品作りなど、普段お家では体験できないことをして下さるのでとても感謝しております。 【学習習慣の定着】勉強も意欲的にできているかと思えます。
- 【子どもの様子】アットホームな雰囲気
- 【体験の機会提供】放課後の充実、安心 【保護者支援】栄養のある食事 長期休暇の預かりプログラミングなどの体験

- 【保護者支援】・子供を安心して預けられる。【体験の機会提供】・色々な体験をさせてもらえる。【職員の質】・何かあっても、相談しやすい。
- 【保護者支援】子供も子ども第三の居場所に通うのが好きみたいで親としては宿題やごはんのこともしてくれてとても助かり、子ども第三の居場所には安心して通わせれる。
- 【職員の質】子ども1人1人に対してしっかりサポートしてくれています。【子どもの様子】学校には行きたくなくても、子ども第三の居場所には行きたいと言っています。【学習習慣の定着】勉強もしっかり解からない所を教えて頂いて本当に助かります。
- 【保護者支援】子供がとても楽しそうで親としても助かりますし、安心して働けます。他の学校のママ友に羨ましがられます。こういう施設がたくさんできるといいなと思います。
- 【職員の質】・学校の事や家の事も気軽に話せるのは良い事だと思う【体験の機会提供】・色々イベントがあり子供も楽しんでいる
- 【保護者支援】通う前は、児童クラブに行っており18時までにお迎えに行かないといけなく、どうしても仕事の都合で間に合わない場合、母に協力してもらっていましたが子ども第三の居場所に行く事により仕事で遅くなってしまう場合でも焦ってお迎えに行く事が減り、ご飯も食べさせて頂いたり宿題も終わらせてくれたりとても助かってます!!【体験の機会提供】またハロウィンやクリスマス等イベント事もして下さったり、娘も毎回楽しく通わせてもらい私もとても助かって感謝感謝です。【職員の質】先生達も娘の個性を伸ばして下さる様な事を言ってくれたりいつも優しく接してくれます。これからも宜しくお願いします。
- 【保護者支援】子どもの相談がしやすい、色々な意見がきける、交流の幅が広がった、子どもも楽しそう、子どもの好き嫌いが減った、子どもへの声かけの仕方を変えられた。
- 【保護者支援】気軽に利用できる
- 【学習習慣の定着】放課後の学習ができてとても助かる。【子どもの様子】放課後、友達と会える。
- 【保護者支援】担当者の方と、気軽に相談する事が出来とても助かっています。子供達のことを相談し、サポートしてもらって安心して子育てが良い方向に向いています。【子どもの様子】不登校の孫も子ども第三の居場所のおかげで居場所づくりができ、職員の方々と仲良く相談することができ、明るく過ごすことが出来て、とても感謝しています。
- 【子どもの様子】子ども第三の居場所を楽しみに学校へ行くようになった。外であそんだりたくさん体を動かすことが出来る。友達が沢山できた。【体験の機会提供】色々な活動を通して普段、出来ないような経験や体験が出来る、好きなもの、やりたい事がふえた。出来る様になった事がふえた。信頼出来る大人がふえた。家でおてつだいをしてくれる事がふえた。子供自身リフレッシュ出来る。【保護者支援】子供の事について相談出来る。子供にあったやり方で対応してくれる。自分も子供への対応を見直す事が出来た。
- 【保護者支援】色々そうだんができる
- 【子どもの様子】・子供の意見や希望を柔軟に取り入れ、日々の生活をより楽しく過ごしていて、子供達がのびのびと笑顔を絶えない居場所です。【職員の質】・一人一人の子供に向き合い、長い目で子供それぞれの成長を見守ってくれている。時には厳しく注意してくれるので、子供も親や家族以外の大人から注意されると気を付ける様になるので、とてもありがたいです。【体験の機会提供】・友達同士で色々な体験をしたり、旅行に行く事は一生の思い出になると思います。
- 【子どもの様子】子供がずっといたいと思えるくらい安心して楽しくすごしている事、良すぎて帰りたくないと言われるのでそれくらいすごせやすい場所なんだと思います。感謝です。
- 【職員の質】子ども第三の居場所のスタッフさん達と出会えたこと本当に感謝しています。時にはきびしくまた、子供としんけんにもむき合ってくれているのが分かります。夫がいない分、男の子気持ちがわからなくなったりして、相談したらすぐに一緒になって考えてくれたり本当に子ども第

三の居場所事業さんはじめ、子ども第三の居場所拠点には本当にかんしゃしてます。また、友だちが困っていたら、それをどうしたらいいのか?と、子供たちとむきあって話しをしたり、仲間を大切に、ということやそういうのをすごく話し合っている気がします。ありがとうございます。

- 【職員の質】何でも気軽に話せる、子供の事を1番に考えてくれる。通っている子供以外の兄弟の事も気にかけてくれる。
- 【学習習慣の定着】・学習する習慣が身につく【子どもの様子】・友達と仲良く遊べる ・親以外の大人(サポーター)との交流もある ・体を動かす機会が増えた
- 【子どもの様子】友達と遊ぶ時間が増えた。
施設が新しくきれい
- 【職員の質】サポートスタッフさん皆様明るく感じ良い方が多く安心して子供を預けられています。悪い事もきちんと教えてくれると思います。【保護者支援】この様な制度があると働く親にとっては大変ありがたいです。
- 【体験の機会提供】トレーニング機材が充実している。
- 【職員の質】・子供と遊んでくれる ・子供のペースで進めてくれる
- 【職員の質】個性を大事にして頂き、ゆっくりと本人に向きあって頂けたと思います。とても気くばり(スタッフ)の1人1人がすばらしいと思います。【保護者支援】私個人としては大きな保育園として感謝して居ます。
- 【体験の機会提供】イベントが定期的にある。
- 【保護者支援】急な欠席、出席もすぐに対応してくれる。【体験の機会提供】色々なゲームや製作をして楽しませてくれる。家でも大事にかざっています。毎日楽しく通ってくれて本当に助かっています。ありがとうございます。
- 【子どもの様子】年齢関係なくふれ合えるので良いと思います。
- 「特になし」 回答数 5 件

(※)個人名、拠点名が特定できる情報は削除もしくは一般化している。

4-44 Q11 もっと 改善してほしいと思うこと

自由記述には 97 件の回答があり、主に「提供時間」「提供内容」「提供体制」の他、お礼を本設問で記載するものもあった。

図表 4-51 Q11 もっと 改善してほしいと思うこと

自由回答(有効回答数 97 件)
<ul style="list-style-type: none"> ● 【お礼】いつもお世話になり、安心して子どもを任せられます! ● 【提供内容】熱がなければ、頭痛だけなら仕事が終わるまで見てほしい。利用状況が変わった時、AMしか工作中電話が出来ないので困る(留守番電話)をつけて貰いたい。 ● 【その他】駐車場が狭く、とめられる台数も少ないのでかなりみんなが困っている。そのうち事故がおこるのではないかと不安。 ● 【その他】駐車場がせまい… ● 【お礼】(今後も継続してご指導、ご支援をお願い致します。大変感謝しております。) ● 【お礼】特にありません。感謝しております。 ● 【提供内容】子供が思っている事、考えている事、思っているがなかなか言えない話など聞いてあげてほしい。 ● 【提供体制】もっと子どもの安全面について留意して、活動してほしい ● 【その他】低学年が多いので、高学年ももっと増えてくれたらよいなあ~と思います。周知度が低いので、応募まではしなくとも、広報などで活動の様子などを知らせる機会があったら必要としている人の目にも止まるのではないかと思います。 ● 【提供内容】親が参加するイベントがもっとあってもいいと思う。 ● 【提供内容】コロナがあったから難しかったと思うが、親子での行事を増やしてほしい。 ● 【提供内容】・年末年始の休みが官公庁の休みよりも長く、居場所に困る。・(あくまで理想ですが)そろばんやプログラミングの技能取得、漢字などの検定受検など目標に向けた活動があるといいなと思う。 ● 【提供体制】今後も継続して利用させてほしい。(小学3年までの利用と聞いている) ● 【提供内容】宿題をちゃんと見て欲しい。帰宅時に子どもがスムーズに帰られるよう準備をしておいて欲しい。 ● 【提供体制】できれば小学校卒業するまで預かってもらいたい ● 【提供体制】小学校6年生までかよわせたいと思うきもちがあるので、もっと学年をのばしてほしいです。 ● 【その他】・マスクの着用を少しずつでいいので、やわらげていってほしい。【提供内容】・音楽、絵など文化活動が増えてほしい。 ● 【提供時間】長期休みの日等、朝からみて頂けたらより安心です。 ● 【提供体制】土曜日、休祝日に利用できるような体制を整えて欲しい。利用するにあたり、条件があってもよいと思う(1月何回までとか費用がプラス〇円とか) ● 【提供内容】ピアノを習わせていて、自宅だと(マンションのため)夜、練習がむずかしいので電子ピアノの練習させたい。キーボードではなくて。 ● 【その他】改善してほしいことではないのですが…「子ども第三の居場所」事業のことがよくわかっておらず。 ● 【提供体制】利用者数に対して、スタッフの人数が少ないと思います。 ● 【提供体制】利用出来る日が増えると嬉しい ● 【提供体制】見守りの目が足りないと感じることがある。通う子どもたちが(色んな子)が増えてきたので。

- 【その他】・特にないですが、駐車場が、雪が降った時に止めづらい ・お迎えの人が少ないのに、車がいっぱい止められない時がある。
- 【その他】友達の入室について
 - 【提供体制】・サービス業をしていて、日曜、祝日に子供を預かってもらえる所がないので、預かってもらえるだけでも助かるのでお願いしたいです。 ・小学生だけではなく、幼稚園生や、中学生まで預かっていただけたら、いいなあと思います。(スタッフの方は大変だと思います)
 - 【提供体制】言葉遣いが乱暴だったりすぐ手が出てしまったりする子がいるらしい(子どもからの話)ので、実際迎えに行った時に私自身も目撃したり… 先生方はしっかり向き合って叱ったり注意しているようですが、全然改善されていないようなので親御さんを交えて話し合いやカウンセリングなど受けてみては、と…。(息子が直接被害に合っているわけではないのですが、話を聞いていて大変そうだな、と思ったので…。)
 - 【その他】お庭を芝生だと学童内(室内)を汚さずにすむのでは!?
 - 【お礼】私にとっては一番頼れるところです。今より改善してほしいと思うことはないです。
 - 【提供時間】・15 時頃～利用できたらうれしい。【提供内容】・食べるのがゆっくりな子、集中できない子がいると怒鳴っていることがあり、聞いているこちらが居心地が悪くなってしまう。子どもたちが委縮してしまわないか心配。
 - 【提供時間】午前中の開館がなくなってしまったのが残念でした。
 - 【提供時間】今まで、学校休業日に午前中から 1 日利用させていただいたので、午前中の開館がなくなってしまったのが、少し残念でした。
 - 【その他】駐車場があつたらいいな…と思います。
 - 【その他】友人と遊びたいらしいので、ルールを決めてほしい
 - 【提供内容】子ども第三の居場所での食事家族で食べたら、もっと良いと思います。
 - 【提供時間】夏休み等の大型休みは、午前中から開いていたら助かります。
 - 【提供体制】難しいかとは思いますが、土日仕事の時があるので土日行けると助かります。
 - 【提供体制】今年の 10 月から正社員として働いている。給料が良いため、このままだと子ども第三の居場所の利用が難しいと思われる。お金ではなく、家庭環境で判断してもらいたい。真面目に働く事で損をする…バカ正直は損をする…高学年になるまでは利用できるようにお願いしたい。送迎があればもっと良い。
 - 【その他】子供の人数。もっとたくさんの人に知ってもらえ、人数が増えると良いと思う。
 - 【提供体制】子供からすると、その心が重い時があり、辞めたいと言う事が多く、少しじゆうなんにしてもらえたらなと思う。日本財団が手を引いたあと、何も出来なくなるのかなと思って、もっと続けてして欲しかったなと思いました。
 - 【提供体制】どうせなら、ずっと財団に運営していただければ、色々な体験できるのになと思う思があります。のんびりしてるので、長い目で優しくせっしていただけるとありがたいです。
 - 【提供内容】子供同士のトラブル? スタッフの方の暴行というか子供に対する接し方が良くない方が居るので、どうかしてほしい。ける、嫌がっているのにくすぐる、悪口を言う、など。
 - 【提供内容】宿題を終わらせてからあそぶようにしてもらいたいです。
 - 【提供内容】子供にとって大切な事は、強く言って頂いたり、叱って頂いてかまいません。
 - 【その他】・父親なので拠点での内容が良く分かっていない。 ・知る機会が出来ればと考えます。
 - 【提供内容】学校に行っていないので、勉強の遅れが気になります。勉強を教えて頂く時間も多いいいなあと思います。
 - 【提供内容】学習面にもっと力を入れてほしい。
 - 【提供体制】利用する子どもの数に対して、大人の数が増えるとよいと思う。
 - 【提供体制】小学 6 年生まで預けられるようになって欲しいです。

- 【提供内容】コロナが落ち着いたらイベントに参加させてほしい!!
- 【提供時間】7 時にしてほしいです。(開)
- 【その他】最初は子ども第三の居場所についてよく理解していなかったです。(既存の)クラブのいっかんと思っていました。その後、先生と面談して少しずつ分かるようになりました。
- 【提供体制】兄がいるのですが、兄が不登校になってしまった時センターを利用したかったです。学校からはセンターがある事すら知らされず、居場所がありませんでした。そして私達親はセンターがどの様な所か全く知りません。学校ももっとセンターとの関わりを増やすべきだと思います。学校もセンターの意見をもっと聞くべきだと思います。
- 【提供体制】シングルであるが料金の補助対象にならない。発達支援にも通っていて料金がかさむ。無料とまではいなくても、もう少し料金が下がるとありがたいと思う。
- 【提供体制】・土日祝などに仕事がある場合にもサポートしていただける環境があればうれしい
【提供内容】・親子参加型のイベント
- 【提供体制】冬休み中の前半(12月)子ども第三の居場所が、全てお休みの為、子供を預ける場所がなく困っていますので、年末前数日だけでも見て頂けると有難く思っております。
- 【提供体制】子ども第三の居場所で取り組んでいる学習内容やその成果のやりとりがないため教えて欲しい。
- 【提供体制】特にないが、学校の休みで子ども第三の居場所はやっている時に送りむかえが調整するのが大変(夏休み、冬休み等もう少し早くやっていると助かるかなと…)月1回位、土日などがあると助かる 【提供内容】先生達や外部の人でも自分達の子供の頃の問題(不登校)(いじめ etc)を解決した話などを今の子供に講話してほしいと思う
- 【提供内容】仕事の都合上、拠点の予定を早目に出して頂けると助かります。
- 【提供内容】・食事の件、もっともっとかんしゃをさせるべき!! ・作る人、買い出ししてくれる人、その材料費のこと、ごはんがあたりまえに食べれていると思わせては、ぜったいにいけないこと、食べたくても食べれない人が世界にいっぱいいる、おいしいのは食べる!!まずいなら食べない!!そういう食育はぜったいにダメ!!
- 【提供内容】様々な体験メニュー、機会を増やしてほしい
- 【提供内容】(トレーニング機材が充実している)→だが、メンテナンスと更新が行き届いていない。アリーナの雨もりは、スポーツをする場としてとても危険だと思う。
- 【提供内容】宿題の相談
- 「特になし」 回答数 33 件

(※)個人名、拠点名が特定できる情報は削除もしくは一般化している。

5 拠点マネージャー子ども別調査の概要・結果

5-1 拠点マネージャー子ども別調査の概要

図表 5-1 拠点マネージャー子ども別調査概要

調査対象	「子ども第三の居場所」支援拠点(開所1年以上経過している拠点で半年以上通う子ども別)		
調査期間	2021年12月10日(金)発送～2022年2月7日(月)到着分までを集計		
調査項目	全7問の質問を設定し、支援拠点で支援を行っている子ども別に、支援開始のきっかけ、交流開始までに家庭に行った取組、子どもの支援内容や利用状況、保護者の支援についての回答を得た。		
	設問番号	調査項目	
		子どもに関する内容	保護者に関する内容
	拠点マネージャー子ども別 Q1	子ども・保護者 ID	
	拠点マネージャー子ども別 Q2	支援開始からの月数(支援開始時期(※))	
	拠点マネージャー子ども別 Q3	お子様・保護者への支援開始を行う際に、つながりの開始のきっかけ	
	拠点マネージャー子ども別 Q4	お子様とのつながりを円滑に開始するために、支援開始の直前・初回交流時に行った取組	
	拠点マネージャー子ども別 Q5	お子様に対して、利用開始後に行った支援	
	拠点マネージャー子ども別 Q6	支援を行うことになった計画日数のうち、直近の1か月の利用状況	
拠点マネージャー子ども別 Q7		お子様への支援期間中に行った、保護者様に対する支援	
有効回答数	有効回答数:388件(拠点数:32拠点)		

(※)拠点マネージャー子ども別調査 Q2 については、支援を開始した時期を年月で聴取している。

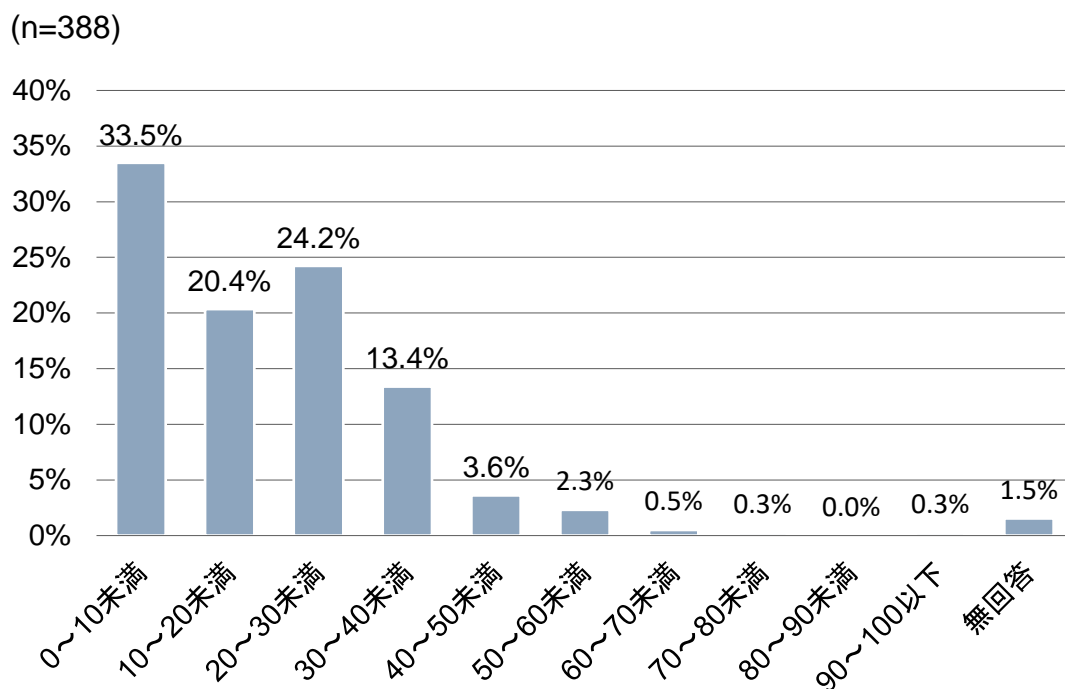
5-2 子ども・保護者ID

総合分析に用いる用途のため、省略。

5-3 Q2 支援開始からの月数（支援開始時期）

平均値 19.4 か月、最小値 2.0 か月、最大値 92.0 か月、標準偏差 13.0 か月となっている。

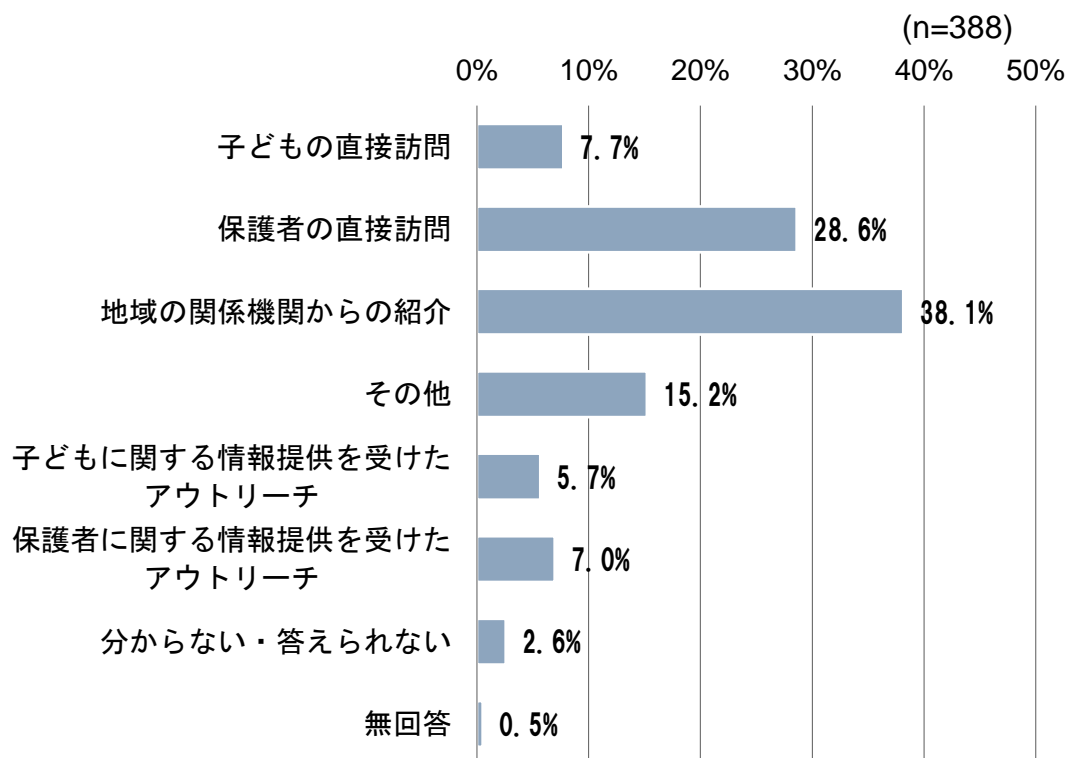
図表 5-2 Q2 月数（単位：か月）



5-4 Q3 お子様・保護者への支援の開始を行う際に、つながりの開始のきっかけ

「地域の関係機関からの紹介」の割合が最も高く38.1%となっている。次いで、「保護者の直接訪問(28.6%)」、「その他(15.2%)」となっている。子どもや保護者の直接訪問の背景には、子どもや保護者が学校や関係機関で渡されたチラシなど何らかのルートで情報を得られたと考えられる。またアウトリーチは約13%となった。

図表 5-3 Q3 お子様・保護者への支援の開始を行う際に、つながりの開始のきっかけ



5-4-1 Q3 お子様・保護者への支援の開始を行う際に、つながりの開始のきっかけ（その他）

主に、きょうだいからの紹介、学校・行政機関・保育園・幼稚園・保健所や、支援団体などからの紹介やアウトリーチとなっている。

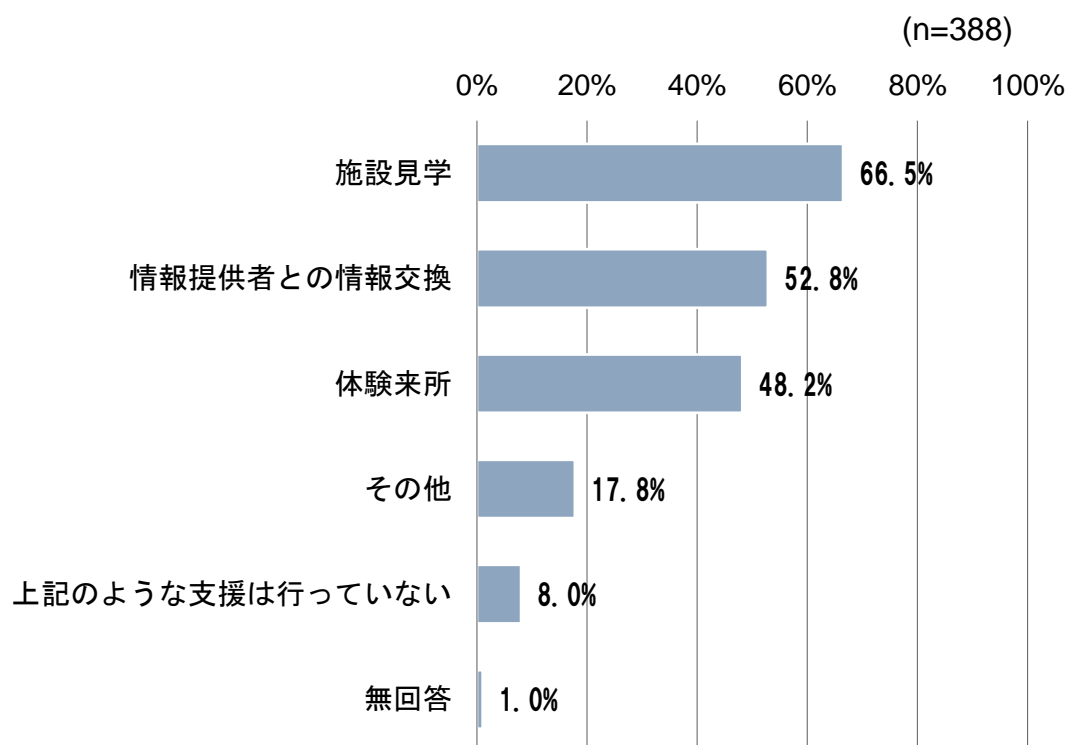
図表 5-4 Q3 つながりの開始のきっかけ その他

主な回答
<ul style="list-style-type: none"> ● きょうだいが既に通っていた、利用していたため。 ● 学校からの依頼、学校担任からの紹介。 ● 行政からの紹介・行政機関(ふれあい福祉課)のアウトリーチ ※児童扶養手当受給者台帳を参照してリストアップをしている。 ● 利用していた親戚からの紹介 ● 利用していた他児童の保護者からの紹介 ● 入所している子が連れてきた ● 保育園へ配布した募集チラシを見て ● 幼稚園へ配布した募集チラシを見て ● フードパントリーでの情報交換 ● 保健所からの紹介 ● 市役所からの紹介

5-5 Q4 お子様とのつながりを円滑に開始するために、支援開始の直前・初回交流時に行った取組

「施設見学」の割合が最も高く66.5%となっている。次いで、「情報提供者との情報交換(52.8%)」、「体験来所(48.2%)」となっている。実際に通う場所を体感してイメージを具体化する支援だけでなく、関係機関との情報接続を意識している様子がうかがえる。

図表 5-5 Q4 お子様とのつながりを円滑に開始するために、支援開始の直前・初回交流時に行った取組



5-5-1 Q4 お子様とのつながりを円滑に開始するために、支援開始の直前・初回交流時に行った取組（その他）

主に、面談の設定や説明会の実施、下校時での声掛け、送迎、関係機関との連携や親子にとっての環境づくりなどが挙げられる。

図表 5-6 Q4 取組 その他

主な回答
<p>(面談の設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保護者との面談 ● 申請書提出時の面談 ● 3者面談(母、本人、担当者) ● 当施設にきょうだいが通っていたため、事前(入所前)に面談実施 <p>(説明会の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域包括支援センター担当者と事前説明会 ● 事前説明会 ● 行政及び地域包括支援センター担当同席のもと事業説明、入所前説明会も実施 <p>(声掛け)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 下校時での声かけ ● 前担当者が退職しているため不明 <p>(送迎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 兄姉が子ども第三の居場所に通所する中での送迎時での関わり <p>(関係機関との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 隣接の放課後児童クラブからの流れ(本人の興味・関心を持ち希望) ● こども園との情報交換 ● 学校との連携 ● 学校区の放課後児童クラブとの連携 ● アレルギー対応(研修と道具整備)、児童クラブ、学校との連携 ● 学校、児童クラブ、全ての関連機関とのケア会議 <p>(親子にとっての環境づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 親子でゆっくりすごせる環境づくり ● 春休み 2021年3月末に長めに体験利用をし、本人・ご家族が安心して過ごせる場所と確認(十分)してからの利用開始。

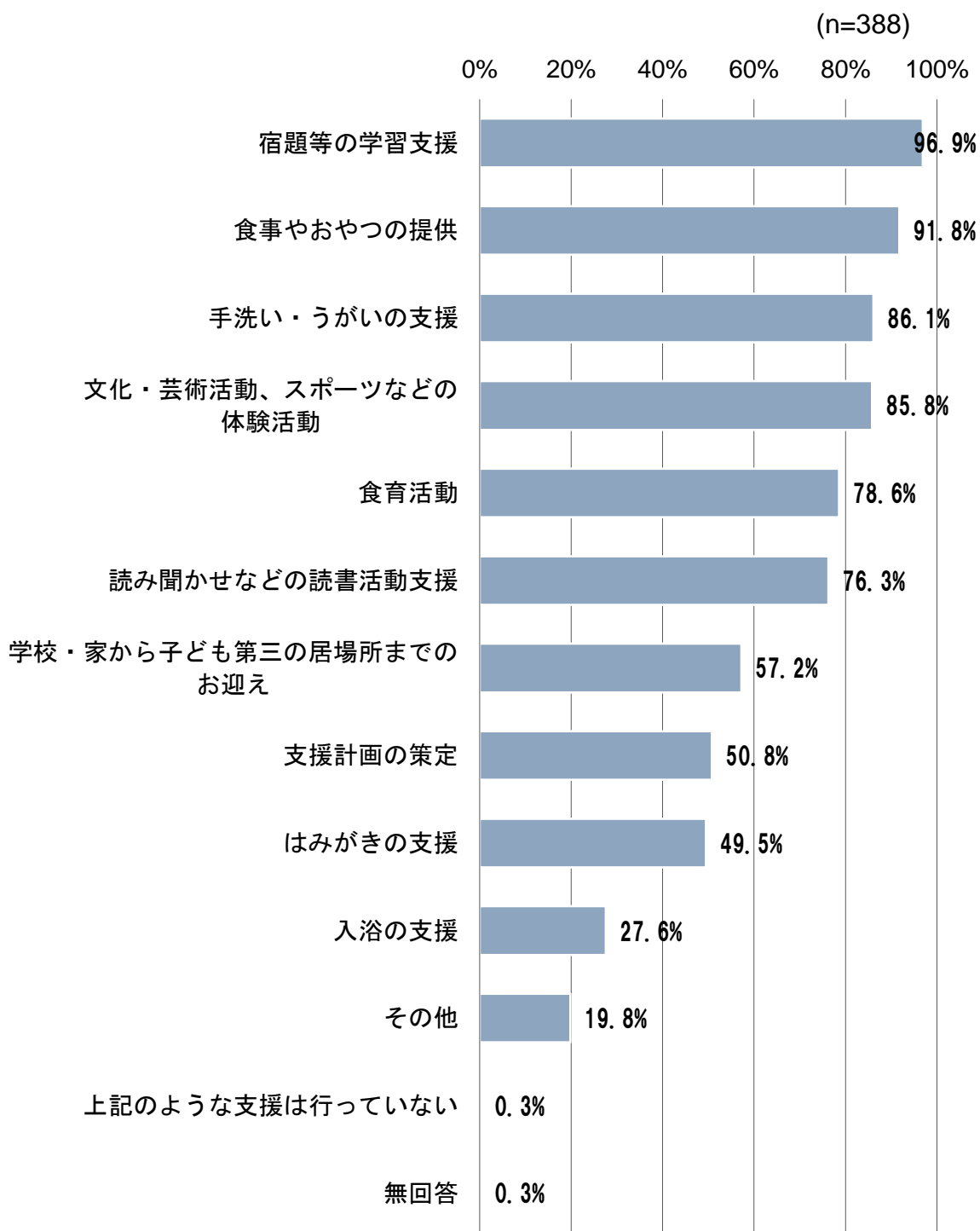
5-6 Q5 お子様に対して、利用開始後に行った支援

「宿題等の学習支援」の割合が最も高く96.9%となっている。次いで、「食事やおやつを提供(91.8%)」、「手洗い・うがいの支援(86.1%)」となっており、**いずれも9割近く**となっている。

一方で、「入浴の支援(27.6%)」は比較的少ないがそれでも1/3の拠点が行っている。

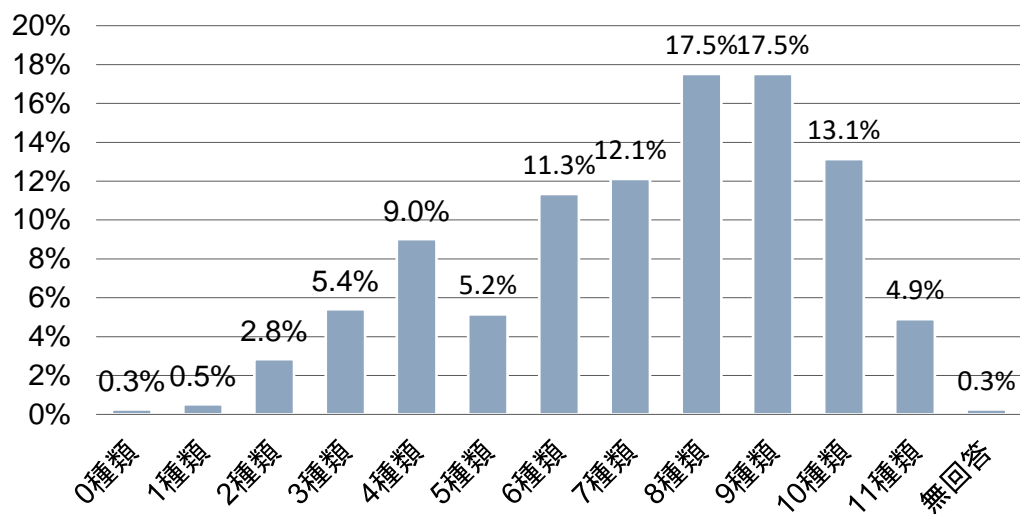
支援種類を合計すると、5種類以上の支援を行っている割合は全体の81.6%となっており、全体の8割以上となっている。また、**8種類以上の支援**を行っている割合は53.0%となっており、**全体の5割を超えている**。

図表 5-7 Q5 お子様に対して、利用開始後に行った支援



図表 5-8 Q5 お子様に対して、利用開始後に行った支援（支援種類の合計）

(n=388)



5-6-1 Q5 お子様に対して、利用開始後に行った支援 その他

主に送迎の支援のほか、生活習慣の支援、体験活動、コミュニケーション支援、外部機関との連携などが挙げられる。

図表 5-9 Q5 支援 その他

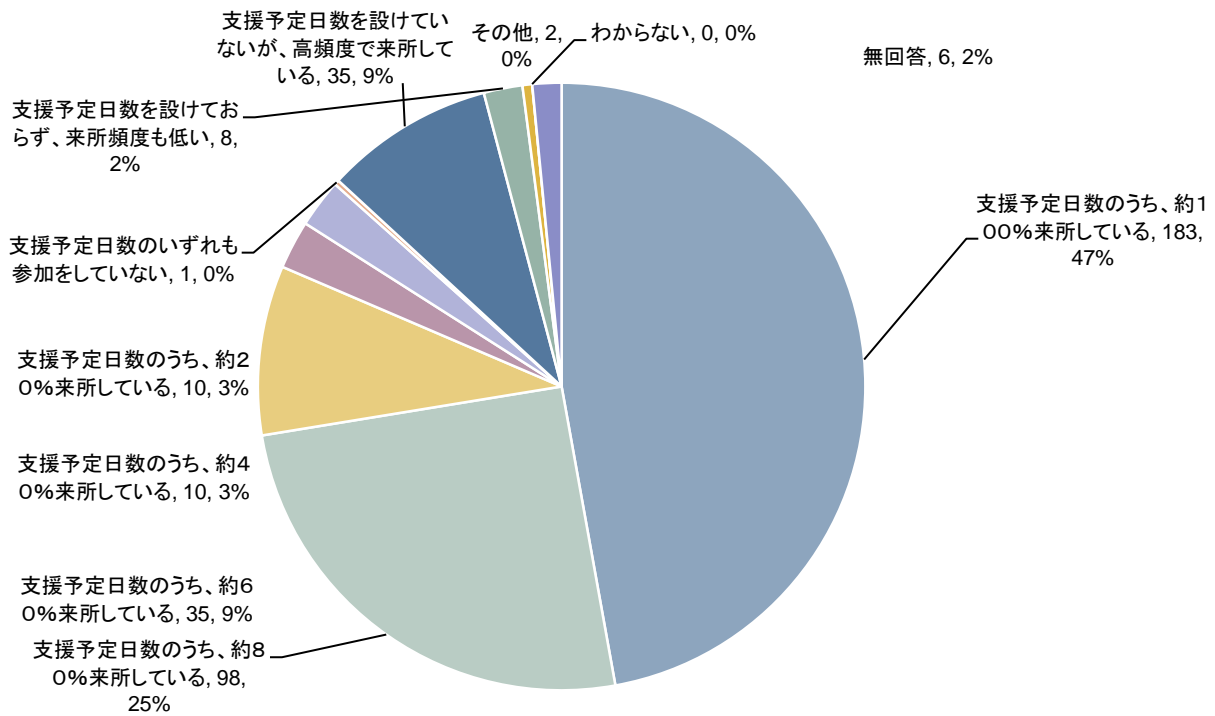
主な回答
(送迎の支援) <ul style="list-style-type: none">● 入学後 1 週間は校門までお迎えに行った● 子ども第三の居場所からスポーツクラブへの送迎● 自宅までの送迎(子ども第三の居場所から自宅まで)
(生活習慣の支援) <ul style="list-style-type: none">● ツメ切、髪切● ツメ切、耳そうじ、洗濯、下着、衣服、時間外の見守、髪切● 着がえ
(体験活動) <ul style="list-style-type: none">● 遊びを通じた交流● 職員と遊びを通じた交流● 役割分担活動(お世話系 etc)● 拠点独自企画「旅育体験」に参加する。● ニュースポーツ、旅育体験● 地域交流(シェア畑、季節の食材収穫)、近隣大学学生との活動、イベント・行事、当番、発表会 トイレ声かけ● 公共交通機関利用、買い物などの生活体験活動
(コミュニケーション支援) <ul style="list-style-type: none">● コミュニケーション支援(関わり方、言葉の使い方)● コミュニケーション(気持ちの切り替え支援)● コミュニケーション支援(考え方・表現)
(外部機関との連携) <ul style="list-style-type: none">● 支援学校の催しに、子ども第三の居場所スタッフが参加し話題を共有● 学校との連携● 関係者会議
(その他個別の支援) <ul style="list-style-type: none">● 不登校に関する支援● 考え方支援(気持ちの切り替え)● コンプレックス克服● ゲームから離す支援、保護者への信頼をとり戻す支援● リーダーとしての取りくみ● 個別支援(スーパーバイズ)

5-7 Q6 支援を行うことになった計画日数のうち、直近の1か月の利用状況

「支援予定日数のうち、約100%来所している」の割合が最も高く47.2%となっている。次いで、「支援予定日数のうち、約80%来所している(25.3%)」、「支援予定日数を設けていないが、高頻度で来所している(9.0%)」となっており、全体として来所頻度は非常に高いことが分かる。

図表 5-10 Q6 支援を行うことになった計画日数のうち、直近の1か月の利用状況

(n=388)



5-7-1 Q6 利用状況 その他

「長期休みのみ利用」のほか、「不登校と精神不安定で不規則」、「週1日は療育機関(施設)の利用あり。子ども第三の居場所と併用している。」といった回答がある。

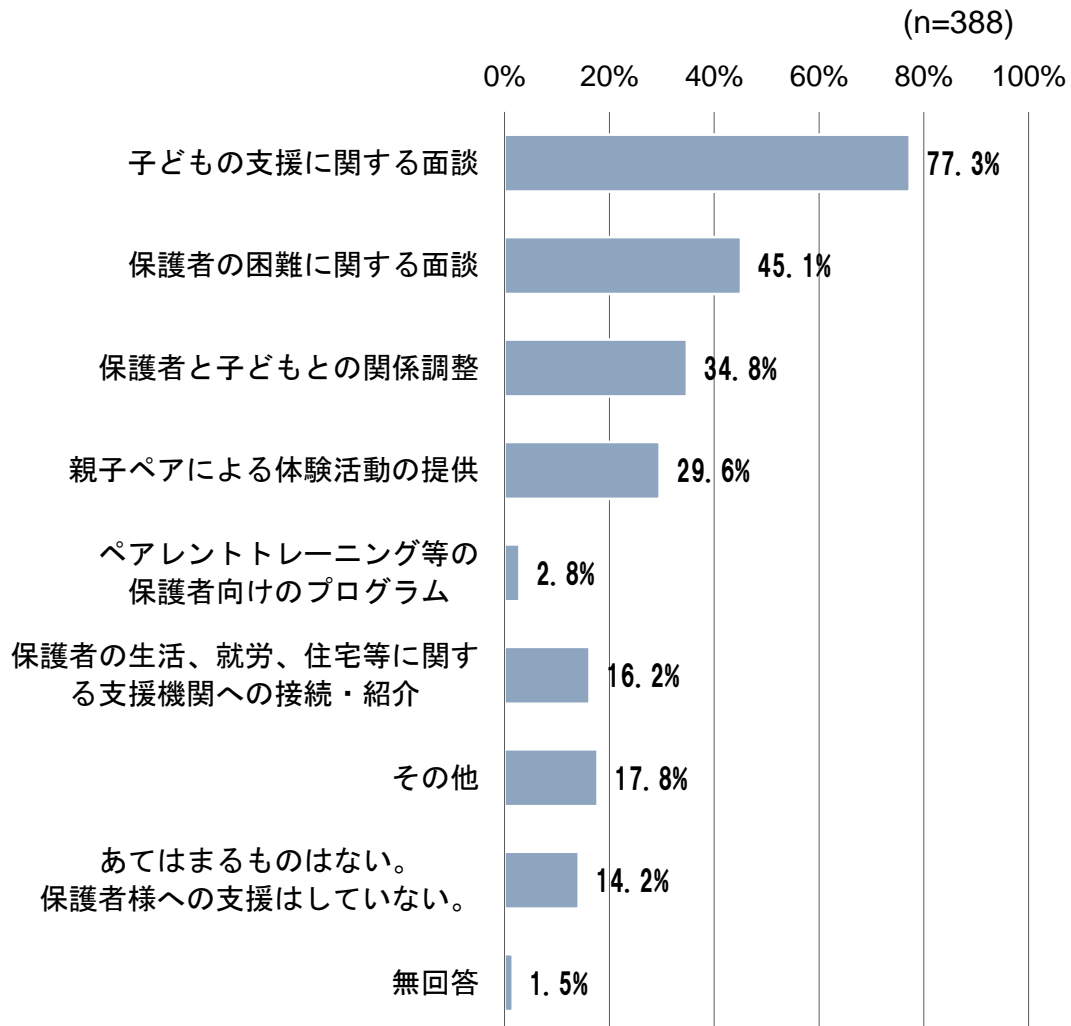
図表 5-11 Q6 利用状況 その他

自由回答
<ul style="list-style-type: none"> ● 週1日は療育機関(施設)の利用あり。子ども第三の居場所と併用している。 ● 長期休みのみ利用 ● 不登校と精神不安定で不規則

5-8 Q7 お子様への支援期間中に行った、保護者様に対する支援

「子どもの支援に関する面談」の割合が最も高く77.3%となっている。次いで、「保護者の困難に関する面談(45.1%)」、「保護者と子どもとの関係調整(34.8%)」となっている。「あてはまるものはない/保護者様への支援はしていない」の割合は約14%にとどまり、拠点を利用する子どもの8割以上の保護者が支援を受けていることが分かる。

図表 5-12 Q7 お子様への支援期間中に行った、保護者様に対する支援



図表 5-13 Q7 保護者様に対する支援 その他

主な回答
<p>(個別の支援活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの将来に関する支援 ● 不登校に関する支援 ● 親子で食事、発達支援(我子)に関する資料の提供 <p>(説明会の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保護者会、入所説明会 <p>(保護者とのコミュニケーション、子どもの様子の伝達)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの様子を伝達(迎えのとき) ● 迎えでの子どもの様子の伝達 ● 子どもの日常生活の様子を伝える。 ● 親も知らなかったピアノ演奏を拠点の利用で発覚 ● 保護者との日常的な会話 ● お迎え時、保護者と日常会話。子どものクラブでの様子など話をする。 <p>(外部機関との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校連携 相談員連携 ● 子どもの家庭での様子把握、施設での様子共有(個人面談) ● 家庭での子どもの様子把握、施設での様子共有(個人面談) ● センターとの連携 ● センターとの情報交換することで、センターからおうかがいをたてている ● センターとの情報交換により、センターが保護者におうかがい(アレルギー状況受診) ● ケア会議に出席し、直接のアプローチはさけている <p>(相談機会の設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電話相談実施 ● 子育て世代包括支援センターと月1回の情報交換会、保護者とも随時連絡をもつ <p>(食材の提供の支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 食材支援 ● 食材支援・病院同行支援 <p>(兄弟の関係の調整)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 兄弟との関係調整

6 拠点マネージャーによる拠点共通調査の概要・結果

6-1 拠点マネージャーによる拠点共通調査の概要

図表 6-1 拠点マネージャーによる拠点共通調査概要

調査対象	「子ども第三の居場所」支援拠点(開所1年以上経過している拠点で半年以上通う子ども別)	
調査期間	2021年12月10日(金)発送～2022年2月7日(月)到着分までを集計	
調査項目	全10問の質問を設定し、支援拠点の人員規模、子ども・保護者の困難の状況、効果的な支援を継続するための諸条件、「子ども第三の居場所」支援が行政移管された際に感じる期待・懸念、今後行政機関や日本財団に求めることについて、意見を聞いた。	
	設問番号	調査項目
	拠点共通 Q1	スタッフの構成人数と主な役割
	拠点共通 Q2	支援持続に必要な条件
	拠点共通 Q3	効果的な支援を継続していくために今後も必要と考えられる連携先の機関
	拠点共通 Q4	効果的な支援を継続していくために今後も必要と考えられる連携先の協力内容
	拠点共通 Q5	所属している子ども第三の居場所拠点は、現在行政移管されているか
	拠点共通 Q6	今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる期待
	拠点共通 Q7	今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる懸念
	拠点共通 Q8	子ども・保護者が抱える状況
	拠点共通 Q9	支援を開始しようとした際にできなかった理由
	拠点共通 Q10	行政機関：日本財団に対する要望
有効回答数	有効回答数:32件	

6-2 スタッフの構成人数と役割

6-2-1 総括

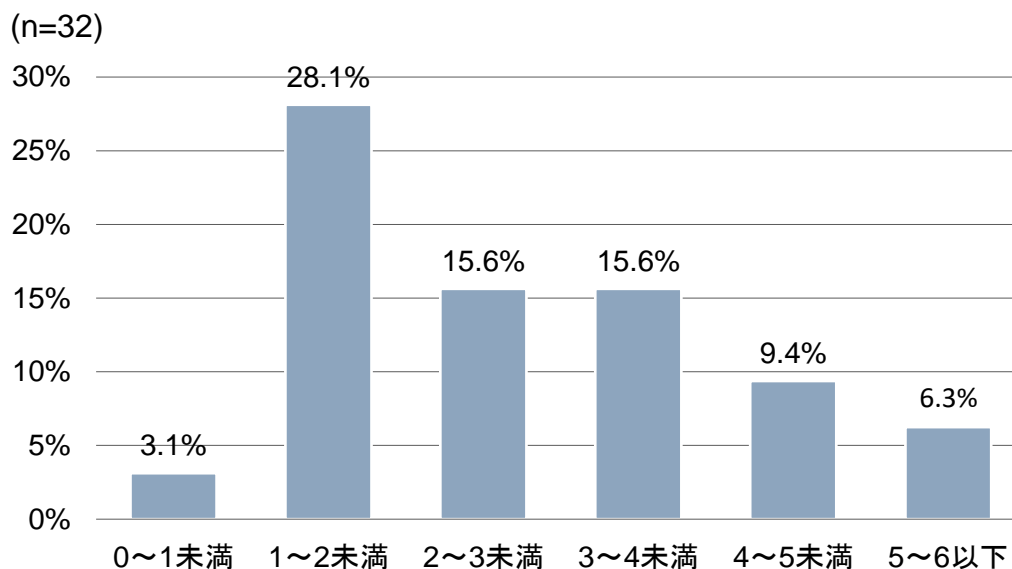
図表 6-2 Q1 スタッフ人員数の総括

雇用形態別に見た特徴
<ul style="list-style-type: none">■ 雇用形態で拠点当たりの平均人数が最も多いのは、パート・アルバイト(5.9人)となっており、次いで「地域ボランティアスタッフ(4.8人)、学生ボランティアスタッフ(4.0人)となっている。このことから、人員体制的に、雇用としてはパート・アルバイトに大きく依存しているほか、雇用関係にないボランティアスタッフが多く在籍していることが分かる。
専門資格別に見た特徴
<ul style="list-style-type: none">■ 専門資格保有者として1拠点当たりの平均人数が最も多いのは、契約社員として働く「社会福祉士」と「看護師」、地域ボランティアスタッフとして働く「臨床心理士」、「看護師」であるが、いずれも1拠点当たりの平均人数が1.0人であり、いずれの雇用形態においても、専門職員の最大値は1人を超えない。■ 拠点全体においては、常勤職員・契約社員での社会福祉士や、契約社員での看護師が雇用されているものの、各雇用形態別の職員の合計人数の中での割合は非常に少ない。このことから、拠点には専門資格を持つ職員が非常に少ないことが分かる。

6-2-2 Q1-1 常勤職員

常勤職員のうち、合計人数については平均値 2.2 人、最小値 0 人、最大値 5 人、標準偏差 1.4 となっている。専門資格については、社会福祉士の割合が最も高く、拠点全体の常勤職員 56 名のうち、5 名 (8.9%) となっている。

図表 6-3 Q1-1-1 常勤職員：合計人数（単位：人）



※無回答の割合は 21.9%であった。

図表 6-4 Q1-1-1～Q1-5-6 常勤職員（専門職含む）

	合計値	割合	平均値	中央値	最小値	最大値	標準偏差
合計人数	56	100.0%	2.2	2	0	5	1.4
社会福祉士	5	8.9%	0.8	1	0	1	0.4
臨床心理士	0	0.0%	0.0	0	0	0	-
作業療法士	0	0.0%	0.0	0	0	0	-
看護師	0	0.0%	0.0	0	0	0	-
保健師	0	0.0%	0.0	0	0	0	-

6-2-3 Q1-1-7 常勤職員：主な役割

常勤職員の主な役割としては、マネージャー、統括マネージャーのほか、業務全般の担当・統括、支援員・支援系の業務担当、外部連携といった役割があることが分かる。

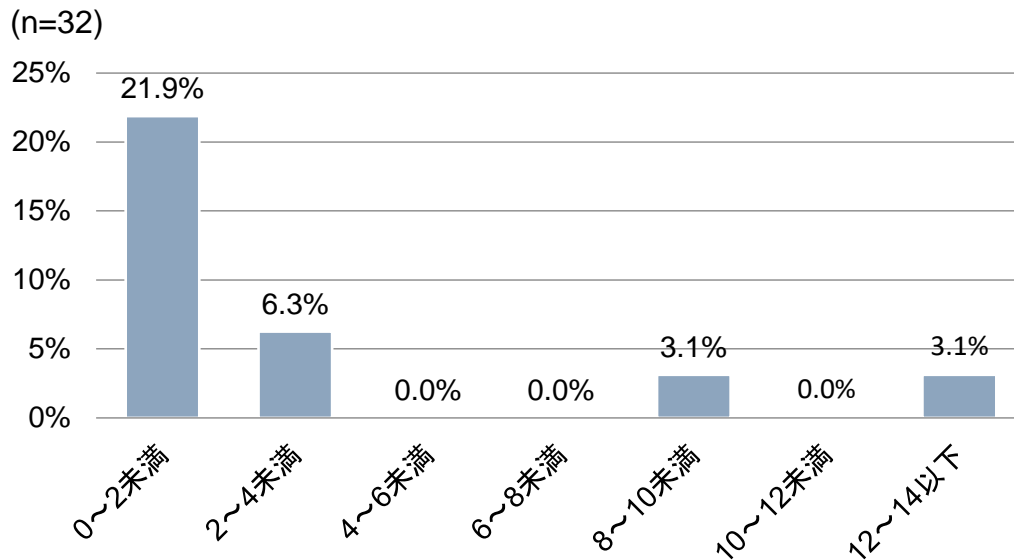
図表 6-5 Q1-1-7 常勤職員：主な役割

自由回答
<p>(マネージャー、統括マネージャー)</p> <ul style="list-style-type: none">● 統括マネージャー● マネージャー1名 他スタッフ3名● マネージャー 経理担当者● ①マネージャー ②事務、子ども対応 ③行事、子ども対応● マネージャー● マネージャー2人・業務の総括(人事・予算・勤務シフト・支援活動計画・送迎計画・献立)● マネージャーとして、運営全般や外部との連携、子どもの支援など● 外部マネージャー(渉外)×1、内部マネージャー(子ども対応)×1● 施設長
<p>(業務全般の担当・統括)</p> <ul style="list-style-type: none">● トータルコーディネーター、経理、事務、学習支援● 事業の統括、事務・経理処理、関係機関の調整● ①経営責任者 ②拠点マネージャー ③常勤スタッフ
<p>(支援員・支援系の業務担当)</p> <ul style="list-style-type: none">● 施設責任者、放課後児童支援員● 児童支援、事務● 放課後児童支援員● 支援員● 支援提供、計画作成、利用記録の作成● 児童及び保護者支援、施設運営管理
<p>(外部連携)</p> <ul style="list-style-type: none">● 子ども対応、外部連携

6-2-4 Q1-2-1 契約社員

契約社員の合計人数は、平均値 2.6 人、最小値 0.0 人、最大値 13.0 人、標準偏差 4.2 となっている。専門資格については、社会福祉士の割合が最も高く、拠点全体の契約社員 29 名のうち、2 名 (6.9%) となっている。次いで、看護師 (1 名、3.4%) となっている。

図表 6-6 Q1-2-1 契約社員：合計人数（単位：人）



※無回答の割合は、65.6%であった。

図表 6-7 Q1-2-1～Q1-2-6 契約社員（専門職含む）

	合計値	割合	平均値	中央値	最小値	最大値	標準偏差
合計人数	29	100.0%	2.6	1	0	13	4.2
社会福祉士	2	6.9%	1.0	1	1	1	0.0
臨床心理士	0	0.0%	-	-	0	0	-
作業療法士	0	0.0%	-	-	0	0	-
看護師	1	3.4%	1.0	1	1	1	-
保健師	0	0.0%	-	-	0	0	-

6-2-5 Q1-2-7 契約社員：主な役割

契約社員の主な役割としては、常勤職員と同様の「拠点マネージャー業務」のほか、居場所運営の環境設定、おやつ準備、記録、子ども支援、イベントの企画実施が挙げられる。

さらに、契約社員として主任指導員・副主任指導員、児童クラブ指導員、保育士、児童厚生員、消毒・清掃員、放課後児童支援員など多様な関係者が従事していることが分かる。

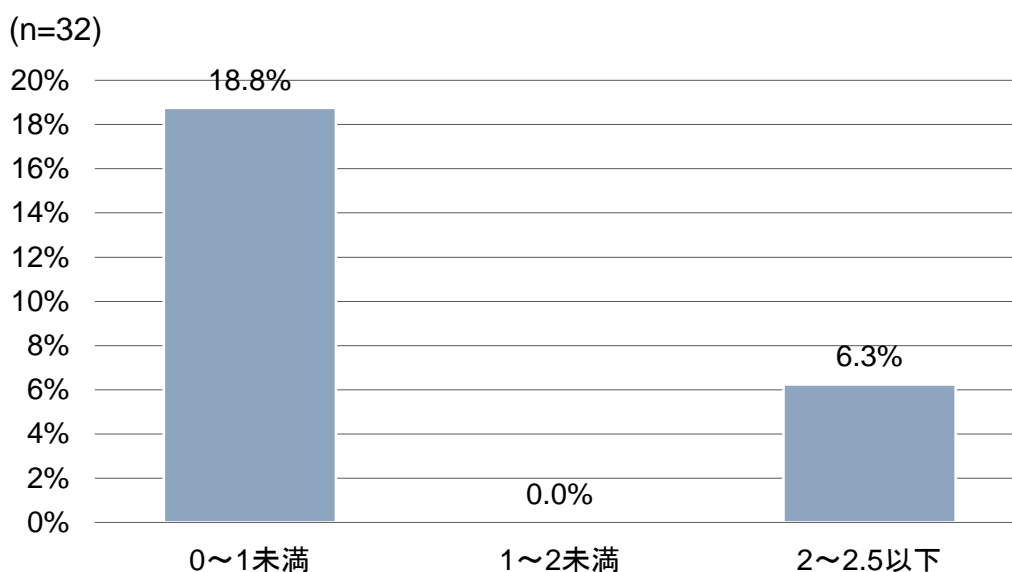
図表 6-8 Q1-2-7 契約社員：主な役割

自由回答
<ul style="list-style-type: none"> ● 居場所運営の環境設定、おやつ準備、記録など ● 主任指導員・副主任指導員 各 1 名、児童クラブ指導員 3 名、保育士 1 名、児童厚生員 1 名、消毒・清掃員 1 名 ● ・放課後児童支援員 ● 子ども支援、イベントなどの企画実施 ● 拠点マネージャー業務

6-2-6 Q1-3-7 派遣スタッフ

派遣スタッフのうち、合計人数については平均 0.5 人、最小値 0 人、最大値 2 人、標準偏差 0.9 となっている。専門資格については、いずれも 0 人となっている。

図表 6-9 Q1-3-1 派遣スタッフ：合計人数（単位：人）



※無回答の割合は、75.0%であった。

図表 6-10 Q1-3-1~Q1-3-6 派遣スタッフ（専門職含む）

	合計値	割合	平均値	中央値	最小値	最大値	標準偏差
合計人数	4	100.0%	0.5	0	0	2	0.9
社会福祉士	0	0.0%	-	-	0	0	-
臨床心理士	0	0.0%	-	-	0	0	-
作業療法士	0	0.0%	-	-	0	0	-
看護師	0	0.0%	-	-	0	0	-
保健師	0	0.0%	-	-	0	0	-

6-2-7 Q1-3-7 派遣スタッフ：主な役割

派遣スタッフの主な役割としては、子どもや保護者の支援相談のほか、実際の支援活動とその運営支援が挙げられている。

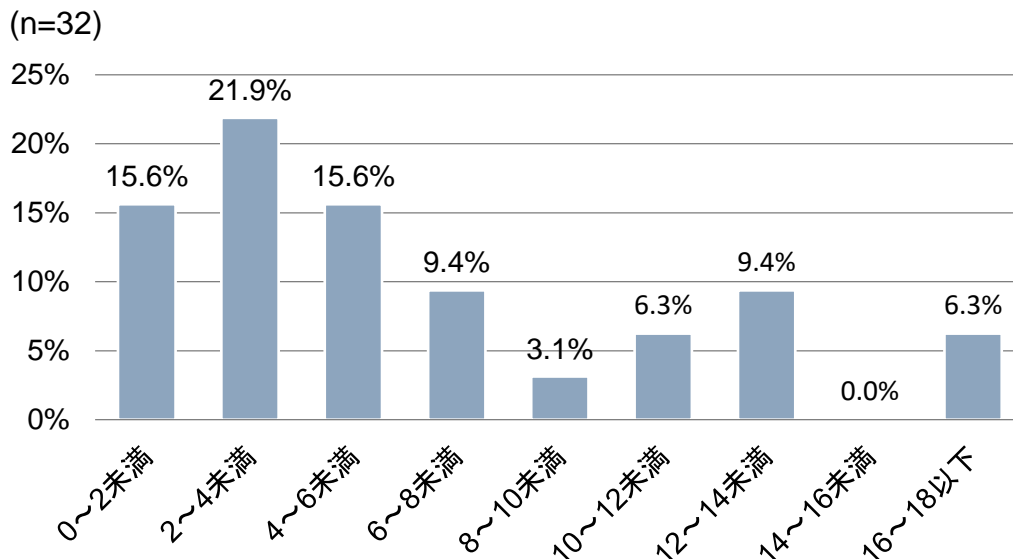
図表 6-11 Q1-3-7 派遣スタッフ：主な役割

自由回答
<ul style="list-style-type: none"> ● こども支援相談、保護者支援相談 ● 児童支援、運営支援

6-2-8 Q1-4-1 パート・アルバイト

平均値 5.9 人、最小値 0.0 人、最大値 17.0 人、標準偏差 4.8 となっている。また、拠点あたりの平均人数が比較的高いのは社会福祉士、看護師、保健師であり、それぞれ、2 名(1.2%)、2 名(1.2%)、1 名(0.6%)となっている。契約社員についても社会福祉士の在籍人数の平均が高いことを踏まえると、専門資格について特に**看護師、保健師はパート・アルバイトに依存している**と考えられる。

図表 6-12 Q1-4-1 パート・アルバイト：合計人数（単位：人）



※無回答の割合は、12.5%であった。

図表 6-13 Q1-4-1~Q1-4-6 パート・アルバイト（専門職含む）

	合計値	割合	平均値	中央値	最小値	最大値	標準偏差
合計人数	165	100.0%	5.9	4	0	17	4.8
社会福祉士	2	1.2%	0.7	1	0	1	0.6
臨床心理士	0	0.0%	0.0	0	0	0	-
作業療法士	0	0.0%	0.0	0	0	0	-
看護師	2	1.2%	0.7	1	0	1	0.6
保健師	1	0.6%	0.5	0.5	0	1	0.7

6-2-9 Q1-4-7 パート・アルバイト：主な役割

パート・アルバイトの主な役割としては、支援員やその補助のほか、マネージャー業務、施設管理や事務、調理などが挙げられる。

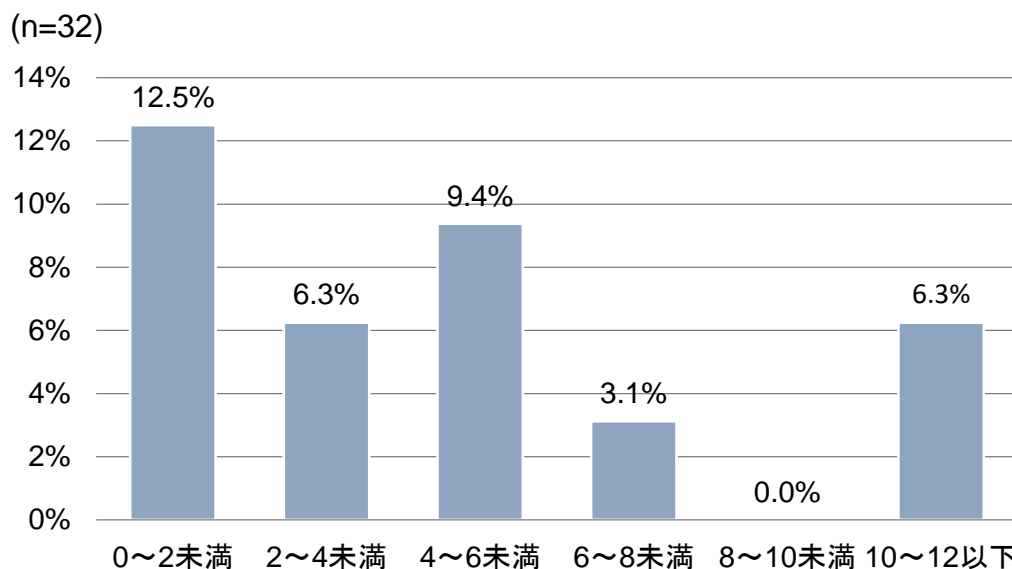
図表 6-14 Q1-4-7 パート・アルバイト：主な役割

主な回答
(支援員やその補助) <ul style="list-style-type: none">● 生活・学習支援 ・マネージャー(内部) ・調理 ・管理栄養師 ・送迎● 生活・学習支援スタッフ● 支援員● 児童支援員● 支援員補助者● 食育・子ども支援(補助)● 児童生徒への学習支援● 児童送迎、児童支援補助● (主に大学生)子ども個別の支援(支援計画にもとづく)
(マネージャー) <ul style="list-style-type: none">● 拠点マネージャー1 支援員 3● 子ども対応
(施設管理・事務系) <ul style="list-style-type: none">● 学習サポート、運営補助マネージャー 1名、支援員 3名● 児童の活動支援・食事の調理・児童の送迎● (施設管理、事務)● 子ども対応、SV、会計、事務
(調理) <ul style="list-style-type: none">● 調理スタッフ、子どもの支援● 調理×1、子ども対応×4 学習支援、カフェ運営● 常勤職員の補助、調理

6-2-10 Q1-5-1 学生ボランティアスタッフ

平均値 4.0 人、最小値 0.0 人、最大値 11.0 人、標準偏差 3.6 となっている。専門資格については、いずれも 0 名となっている。

図表 6-15 Q1-5-1 学生ボランティアスタッフ：合計人数（単位：人）



※無回答の割合は、62.5%であった。

図表 6-16 Q1-5-1～Q1-5-6 学生ボランティアスタッフ（専門職含む）

	合計値	割合	平均値	中央値	最小値	最大値	標準偏差
合計人数	48	100.0%	4.0	3.5	0	11	3.6
社会福祉士	0	0.0%	-	-	0	0	-
臨床心理士	0	0.0%	-	-	0	0	-
作業療法士	0	0.0%	-	-	0	0	-
看護師	0	0.0%	-	-	0	0	-
保健師	0	0.0%	-	-	0	0	-

6-2-11 Q1-5-7 学生ボランティアスタッフ：主な役割

学生ボランティアの主な役割は、学習支援や子ども対応が挙げられている。

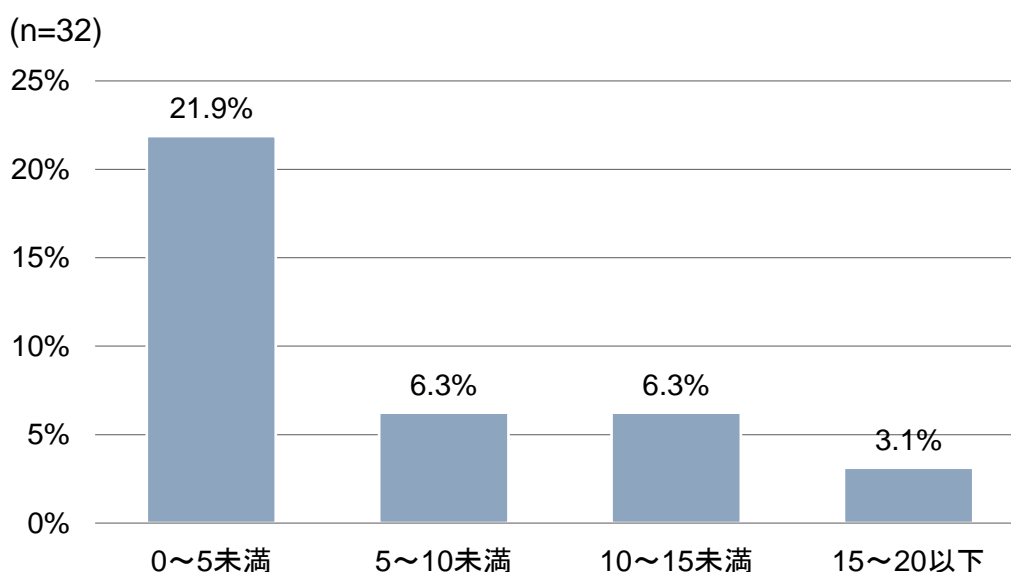
図表 6-17 Q1-5-7 学生ボランティアスタッフ：主な役割

主な回答
(学習支援)
● ・生活、学習支援 ・イベントサポート
● 学習支援サポート
● 学習支援
(子ども対応)
● 子どもとの関わり・見守り
● 子ども対応
● あそびの対応 夕食・おやつの調理
(その他)
● 長期休暇のみ

6-2-12 Q1-6-1 地域ボランティアスタッフ

平均値 4.8 人、最小値 0.0 人、最大値 18.0 人、標準偏差 5.6 となっている。専門資格については、臨床心理士、看護師の割合が最も高く、拠点全体の地域ボランティア 58 名のうち、1 名 (1.7%) となっている。

図表 6-18 Q1-6-1 地域ボランティアスタッフ：合計人数（単位：人）



※無回答の割合は、62.5%であった。

図表 6-19 Q1-6-1 地域ボランティアスタッフ：合計人数

	合計値	割合	平均値	中央値	最小値	最大値	標準偏差
合計人数	58	100.0%	4.8	2	0	18	5.6
社会福祉士	0	0.0%	-	-	0	0	-
臨床心理士	1	1.7%	1.0	1	1	1	-
作業療法士	0	0.0%	-	-	0	0	-
看護師	1	1.7%	1.0	1	1	1	-

保健師	0	0.0%	-	-	0	0	-
-----	---	------	---	---	---	---	---

6-2-13 Q1-6-7 地域ボランティアスタッフ：主な役割

地域ボランティアスタッフとしては、生活・学習支援や調理活動が挙げられている。

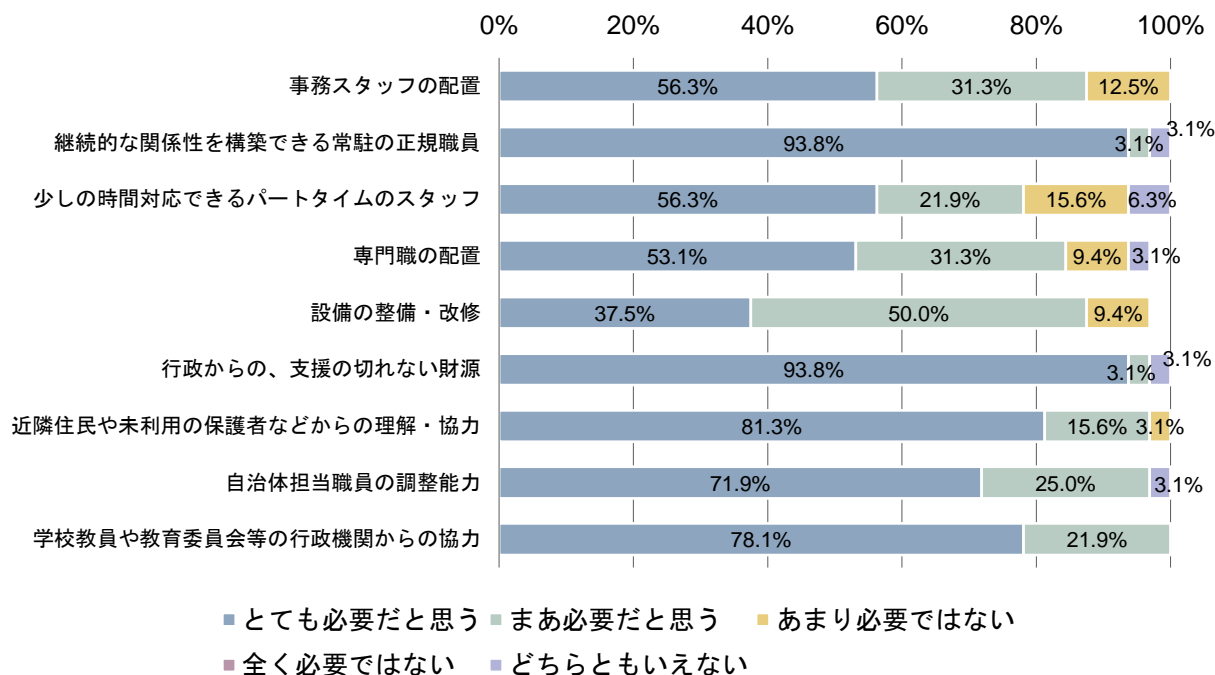
図表 6-20 Q1-6-7 地域ボランティアスタッフ：主な役割

主な回答
<p>(生活・学習支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ・生活支援 ・イベントサポート ● 学習、生活サポート ● 施設管理補助(お当番さん)、学習支援サポート ● 学習支援、カフェ運営 ● 児童支援補助 ● 家庭教育等の支援を行う <p>(調理活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 調理活動 ● あそびの対応 夕食・おやつ調理

6-3 Q2 支援持続に必要な条件

各項目全般的に、「とても必要だと思う」が最も多い割合となっている。中でも、「継続的な関係性を構築できる常駐の正規職員」、「行政からの、支援の切れない財源」、「近隣住民や未利用の保護者などからの理解・協力」、「自治体担当職員の調整能力」、「学校教員や教育委員会等の行政機関からの協力」は「とても必要だと思う」「まあ必要だと思う」が9割5分を超えており、ほとんどの拠点において必須と考えていることが分かる。

図表 6-21 Q2 支援持続に必要な条件



※0%部分は記載していない

6-3-1 Q2 支援持続に必要な条件：その他（J）

支援持続に必要な条件として、その他で挙げられたものは、「送迎専門スタッフ」が挙げられている。

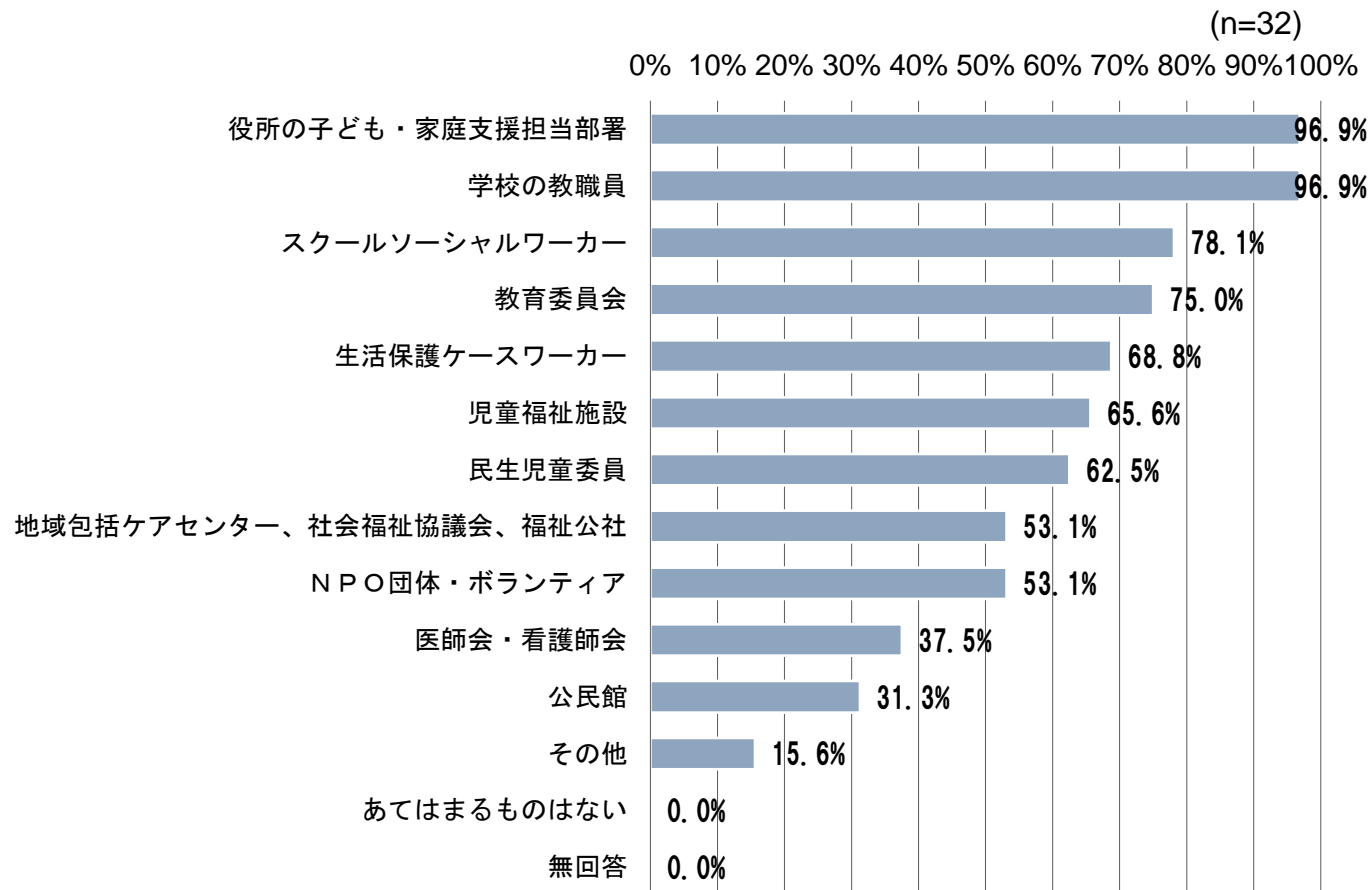
図表 6-22 Q2J 支援持続に必要な条件：その他

主な回答
● 送迎専門スタッフ

6-4 Q3 効果的な支援を継続していくために今後も必要と考えられる連携先の機関

「役所の子ども・家庭支援担当部署」、「学校の教職員」の割合が高く、それぞれ 96.9%となっている。次いで、「スクールソーシャルワーカー(78.1%)」、「教育委員会(75.0%)」となっている。

図表 6-23 Q3 効果的な支援を継続していくために今後も必要と考えられる連携先の機関



6-4-1 Q3 効果的な支援を継続していくために今後も必要と考えられる連携先の機関 その他

効果的な支援を継続していくために今後も必要と考えられる連携先の機関として、その他に挙げられたのは、市役所等が挙げられた。

図表 6-24 Q3 連携先の機関 その他

主な回答
● 市役所、人権推進科(女性子ども相談室)等との連携
● 地域住民、学生アルバイト、ボランティア
● 放課後児童クラブ、放課後デイ、児童館
● 民間企業
● 地域住民

6-4-2 Q3 効果的な支援を継続していくために今後も必要と考えられる連携先の機関（行政移管別）

本調査では行政移管されている拠点は32拠点中4拠点到留まったため、比較結果を一概に捉えることはできないが、平均と20%以上ずれがある部分は色付けを行っている。(20%以上高いところは赤色、20%以上低いところは青色としている。)

その結果、行政移管されている拠点では、生活保護ケースワーカーや地域包括支援センター等、保護者の支援に関連する機関が高い傾向がうかがえる。

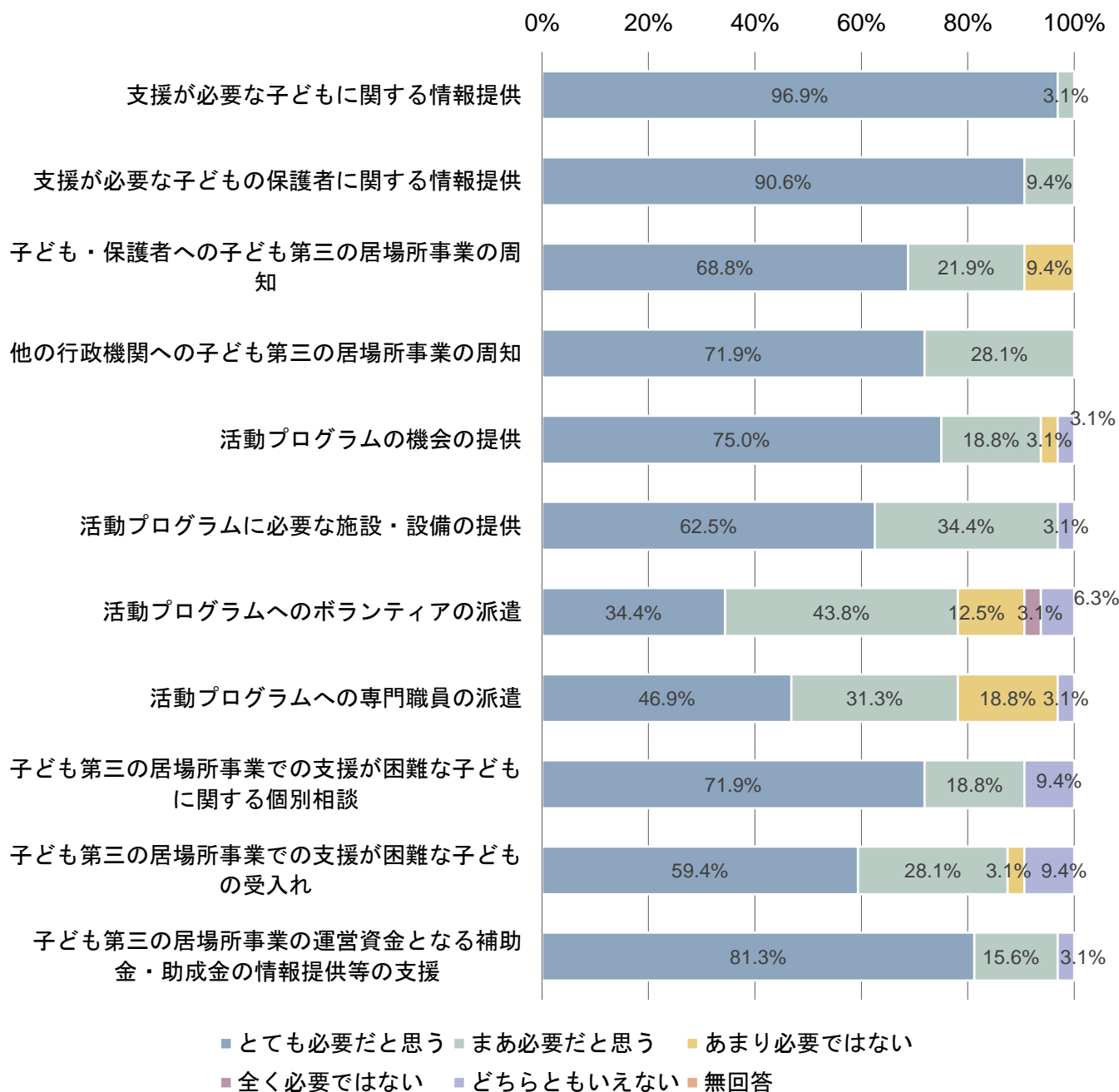
図表 6-25 拠共 Q3 と行政移管別（拠共 Q5）クロス

	合計	役所の子ども・家庭支援担当部署	教育委員会	地域包括ケアセンター、社会福祉協議会、福祉公社	児童福祉施設	学校の教職員	スクールソーシャルワーカー	民生児童委員	生活保護ケースワーカー	公民館	NP O団体・ボランティア	医師会・看護師会	その他	あてはまるものはない	無回答
Total	32	31	24	17	21	31	25	20	22	10	17	12	5	0	0
	100.0	96.9	75.0	53.1	65.6	96.9	78.1	62.5	68.8	31.3	53.1	37.5	15.6	0.0	0.0
行政移管がされている	4	4	2	3	3	4	3	3	4	0	3	1	0	0	0
	100.0	100.0	50.0	75.0	75.0	100.0	75.0	75.0	100.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
行政移管がされていない	28	27	22	14	18	27	22	17	18	10	14	11	5	0	0
	100.0	96.4	78.6	50.0	64.3	96.4	78.6	60.7	64.3	35.7	50.0	39.3	17.9	0.0	0.0

6-5 Q4 効果的な支援を継続していくために、今後も必要と考えられる連携先との協力内容

効果的な支援を継続していくために、今後も必要と考えられる連携先との協力内容としては、全ての項目において必要であると考えている割合が高い。特に、「支援が必要な子どもに関する情報提供」、「支援が必要な子どもの保護者に関する情報提供」、「子ども・保護者への子ども第三の居場所事業の周知」、「他の行政機関への子ども第三の居場所事業の周知」、「活動プログラムの機会の提供」、「活動プログラムへの専門職員の派遣」、「子ども第三の居場所事業での支援が困難な子どもに関する個別相談」、「子ども第三の居場所事業での支援が困難な子どもの受入れ」、「子ども第三の居場所事業の運営資金となる補助金・助成金の情報提供等の支援」について、「とても必要だと思う」「まあ必要だと思う」が約9割の拠点が必要と考えていることが分かる。

図表 6-26 Q4 連携先との協力内容

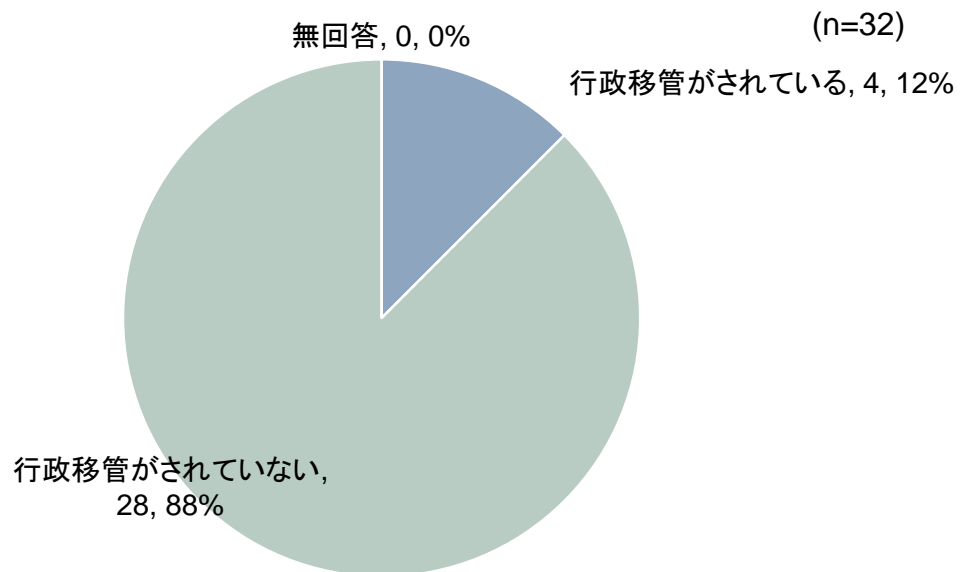


※0%部分は記載していない

6-6 Q5 所属する子ども第三の居場所拠点は、現在行政移管されているか

「行政移管がされていない」の割合が最も高く87.5%となっている。次いで、「行政移管がされている(12.5%)」となっている。

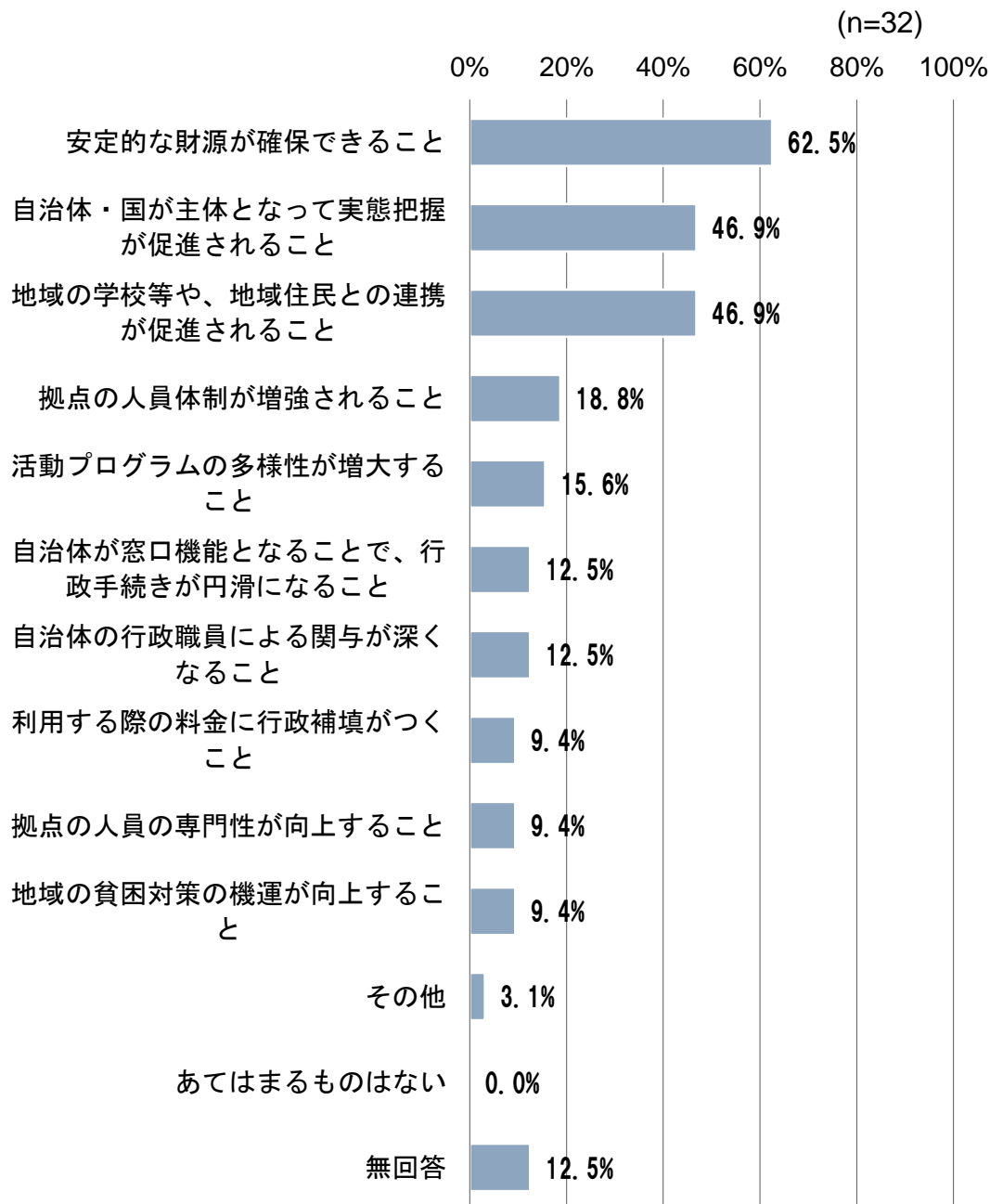
図表 6-27 Q5 所属する子ども第三の居場所拠点は、現在行政移管されているか



6-7 Q6 今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる期待

「安定的な財源が確保できること」の割合が最も高く62.5%となっている。次いで、「自治体・国が主体となって実態把握が促進されること(46.9%)」、「地域の学校等や、地域住民との連携が促進されること(46.9%)」、「拠点の人員体制が強化されること(18.8%)」となっている。

図表 6-28 Q6 今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる期待



6-7-1 Q6 将来的に行政移管される場合を感じる期待：その他

将来的に行政移管される場合を感じる期待として、その他には「貧困対策の青図を民間もいれて描く、既存の施策の整理」が挙げられている。

図表 6-29 Q6 今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる期待：その他

自由回答
● 貧困対策の青図を民間もいれて描く、既存の施策の整理

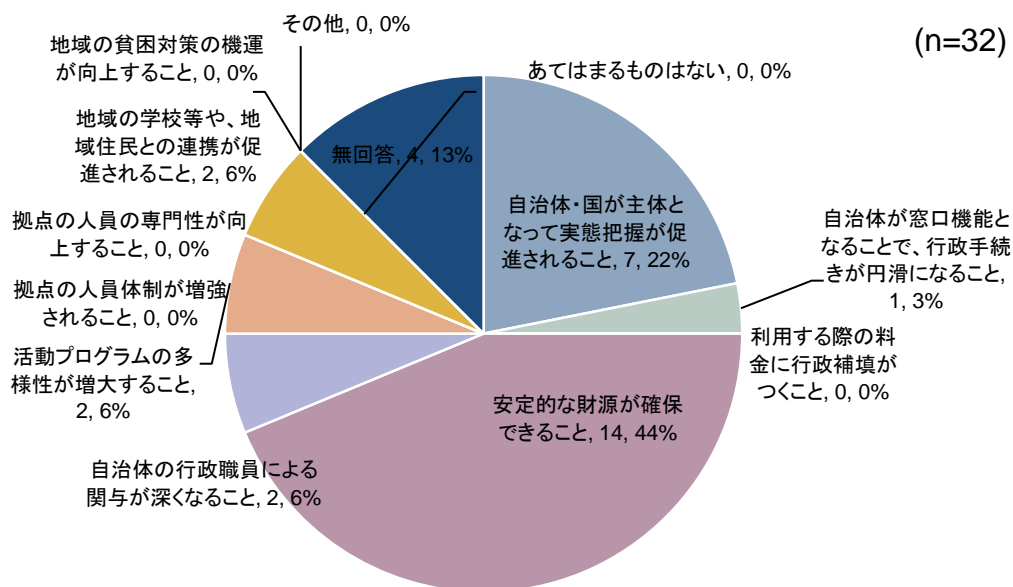
6-7-2 Q6 今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる期待（1位～3位別）

1位は、「安定的な財源が確保できること」の割合が最も高く43.8%となっている。次いで、「自治体・国が主体となって実態把握が促進されること(21.9%)」、「自治体の行政職員による関与が深くなること(6.3%)」、「活動プログラムの多様性が増大すること(6.3%)」、「地域の学校等や、地域住民との連携が促進されること(6.3%)」となっている。

2位は、「地域の学校等や、地域住民との連携が促進されること」の割合が最も高く25.0%となっている。次いで、「拠点の人員体制が増強されること(18.8%)」、「自治体・国が主体となって実態把握が促進されること(15.6%)」となっている。

3位は、「地域の学校等や、地域住民との連携が促進されること」の割合が最も高く15.6%となっている。次いで、「自治体・国が主体となって実態把握が促進されること(9.4%)」、「利用する際の料金に行政補填がつくこと(9.4%)」、「安定的な財源が確保できること(9.4%)」、「拠点の人員の専門性が向上すること(9.4%)」、「地域の貧困対策の機運が向上すること(9.4%)」、「活動プログラムの多様性が増大すること(6.3%)」となっている。

図表 6-30 Q6-1 今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる期待：1位



6-7-3 今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる期待：1位（行政移管別）

本調査では行政移管されている拠点は32拠点中4拠点到留まったため、比較結果を一概に捉えることはできないが、平均と20%以上ずれがある部分は色付けを行っている。(20%以上高いところは赤色としている。)

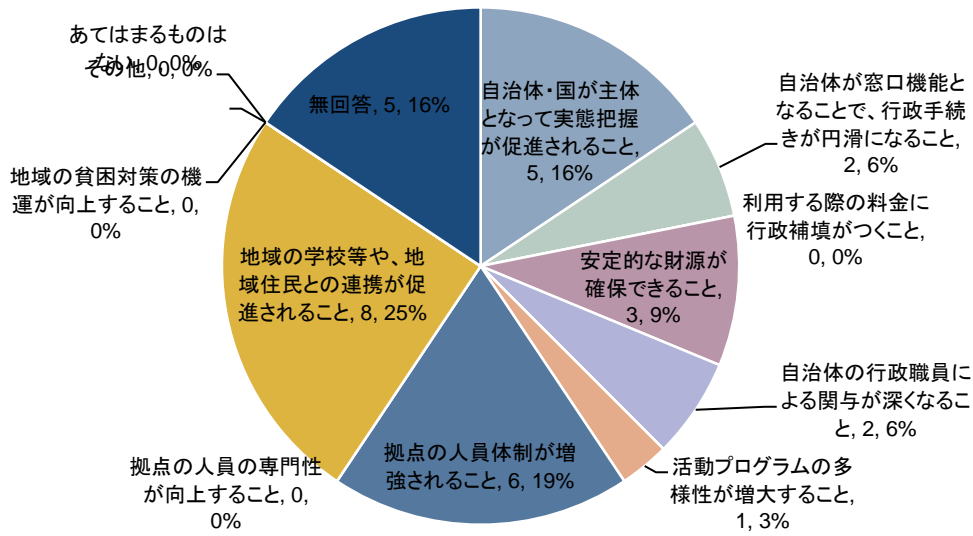
その結果、行政移管される拠点では行政による実態把握に期待を感じている様子がうかがえる。

図表 6-31 今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる期待：1位（行政移管別）

	合計	自治体・国が主体となって実態把握が進まると	自治体が窓口機能となることで、行政手続きが円滑になること	利用する際の料金に行政補填がつかうこと	安定的な財源が確保できること	自治体の行政職員による関与が深くなること	活動プログラムの多様性が増大すること	拠点の人員体制が強化されること	拠点の人員の専門性が向上すること	地域の学校等や、地域住民との連携が進められること	地域の貧困対策の機運が向上すること	その他	あてはまるものはない	無回答
Total	32	7	1	0	14	2	2	0	0	2	0	0	0	4
	100.0	21.9	3.1	0.0	43.8	6.3	6.3	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	12.5
行政移管がされている	4	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
行政移管がされていない	28	5	0	0	14	2	1	0	0	2	0	0	0	4
	100.0	17.9	0.0	0.0	50.0	7.1	3.6	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	14.3

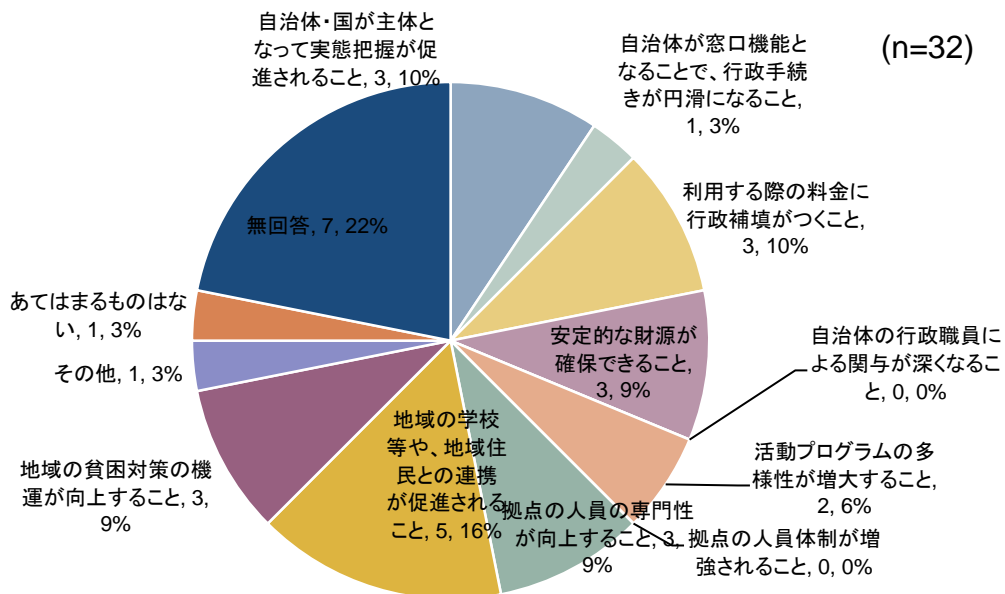
図表 6-32 Q6-2 今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる期待：2位

(n=32)



図表 6-33 Q6-3 今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる期待：3位

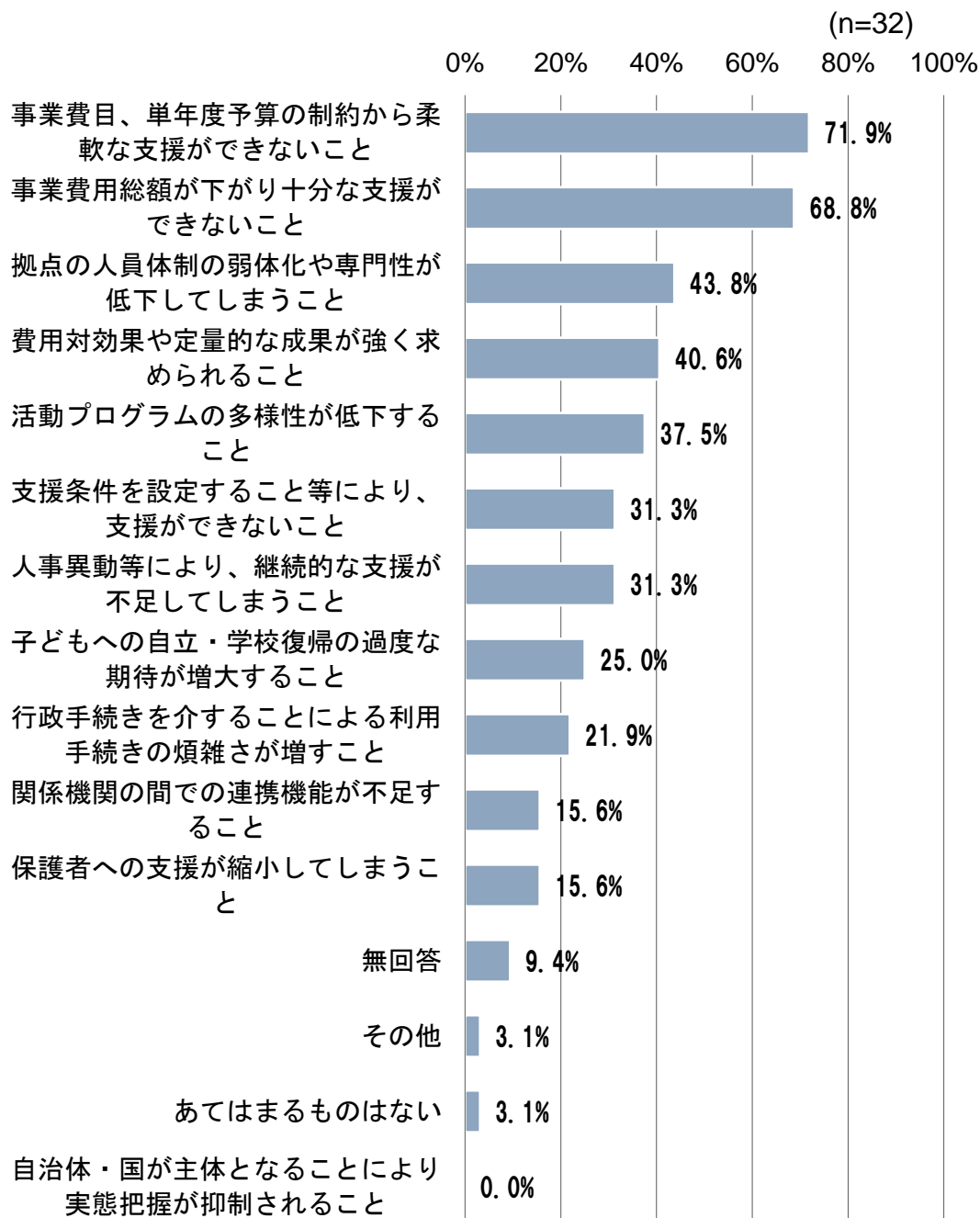
(n=32)



6-8 Q7 今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる懸念

「事業費目、単年度予算の制約から柔軟な支援ができないこと」の割合が最も高く71.9%となっている。次いで、「事業費用総額が下がり十分な支援ができないこと(68.8%)」、「拠点の人員体制の弱体化や専門性が低下してしまうこと(43.8%)」となっている。予算面での不安が最も大きいことが読み取れる。

図表 6-34 Q7 今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる懸念



6-8-1 Q7 懸念 その他

図表 6-35 Q7 懸念 その他

自由回答
拠点利用をする事で、利用者のプライバシー等が侵害されないこと

6-8-2 Q7 今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる懸念（行政移管別）

本調査では行政移管されている拠点は 32 拠点中 4 拠点到留まったため、比較結果を一概に捉えることはできないが、平均と 20%以上ずれがある部分は色付けを行っている。(20%以上低いところは青色としている。)

その結果、行政移管される拠点では、行政手続きの煩雑さや、予算制約などについては懸念が少ない様子が見える。

図表 6-36 Q7 今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される際に感じる懸念（行政移管別）

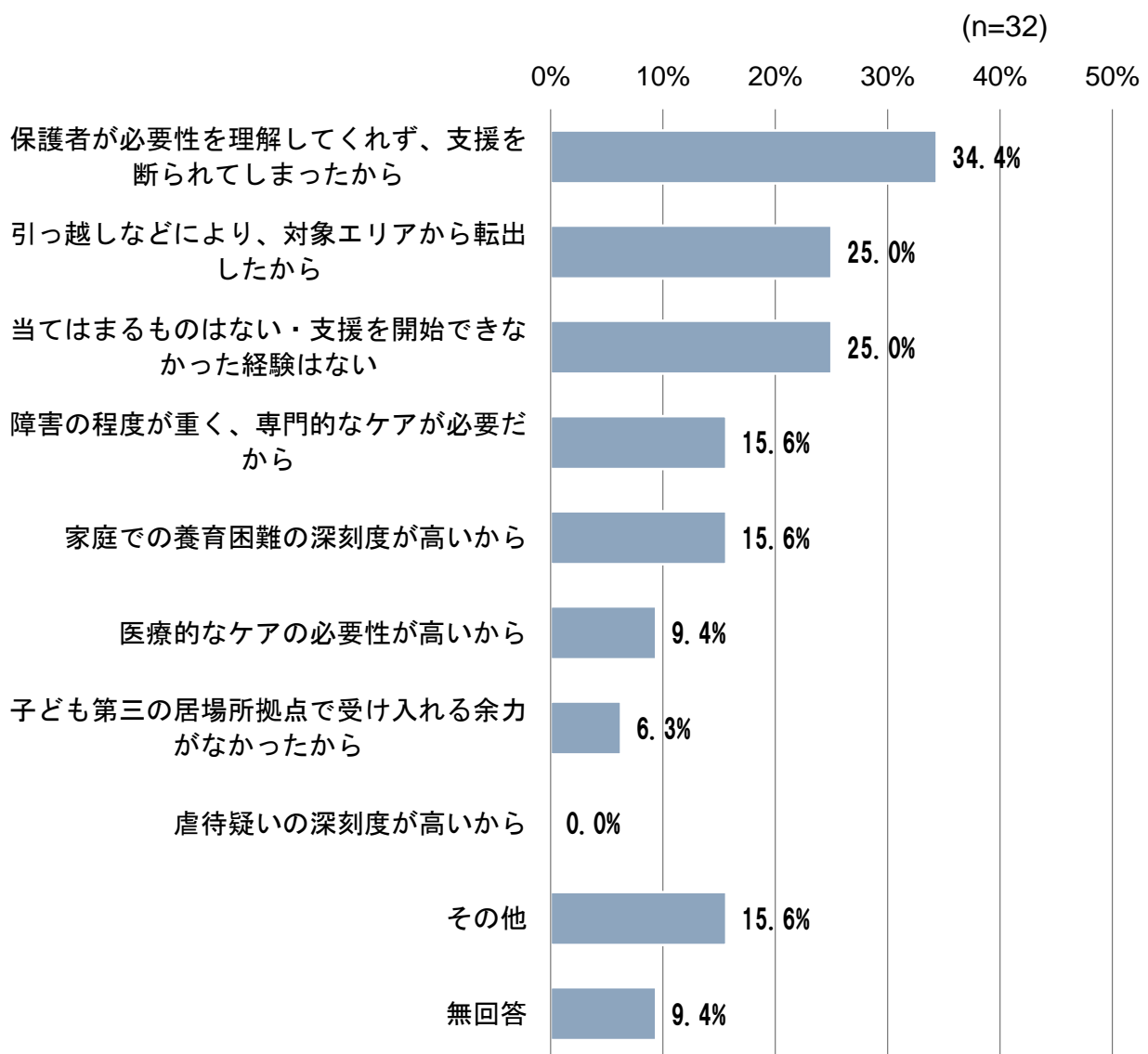
	合計	自治体・国が主体となることにより実態把握が抑制されること	行政手続きを介することによる利用手続きの煩雑さが増すこと	支援条件を設定することにより、支援ができないこと	事業費用総額が下がり十分な支援ができないこと	事業費目、年度予算の制約から柔軟な支援ができないこと	拠点の人員体制の弱体化や専門性が低下してしまうこと	人事異動等により、継続的な支援が不足してしまうこと	活動プログラムの多様性が低下すること	関係間の連携機能が不足すること	保護者への支援が縮小してしまうこと	費用対効果や定量的な成果が強く求められること	子どもへの自立・学校復帰の過度な期待が増大すること	その他	あてはまるものはない	無回答
Total	32	0	7	10	22	23	14	10	12	5	5	13	8	1	1	3
	100.0	0.0	21.9	31.3	68.8	71.9	43.8	31.3	37.5	15.6	15.6	40.6	25.0	3.1	3.1	9.4
行政移管がされている	4	0	0	2	2	2	2	2	2	0	0	1	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
行政移管がされていない	28	0	7	8	20	21	12	8	10	5	5	12	8	1	1	3
	100.0	0.0	25.0	28.6	71.4	75.0	42.9	28.6	35.7	17.9	17.9	42.9	28.6	3.6	3.6	10.7

6-9 Q8 支援を開始しようとした際にできなかった理由

「保護者が必要性を理解してくれず、支援を断られてしまったから」の割合が最も高く 34.4%となっている。次いで、「引っ越しなどにより、対象エリアから転出したから(25.0%)」「障害の程度が重く、専門的なケアが必要だから(15.6%)」、「家庭での養育困難の深刻度が高いから(15.6%)」、「その他(15.6%)」となっている。

状況が深刻であったり、専門性の高さが必要なケースであったりすることが支援開始を妨げる主な理由ではなく、「当てはまるものはない・支援を開始できなかった経験はない」の割合も 25%となった。最も高い割合が保護者理解である点からも保護者との関係性構築は支援開始時点においても重要な要素だと考えられる。

図表 6-37 Q9 支援を開始しようとした際にできなかった理由



6-9-1 Q8 支援を開始しようとした際にできなかった理由 その他

支援を開始しようとした際にできなかった理由として、その他には、利用時間が合わなかった点や、子どもが希望しなかった、ないしは子どもに外出不安等があったことで拠点への来所が不可能だった、行政や児相(児童相談所)に繋がったことが挙げられている。

図表 6-38 Q9 支援を開始しようとした際にできなかった理由 その他

主な回答
<ul style="list-style-type: none">● 利用時間が保護者様のニーズに合わなかった● 本人に外出不安があり、拠点に来ることが出来なかった。● 行政から児相へつなげた● 子どもが望まなかったから● 支援対象となる児童が最終的に利用を希望しなかった。

6-10 Q9 行政機関・日本財団に対する要望

6-10-1 Q9-1 行政機関に対する要望

自由記述は 24 件の回答があり、主に「予算に関する要望」「支援の連携関係に関する要望」「職員の処遇の改善に関する要望」「行政機関の機能に関する要望」について意見があった。

図表 6-39 Q9-1 行政機関に対する要望

主な回答(有効回答数 24 件)
<ul style="list-style-type: none"> ● 【予算に関する要望】環境整備等は利用年が重なるにつれて、劣化していく為、毎年修繕費が必要になってくると思います。長く継続していく事業となるよう配慮をお願いしたい。 ● 【予算に関する要望】・対象となる助成金や支援を増やしてほしい。【支援の連携関係に関する要望】・国や地方公共団体が子どもの居場所づくりの現状を把握するためのネットワーク等を構築してほしい。 ● 【支援の連携関係に関する要望】運営側と現場(施設)との温度差をなくすための取りくみ。【支援の担い手の人材育成に関する要望】担当職員(子ども課)の知識、意識向上。支援をするためには、支援者がいなければできない。支援者への処遇改善。 ● 【その他】子ども第三の居場所事業のさらなる飛躍 ● 【職員の処遇の改善に関する要望】未来を築いていく子ども達を育てる居場所事業の重要性を理解し、子ども達の現状をしっかりと把握した上で事業にたずさわっていく人的体制をもっと大切にしていけることが必要だと感じています。 ● 【支援の連携関係に関する要望】・課題のある子どもに対する各機関連携する体制づくり(既存の委員会はあるが、支援に係わるケース会議等は関係者に委ねられている。【行政機関の機能に関する要望】それを行政主導でできないものだろうか) 【支援の環境・設備に関する要望】・環境整備に係わる予算措置 ● 【その他】施設(拠点)に対しての印象の発信がとてもむずかしく、どこまで発信して良いかわからない。第三の居場所としての役割が継続しづらい。 ● 【支援の環境・設備に関する要望】児童生徒が通室しやすい環境づくり(車の送迎) ● 【その他】市としても、こういう施設の必要性があったからこそ設置の申請をしたはずなので、4年目以降もその機能が十分に発揮されて市の貧困対策がさらに前進するよう、拠点に対する認識を深め、準公的施設として様々な面でバックアップして欲しい。 ● 【その他】・要保護、要支援世帯について、子ども第三の居場所の対象年齢を超えてしまう場合、次の社会資源にしっかりと繋がられるように早めに体制を整えて欲しい。・行政移管について、見通しを立てながら早めに計画を立てていきたい。 ● 【支援の連携関係に関する要望】利用児童の所属校との定期的な情報交換の機会を設定する様、教育委員会を通じて積極的に働きかけて欲しい。【支援の担い手の人材育成に関する要望】また、意識と専門性の高い職員を揃え、児童一人ひとりの個性・特性を理解し、安心して過ごせ且つ心身共に成長できる居場所として存在する様、指導強化を行って欲しい。【その他】我々のこの活動は、本来特殊なものではなく、一般の学童保育施設においても同様と考えるため、こちらについても指導強化を行って欲しい。 ● 【行政機関の機能に関する要望】貧困対策は、それぞれの分野で構築しているが、具体内容が提案されても結局行政機関で難航、財政レベルで予算化が後まわしの現状に突き当たる。 ● 【支援の連携関係に関する要望】本居場所はいつでも誰でもどんな目的でも利用できる多世代交流の居場所である。その中で子どもの支援を行なっているため、特別の子どもを対象としているわけではない。そのため子どもやその家庭の状況に立ち入ることは、本人、家庭が希望しない限り行なっていない。ただし、行政が学習支援などをきっかけにつないでくれる困難をかかえた子どもや家庭があり、その子どもや家庭にとっては必要な居場所となっていることから、今

後も、行政からの紹介とその子どもの受け入れを進めていきたいと考えており、またそこから地元の学校との連携も深めていけたらと考えている。

- 【その他】子どもへの支援はとても大切だが、世帯への支援がないと結局は効果が上がりにくいと思う。包括的な支援のあり方を御検討いただきたい。
- 【その他】新規利用へつながるような情報公開・活動報告機会の設定。関係機関への積極的なアプローチ。現状は拠点主導で各機関へ連絡調整。担当課(行政内)・担当者以外への事業周知・連携体制の構築。利用要件に合致する世帯への案内。→何らかの困り感を抱えて窓口へ問い合わせると案内がある…ような流れ。特定の世帯の利用にとどまっている現状がある。開設3年目にして6世帯のみ。(多子世帯、発達障害)
- 【その他】私も拠点マネージャーを2019年に就任して2年目に成りオンラインミーティングやフォローアップ研修等で財団を通じ全国の拠点との交流を行い各拠点間の「子ども第三の居場所」事業の取り組みが大きく違うと言う事が分かって来ました。この拠点としては放課後児童クラブと混在で良いのかをはっきりさせる時に来ているのではないかと思う様に成りました。現状の放課後児童クラブは県の放課後児童クラブの指針に基づく支援員の定期教育すらされて居らず児童下校後の保護者が施設迎えに来るまでの見守る支援が主軸の組織成って居る。これは放課後児童クラブ代表や支援員の保身に走り後継者を育てていないのは行政や委託先の社協が放課後児童クラブの組織を作り切れなかった事が原因です。私は拠点マネージャーとして正しい判断力の有る放課後児童クラブの代表を要望して来ましたが未だに解決して居ません。いつまでも支援員意思のサークルの様な運営でいけないのではと思う様に成りました。又、放課後児童クラブとしての指針すら守られていない組織に子ども第三の居場所を置く事は無謀で、子ども第三の居場所を独立すべきであると確信しました。従って子ども第三の居場所事業の理念の基くスタッフを集めて組織を確立して行きたいので行政として協力して欲しい。それには教育機関などの第三者の知識人を入れて第三の居場所独立委員会を立ち上げのも良いのではと思います。【支援の担い手の人材育成に関する要望】そして強固な子ども第三の居場所事業を独立させて変化に対応して継承していける組織作り継続して支援員の教育が出来る環境で強靱なスタッフで施設運営を進めて行きたいと思って居ります。それには行政だけでなく日本財団の優れた英知を頂きたいと思って居ます。【支援の環境・設備に関する要望】施設に付いては学習室・遊戯室・事務所等をしっかり分離してそれぞれの機能として使える様に施設改造を行う必要が有ります。基本的に施設は狭いので遊戯室と事務所・和室は仕切りの戸を外しワンスペース児童達は学習も遊びもごちゃまぜにしている状態なので施設構造の改革を行う必要が有ります。具体的には独立した学習室絶対必要です。そして遊戯室と隣接しても防音ガラスで仕切り室内が見える様にして置く事が大切です。当拠点の様な小規模施設ではスタッフが何処に居ても全ての児童に目が届く様に少人数スタッフで対応出来る様にして置く事が必要です。いづれにしても独立した学習室は早急に必要だと考えて居ます。
- 【予算に関する要望】貧困、虐待、不登校や特性など、様々な要因から「子ども第三の居場所」を増設することや資金面、人材面、メンタル面などへの支援やサポートは喫緊の課題だと感じます。【支援の連携関係に関する要望】学校教育のみでなく、民間団体を始め「学びの保障」や「学びの多様性」の観点で居場所作りに奮闘している団体へも、より一層のサポートと連携の必要性を感じます。官民連携の視点から、市町村や県単位でリーダーシップをとって頂き、「次代を担う子どもたち」へ、自立までの切れ目のないサポート体制の構築をお願いしたいです。
- 【行政機関の機能に関する要望】当施設開設前に各関係機関へ事業説明を行っているが、課内での認知度がバラつきがあるように感じた。対象世帯がしっかり支援を受けられるよう、事業内容を把握していただき当施設へつないでいただきたい。また年度が変わると職員も変わるので、その都度課内での情報共有をしていただきたい。
- 【行政機関の機能に関する要望】小学校に隣接して設置してある“放課後児童クラブ”になじめ

なくて子ども第三の居場所を利用したり、学校で問題言動が多い児童が多く利用しているが、行政の関心は薄い。

- 【支援の連携関係に関する要望】現在、学習支援を切り口とした支援を中心に進めているが、今後こども食堂等との連携も検討を進めてほしい。
- 【その他】本当に必要なところに必要な支援が行き届かず、見落とされているケースが多く体制作りを急いで欲しい。縦割り組織のはざまにいる家庭や子どもとつながれるような仕組みを早く作って欲しいです。また身体的虐待や、金銭的表記といった目に見える、数字化できるところにしか視点が向かない事も改革が必要だと思います。人間的成長、メンタルケア、発達支援の専門を児童相談所などに配置してほしいです。
- 【その他】要対協の有効性を高めたい
- 【予算に関する要望】行政機関で出来ないあるいは手の届かない所に手を差し伸べているので、運営に対して補助をしてほしい。
- 「特になし」 回答数 1 件

(※)個人名、拠点名が特定できる情報は削除もしくは一般化している。

6-10-2 Q9-2 日本財団に対する要望

自由記述は 22 件の有効回答があり、「提供内容」「提供体制」についての意見が主でこの他お礼を記述するものもあった。

図表 6-40 Q9-2 日本財団に対する要望

主な回答(有効回答数 22 件)
<ul style="list-style-type: none"> ● 【提供内容】子ども達にとって、体験活動は本当にかけがいのない時間となっております。支援金で現在、様々な活動をさせて頂き本当に感謝しております。少額でも移管後も体験活動(・親子イベント・図書)の補充等)が出来る予算が可能であれば、大変ありがたいです。 ● 【提供内容】来年度以降(自立後)、可能な限りプログラムへの参加をお願いしたい。 ● 【提供体制】第三の居場所支援はすばらしく、ほこりを持って仕事ができる。が、通常の子ども支援とは違い、支援者は困難を強いられることも多々ある。「そこまで考えなくても…」「そこまでしなくても…」と言われることもあるが、しなくて良いのであれば大きな目標を掲げる必要はないのではないか。と、考えてしまうことがある。←自分の思いがまとまらないので中断…。自治体だけではなく、民間でも支援できるような方法はないか。助けたい子どもがたくさんいる。施設設立の手段がもっと他にもないか考え教えてほしい。 ● 【提供体制】行政移管後の移管先の管理・監督 ● 【お礼】手厚いサポートをいただき心から感謝しています。居場所事業はとても大切で、これからさらに全国に充実させていく必要性を感じています。スタッフのスキル向上、行政機関と現場をつなぐパイプ役となっていたただけることに大きな期待もっています。 ● 【提供内容】豊富な財政支援、充実した研修そして子どもたちの体験プログラムの提供と感謝しています。ただ、色々なものが錯綜することがあります。ご配慮いただければ助かります。 ● 【お礼】いつもありがとうございます。のびのびと過ごさせて頂いております。(子どもたち) ● 【提供内容】予算・経費の延長をしてほしい。(全体でなくても人件費や項目 1 つでも) ● 【提供体制】運営資金に対する助成は 4 年目以降は無理であるとしても、研修会やイベントへの参加など可能なものについては引き続き継続していただき、「子ども第三の居場所」として、未永く他の拠点との連携・交流が図れるようにして欲しい。 ● 【提供体制】支援を受ける施設利用児童及びその家庭は、一定期間を以って突如、その生活等が改善されるものではない。関係法令の整備が完了し、折角の安全で安心できる居場所が「安定して安全で安心できる居場所」として確立できる時点まで支援継続(延長)をして欲しい。 ● 【提供体制】国や、市町村がなすべきところを、財団が率先して、実行している今の社会を実感しました。補助金についても、国は移行後の制度補助金を提出したにもかかわらず、県、市町村がそれを引きついで利用(活用)できない現実に疑問を感じています。 ● 【提供体制】ここで 3 年間の助成期間が終るが、その間に新型コロナウイルス禍があったことから、当初目標としていた事業を十分に達成することが出来ずにいる。可能ならば助成の延長や、行政移管のサポートなど居場所継続のために必要な援助をお願いできたらと思う。 ● 【お礼】いつもありがとうございます。コロナ禍で子ども達が体験や学びの機会を大きく損失することなく過ごせていることは大変貴重で恵まれていると日々感じられます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。 ● 【提供内容】厚生労働省と日本財団が協力して貧困世帯の児童を保護する「子ども第三の居場所」の事業はフォローアップ研修やオンラインミーティングで全国の拠点毎に違う事が少しずつ見えて来ました。この拠点らしい組織を作れば良いのではと思う様に成りました。目線さえしっかりと児童の目に向け自分の姿が児童の目に映って居れば良いのだと思いました。今後そういった組織を作る為にも積極的に財団が開く研修やミーティングに参加し国と財団が目指す事業の遂行に務めて行きたいと考えて居ます。更に進化した研修やミーティングの開催をお願い

します。

- 【提供体制】「子ども第三の居場所」事業として助成を頂き、3年目となり、来年度から自立運営となりますが、備品購入の他に人件費や子ども食堂の食材費の助成を頂けたことが本当にありがたかったです。また、市町村との連携が深まったこともありがたいです。今後、居場所事業を増やすだけでなく、各拠点ごとで長く継続していけるよう、情報提供やご支援頂けたらありがたいです。(財政面や人員確保など)特にスタッフ増やしたくても、人件費の問題で雇うこともできず、でも利用者は増えていく現状がやや課題です。
- 【提供内容】行政移管後も子どもたちへ豊かな体験・経験を提供していきたいが、予算が限られているため、行政移管した施設も受けられるプログラムや寄付金募集などがございましたらぜひ情報提供していただきたい。
- 【提供体制】日本財団に対しては、本当に感謝している。数ヶ月後には、行政移管になるが、今までと同様の支援が期待できないので、少し不安を感じている。4年目以降も何らかの支援があれば幸いです。
- 【その他】身近なところに拠点があることによって、多く家庭が助かっていると思われる。今後も拠点整備に力を注いでいただきたい。
- 【提供内容】全国モデル展開をしていく過程で、ベースを都心部基準で考えられると地方で当てはまらない事が多いように思います。運営規準や指針などの骨子を整備していただけると助かります。担当者が変わる度に話しが頓挫するため行政移管の準備などがやりにくかったです。また年々疎遠になるのは件数が増えるからですか？
- 【お礼】ご支援に心より感謝申し上げます。
- 【提供体制】3年間大変お世話になりました。人件費を出して頂いたのは大変有難かったです。行政が出来ないことをしている民間団体に今後も御支援よろしくお願ひします。
- 「特になし」 回答数 1 件

(※)個人名、拠点名が特定できる情報は削除もしくは一般化している。

7 総合分析の概要と結果

7-1 総合分析の概要

図表 7-1 総合分析の概要

分析対象	有効回答のうち、保護者調査と子ども調査双方にデータがある子どもデータ(以下、「①保護者×子どもデータ」)、拠点マネージャー子ども別調査と子ども調査双方にデータがある子どもデータ(以下、「②拠点マネージャー×子どもデータ」、および拠点マネージャー子ども別調査と保護者調査双方にデータがある保護者データ(以下、「③拠点マネージャー×保護者データ」)	
分析方法	①、②、③に該当するIDを突合の上、分析項目間の関連性をクロス集計により分析。各クロス集計については、独立性の検定を行い、統計的な有意差の有無を検証した。	
分析項目	主に、①は子どもの生活習慣・学習習慣・つながりの改善度と保護者の生活習慣・余力・つながりの改善度の関連性について、②は拠点における子どもの利用頻度・期間等の利用状況や拠点の子ども・保護者に対する支援種類の多さと、子どもの生活習慣・学習習慣・つながりの改善の関連性、③は拠点の子ども・保護者への支援と保護者の生活習慣・余力・つながりの改善度の関連性、および保護者の子どもとの関わり等の活動の関係性について検証した。	
	①保護者×子どもデータ	
	検証内容	該当項目
	子どもの生活習慣・学習習慣・つながりの改善度と保護者の生活習慣・余力・つながりの改善度の関連性	7-2～7-6
	子どもの安心感・自己肯定感等と保護者の生活習慣・余力・つながりの改善度の関連性	7-7～7-8
	②拠点マネージャー×子どもデータ	
	検証内容	該当項目
	拠点における子どもの利用頻度・期間等の利用状況や拠点の子ども・保護者に対する支援種類の多さと、子どもの生活習慣・学習習慣・つながりの改善、子ども第三の居場所への評価の関係性の関連性	7-9～7-19
	③拠点マネージャー×保護者データ	
	検証内容	該当項目
	拠点の子ども利用頻度・期間と保護者の生活習慣・余力・つながり、および子どもとの関わり等の活動	7-20～7-23
	拠点の子ども・保護者への支援と保護者の生活習慣・余力・つながり、子どもとの関わり等の活動の関係性	7-24～7-27

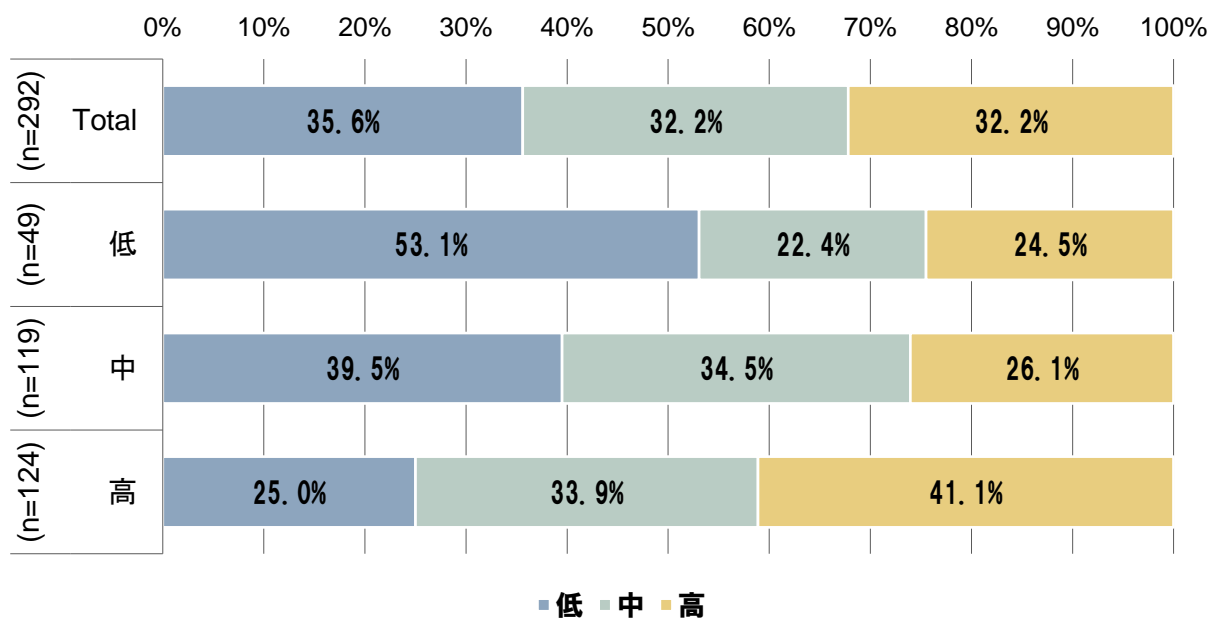
各データ項目の得点化ルールについて	以下の各設問について、下記のような得点化を行った。	
	分析項目	得点化ルール
	保護者 Q4 A～D (保護者の生活習慣)	増えた→+1 減った→-1 かわらない→0 で合計 -4～+4
	保護者 Q4 E～G (保護者の余力)	増えた→+1 減った→-1 かわらない→0 で合計-3～+3
	保護者 Q4 H～K (保護者のつながり)	増えた→+1 減った→-1 かわらない→0 で合計-4～+4
	保護者 Q4ALL (保護者の生活習慣等の活動)	「保護者 Q4 A～D」、「保護者 Q4 E～G」、「保護者 Q4 H～K」を合算
	保護者 Q5 (保護者と子どもとのかかわり)	増えた→+1 減った→-1 かわらない→0 で合計-11～+11
	子ども Q1 A～G (子どもの生活習慣)	増えた→+1 減った→-1 かわらない→0 で合計-7～+7
	子ども Q1 H～K (子どもの学習習慣)	増えた→+1 減った→-1 かわらない→0 で合計-4～+4
	子ども Q1 L～N、Q3 C (子どものつながり)	増えた→+1 減った→-1 かわらない→0 で合計-4～+4
	子ども Q1 まとめ (子どもの生活習慣・学習習慣・つながり)	「子ども Q1 A～G」、「子ども Q1 H～K」、「子ども Q1 L～N、Q3C」を合算
	子ども Q2 まとめ (子どもの心理的な状態)	増えた→+1 減った→-1 かわらない→0 で合計-7～+7
	子ども Q2 A～B、Q3 A (子どもの安心感)	増えた→+1 減った→-1 かわらない→0 で合計-3～+3
	子ども Q2 C～D Q3 E (子どもの他者への信頼感、援助希求)	増えた→+1 減った→-1 かわらない→0 で合計-3～+3
	子ども Q2 E～G Q3 D (子どもの自己肯定感、未来志向、共感)	増えた→+1 減った→-1 かわらない→0 で合計-4～+4
	子ども Q2+Q3ADE まとめ (子どもの心理的な状態 (子ども第三の居場所に対する心情含む))	「子ども Q2 A～B、Q3 A」、「子ども Q2 C～D Q3 E」、「子ども Q2 E～G Q3 D」を合算
	子ども Q3 (子ども第三の居場所への評価)	増えた→+1 減った→-1 かわらない→0 で合計-5～+5
	拠点マネージャーQ2 (拠点の利用月数)	分布を考慮し、1年未満→1、1年以上2年未満→2、2年以上→3
	拠点マネージャーQ5 (子どもの支援)	拠点マネージャー子ども別 Q5 の選択肢 1～11 について、「該当→1」、「非該当→0」で合計 0～11
	拠点マネージャーQ6 (拠点の利用状況)	拠点マネージャー子ども別 Q6 の選択肢 1～8 について、利用頻度を3層に分類
拠点マネージャーQ7 (保護者の支援)	拠点マネージャー子ども別 Q7 の選択肢 1～7 について、「該当→1」、「非該当→0」で合計 0～7	

各データ項目の層化ルールについて	以下の各設問について得点化した項目を、<低><中><高>の順に3層、もしくは<低><高>の2層に分類して分析に利用した。	
	分析項目	層別ルール
	保護者 Q4 A～D（保護者の生活習慣）	<0 以下><1.2><3.4>
	保護者 Q4 E～G（保護者の余力）	<0 以下><1.2><3>
	保護者 Q4 H～K（保護者のつながり）	<0 以下><1.2><3.4>
	保護者 Q4まとめ（保護者の生活習慣等の活動）	<0 以下><1～5><6～11>
	保護者 Q5（保護者と子どもとのかかわり）	<3 以下><4～7><8～11>
	子ども Q1 A～G（子どもの生活習慣）	<0 以下><1～3><4～7>
	子ども Q1 H～K（子どもの学習習慣）	<0 以下><1.2><3.4>
	子ども Q1 L～N、Q3 C（子どものつながり）	<1 以下><2.3><4>
	子ども Q1まとめ（子どもの生活習慣・学習習慣・つながり）	<3 以下><4～7><8～13>
	子ども Q2まとめ（子どもの心理的な状態）	<0 以下><1～3><4～7>
	子ども Q2 A～B、Q3 A（子どもの安心感）	<1 以下><2 以上>
	子ども Q2 C～D Q3 E（子どもの他者への信頼感、援助希求）	<1 以下><2 以上>
	子ども Q2 E～G Q3 D（子どもの自己肯定感、未来志向、共感）	<1 以下><2・3><4 以上>
	子ども Q2+Q3ADEまとめ（子どもの心理的な状態（子ども第三の居場所に対する心情含む）	<2 以下><3～6><7～10>
	子ども Q3（子ども第三の居場所への評価）	<2 以下><3,4><5>
	拠点マネージャーQ2（拠点の利用月数）	<1 年未満><1 年以上 2 年未満><2 年以上>
拠点マネージャーQ5（子どもの支援）	<0～8>、<9～11>	
拠点マネージャーQ6（拠点の利用状況）	選択肢 1.2.7 を「高頻度」、選択肢 3.4 を「中頻度」、5.6.8 を「低頻度」に層化。	
拠点マネージャーQ7（保護者の支援）	<0>、<1～3>、<4～7>	
有効回答数	①保護者×子どもデータ :292 件 ②拠点マネージャー×子どもデータ :335 件 ③拠点マネージャー×保護者データ :301 件	

7-2 子どもの生活習慣等の活動と、保護者の生活習慣等の活動との関係性

保護者の生活習慣・余力・つながり(層分類)(統合)(Q4ALL(統合))別に、子どもの生活習慣・学習習慣・つながり(層分類)(統合)(子 Q1ALL(統合))をクロス集計した結果、1%水準で統計的に有意であり、保護者自身の生活習慣・余力・つながりの活動に効果があった家庭の子どもほど、子ども自身の生活習慣・学習習慣・つながりが改善していることが分かる。

図表 7-2 子どもの生活習慣・学習習慣・つながり(子 Q1ALL(統合))(保護者の生活習慣・余力・つながり(Q4ALL(統合))別)

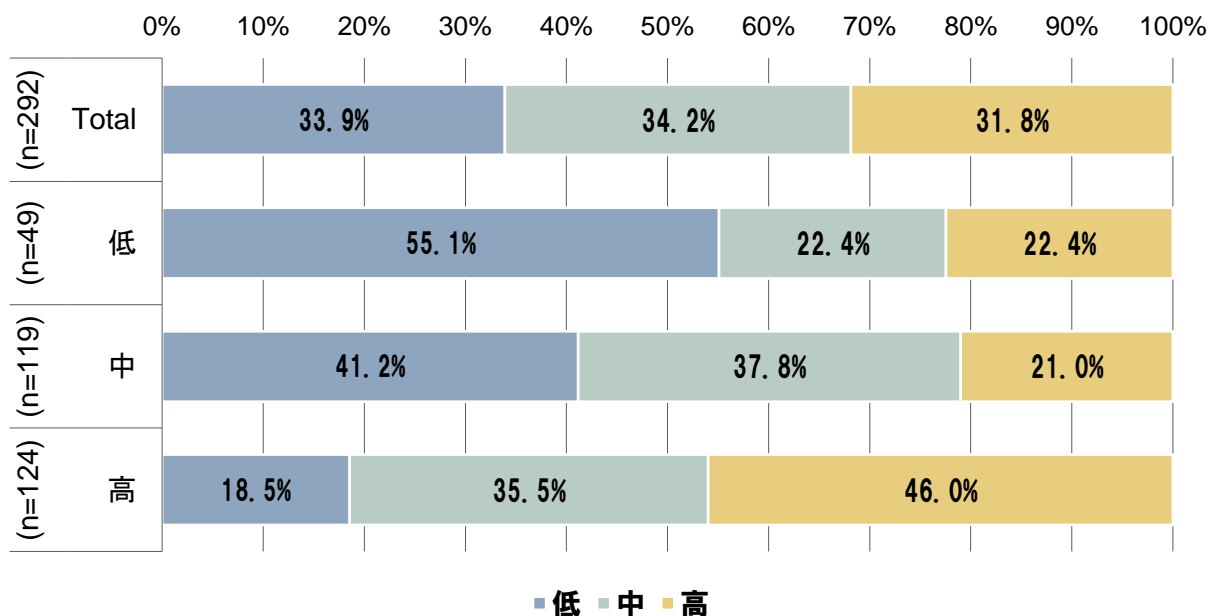


$\chi^2 = 15.730, df=4, p<0.01$

7-3 子どもの生活習慣と、保護者の生活習慣等の活動の関係性

同様に保護者の生活習慣等の活動(保護者 Q4ALL)別に子どもの生活習慣(子ども Q1 A~G)をクロス集計すると、0.1%水準で統計的に有意であり、保護者自身の生活習慣・余力・つながりの活動に効果があった家庭の子どもほど、子ども自身の生活習慣が改善していることが分かる。

図表 7-3 子どもの生活習慣 (子 Q1 A~G) (保護者の生活習慣等 (親 Q4ALL) 別)

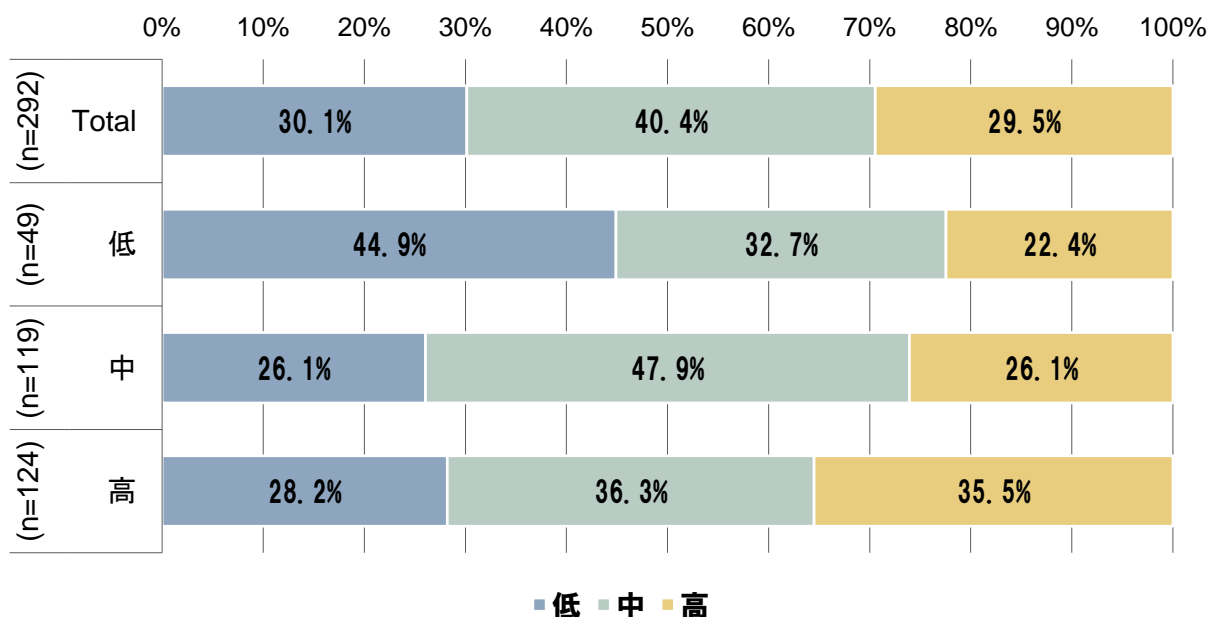


$\chi^2 = 32.975, df=4, p<0.001$

7-4 子どものつながりと、保護者の生活習慣等の活動の関係性

同様に保護者の生活習慣等の活動(保護者 Q4ALL)別に子どものつながり(子ども Q1 L~N、Q3C)をクロス集計すると、5%水準で統計的に有意であり、保護者自身の生活習慣・余力・つながりの活動に効果があった家庭の子どもほど、子ども自身のつながりが向上していることが分かる。

図表 7-4 子どものつながり (子 Q1 L~N,Q3C) (保護者の生活習慣等 (親 Q4ALL) 別)

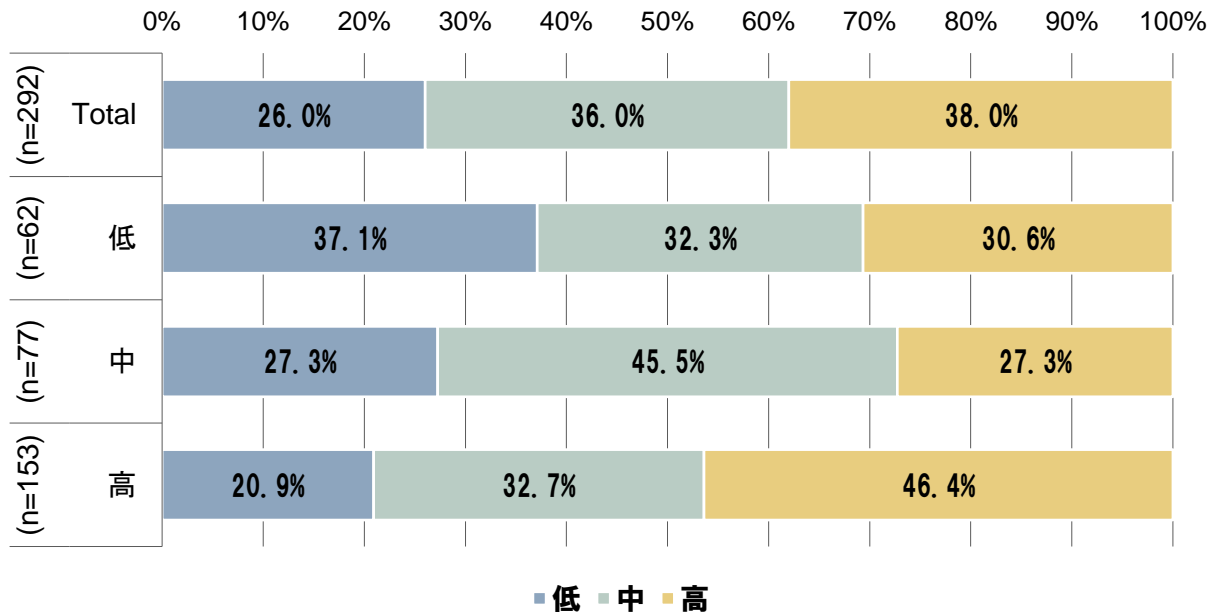


$\chi^2 = 10.070, df=4, p<0.05$

7-5 子どもの学習習慣と、保護者の余力の関係性

さらに個別の項目に分解してみると、保護者の余力(保護者 Q4E~G)別に子どもの学習習慣(子ども Q1 H~K)をクロス集計すると、5%水準で統計的に有意であった。保護者自身の余力が向上した家庭の子どもほど、子ども自身の学習習慣が向上していることが分かる。

図表 7-5 子どもの学習支援(子 Q1 H~K)(保護者の余力(親 Q4E~G)別)

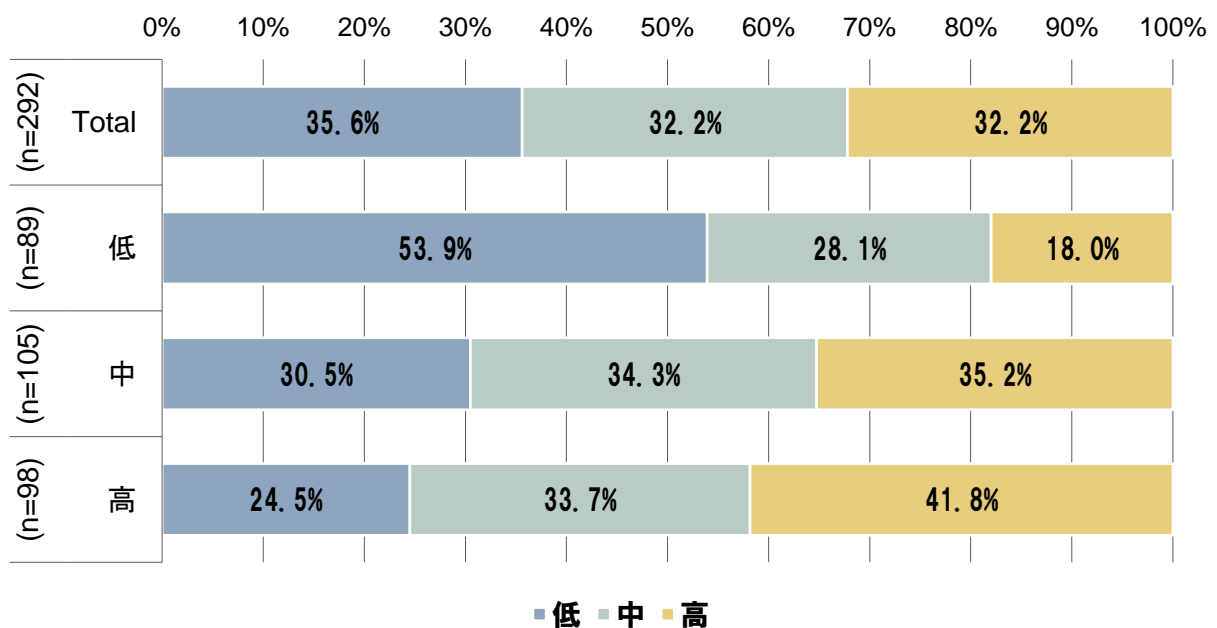


$\chi^2 = 13.182, df=4, p<0.05$

7-6 子どもの生活習慣等の活動と、保護者のつながりの関係性

同様に、保護者のつながり(保護者 Q4H~K)別に子どもの生活習慣・学習習慣・つながり(子ども Q1)をクロス集計すると、0.1%水準で統計的に有意であった。保護者自身のつながりが改善した家庭の子どもほど、子ども自身の生活習慣・学習習慣・つながりといった活動全体が改善していることが分かる。

図表 7-6 子どもの生活習慣等(子 Q1 ALL)(保護者のつながり(親 Q4QH~K)別)

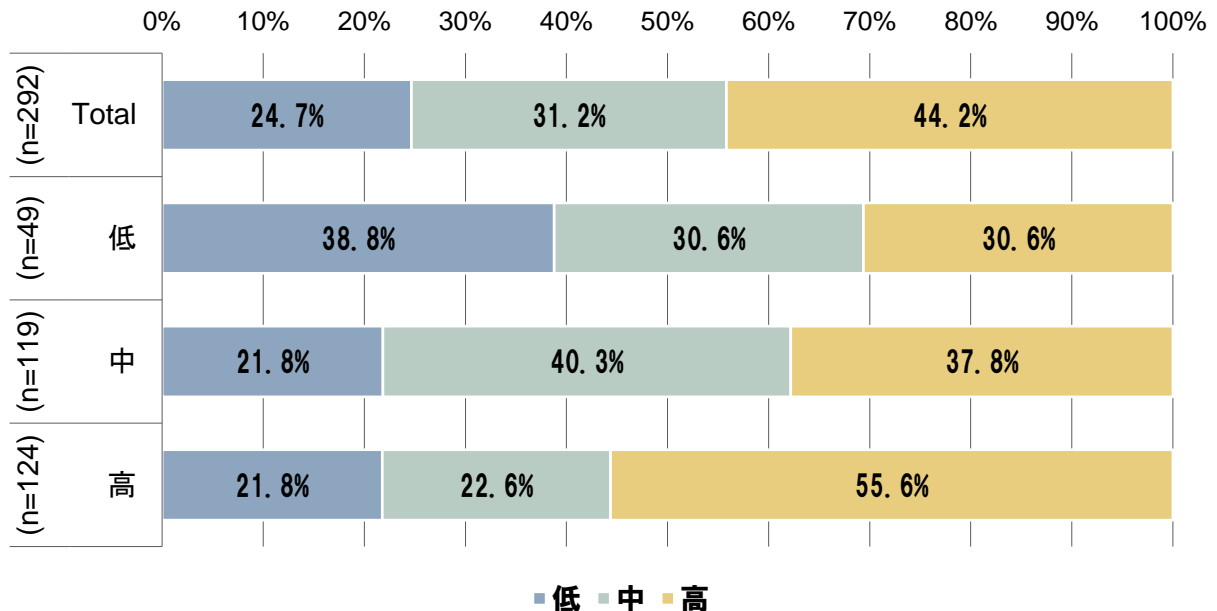


$\chi^2 = 21.964, df=4, p<0.001$

7-7 子どもの安心感等の心理的な状態と、保護者の生活習慣等の活動の関係性

続いて、保護者の生活習慣等の活動(保護者 Q4ALL)別に子どもの安心感・援助希求・自己肯定感などの心理的な状態(子ども Q2)をクロス集計すると、1%水準で統計的に有意であった。保護者自身の生活習慣等の活動が改善した家庭の子どもほど、子ども自身の心理的な状態も改善していることが分かる。

図表 7-7 子どもの心理的な状態 (子 Q2ALL) (保護者の生活習慣等の活動 (親 Q4ALL) 別)

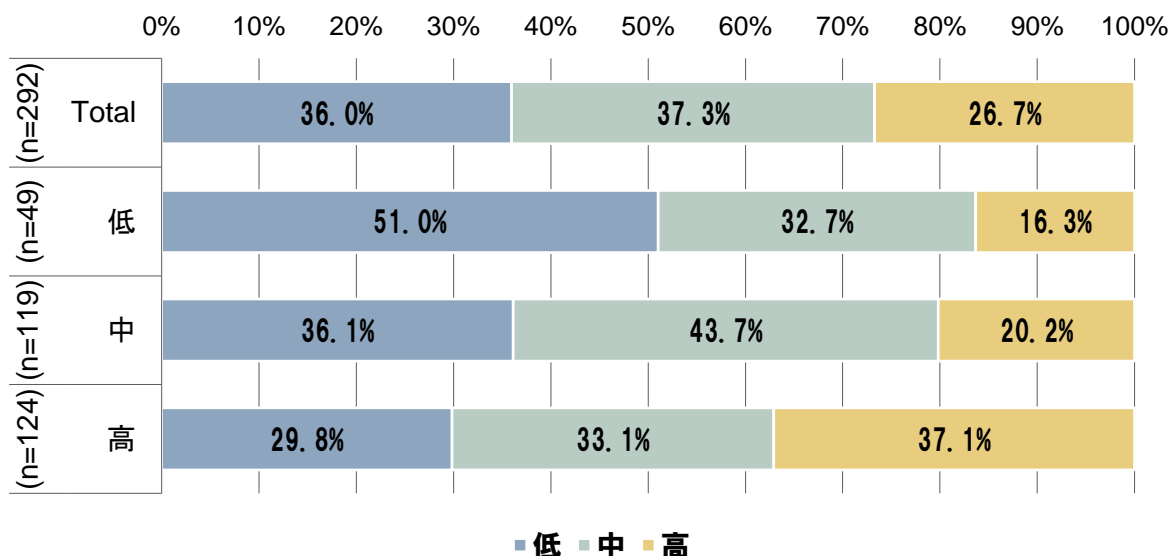


$\chi^2 = 17.731, df=4, p<0.01$

7-8 子どもの自己肯定感等と、保護者の生活習慣等の活動の関係性

さらに、保護者の生活習慣等の活動(保護者 Q4ALL)別に子どもの自己肯定感や未来志向・共感に関する心理的な状態(子ども Q2E~G, Q3D)に特化してクロス集計すると、1%水準で統計的に有意であった。保護者自身の生活習慣等の活動が改善した家庭の子どもほど、子ども自身の自己肯定感や未来志向、共感が改善しており、学校などへの適応が円滑に進んでいる可能性がうかがえる。

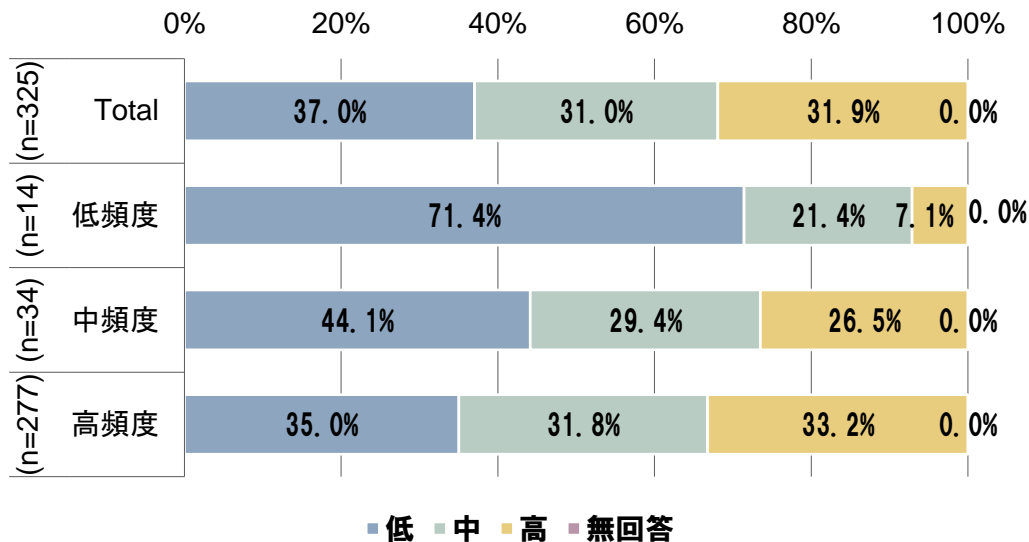
図表 7-8 子どもの自己肯定感等 (子 Q2E~G, Q3D) (保護者の生活習慣等の活動 (親 Q4ALL) 別)



7-9 拠点の利用状況と子どもの生活習慣・学習習慣・つながりの関係性

拠点の利用状況(拠点マネージャー子ども別調査票の Q6)別に、子どもの生活習慣・学習習慣・つながり(子ども調査票の Q1ALL)をクロス集計すると、 $p=0.066$ であり、統計的に有意な関連性が見られなかった。

図表 7-9 子どもの生活習慣・学習習慣・つながり (子 Q1ALL) (拠点の利用状況 (拠子 Q6) 別)

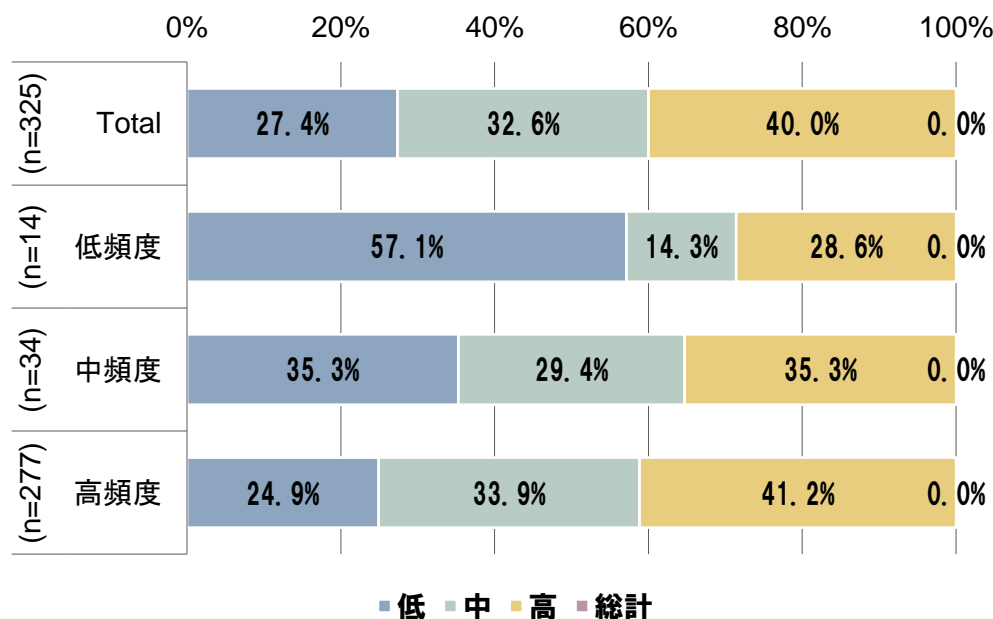


$\chi^2 = 8.815, df=4, p=0.066$

7-10 拠点の利用状況と子どもの心理的な状態 (子ども第三の居場所含む) の関係性

拠点の利用状況(拠点マネージャー子ども別調査票の)別に子どもの心理的な状態(子ども第三の居場所含む) (子ども調査票の Q2, Q3ADE)のクロス集計をすると、 $p=0.079$ であり、統計的に有意な関連性が見られなかった。

図表 7-10 子どもの心理的な状態 (子ども第三の居場所含む) (子 Q2, Q3ADE) (拠点の利用状況 (拠子 Q6) 別)

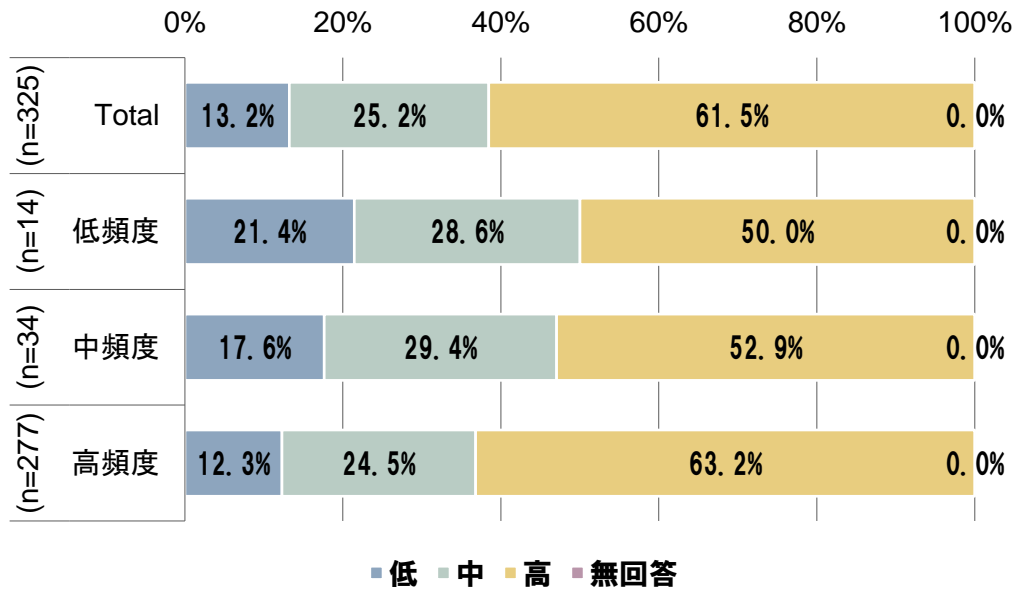


$$\chi^2 = 8.358, df=4, p=0.079$$

7-11 拠点の利用状況と子ども第三の居場所への評価の関係性

拠点の利用状況(拠点マネージャー子ども別調査票の Q6)別に、子どもの子ども第三の居場所への評価(子ども調査票の Q3)のクロス集計をすると、 $p=0.630$ となり、統計的に有意な関連性が見られなかった。

図表 7-11 子ども第三の居場所への評価(子 Q3)(拠点の利用状況(拠子 Q6)別)

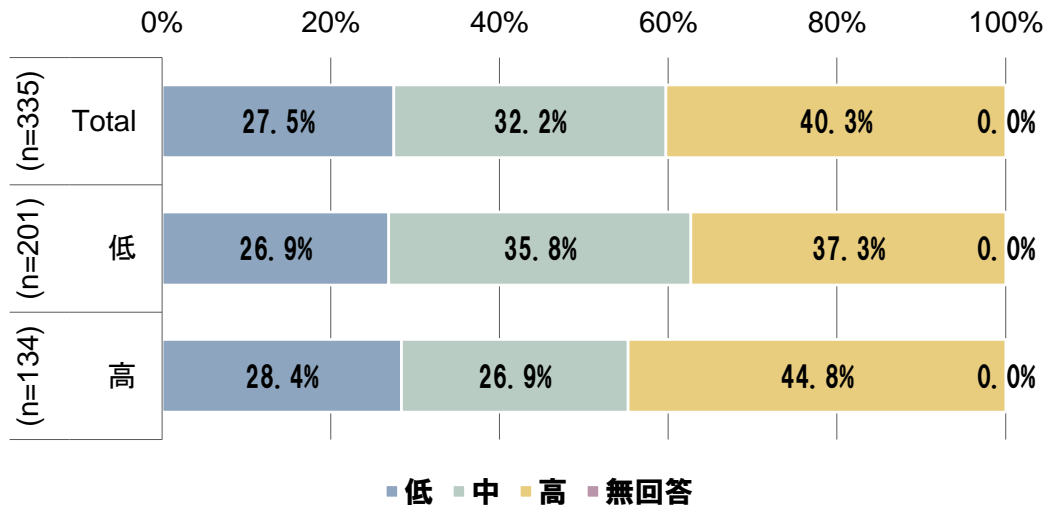


$$\chi^2 = 2.584, df=4, p=0.630$$

7-12 子どもの支援種類と子どもの心理的な状態（子ども第三の居場所含む）の関係性

子どもの支援種類(拠点マネージャー子ども別調査票の Q5)別に子どもの心理的な状態(子ども第三の居場所含む)(子ども調査票の Q2、Q3ADE)のクロス集計をすると、 $p=0.204$ であり、統計的に有意な関連性は見られなかった。

図表 7-12 子どもの心理的な状態（子ども第三の居場所含む）（子 Q2、Q3ADE）（子どもの支援（拠子 Q5）別）

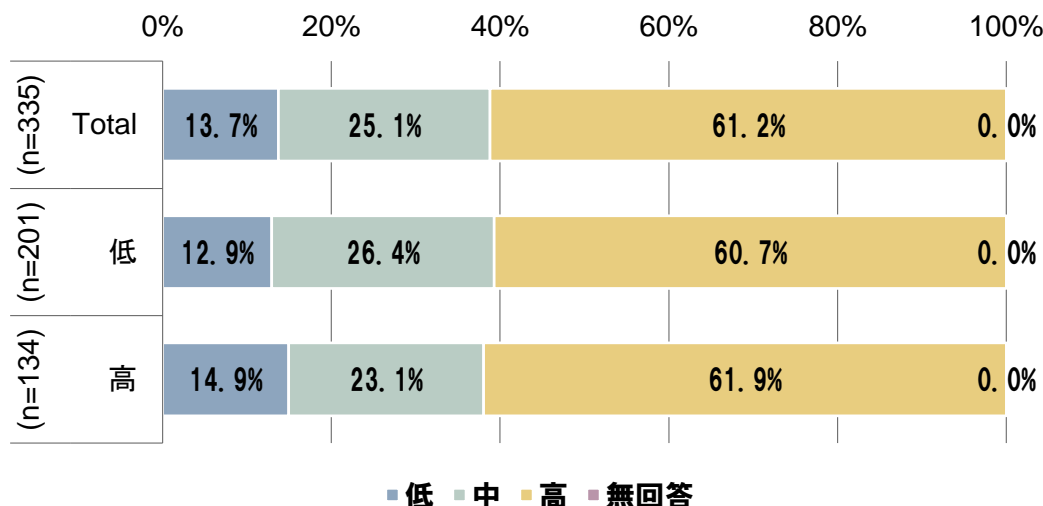


$$\chi^2 = 3.176, df=2, p= 0.204$$

7-13 子どもの支援種類と子ども第三の居場所への評価の関係性

子どもの支援種類(拠点マネージャー子ども別調査票の Q5)別に子ども第三の居場所への評価(子ども調査票の Q3)のクロス集計をすると、 $p=0.745$ となっており、統計的に有意な関連性が見られなかった。

図表 7-13 子ども第三の居場所への評価（子 Q3）（子どもの支援（拠子 Q5）別）

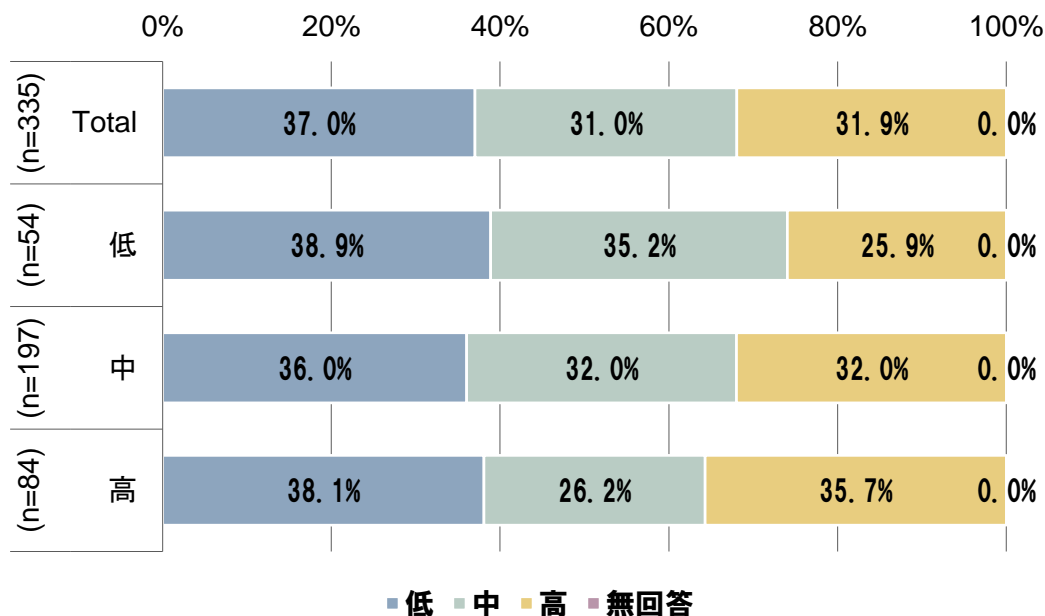


$$\chi^2 = 0.588, df=2, p= 0.745$$

7-14 保護者の支援種類と子どもの学習習慣・生活習慣・つながりの関係性

保護者の支援種類(拠点マネージャー子ども別調査票の Q7)別に子どもの学習習慣・生活習慣・つながり(子 Q1ALL(統合))のクロス集計をすると、 $p=0.716$ であり、統計的に有意な関連性が見られなかった。

図表 7-14 子どもの学習習慣・生活習慣・つながり (子 Q1ALL) (保護者の支援 (拠子 Q7) 別)

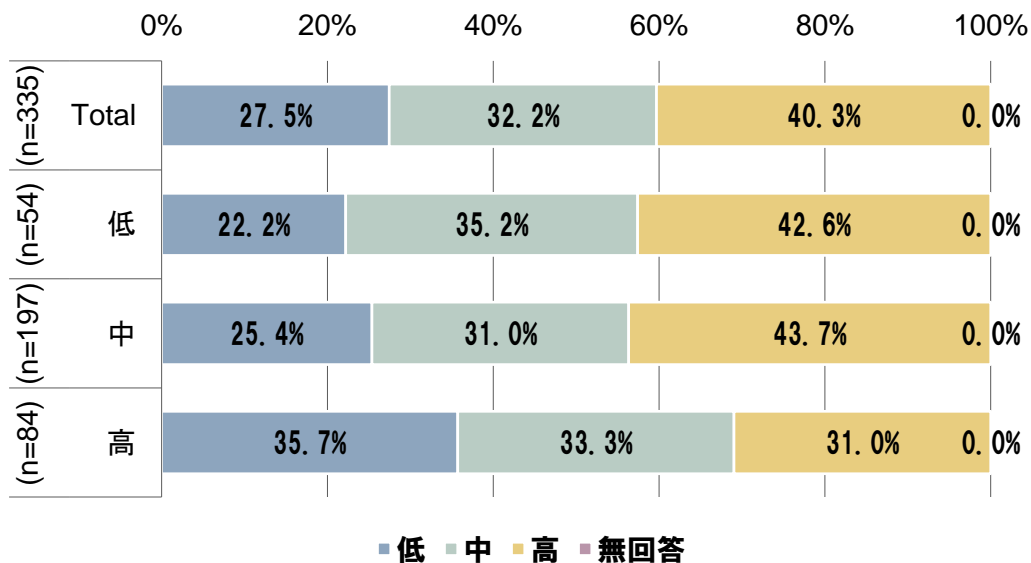


$$\chi^2 = 2.106, df=4, p= 0.716$$

7-15 保護者の支援種類と子どもの心理的な状態 (子ども第三の居場所含む) の関係性

保護者の支援種類(拠点マネージャー子ども別調査票の Q7)別に子どもの心理的な状態(子ども第三の居場所含む) (子ども調査票の Q2ALL、Q3ADE)のクロス集計をすると、 $p=0.227$ であり、統計的に有意な関連性が見られなかった。

図表 7-15 子どもの心理的な状態 (子ども第三の居場所含む) (子 Q2ALL、Q3ADE) (保護者の支援 (拠子 Q7) 別)

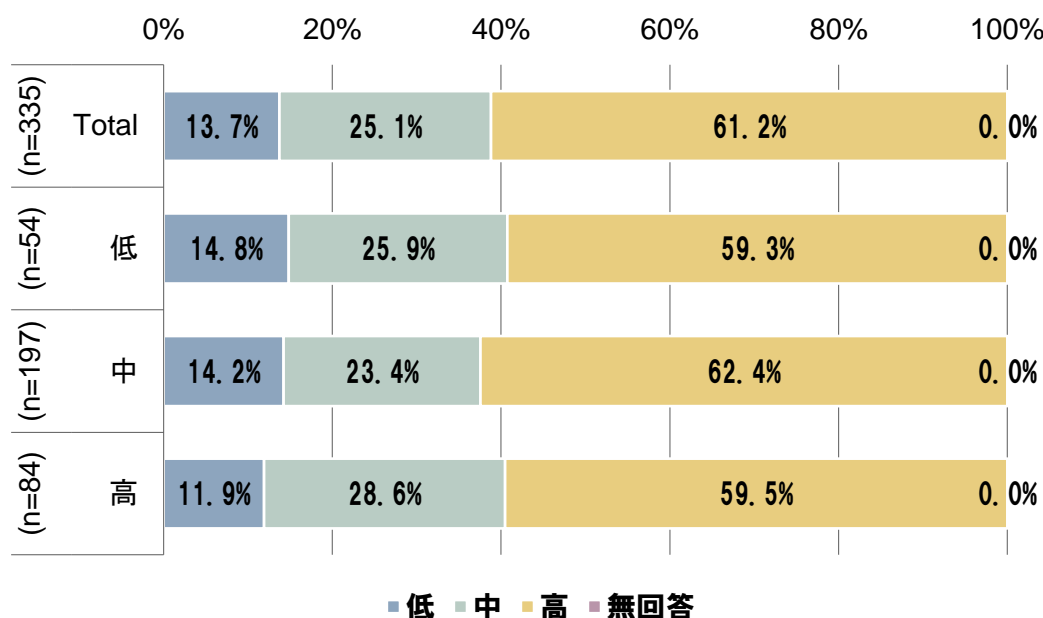


$$\chi^2 = 5.651, df=4, p= 0.227$$

7-16 保護者の支援種類と子ども第三の居場所への評価の関係性

保護者の支援種類(拠点マネージャー子ども別調査票の Q7)別に子ども第三の居場所への評価(子ども調査票の Q3)のクロス集計をすると、 $p=0.900$ であり、統計的に有意な関連性が見られなかった。

図表 7-16 子ども第三の居場所への評価(子 Q3)(保護者の支援(拠子 Q7)別)

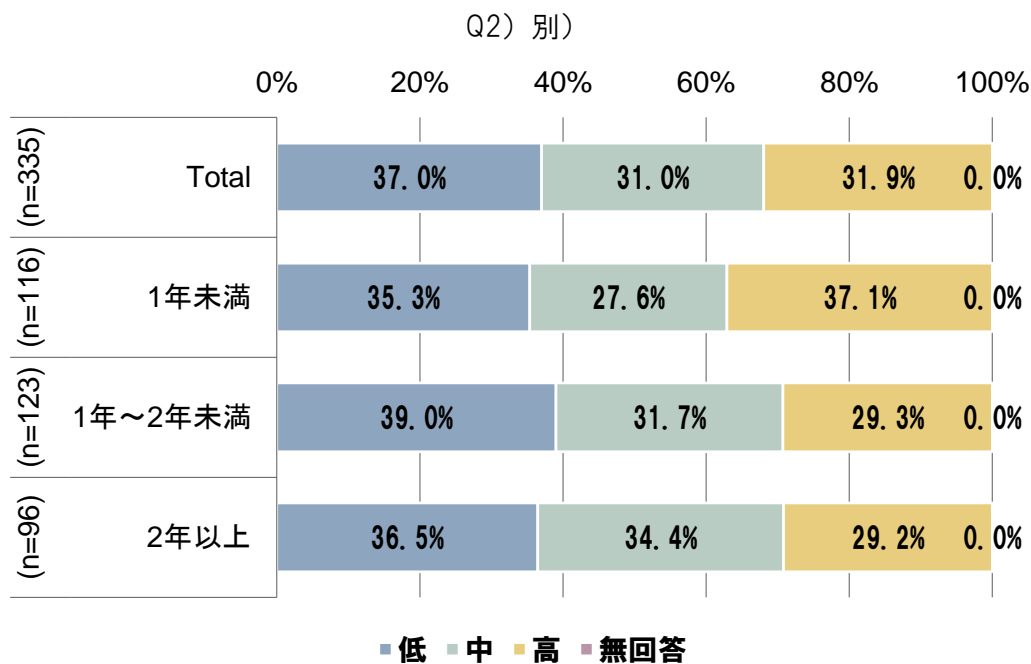


$$\chi^2 = 1.063, df=4, p= 0.900$$

7-17 拠点の利用月数と子どもの生活習慣・学習習慣・つながりの関係性

拠点の利用月数(拠点マネージャー子ども別調査票の Q2)別に子どもの学習習慣・生活習慣・つながり(子 Q1ALL(統合))のクロス集計をすると、 $p=0.645$ であり、統計的に有意な関連性が見られなかった。

図表 7-17 子どもの学習習慣・生活習慣・つながり(子 Q1ALL)(拠点の利用月数(拠子

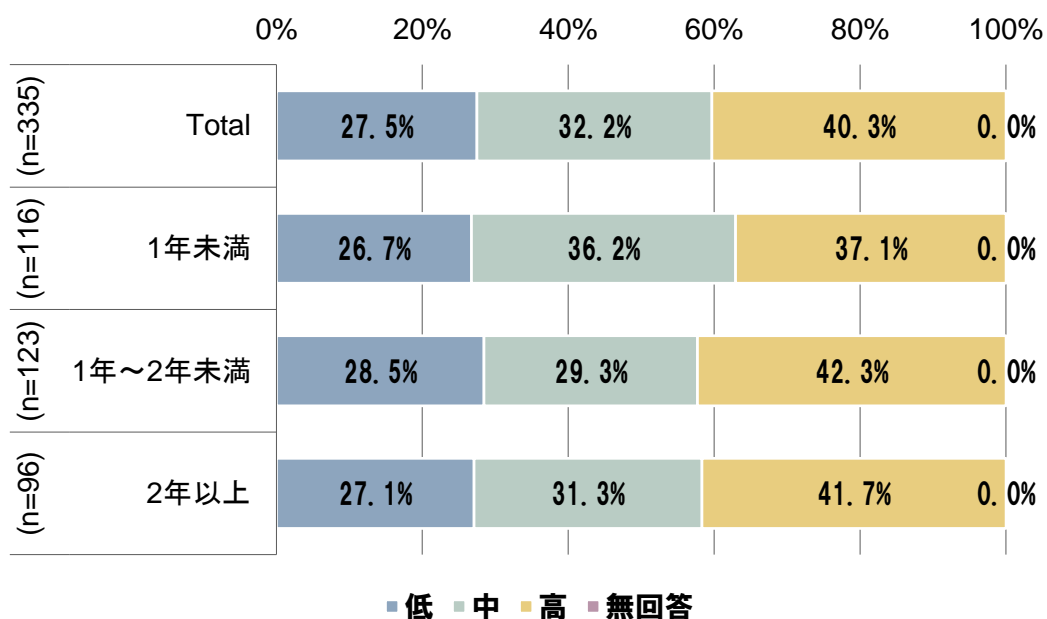


$$\chi^2 = 2.498, df=4, p= 0.645$$

7-18 拠点の利用月数と子どもの心理的な状態（子ども第三の居場所含む）の関係性

拠点の利用月数(拠点マネージャー子ども別調査票の Q2)別に子どもの心理的な状態(子ども第三の居場所含む)(子ども調査票の Q2、Q3ADE)のクロス集計をすると、 $p=0.832$ であり、統計的に有意な関連性が見られなかった。

図表 7-18 子どもの心理的な状態（子ども第三の居場所含む）(子 Q2、Q3ADE)（拠点の利用月数（拠子 Q2）別）

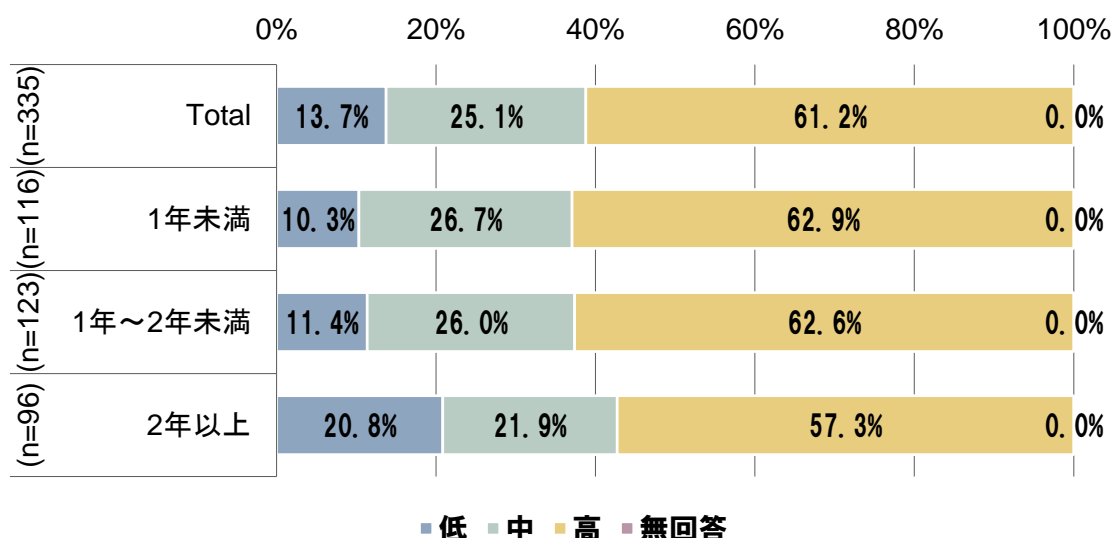


$$\chi^2 = 1.469, df=4, p= 0.832$$

7-19 拠点の利用月数と子ども第三の居場所への評価の関係性

拠点の利用月数(拠点マネージャー子ども別調査票の Q2)別に、子ども第三の居場所への評価(子ども調査票の Q3)のクロス集計をすると、 $p=0.208$ となり、統計的に有意な関連性が見られなかった。

図表 7-19 子ども第三の居場所への評価（子 Q3）（拠点の利用月数（拠子 Q2）別）

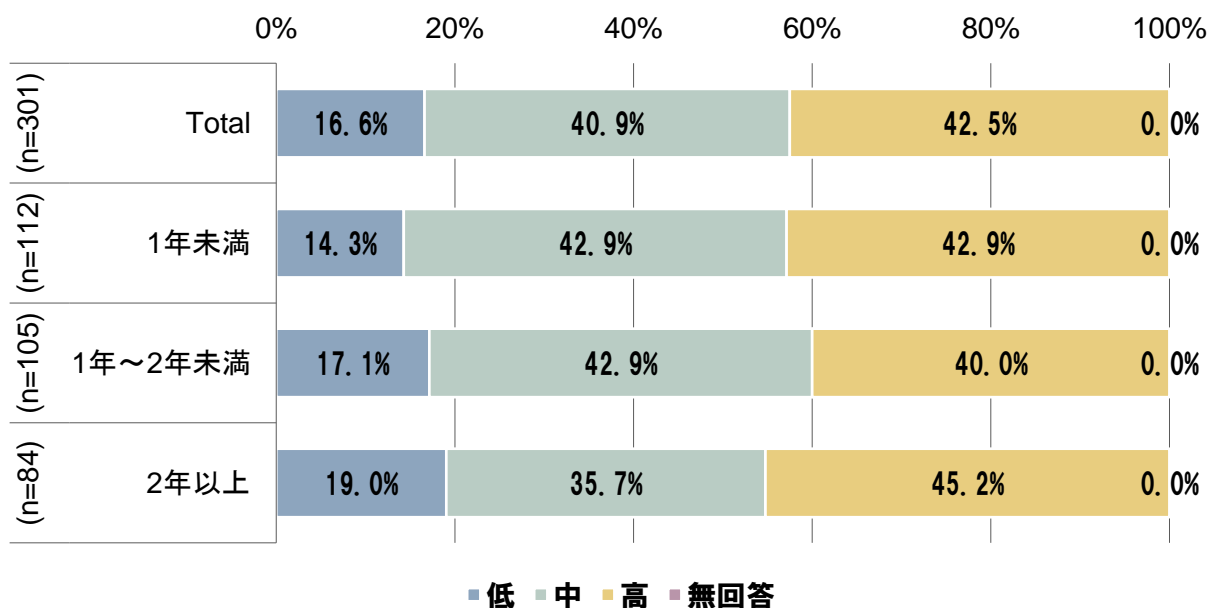


$\chi^2=5.887, df=4, p=0.208$

7-20 拠点の利用月数と保護者の生活習慣等の活動の関係性

拠点の利用月数（拠点マネージャー子ども別調査票の Q2）について、保護者の生活習慣等の活動（保護者調査票の Q4ALL）の関連性を見たところ、 $p=0.783$ となり、統計的に有意な関連性が見られなかった。

図表 7-20 保護者の生活習慣等の活動（親 Q4ALL）（拠点の利用月数（拠子 Q2）別）

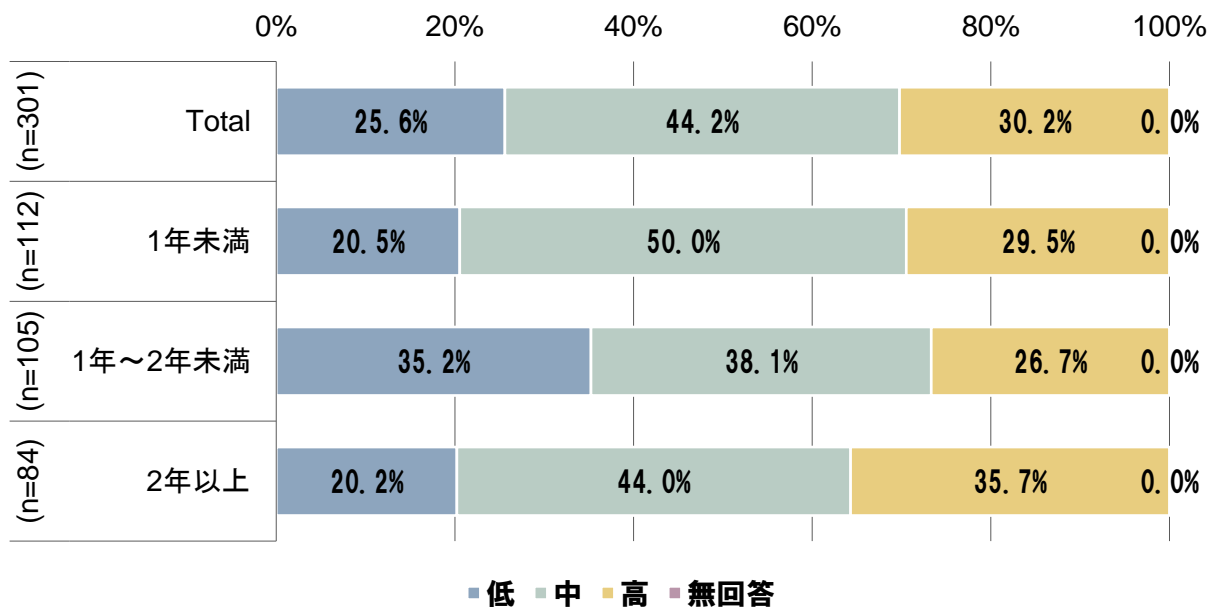


$\chi^2=1.744, df=4, p=0.783$

7-21 拠点の利用月数と保護者の子どもとの関わり等の活動の関係性

拠点の利用月数（拠点マネージャー子ども別調査票の Q2）について、保護者の子どもとの関わり等の活動（保護者調査票の Q5,Q5A～K）の関連性を見たところ、 $p=0.063$ となり、統計的に有意な関連性が見られなかった。

図表 7-21 保護者の子どもとの関わり等の活動（親 Q5,Q5A～K）（拠点の利用月数（拠子 Q2）別）

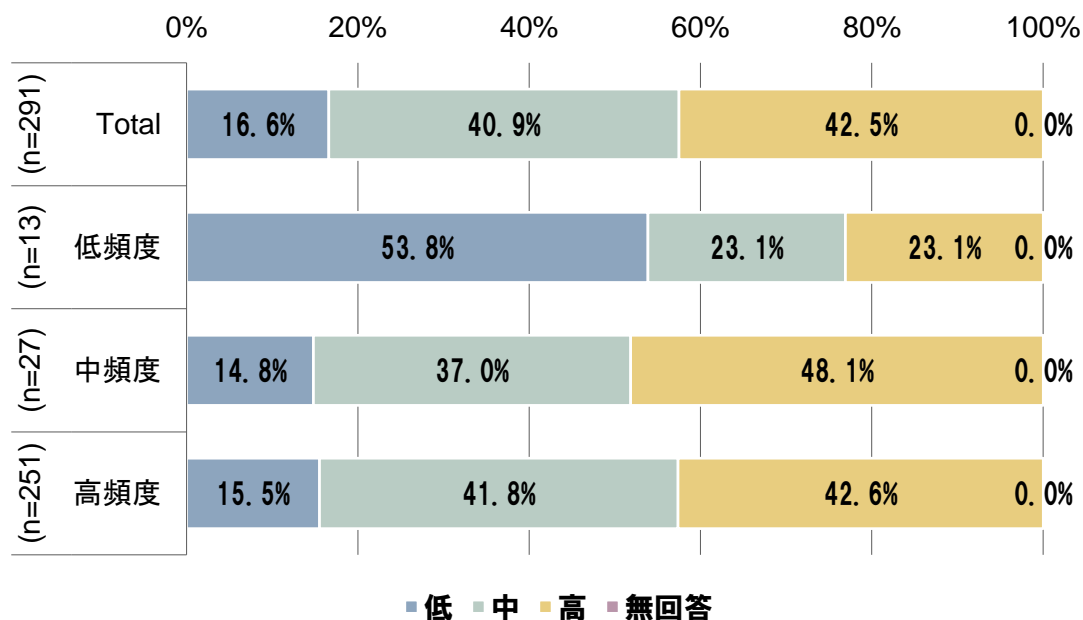


$\chi^2 = 8.917, df=4, p=0.063$

7-22 拠点の利用状況と保護者の生活習慣等の活動の関係性

拠点の利用状況(拠点マネージャー子ども別調査票の Q6)について、保護者の生活習慣等の活動(保護者調査票の Q4,Q4ALL)の関連性を見たところ、5%水準で統計的に有意であり、拠点の利用頻度が高いほど、保護者の生活習慣等の活動が改善したことが分かる。

図表 7-22 保護者の生活習慣等の活動(親 Q4,Q4ALL)(拠点の利用状況(拠子 Q6)別)

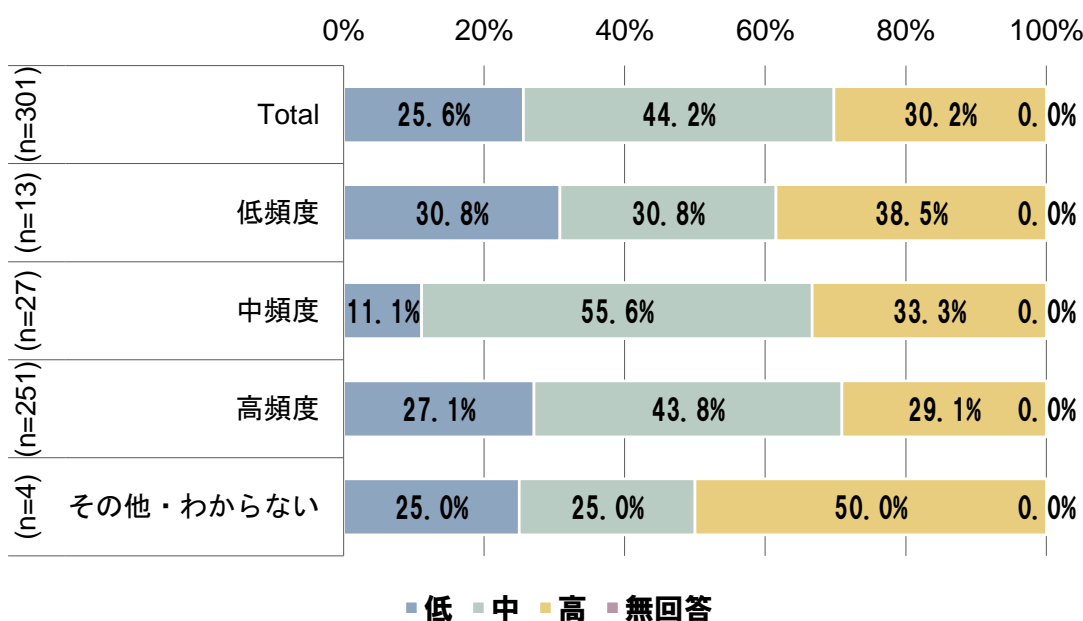


$\chi^2 = 13.178, df=4, p < 0.05$

7-23 拠点の利用状況と保護者の子どもとの関わり等の活動の関係性

拠点の利用状況(拠点マネージャー子ども別調査票の Q6)について、保護者の子どもとの関わり等の活動(保護者調査票の Q5,Q5A~K)の関連性を見たところ、 $p=0.361$ となり、統計的に有意な関連性が見られなかった。

図表 7-23 保護者の子どもとの関わり等の活動(親 Q5,Q5A~K)(拠点の利用状況(拠子 Q6)別)

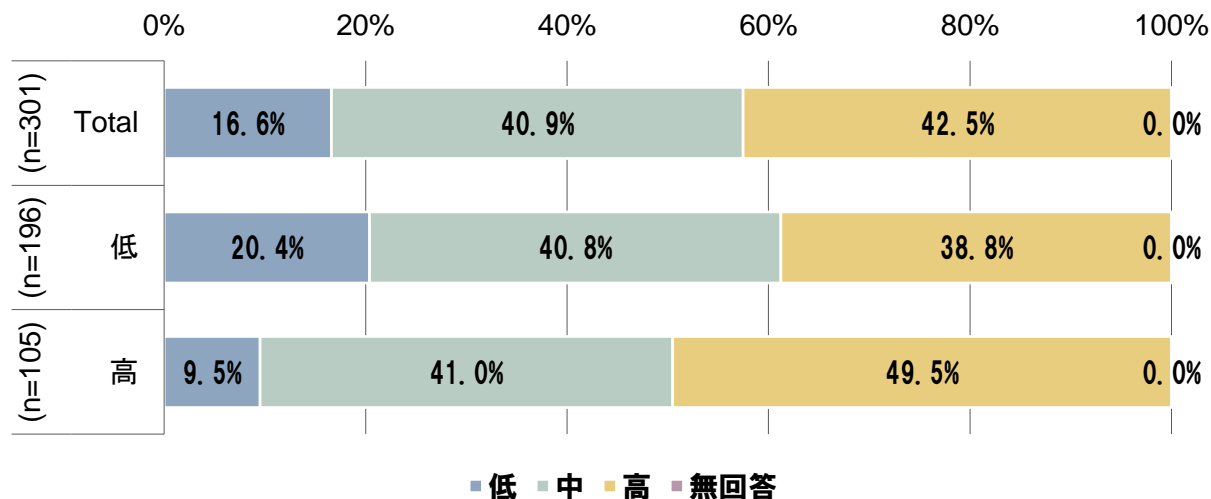


$\chi^2 = 4.350$, $df=4$, $p=0.361$

7-24 子どもの支援種類と保護者の生活習慣等の活動の関係性

子どもの支援種類(拠点マネージャー子ども別調査票の Q5)について、保護者の生活習慣等の活動(保護者調査票の Q4,Q4ALL)の関連性を見たところ、5%水準で統計的に有意であり、子どもへの支援が厚いほど、保護者の生活習慣等の活動が改善されたことが分かる。

図表 7-24 保護者の生活習慣等の活動(親 Q4,Q4ALL)(子どもの支援(拠子 Q5)別)

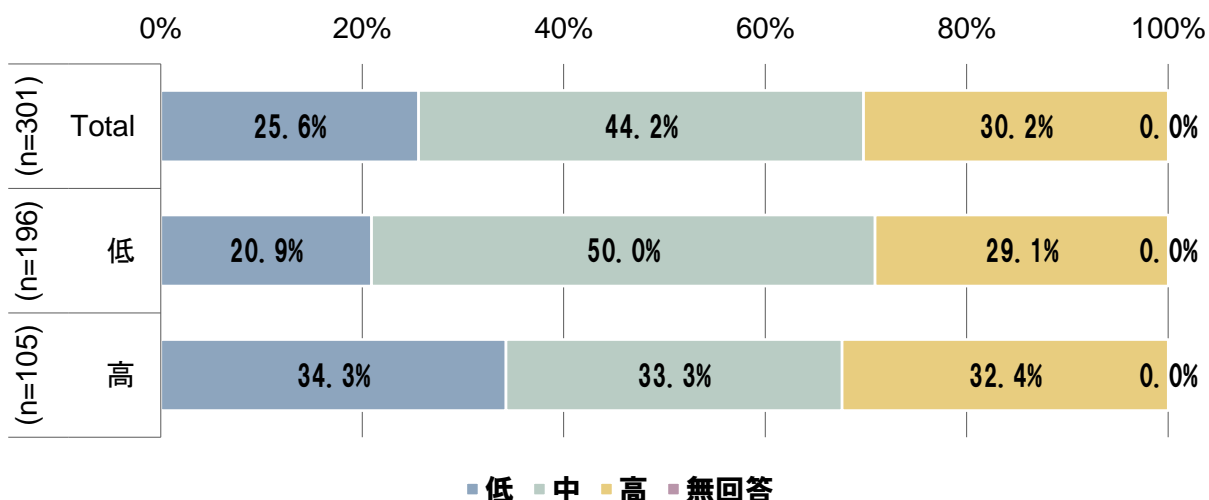


$\chi^2=6.734, df=2, p<0.05$

7-25 子どもの支援種類と保護者の子どもとの関わり等の活動の関係性

子どもの支援種類(拠点マネージャー子ども別調査票の Q5)について、保護者の子どもとの関わり等の活動(保護者調査票の Q5,Q5A~K)の関連性を見たところ、1%水準で統計的に有意であり、子どもへの支援が厚いほど、保護者の子どもとの関わり等の活動が改善されたことが分かる。

図表 7-25 保護者の子どもとの関わり等の活動(親 Q5,Q5A~K)(子どもの支援(拠子 Q5)別)

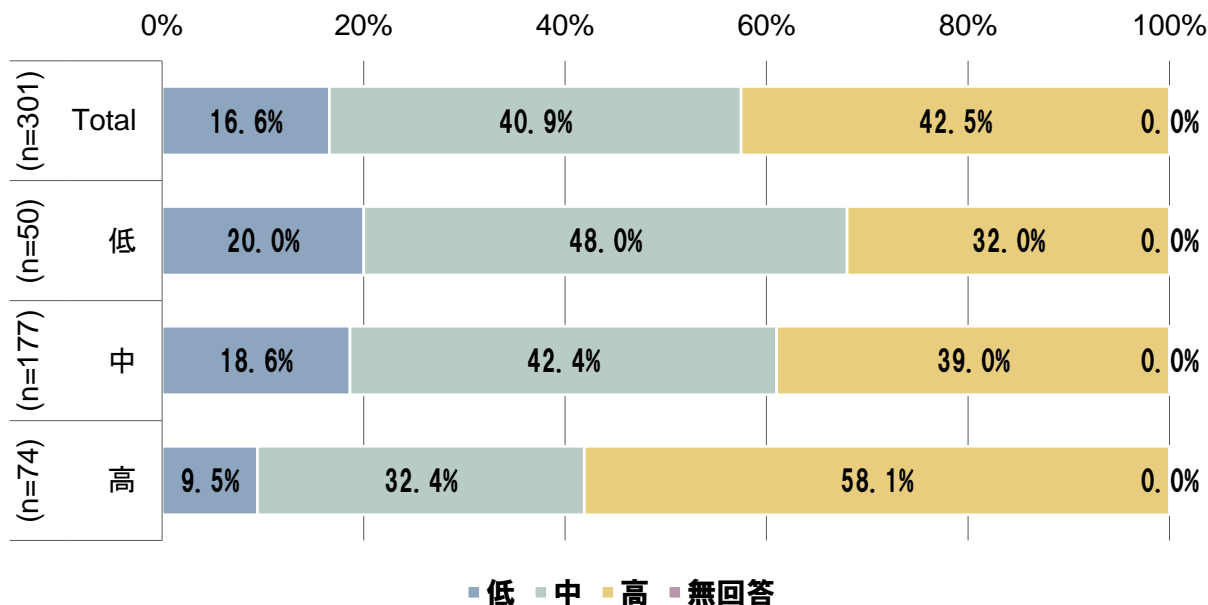


$\chi^2=9.320, df=2, p<0.01$

7-26 保護者の支援種類と保護者の生活習慣等の活動の関係性

保護者の支援種類(拠点マネージャー子ども別調査票の Q7)について、保護者の生活習慣等の活動(保護者調査票の Q4,Q4ALL)の関連性を見たところ、5%水準で統計的に有意であり、保護者への支援が厚いほど、保護者の生活習慣等の活動が改善されたことが分かる。

図表 7-26 保護者の生活習慣等の活動(親 Q4,Q4ALL)(保護者の支援(拠子 Q7)別)

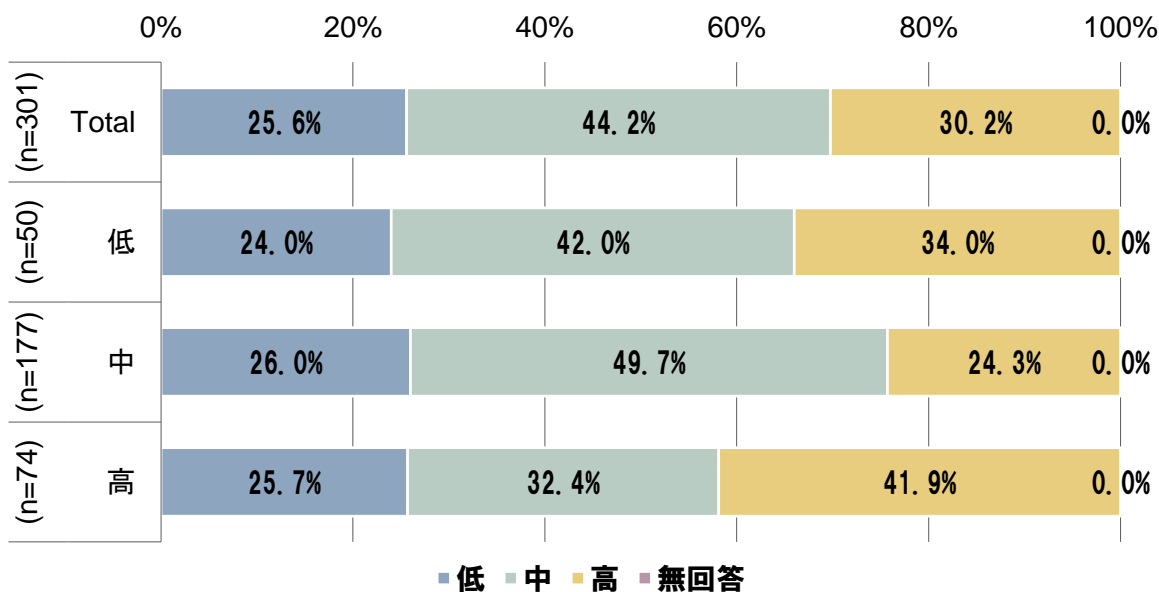


$\chi^2 = 11.124, df=4, p < 0.05$

7-27 保護者の支援種類と保護者の子どもとの関わり等の活動の関係性

保護者の支援種類(拠点マネージャー子ども別調査票の Q7)について、保護者の子どもとの関わり等の活動(保護者調査票の Q5,Q5A~K)の関連性を見たところ、 $p=0.054$ となり、統計的に有意な関連性が見られなかった。

図表 7-27 保護者の子どもとの関わり等の活動(親 Q5,Q5A~K)(保護者の支援(拠子 Q7)別)



$\chi^2=9.281$, $df=4$, $p=0.054$

8 参考資料（調査票）

以下には、参考資料として、各種のアンケート調査票を掲載する。なお、調査票のうち、子ども第三の居場所拠点の特定を防ぐため、一部表現を公表用に修正している。

8-1 子ども調査 調査票

こども 本人 回答シート

T●—C●

スタート


ここから、質問が大きく4つあります。分からないことがあったら子ども第三の居場所の大人に聞いてください。

問1. あなたの暮らしについて子ども第三の居場所に通い始める前と、いまと、くらべると変わっていると思いますか。1～3のうちいちばん近い数字1つに0を書いてください。


		1. よくなった おおくなった	2. わるくなった すくなくなった	3. かわらない
				
A	朝ごはんを食べる	1	2	3
B	野菜を食べる	1	2	3
C	果物を食べる	1	2	3
D	お風呂に入っている	1	2	3
E	歯みがきをする	1	2	3
F	早寝早起きをする	1	2	3
G	運動など、30分以上からだを動かしている	1	2	3
H	学校の宿題をする	1	2	3
I	学校の宿題以外の勉強をする	1	2	3
J	勉強で分からないところを友達や大人に聞く	1	2	3
K	本を読む（マンガやざっし以外）	1	2	3
L	友達と遊ぶ	1	2	3
M	困っていることや楽しいことを友達に話す	1	2	3
N	困っていることや楽しいことを大人（親や子ども第三の居場所の人、学校の先生など）に話す	1	2	3

A～Nまで
ぜんぶ答えてね♪

問 2 あなたは、子ども第三の居場所に^{かよひはじめるとき}感じる^か感じ方と、さいきん^かの感じ方について、^{かわつて}変わっていると思いますか。1～3のうちいちばん近い数字1つに0を書いてください。

		1. 回数が増えた (感じやすくな った)	2. 回数 が 減った (感じにくくな った)	3. 回数は 変わらない
A	家は安全でほっと安心できるところだ	1	2	3
B	学校は安全でほっと安心できるところだ	1	2	3
C	大変な時に家族は自分のみかたでいてくれる	1	2	3
D	困りごとがあったらだれかに相談したい	1	2	3
E	持来のゆめや、やりたいことが思い浮かぶ	1	2	3
F	がんばれば、結果につながると思う	1	2	3
G	自分のことが好きだ	1	2	3

問 3 あなたは、今通っている子ども第三の居場所についてどのように感じますか。いちばん近い数字1つに0を書いてください。

		1. そう思う	2. あまり 思わない	3. どちらとも いえない
A	子ども第三の居場所は安全でほっと安心できるところだ	1	2	3
B	子ども第三の居場所では、やりたいこと、チャレンジしてみたいことができるところだ	1	2	3
C	子ども第三の居場所には、いっしょにたのしい時間をすごせる、友だちがいる	1	2	3
D	子ども第三の居場所に通う友だちに、困りごとがあったら、助けになりたい	1	2	3
E	大変な時に子ども第三の居場所の大人は自分のみかたでいてくれる	1	2	3

むずかしいところは、
居場所のおとなに
きいてみよう！



問4. あなたは、今通っている子ども第三の居場所について良い・もっとしたいと思うことがあれば、思った通り自由に書いてください。

【子ども第三の居場所について良いと思うこと】

(良いな、好きだな、楽しいな、うれしいな、もっとしたいなと思うこと)

きちんとした文になっていなくても いいよ！
絵をかいてもいいね！

おしまいです！本当にありがとうございました。

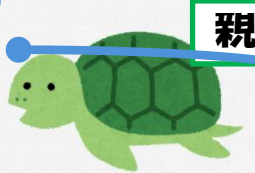
ほごしゃ かいとうしーと
保護者 回答シート

T●-P●

こどもだいさん いばしよじぎょう かんする ちようさ しつもん かいとうようし
子ども第三の居場所事業に関するアンケート調査 質問・回答用紙

スタート

もん しつもん こたえ
ここから11問の質問にお答えください。
きょうだい児が通う方は最初に下をご覧ください



1. あなたのいまについてお尋ねします。
おたすね

問 1. あなたの年齢について当てはまる数字に1つ○を記入ください。
ねんれい あてはまるすうじ きにゆう

(2021年12月1日時点)
じてん

- 1. 1～20歳未満
- 2. 20歳～29歳
- 3. 30歳～39歳
- 4. 40歳～49歳
- 5. 50歳～59歳
- 6. 60歳以上

問 2. あなたのお子様との関係について当てはまる数字に1つ○を記入ください。
おこさま かんけい あてはまるすうじ きにゆう

- 1. 母親
- 2. 父親
- 3. その他 (→ _____)
- 4. 答えたくない

問 3. あなたは現在、仕事をしていますか。当てはまる数字に1つ○を記入ください。
げんざい しごと あてはまるすうじ きにゆう

- 1. 正規労働者として働いている
- 2. 非正規労働でフルタイムで働いている(契約社員など)
- 3. 非正規労働でパートタイムで働いている(パート、アルバイトなど)
- 4. 仕事はしていない(専業主婦、学生、産休・育休、病気などで休業している等)
- 5. その他 (→ _____)

きょうだい児
が通う方へ

すでに きょうだい ぶん かいとうしーと こたえて ばあい いか みずいろわく かいとう しーとばんごう きにゆう
既にきょうだい分の回答シートで答えている場合は、以下の水色枠に回答したシート番号を記入ください。
その後、みずいろ マーカーの間のみ回答してください。問1～問4、問6、問11については回答不要です。

回答済み番号を記入ください→→→ T【 _____ 】—P【 _____ 】

※ご利用に際しての留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

2. あなたとお子様との関わりについて子ども第三の居場所と繋がる前と、いまを比べて、お尋ねします。



問 4. あなたの暮らしについて、子ども第三の居場所と繋がる前と、いまの状況を比べて、次のようなことをする回数に変化はありましたか。A~K までのそれぞれについて、1~3のうち当てはまる数字1つに○を記入ください。

		1.増えた	2.減った	3.かわらない
A	朝ごはんを食べる	1	2	3
B	野菜や果物の摂れるごはんを食べる	1	2	3
C	規則正しい時間に寝起きている	1	2	3
D	19時までに帰宅できる	1	2	3
E	安心して外出できる	1	2	3
F	落ち着いて用事が済ませられる	1	2	3
G	精神的なリフレッシュができる	1	2	3
H	落ち着いて友人と話ができる	1	2	3
I	出席できていなかった行事(地域や学校)に参加できる	1	2	3
J	子どもや子育てに関して周囲の大人と会話を する	1	2	3
K	困っていることや楽しいことについて人に話し たいと思う	1	2	3

問 5. あなたは、お子様とのかかわりで、子ども第三の居場所と繋がる前と、いま比べて、次のようなことをする回数に変化はありましたか。A～J までのそれぞれの項目について当てはまる数字1つに○を記入ください。

		1. 増えた	2. 減った	3. かわらない
A	お子様の勉強をみる	1	2	3
B	お子様とからだを動かして遊ぶ	1	2	3
C	お子様とコンピューターゲームやテーブルゲームで遊ぶ(携帯ゲームやトランプなど)	1	2	3
D	お子様と学校での出来事や友だちのことについて話をする	1	2	3
E	お子様と子ども第三の居場所での出来事や友だちのことについて話をする	1	2	3
F	お子様と勉強や成績のことについて話をする	1	2	3
G	お子様と将来や今後やりたいことの話をする	1	2	3
H	お子様と地域や社会の出来事やニュースの話をする	1	2	3
I	お子様と一緒に食事をとる	1	2	3
J	お子様と一緒に料理をする	1	2	3
K	お子様と一緒に外出をする	1	2	3

問 6. 子ども第三の居場所事業によるサポートを受ける時にあなたが感じる気持ちに近い項目を選んでください。当てはまる数字すべてに○を記入ください。(いくつでも)

1. 気軽に相談できる 2. 不安が軽減され安心する
 3. 頑張ろうと思える・勇気づけられる 4. 担当者を信頼できる
 5. 子どもの個性や希望に向き合ってくれる 6. 気軽に相談できない
 7. 必要な支援を受けられない 8. 不安やストレスが減らない
 9. その他(→ _____)
 10. 1~9のどれにも当てはまらない



子

3. お子様のいまについてお尋ねします。

問 7. お子様の現在の学年を教えてください。当てはまる数字1つに○を記入ください。

1. 小学1年生 2. 小学2年生 3. 小学3年生 4. 小学4年生 5. 小学5年生
 6. 小学6年生 7. 中学生以上 8. その他
 (→ _____)

問 8. お子様の性別を教えてください。当てはまる数字1つに○を記入ください。

1. 男 2. 女 3. その他(→ _____) 4. 答えたくない

問 9. お子様と一緒に住む親について教えてください。当てはまる数字1つに○を記入ください。

1. 両親とも一緒に住んでいる 2. 母親だけ一緒に住んでいる(父親はいない)
 3. 母親だけ一緒に住んでいる(父親は単身赴任中) 4. 父親だけ一緒に住んでいる(母親はいない)
 5. 父親だけ一緒に住んでいる(母親は単身赴任中)
 6. 母親も父親もお子様とは一緒に住んでいない
 7. その他(→ _____) 8. わからない・答えたくない

おこさま こどもだいさん いばしょ つながるまえ
4. あなたやお子様のお子様が子ども第三の居場所と繋がる前について
 おたずね
お尋ねします。



おこさま こどもだいさん いばしょ つながるまえ かつよう しえん
問 10. あなたやあなたのお子様が子ども第三の居場所と繋がる前から活用している支援・
 さばーと おたずね あてはまるすうじ きにゆう
サポートについてお尋ねします。当てはまる数字すべてに○を記入ください。(いくつでも)

1. 自身じしんに対する公的たいするこうてきな支援しえんを受けてうけていた(生活保護せいかつほご、就労支援しゅうろうしえん、住まいすまいの支援しえんなど)
2. 子どもの養育よういくに関する金銭かんするきんせん的な支援しえんを受けてうけていた(就学援助しゅうがくえんじょ、児童扶養手当じどうふようてあてなど)
3. 公的こうてきな子どもこどもの学習支援がくしゅうしえんサービスさーびすを受けてうけていた
4. 公的こうてきな子どもこどもの生活支援せいかつしえんサービスさーびすを受けてうけていた(子ども食堂こどもしょくどうなど)
5. いずれの支援しえんも受けてうけていない

5. いずれの支援しえんも受けてうけていないを選択せんたくした方は、その理由かた りゆうについて、

5-1 から 5-6 まで当てはまる数字あてはまるすうじすべてに○を記入きにゆうください。

5-1. 制度・サービスせいど さーびすのことを知らしらなかったから

5-2. 自分じぶんが支援しえんを受けうけられるか分わからなかったから

5-3. 1.~4. のいずれの支援しえんも、支援対象しえんたいしょうの要件ようけんを満みたさなかつたから

5-3. 申請しんせいの方法ほうほうが分わからなかったから 5-4. 申請しんせいする時間じかんがなかつたから

5-5. その他そのた(→ _____)

5-6. 特とくに理由りゆうはない

問 11.あなたが通っている子ども第三の居場所について良いと思うことと、もっと改善してほしいと思うことがあれば、それぞれ自由に書いてください。

【良い・好きだと思ふこと】

【もっと改善してほしいと思ふこと】



8-3 拠点マネージャー子ども別調査票

**子どもごと
拠点マネージャー回答シート**

T●—S●

拠点で行った支援活動を、支援を行ったお子様・保護者それぞれについてお尋ねします。

問 1.これから回答するお子様・保護者様の ID を数字で入力してください。（※記入例:CI の番号の子どもであれば、CI-P1 になります。その際右肩の番号は S1 になっていれば正しいです。）

C		-	P	
---	--	---	---	--

問 2.お答えいただくお子様について、支援を開始した時期を年・月の数字でお答えください。（西暦でお答えください）

西暦		年		月
----	--	---	--	---

問 3.お子様・保護者への支援の開始を行う際に、つながりの開始のきっかけとしてもっとも当てはまる数字1つに○を記入ください。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1.子どもの直接訪問 2.保護者の直接訪問 3.地域の関係機関からの紹介 4.その他(_____) 5.子どもに関する情報提供を受けたアウトリーチ 6.保護者に関する情報提供を受けたアウトリーチ 7.分からない・答えられない |
|--|

ここからは、お子様に行った支援についてお尋ねします。

問 4.お子様とのつながりを円滑に開始するために、支援開始の直前・初回交流時に行った取組として、当てはまる数字すべてに○を記入ください。（いくつでも構いません）

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設見学 2. 情報提供者との情報交換 3. 体験来所 4. その他(_____) 5. 上記のような支援は行っていない |
|---|

問 5 お子様に対して、利用開始後に行った支援として当てはまる数字すべてに○を記入ください。（いくつでも構いません）

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 支援計画の策定 2. 学校・家から子ども第三の居場所までのお迎え 3. 宿題等の学習支援 4. 読み聞かせなどの読書活動支援 5. 手洗い・うがいの支援 6. はみがきの支援 7. 入浴の支援 8. 食事やおやつの提供 9. 食育活動(料理教室、子どもと一緒に料理をする活動など) 10. 文化・芸術活動、スポーツなどの体験活動 11. その他(_____) 12. 上記のような支援は行っていない |
|---|

問 6.子ども第三の居場所に通うことになったお子様が、支援を行うことになった計画日数(支援予定日数)のうち、直近の1か月についてどれくらいの利用状況となっているかについて、当てはまる数字1つに○を記入ください。(例えば、直近1か月について、週5日来所する予定日数のお子様について、5日すべて来所している状態であれば、「1.支援予定日数のうち、約100%来所している」を選択ください。)

1. 支援予定日数のうち、約100%来所している
2. 支援予定日数のうち、約80%来所している
3. 支援予定日数のうち、約60%来所している
4. 支援予定日数のうち、約40%来所している
5. 支援予定日数のうち、約20%来所している
6. 支援予定日数のいずれも参加をしていない
7. 支援予定日数を設けていないが、高頻度で来所している
8. 支援予定日数を設けておらず、来所頻度も低い
9. その他()
10. わからない

ここからは、保護者様への支援についてお尋ねします。

問 7.お子様への支援期間中に行った、保護者様に対する支援のうち、当てはまる数字すべてに○を記入ください。(いくつでも構いません。)

1. 子どもの支援に関する面談
2. 保護者の困難に関する面談
3. 保護者と子どもとの関係調整
4. 親子ペアによる体験活動の提供
5. ペアレントトレーニング等の保護者向けのプログラム
6. 保護者の生活、就労、住宅等に関する支援機関への接続・紹介
7. その他()
8. あてはまるものはない。保護者様への支援はしていない。

**このお子様に関する質問は以上となります。ご協力ありがとうございました。
引き続き、次のお子さまのシートにお進みください**

拠点共通回答シート

T●拠点共通シート

ここからは、子ども第三の居場所 を運営するうえでの全体的な内容についてお尋ねします。

問 1.ご所属の子ども第三の居場所拠点にいらっしゃるスタッフの構成人数と主な役割を、空欄にそれぞれ記入ください。

スタッフ種別	合計人数	うち、以下の資格を持つ人数					主な役割(概要を記入ください)
		社会福祉士	臨床心理士	作業療法士	看護師	保健師	
1. 常勤職員(正社員)	人	人	人	人	人	人	
2. 契約社員	人	人	人	人	人	人	
3. 派遣スタッフ	人	人	人	人	人	人	
4. パート・アルバイト	人	人	人	人	人	人	
5. 学生ボランティアスタッフ	人	人	人	人	人	人	
6. 地域ボランティアスタッフ	人	人	人	人	人	人	

問 2.お子様や保護者様に対して、これまでの効果的な支援を持続させるために今後も必要と考えられる条件について、以下の項目のそれぞれについて、1~5のうち当てはまる数字1つに○を記入ください。

	1. とても必要だと思う	2. まあ必要だと思う	3. あまり必要ではない	4. 全く必要ではない	5. どちらともいえない
A) 事務スタッフの配置	1	2	3	4	5
B) 継続的な関係性を構築できる常駐の正規職員	1	2	3	4	5
C) 少しの時間対応できるパートタイムのスタッフ	1	2	3	4	5
D) 専門職(カウンセラー等の心理士、ソーシャルワーカー、ケースワーカー)の配置	1	2	3	4	5
E) 設備の整備・改修	1	2	3	4	5
F) 行政からの、支援の切れない財源	1	2	3	4	5
G) 近隣住民や未利用の保護者などからの理解・協力	1	2	3	4	5
H) 自治体担当職員の調整能力	1	2	3	4	5
I) 学校教員や教育委員会等の行政機関からの協力	1	2	3	4	5
J) その他	(→ _____)				

問 3.効果的な支援を継続していくために今後も必要と考えられる連携先の機関として、当てはまる数字すべてに○を記入ください。(いくつでも構いません)

1. 役所の子ども・家庭支援担当部署 2. 教育委員会 3. 地域包括ケアセンター、社会福祉協議会、福祉公社 4. 児童福祉施設 5. 学校の教職員 6. スクールソーシャルワーカー 7. 民生児童委員 8. 生活保護ケースワーカー 9. 公民館 10. NPO 団体・ボランティア 11. 医師会・看護師会 12. その他(_____) 13. あてはまるものはない
--

問 4.効果的な支援を継続していくために、今後も必要と考えられる連携先との協力内容として、について、以下の項目のそれぞれについて、1~5のうち当てはまる数字1つに○を記入ください。

	1.とても必要だと思う	2.まあ必要だと思う	3.あまり必要ではない	4.全く必要ではない	5.どちらともいえない
A) 支援が必要な子どもに関する情報提供	1	2	3	4	5
B) 支援が必要な子どもの保護者に関する情報提供	1	2	3	4	5
C) 子ども・保護者への子ども第三の居場所事業の周知	1	2	3	4	5
D) 他の行政機関への子ども第三の居場所事業の周知	1	2	3	4	5
E) 活動プログラムの機会の提供	1	2	3	4	5
F) 活動プログラムに必要な施設・設備の提供	1	2	3	4	5
G) 活動プログラムへのボランティアの派遣	1	2	3	4	5
H) 活動プログラムへの専門職員の派遣	1	2	3	4	5
I) 子ども第三の居場所事業での支援が困難な子どもに関する個別相談(スーパービジョン)	1	2	3	4	5
J) 子ども第三の居場所事業での支援が困難な子どもの受入れ	1	2	3	4	5
K) 子ども第三の居場所事業の運営資金となる補助金・助成金の情報提供等の支援	1	2	3	4	5
L) その他	(→ _____)				

問 5.あなたの所属する子ども第三の居場所拠点は、現在行政移管されていますか。もっともあてはまる数字1つに○を記入ください。

- | |
|-------------------------------|
| 1. 行政移管がされている(自治体予算で運営している) |
| 2. 行政移管がされていない(自治体予算で運営していない) |

問 6.今後の「子ども第三の居場所」事業について、問5で「1. 行政移管がされている(自治体予算で運営している)」を選択した子ども第三の居場所拠点は、行政移管により促進・向上されたと感じることにについて、問5で「2. 行政移管がされていない(自治体予算で運営していない)」を選択した子ども第三の居場所拠点は、将来的に行政移管される(自治体予算で運営される)場合に感じる期待について、以下の選択肢のうち当てはまる数字3つを、空欄に記入ください。(最もあてはまるものから順にお答えください。)

1 番目	2 番目	3 番目
1. 自治体・国が主体となって、困難のある子ども・保護者の実態把握が促進されること 2. 自治体が窓口機能となることで、行政手続きが円滑になること 3. 利用する際の料金に行政補填がつくこと 4. 安定的な財源が確保できること 5. 自治体の行政職員による関与が深くなること 6. 活動プログラムの多様性が増大すること 7. 拠点の人員体制が増強されること 8. 拠点の人員の専門性が向上すること 9. 地域の学校やその他の公共施設等や、地域住民との連携が促進されること 10. 地域の貧困対策の機運が向上すること 11. その他() 12. あてはまるものはない		

問 7.今後の「子ども第三の居場所」事業について、問5で「1. 行政移管がされている(自治体予算で運営している)」を選択した子ども第三の居場所拠点は、行政移管により後退・低下したと感じることにについて、問5で「2. 行政移管がされていない(自治体予算で運営していない)」を選択した子ども第三の居場所拠点は、今後の「子ども第三の居場所」事業が行政移管される(自治体予算で運営される)際に感じる懸念について、当てはまる数字すべてに○を記入ください。(いくつでも構いません)

1. 自治体・国が主体となることにより、困難のある子ども・保護者の実態把握が抑制されること 2. 行政手続きを介することによる利用手続きの煩雑さが増すこと 3. 支援条件を設定することや行政不信により、支援が必要な人に支援ができないこと 4. 事業費用総額が下がり十分な支援ができないこと 5. 事業費目の制約や、単年度予算の制約から柔軟な支援ができないこと 6. 拠点の人員体制の弱体化や専門性が低下してしまうこと 7. 人事異動等により、個々の子どもへの継続的な支援が不足してしまうこと 8. 活動プログラムの多様性が低下すること 9. 関係機関の間での連携機能が不足すること 10. 保護者への支援が縮小してしまうこと 11. 費用対効果や定量的な成果が強く求められること 12. 子どもへの自立・学校復帰の過度な期待が増大すること 13. その他() 14. あてはまるものはない		
--	--	--

問 8. 過去1年のうち、お子様に対して支援を開始しようとした際にできなかった経験があった場合、その理由として当てはまる数字すべてに○を記入ください。(いくつでも構いません)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 障害の程度が重く、専門的なケアが必要だから2. 医療的なケアの必要性が高いから3. 虐待疑いの深刻度が高いから4. 家庭での養育困難の深刻度が高いから5. 子ども第三の居場所拠点で受け入れる余力がなかったから6. 保護者が必要性を理解してくれず、支援を断られてしまったから7. 引っ越しなどにより、対象エリアから転出したから8. その他(_____)9. 当てはまるものはない・支援を開始できなかった経験はない |
|--|

問 9. 子どもの居場所づくりや、取り巻く環境がより良くなるために、行政機関や日本財団に対する要望がございましたら、それぞれ自由に記載ください。

◆行政機関(国や地方公共団体)に対して◆

◆日本財団に対して◆

質問は以上となります。お忙しい中、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

ご利用に際しての留意事項

- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されます。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず「出所：日本財団」を明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作者の許諾が必要ですので、日本財団までご連絡ください。